小児訪問看護推進検討部会

活動報告書

令和５年６月

一般社団法人　全国訪問看護事業協会

はじめに

近年の新生児医療の発展に伴い、ハイリスクな状態であっても救われる命が増えています。生きていくうえで医療的なケアを必要とする小児は、令和 3 年度時点で推計 2 万人と言われています。

こうした背景から小児訪問看護の必要性は高まっていますが、様々な不安から一歩を踏み出せない訪問看護事業所が多い状況にあります。このため、訪問看護師の不安軽減を図り、質を担保しつつ「一歩を踏み出せる」事業所を増やす取り組みが大切だと考えました。

そこで全国訪問看護事業協会では、平成 28 年度に訪問看護推進委員会の下に「小児訪問看護推進検討部会」を設置し、その方策について検討してきました。

平成 29 年度より「小児訪問看護研修プログラム」の開発を行い、「始めよう小児訪問看護」・「いのちを支える」・「活動すること」・「呼吸すること」・「食べること」という 5 つの領域に分け、小児訪問看護を実践する上で学んでおきたい内容を網羅しました。

平成 30 年度からは「小児情報交換会」を開催しました。参加者に役立つ情報をお届けし、気軽に意見交換ができる場作りを心掛け、第 1 回から 4 回の参加者は 663 名になりました。

今後は、「小児訪問看護研修プログラム」をひな型として、全国で活用していただけたらと思っています。支援の必要な小児がどこで生まれても、どこで療育されても、安心して訪問看護をご利用いただける体制整備が進んでいくことを願っております。

令和５年６月

全国訪問看護事業協会　小児訪問看護推進検討部会
部会長　尾田　優美子

目　次

１．小児訪問看護推進事業の概要 1
１）事業の目的 3
２）事業の全体像 13

２．小児訪問看護研修 17
１）小児訪問看護研修会プログラムの開発 19
２）小児訪問看護研修会の実施 30
３）小児訪問看護研修会アンケート調査の実施 49

３．小児訪問看護情報交換会 51
１）小児訪問看護情報交換会 53
２）小児訪問看護情報交換会の様子 58
３）小児訪問看護情報交換会アンケート 60

４．小児訪問看護研修プログラムの普及 61
１）地域における小児訪問看護研修会開催支援 63

５．アンケート結果報告 79
１）はじめよう小児訪問看護（基礎編） 81
２）いのちを支える 96
３）活動すること 122
４）呼吸すること 148
５）食べること 170
６）委員動画視聴後アンケート 192
７）小児訪問看護情報交換会 210

６．まとめと考察 259

参考資料 263

１．小児訪問看護推進事業の概要

１．小児訪問看護推進事業（以下、事業）の概要

１）事業の目的

現在、小児を取り巻く医療の問題として、急性期の集中治療を担う NICU に長期入院する乳幼児の在宅医療への移行が進まない事から生じる NICU の慢性的な病床不足などがある。国は、そのような乳幼児を在宅に移行するための施策を打ち出してはいるが、思うように小児の在宅への移行が伸びていないのが現状である。

一方、在宅療養を支援する立場の訪問看護の現場においても「小児科を経験したことのある看護師がいない」「医療処置などの小児の処置に不安がある」などの声が聞かれ、小児訪問看護の提供に積極的になれないという一面がある。

そこで、当協会（全国訪問看護事業協会を以後当協会と記す）は、小児訪問看護の量的拡大と質的向上を推進するために訪問看護推進委員会の下に「小児訪問看護推進検討部会」を設置し、課題を整理・抽出し、方策の検討を行った。

（１）小児訪問看護推進検討部会の設置

以下の構成員からなる小児訪問看護推進検討部会を設置・運営した。

図表1-1　小児訪問看護推進検討部会　委員名簿（平成 28・29 年度）

区分	氏名	所属
部会長	尾田　優美子	訪問看護ステーション　細江　所長
メンバー	上村　貴代美	信愛訪問看護ステーションほほえみ　管理者
	倉田　慶子	社会福祉法人鶴風会　東京小児療育病院　教育担当係長
	田中　道子	あすか山訪問看護ステーション　所長
	松尾　陽子	（NPO）訪問看護ステーションさんさん　管理者
オブザーバー	田中　真衣	厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児発達障害支援室　障害福祉専門官
	桑木　光太郎	厚生労働省医政局地域医療計画課　在宅医療推進室　室長補佐
	山口　道子	厚生労働省医政局地域医療計画課　在宅医療推進室　在宅看護専門官
事務局	清崎　由美子	全国訪問看護事業協会　事務局長
	吉原　由美子	全国訪問看護事業協会　業務主任
	倉地　沙織	全国訪問看護事業協会
	木村　美佐子	全国訪問看護事業協会

（50 音順、敬称略）

図表1-2　小児訪問看護推進検討部会　委員名簿（平成 30 年度）

区分	氏名	所属
部会長	尾田　優美子	訪問看護ステーション　細江　所長
メンバー	上村　貴代美	信愛訪問看護ステーションほほえみ　管理者
	倉田　慶子	社会福祉法人鶴風会　東京小児療育病院 教育担当係長
	田中　道子	あすか山訪問看護ステーション　所長
	松尾　陽子	（NPO）訪問看護ステーションさんさん　管理者
オブザーバー	堤　翼	厚生労働省医政局地域医療計画課　在宅医療推進室 室長補佐
	猿渡　央子	厚生労働省医政局地域医療計画課　在宅医療推進室 在宅看護専門官
	刀根　暁	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室 障害福祉専門官
事務局	清崎　由美子	全国訪問看護事業協会　事務局長
	吉原　由美子	全国訪問看護事業協会　業務主任
	井上　多鶴子	全国訪問看護事業協会
	栗田　あさみ	全国訪問看護事業協会

（50 音順、敬称略）

図表1-3　小児訪問看護推進検討部会　委員名簿（令和元年度）

区分	氏名	所属
部会長	尾田　優美子	訪問看護ステーション　細江　所長
メンバー	上村　貴代美	信愛訪問看護ステーションほほえみ　管理者
	倉田　慶子	社会福祉法人鶴風会　東京小児療育病院　教育担当係長
	田中　道子	あすか山訪問看護ステーション　所長
	松尾　陽子	（NPO）訪問看護ステーションさんさん　管理者
オブザーバー	長谷川　洋子	厚生労働省医政局地域医療計画課　在宅医療推進室 在宅看護専門官
	後藤　友美	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 医療的ケア児支援専門官
事務局	吉原　由美子	全国訪問看護事業協会　業務主任
	井上　多鶴子	全国訪問看護事業協会
	海老原　直子	全国訪問看護事業協会

（50 音順、敬称略）

図表1-4　小児訪問看護推進検討部会　委員名簿（令和 2 年度）

区分	氏名	所属
部会長	尾田　優美子	訪問看護ステーション　細江　所長
メンバー	上村　貴代美	信愛訪問看護ステーションほほえみ　管理者
	倉田　慶子	社会福祉法人鶴風会　東京小児療育病院 教育担当係長
	小宮山　日登美	訪問看護ステーションひとみ　管理者
	塙　真美子	はみんぐ訪問看護ステーション　統括管理者
	松尾　陽子	特定非営利活動法人えがおさんさん　代表理事
オブザーバー	長谷川　洋子	厚生労働省医政局地域医療計画課　在宅医療推進室 在宅看護専門官
	後藤　友美	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 医療的ケア児支援専門官
事務局	高砂　裕子	全国訪問看護事業協会　副会長
	吉原　由美子	全国訪問看護事業協会　業務主任
	井上　多鶴子	全国訪問看護事業協会
	立川　尚子	全国訪問看護事業協会

（50 音順、敬称略）

図表1-5　小児訪問看護推進検討部会　委員名簿（令和 3 年度）

区分	氏名	所属
部会長	尾田　優美子	訪問看護ステーション　細江　所長
メンバー	倉田　慶子	順天堂大学大学院医療看護学研究科　博士後期課程
	小宮山　日登美	訪問看護ステーションひとみ　管理者
	作田　和子	小石川医師会訪問看護ステーション
	田中　歩	特定非営利活動法人えがおさんさん　代表理事
	塙　真美子	はみんぐ訪問看護ステーション　統括管理者
事務局	高砂　裕子	全国訪問看護事業協会　副会長
	吉原　由美子	全国訪問看護事業協会　業務主任
	井上　多鶴子	全国訪問看護事業協会
	是木　美奈子	全国訪問看護事業協会
	卯月　理恵	全国訪問看護事業協会

（50 音順、敬称略）

図表1-6　小児訪問看護推進検討部会　委員名簿（令和 4 年度）

区分	氏名	所属
部会長	尾田　優美子	訪問看護ステーション　細江　所長
メンバー	倉田　慶子	順天堂大学大学院医療看護学研究科　博士後期課程
	小宮山　日登美	訪問看護ステーションひとみ　管理者
	作田　和子	小石川医師会訪問看護ステーション
	田中　歩	特定非営利活動法人えがおさんさん　代表理事
	塙　真美子	はみんぐ訪問看護ステーション　統括管理者
事務局	高砂　裕子	全国訪問看護事業協会　副会長
	吉原　由美子	全国訪問看護事業協会　業務主任
	是木　美奈子	全国訪問看護事業協会
	清崎　由美子	全国訪問看護事業協会　技術参与

（50 音順、敬称略）

（２）小児訪問看護推進検討部会の開催実績

小児訪問看護推進検討部会の開催実績は以下のとおり。

図表1-7　開催日時・検討テーマ（平成 28 年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	平成 29 年 2 月 9 日（木） 13：00～15：00	• 事業内容 • 小児訪問看護の現状

図表1-8　開催日時・検討テーマ（平成 29 年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	平成 29 年 4 月 26 日（木） 14：00～16：00	• 小児訪問看護の現状 （厚生労働省より情報提供） • ヒアリング候補地・参加者
第 2 回	平成 29 年 9 月 20 日（水） 13：30～15：30	• 見学・ヒアリング報告 • 研修の方向性について
第 3 回	平成 30 年 1 月 24 日（水） 13：30～15：30	• 研修プログラム（案）について

図表1-9　開催日時・検討テーマ（平成 30 年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	平成 30 年 4 月 12 日（木） 13：30～15：30	• 研修プログラム（案）の検討 －研修プログラムの内容（修正点の説明等） －入門プログラムについて －ステップアップ・プログラムについて • 小児訪問看護情報交換会の検討 －プログラム内容の検討 －講師の推薦および講師依頼者、決定 －対象者、人数 －グループワークの構成、ファーシリテーターの決定 －情報交換会の周知方法
第 2 回	平成 30 年 9 月 5 日（木） 13：30～15：30	• 小児訪問看護情報交換会について －申込状況 －当日の進行等について －グループワークについて • 研修プログラムについて －研修プログラムの内容の確認 －見学実習について
第 3 回	平成 30 年 11 月 21 日（水） 10：00～12：00	• 研修プログラムについて －研修プログラム（入門編）の内容の検討 • 小児訪問看護情報交換会について －参加者アンケートおよび終了後アンケートの報告 －次年度の開催についての検討 • 2019 年事業計画（案）（抜粋）に関する意見交換
第 4 回	平成 30 年 1 月 23 日（水） 13：30～15：30	• 「はじめよう！小児の訪問看護」についての検討 －プログラム・シラバスについて －演習について －具体的な内容 －シミュレーター • 「取り組んでみよう！小児の訪問看護（仮）」の検討 －日程 －プログラム（トピック、GW テーマ・方法） －講師の推薦および講師依頼者の検討

図表1-10　開催日時・検討テーマ（令和元年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	令和元年 5 月 15 日（水） 14：00～16：00	• 小児訪問看護の推進について －厚生労働省障害福祉関係 －各地域で行われている支援医療的ケア児への支援 • 「はじめよう！小児の訪問看護（入門編）」研修会について －演習 －具体的な内容 －ファシリテーター －実習・見学（案） • 「Let’s try 小児の訪問看護～小児看護の楽しさを知ろう～」情報交換会について －グループワークの進め方 －周知方法 • その他情報提供等
第 2 回	令和元年 9 月 9 日（月） 13：30～15：00	• 小児訪問看護推進検討部会委員の変更 • 「Let’s try 小児の訪問看護～小児看護の楽しさを知ろう～」情報交換会について －講師の変更 －申し込み状況 • 「はじめよう！小児の訪問看護（入門編）」研修会について －進捗状況 • 次年度の小児研修会について
第 3 回	令和 2 年 2 月 12 日（水） 13：30～15：30	• 小児訪問看護推進検討部会委員の変更 • 「Let’s try 小児の訪問看護～小児看護の楽しさを知ろう～」情報交換会 －アンケート結果 －次回の小児訪問看護情報交換会についての検討 • 「はじめよう小児の訪問看護～基礎編～」研修会 －アンケート結果 －意見交換 • 令和２年度小児訪問看護研修会についての検討 －「小児訪問看護研修会 Part２～いのちを支える～」プログラム・講師 －「小児訪問看護研修会 Part３～活動すること～」プログラム・講師

図表1-11　開催日時・検討テーマ（令和 2 年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	令和 2 年 12 月 7 日（月） 10：00～12：00	• 小児訪問看護の推進について • 日本財団助成期間の延長について • 次年度の研修開催について • 小児情報交換会について • シミュレーターの貸し出しについて
第 2 回	令和 3 年 2 月 19 日（金） 13：00～15：00	• 小児訪問看護情報交換会の開催について ZOOM による Web 配信 －チラシ案について －開催日時について －講師の推薦 • 研修会について －令和 3 年度における学習方法と講師の確定 • 今後のスケジュールについて

図表1-12　開催日時・検討テーマ（令和 3 年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	令和 3 年 6 月 2 日（水） 14：30～16：30	• 小児訪問看護の推進について －令和 3 年度事業計画 • 小児情報交換会について • 小児訪問看護研修会について • その他 －令和 2 年度文科省事業「地域で医療的ケア児を支援する学校の看護師と訪問看護師の看看連携モデル」パンフレットについて
第 2 回	令和 3 年 12 月 13 日（月） 15：00～17：00	• 小児訪問看護情報交換会について －アンケート結果報告 • 小児訪問看護研修会について －「いのちを支える」・「活動すること」研修会報告 • 令和 4 年度小児訪問看護研修会について －小児訪問看護研修会「呼吸すること」、「食べること」 －開催時期 －開催方法 －講師推薦 • その他 －医療連携体制加算について

	開催日時	検討テーマ
第 3 回	令和 4 年 3 月 2 日（水） 10：00～12：00	• 令和 3 年度開催の研修会に関する報告 １）「いのちを支える」 ２）「活動すること」 －受講者アンケート報告 • 令和 4 年度研修会について • 小児訪問看護研修会プログラム評価 －意見交換（シラバス内容、講義時間ほか） • 令和 4 年度小児訪問看護情報交換会について

図表1-13　開催日時・検討テーマ（令和 4 年度）

	開催日時	検討テーマ
第 1 回	令和 4 年 6 月 10 日（金） 14：30～16：30	• 第 4 回小児情報交換会について • 小児訪問看護研修会について
第 2 回	令和 4 年 11 月 21 日（月） 10：00～12：00	• 第 4 回小児訪問看護情報交換会について • 2023 年度全国訪問看護事業協会事業計画について • 小児訪問看護研修プログラムと研修会開催の報告書作成について
第 3 回	令和 5 年 3 月 10 日（金） 10：00～12：00	• 令和 4 年度小児訪問看護研修会アンケート結果報告 • 小児訪問看護研修会開催を普及する方策の検討（案） • 小児訪問看護推進検討部会活動報告書（案）について • 令和 5 年度小児訪問看護情報交換会開催の有無について • 今後のスケジュール

２）事業の全体像

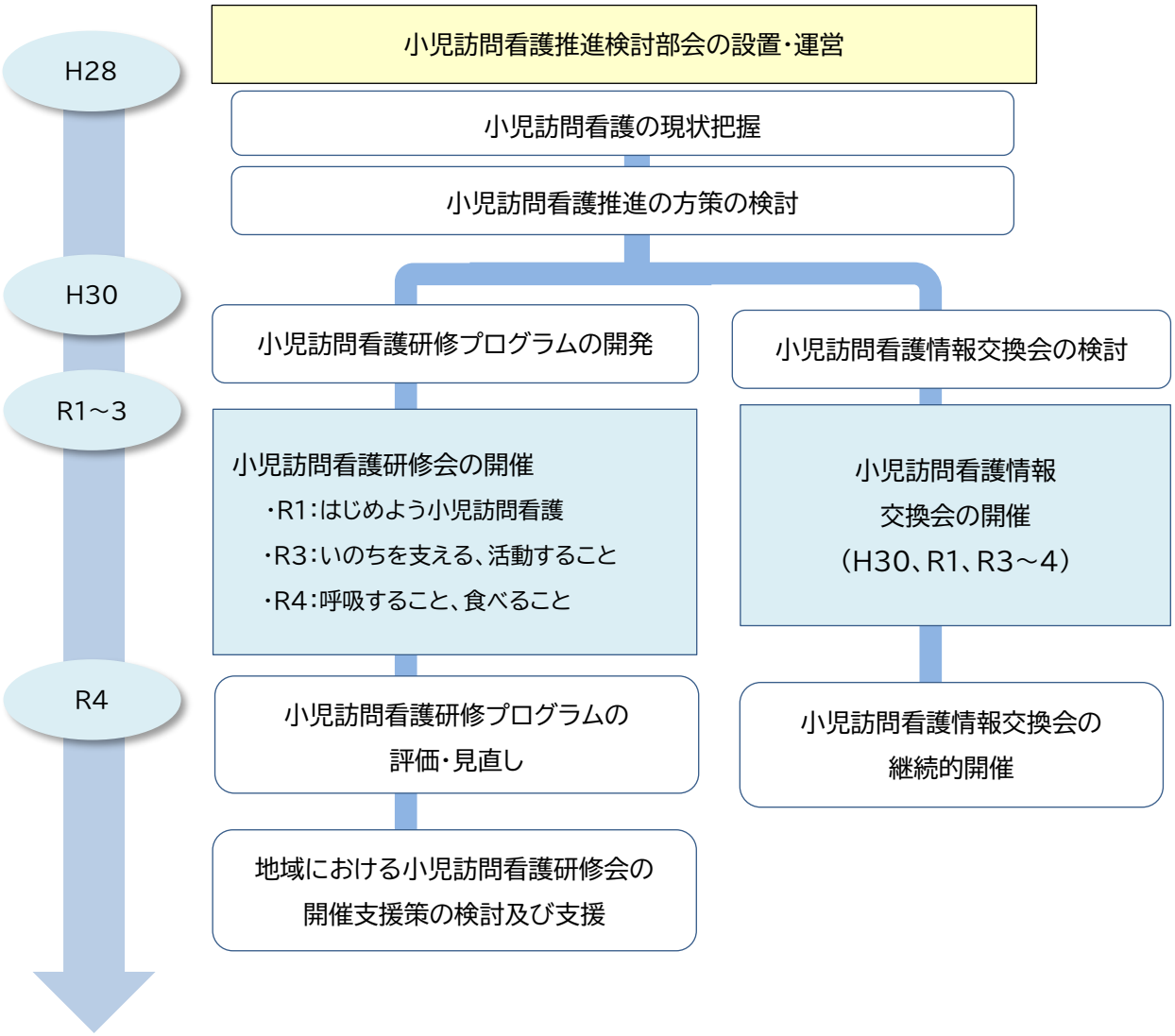
（１）全体構成

事業の全体構成は、以下の通りである。

小児訪問看護の有識者、訪問看護ステーションの管理者等からなる小児訪問看護推進検討部会を設置し、小児訪問看護の量的拡大と質的向上に資する方策を検討することを目的として、小児訪問看護研修プログラムの開発と開催、及び小児訪問看護情報交換会を開催した。

図表1-14 事業の全体像

目的:
小児訪問看護の量的拡大と質的向上を図るため、その方策の検討及び実施を目的とした。



（２）事業の全体スケジュール

事業の全体スケジュールは以下のとおり。

●　：検討部会開催

※　：小児訪問看護研修会・小児訪問看護情報交換会開催

：実施期間

：検討期間

図表1-15 実施スケジュール

	平成 28 年									平成 29 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
小児訪問看護推進検討部会											●	
小児訪問看護の現状把握												

	平成 29 年									平成 30 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
小児訪問看護推進検討部会	●					●				●		
見学・ヒアリング調査												
研修プログラム案の検討												

	平成 30 年									平成 31 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
小児訪問看護推進検討部会	●					●		●		●		
研修プログラム案の検討												
小児訪問看護情報交換会の実施							※					

	平成 31 年/令和元年									令和 2 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
小児訪問看護推進検討部会		●				●					●	
研修プログラム案の検討												
小児訪問看護研修会の実施（はじめよう小児訪問看護）									※			
小児訪問看護情報交換会の実施									※			

	令和 2 年									令和 3 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
小児訪問看護推進検討部会									●		●	
研修プログラム案の検討												

	令和３年									令和４年		
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
小児訪問看護推進検討部会			●						●			●
研修プログラム案の検討												
小児訪問看護研修会の実施												
いのちを支える												
活動すること							※ ライブ配信		※ 対面研修			
小児訪問看護情報交換会の実施				※								

	令和４年									令和５年		
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
小児訪問看護推進検討部会			●					●				●
研修プログラム案の検討												
小児訪問看護研修会の実施												
呼吸すること							※ ライブ配信 ※ 対面研修					
食べること								※ ライブ配信				
小児訪問看護情報交換会の実施				※								

２．小児訪問看護研修

２．小児訪問看護研修

１）小児訪問看護研修会プログラムの開発

次頁のとおり、小児訪問看護研修プログラムの開発を行った。

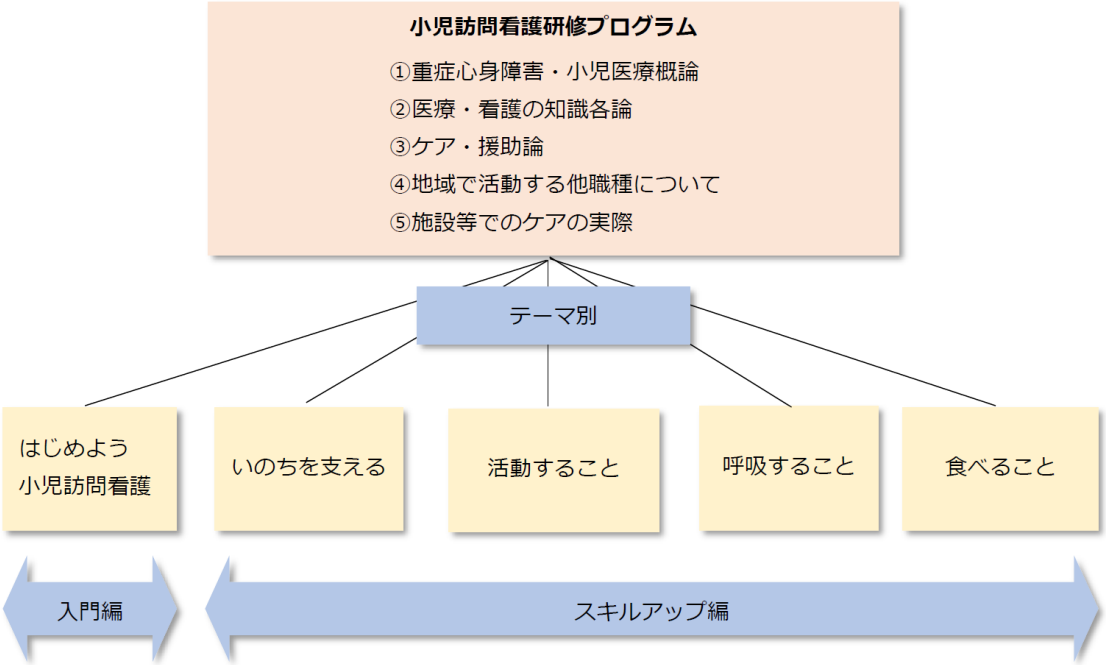
当協会の開発した「小児訪問看護研修プログラム」（p.21～24 参照）は、小児訪問看護を行うにあたって必要となる講義を網羅した内容となっており、以下の５つの分類に分かれている。

①	重症心身障害・小児医療概論	12 時間（p. 21）
②	医療・看護の知識各論	36 時間（p. 22）
③	ケア・援助論	29 時間（p. 23）
④	地域で活動する他職種について	9 時間（p. 24）
⑤	施設等でのケアの実際	7 日間（p. 24）

上記①～⑤を、受講しやすいようにテーマ毎に講義内容を集め、下記の様に５つの編に分割した。（p.25～29 参照）

- はじめよう小児訪問看護（入門編）（p. 25）
- いのちを支える（スキルアップ編）（p. 26）
- 活動すること（スキルアップ編）（p. 27）
- 呼吸すること（スキルアップ編）（p. 28）
- 食べること（スキルアップ編）（p. 29）

図表2-1　小児訪問看護プログラムイメージ



なお、実情に応じて、小児訪問看護推進検討部会において内容の見直しを行っている。

小児訪問看護の現状を把握するため、先進的な取組を行っている以下の 8 施設を対象に見学・ヒアリングを行った。

図表2-2　見学・ヒアリング対象一覧

区分	訪問日	施設名
見学	平成 29 年 5 月 24 日	• ＮＰＯ法人えがおさんさん
見学	平成 29 年 6 月 7 日	• 浜松市発達医療総合センター～はままつ友愛のさと～
見学	平成 29 年 6 月 7 日	• 聖隷浜松病院
ヒアリング	平成 29 年 6 月 15 日	• 信愛訪問看護ステーションほほえみ
見学	平成 29 年 6 月 26 日	• 認定 NPO 法人障害児保育園　ヘレン
見学	平成 29 年 6 月 28 日	• 訪問看護ステーションそれいゆ
見学	平成 29 年 7 月 20 日	• 株式会社マザー湘南
見学	平成 29 年 7 月 26 日	• ひばりクリニック・認定ＮＰＯ法人うずりん

図表2-3　小児訪問看護研修プログラム

	時間	研修名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
①重症心身障害・小児医療概論	3時間	最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向	小児医療・重症心身障害児医療・看護の動向と訪問看護の必要性を理解し、子どもと家族をとりまく現状の課題について検討する。	・子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる ・重症心身障害児の医療について理解できる ・小児訪問看護における看護の課題を検討できる	講義・演習（ディスカッション）	・小児医療の現状・課題とは ・医療的ケアとは(概念・状態像など) ・小児医療における重症心身障害児の医療の現状と課題 ・重症心身障害児の高齢化と移行期ケアについて ・小児医療で活用できる医療費制度について（政策や取り組みなどを含む）
	3時間	子どもの権利と倫理的かかわり	子どもの権利を理解し、倫理的な関わりについて学ぶ。	・子どもの権利を理解する ・倫理的な関わりについて考えることができる	講義・演習（ディスカッション）	・日本国憲法における子どもの権利について ・子どもの権利条約について ・倫理の概念 ・看護協会における倫理指針について ・日常のケア場面における倫理的配慮・ケアを事例を示す
	2時間	看護の現状と課題、訪問看護の実際	新生児医療の動向、NICUでの医療・看護の役割、機能を理解する	・新生児医療の実際と動向が理解できる ・ＮＩＣＵでケアを受ける子どもとその家族の状況が理解できる。	講義	・新生児医療の現状と課題（NICUでケアを受ける子どもの状態やNIC満床U問題の背景など） ・新生児医療からの退院支援の実際や課題（地域の医師や訪問看護ステーションとの連携） ・新生児医療を受ける家族の現状と課題
	2時間	重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	重症心身障害児医療の歴史、概念、定義を学ぶ	・重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる ・重症心身障害児の概念が理解できる ・重症心身障害児の診断（大島分類など）が理解できる	講義	・重症心身障害児の医療の歴史的変遷について ・重症心身障害児の概念 ・重症心身障害児の診断（大島分類について）
	2時間	診療所が実施する小児在宅医療の実際	小児在宅医療を支える地域医療の役割・機能について理解できる	・小児在宅医療に関する開業医の取り組みが理解できる ・地域医療における開業医の役割・機能について理解できる	講義	・地域での訪問看護の連携の実際について ・在宅医などとの地域連携について ・小児科医ではない在宅医との連携について ・小児科医の在宅医療の実際と課題について ・大学病院などの医療連携について

	時間	研修名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
②医療・看護の知識各論	6時間	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント	子どもの発達・生理学的変化を理解できる	・子どもの成長発達について理解できる ・子どもの全身アセスメントの方法が理解できる ・フィジカルアセスメントの方法を演習できる	講義(3H) 演習(3H)	・子どもの身体の生理的な特徴などについて（おとなと子どものフィジカルアセスメントの違いや詳しい生理学的変化の違い） ・子どもの成長発達について ・フィジカルアセススメント技術 ・子どもに特長的な感染症について（病態と治療麻疹・風疹・水痘・手足口病・流行性耳下腺炎・尿路感染症・MRSAなど） ・予防接種について
	2時間	発達障害の理解と対応	小児の発達・生理学的変化を理解し、発達障害とその対応を学ぶ。	・発達障害の原因、分類が理解できる ・発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる	講義	・発達障害とは、原因とメカニズムについて ・発達障害がある子どもとその家族への対応について
	2時間	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像を理解し、その対応、かかわりについて学びを深める。	・重症心身障害児者の原因となる疾患、状態像と合併症について理解できる ・重症心身障害児の状態像に対応した治療方法やかかわりについて理解できる	講義	・重症心身障害の原因となる疾患の合併症や治療について（出生前・出生時から新生時期・新生児期から18歳までの時期に分けた原因） ・重症心身障害となる疾患をもつ子どもの成長発達の実際と対応について（事例をまじえて）
	3時間	呼吸障害について	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害に対する治療とその看護について理解する	・呼吸のメカニズムを理解する ・呼吸障害のメカニズムを理解する ・呼吸障害に対する治療について理解する	講義	・呼吸のメカニズムについて ・呼吸障害のメカニズムについて ・呼吸障害に対する治療について（看護における注意点なども含める）
	4時間	脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	重症心身障害児の主要疾患・病態について学ぶ	・脳性まひについて理解する ・代表的な筋疾患の病態について理解する ・代表的な染色体異常の病態について理解する ・各疾患の治療について理解できる ・筋緊張の病態について理解できる	講義	・脳性まひについて ・代表的な筋疾患の病態について ・代表的な染色体異常の病態について ・各疾患の治療について ・筋緊張の病態について
	2時間	てんかん発作について	てんかん発作の病態と治療について学ぶ	・てんかんの原因、診断、治療について理解する ・てんかん発作の観察ポイントについて理解する ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解す	講義	・てんかんの原因、診断、治療について ・てんかん発作の観察ポイントについて ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について
	2時間	消化器疾患と栄養障害について	栄養障害が発生する消化器官の病態について理解し、それらに対する援助方法がわかる	・消化のメカニズムを理解する ・消化器疾患の病態を理解する ・消化器疾患への治療方法について理解する ・栄養のメカニズムを理解する	講義	・消化のメカニズムについて ・消化器疾患の病態について ・消化器疾患への治療方法について ・栄養のメカニズムについて
	2時間	摂食嚥下障害について学ぶ	摂食嚥下障害の病態生理について学ぶ	・摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる ・摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる ・摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる	講義	・摂食嚥下のメカニズム、解剖生理について ・摂食嚥下障害の原因、病態について ・摂食嚥下障害の治療・対応方法について
	1時間	睡眠障害について	睡眠のメカニズムを理解し、睡眠障害の原因、援助方法について学ぶ	・睡眠のメカニズムについて理解する ・睡眠障害のメカニズムについて理解する ・睡眠障害の治療について理解する ・睡眠障害への援助方法について理解する	講義	・睡眠のメカニズムについて ・睡眠障害のメカニズムについて ・睡眠障害の治療について ・睡眠障害への援助方法について
	1時間	排尿障害について学ぶ	排尿のメカニズムを理解し、排尿障害の治療に沿った援助方法を理解する	・排尿のメカニズムが理解できる ・排尿障害の病態が理解できる ・排尿障害への治療方法が理解できる ・排尿障害の援助方法について理解する	講義	・排尿のメカニズムについて ・排尿障害の病態について ・排尿障害への治療方法について ・排尿障害の援助方法について
	1時間	排便障害について学ぶ	排便のメカニズムを理解し、排便障害の治療に沿った援助方法を理解する	・排便のメカニズムが理解できる ・排便障害の病態が理解できる ・排便障害への治療方法が理解できる	講義	・排便のメカニズムについて ・排便障害の病態について ・排便障害への治療方法について
	1時間	眼の機能・眼科疾患について学ぶ	眼の機能、眼科疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・眼の機能を理解する ・眼科疾患について理解する ・眼科疾患の治療方法について理解する	講義	・眼の機能について ・眼科疾患について ・眼科疾患の治療方法について
	1時間	耳、鼻の機能・耳鼻科疾患について学ぶ	耳、鼻の機能、耳鼻科疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・耳、鼻の機能を理解する ・耳鼻科疾患について理解する ・耳鼻科疾患の治療方法について理解する	講義	・耳、鼻の機能について ・耳鼻科疾患について ・耳鼻科疾患の治療方法について
	2時間	循環器について	循環器の機能、疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・循環機能を理解する ・循環器疾患について理解する ・循環器疾患の治療方法について理解する	講義	・循環機能について ・循環器疾患について ・循環器疾患の治療方法について ・心臓の冠動脈に病変を残す「川崎病」、学校検診でみつかる「不整脈」や「心筋症」について
	3時間	心疾患（心奇形）について	生まれつき心臓の形と機能に異常のある「先天性心疾患」について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・先天性心疾患について理解する ・先天性心疾患の治療方法について理解する ・先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する	講義	・先天性心疾患について ・先天性心疾患の治療方法について（手術の方法なども含む） ・先天性心疾患の日常生活の注意点について
	3時間	小児がんについて	子どもに特徴的ながんの症状、治療に沿った援助方法を理解する	・子どもに特徴的ながんについて理解する ・がんの治療方法について理解する ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解	講義	・子どもに特徴的ながんについて ・がんの治療方法について ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について

	時間	研修名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
③ケア・援助論	3時間	呼吸障害の看護について	呼吸障害に対する観察ポイント・看護について理解する	・呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる ・ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる ・安楽に呼吸するための援助方法が理解できる	講義・演習	・人工呼吸器のアラームへの対処方法などについて ・気管切開部への対応について ・ネブライザーや在宅酸素吸入時の注意点について ・吸引の際の注意点について
	3時間	口腔衛生について	良好な口腔衛生を維持するための援助方法を理解する	・口腔の解剖生理と機能について理解できる ・清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる	講義・演習	・口腔の解剖生理と機能について ・清潔を保つ口腔ケアの方法と注意点について
	3時間	摂食嚥下障害のある患者への援助方法	摂食嚥下障害がある利用者への援助方法を学ぶ	・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる ・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる	講義・演習	・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点について
	1時間	人工呼吸器の基礎	人工呼吸器についての基本的知識と、安全な人工呼吸器管理に必要な知識を学ぶ	・人工呼吸器の原理が理解できる ・人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる	講義・演習	・人工呼吸器の原理について ・人工呼吸器管理中の注意点、看護について
	4時間	呼吸障害の理解と肺理学療法	呼吸障害のある障害児者の観察アセスメントを学び、安楽な呼吸のための効果的なポジショニング、リラクゼーションの技術を習得する。	・呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価ができる ・効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる	講義・演習	・呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントについて ・効果的なポジショニング、リラクゼーションについて
	2時間	骨折・移乗介助・更衣	骨折の機序、原因、骨折予防に重点をおいた移乗介助や更衣の際の注意点を学ぶ	・骨の解剖生理を理解できる ・骨折予防の注意点を理解できる ・移乗の際の注意点を理解できる ・更衣の際の注意点を理解できる	講義・演習	・骨の解剖生理について ・骨折予防の注意点について ・移乗の際の注意点について ・更衣の際の注意点について
	3時間	急変時の対応	小児のＢＬＳ技術を学び、在宅における緊急時の対応方法を、具体的にイメージ化できる。	・小児のＢＬＳ技術が実践できる ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる	講義・演習 （2時間）	・小児のＢＬＳ技術が実践できるように演習を実施する ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできるように事例を交え、ポイントを説明
	2時間	よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護	重症心身障害児者がよりよく生き抜くための看護について理解し、課題について検討する	・疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる	講義・演習 （ディスカッション）	・疾病により身体機能の危機的状態にある（幼少期の身体機能の未熟さによる症状や進行性疾患による症状や病態）、および成長発達・加齢に伴い身体機能の変化によって表出する症状の悪化（側弯などによる呼吸障害、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎の繰り返し）などの重症心身障害児者の病態について ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いについて ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の看護（痛みのケア・呼吸を安楽にするケア・家族と共に過ごすためのケア・家族への予後の説明など事例を交えた解説）
	4時間	小児リハビリテーション	子どもの身体の特徴をふまえたリハビリテーション内容について理解し、看護師が実施できる内容について学ぶ	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる ・ＲＯＭエクササイズの内容が理解できる	講義・演習	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）について ・ＲＯＭエクササイズの内容について
	4時間	家族の思いに寄り添う看護	疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる ・悲嘆の過程について理解する ・家族の障害受容に対する支援方法について理解する	講義・演習 （ディスカッション）	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる（主たる介護者となる家族の思いの背景が理解できるように、事例を交えて説明） ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できるようにするために、ロールプレイを実施し、その後、ディスカッションをする ・悲嘆の過程について ・家族の障害受容に対する支援方法について、事例を交えて説明

	時間	研修名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
④地域で活動する他職種について	1時間	在宅生活を支える制度や社会資源について	在宅生活を支える制度やサービスを理解し、ケアに活用する方法を学ぶ。	・療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる ・訪問看護師の役割について理解できる ・障害者総合支援法とサービスについて理解できる ・小児の在宅療養を支援する制度について理解できる ・地域社会の資源の活用について検討できる	講義	・療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能について ・訪問看護師の役割について（家族とのかかわりについて重点を置く） ・利用者と家族を支えている関係機関の概要はあったほうが良い。学校や教育にも関連する。 ・小児の在宅療養を支援する制度について（職種や制度の内容）
	1時間	特別支援学校における看護の役割について	特別支援学校の機能・役割、学びの場で実践される医療的ケアの実際を学ぶ。	・特別支援学校の機能・役割について理解できる ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる	講義	・特別支援学校の機能・役割について ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について
	1時間	児童相談所の機能と役割について	児童相談所の機能・役割を学び、小児、障害児者の虐待がおこる背景や関わりの実際を学ぶ。	・児童相談所の機能・役割がわかる ・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる	講義	・児童相談所の機能・役割について ・小児虐待に対する児童相談所の関わりについて ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて
	2時間	他職種の理解とチーム医療について	他職種の役割と機能を理解し、チームで支援をするために必要な方策について学ぶ	・他職種の役割と機能について理解する ・他職種との連携について理解する ・チームで支援する際の看護師の役割について検討できる	講義・演習（ディスカッション・ロールプレイなど）	・他職種の役割と機能について ・他職種との連携について ・チームで支援する際の看護師の役割について検討する（他の医療者から、訪問看護師がどのような役割や機能を持っていると考えられているのか）
	2時間	福祉用具	小児に特徴的な福祉用具の機能について理解し、正しく使用ができるよう注意点を学ぶ	・福祉用具の特徴について理解する ・用具を装着する際の注意点について理解できる	講義	・福祉用具の特徴について（おとなが使用する用具とは違いがわかる座位保持やバギーなど） ・用具を装着する際の注意点について
	2時間	相談支援と連携	相談支援の役割・機能について理解し、適切に制度を活用できるように学ぶ	・相談支援の役割・機能について理解する ・相談支援員の役割・機能について理解する ・相談支援員と連携するための方策を理解する	講義	・障害福祉サービス等を申請した障害者（児）について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）、計画相談支援給付費又は障害児相談支援給付費の支給について ・子どもや家族がどのように病気や障害などを乗り越える力を持っているのか、事例を交えて説明
⑤施設等でのケアの実際	1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ		診療所において見学実習	・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける）
	1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ		NICUにおいて見学実習	
	1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ		入所施設において見学実習	
	2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ		訪問看護ステーションにおいて見学実習	
	1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ		特別支援学校において見学実習	
	1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ		通所施設において見学実習	

図表2-4　小児訪問看護研修プログラム(テーマ別)：はじめよう小児訪問看護（入門編）

	分類	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
1日目	②医療・看護の知識各論	2時間	訪問看護の実際	訪問看護の実際を理解する	・小児訪問看護の実際が理解できる。	講義	・新生児医療の現状と課題（NICUでケアを受ける子どもの状態やNIC満床U問題の背景など） ・新生児医療からの退院支援の実際や課題（地域の医師や訪問看護ステーションとの連携） ・新生児医療を受ける家族の現状と課題 ・小児訪問看護の実際
	①重症心身障害・小児医療概論	2時間	診療所が実施する小児在宅医療の実際	小児在宅医療を支える地域医療の役割・機能について理解できる	・小児在宅医療に関する開業医の取り組みが理解できる ・地域医療における開業医の役割・機能について理解できる	講義	・地域での訪問看護の連携の実際について ・在宅医などとの地域連携について ・小児科医ではない在宅医との連携について ・小児科医の在宅医療の実際と課題について ・大学病院などの医療連携について
	②医療・看護の知識各論	2時間	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像を理解し、その対応、かかわりについて学びを深める。	・重症心身障害児者の原因となる疾患、状態像と合併症について理解できる ・重症心身障害児の状態像に対応した治療方法やかかわりについて理解できる	講義	・重症心身障害の原因となる疾患の合併症や治療について（出生前・出生時から新生時期・新生児期から18歳までの時期に分けた原因） ・重症心身障害となる疾患をもつ子どもの成長発達の実際と対応について（事例をまじえて）
	①重症心身障害・小児医療概論	1時間	小児看護の現状と課題	新生児医療の動向、NICUでの医療・看護の役割、機能について	・新生児医療の実際と動向が理解できる ・NICUでケアを受ける子どもとその家族の状況が理解できる。 ・NICUの医療従事者のかかえる課題が理解できる。 ・小児訪問看護の実際が理解できる。	講義	・新生児医療の現状と課題（NICUでケアを受ける子どもの状態やNIC満床U問題の背景など） ・新生児医療からの退院支援の実際や課題（地域の医師や訪問看護ステーションとの連携） ・新生児医療を受ける家族の現状と課題
2日目	②医療・看護の知識各論	3 時間	脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	重症心身障害児の主要疾患・病態について学ぶ	・脳性まひについて理解する ・代表的な筋疾患の病態について理解する ・代表的な染色体異常の病態について理解する ・各疾患の治療について理解できる ・筋緊張の病態について理解できる	講義	・脳性まひについて ・代表的な筋疾患の病態について ・代表的な染色体異常の病態について ・各疾患の治療について ・筋緊張の病態について
	③ケア・援助論	2時間	骨折・移乗介助・更衣	骨折の機序、原因、骨折予防に重点をおいた移乗介助や更衣の際の注意点を学ぶ	・骨の解剖生理を理解できる ・骨折予防の注意点を理解できる ・移乗の際の注意点を理解できる ・更衣の際の注意点を理解できる	講義・演習	・骨の解剖生理について ・骨折予防の注意点について ・移乗の際の注意点について ・更衣の際の注意点について
3日目	②医療・看護の知識各論	6時間	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント	子どもの発達・生理学的変化を理解できる	・子どもの成長発達について理解できる ・子どもの全身アセスメントの方法が理解できる ・フィジカルアセスメントの方法を演習できる	講義(3H)・演習(3H)	・子どもの身体の生理的な特徴などについて（おとなと子どものフィジカルアセスメントの違いや詳しい生理学的変化の違い） ・子どもの成長発達について ・フィジカルアセススメント技術 ・子どもに特長的な感染症について（病態と治療麻疹・風疹・水痘・手足口病・流行性耳下腺炎・尿路感染症・MRSAなど） ・予防接種について
	⑤施設等でのケアの実際	1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ		診療所において見学実習	・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける）
		1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ		NICUにおいて見学実習	
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ		入所施設において見学実習	
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ		訪問看護ステーションにおいて見学実習	
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ		特別支援学校において見学実習	
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ		通所施設において見学実習	

図表2-5　小児訪問看護研修プログラム（テーマ別）：いのちを支える（スキルアップ編）

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
1日目	③ケア・援助論	2時間	よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護	重症心身障害児者がよりよく生き抜くための看護について理解し、課題について検討する	・疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる	講義　90分 GW　30分	・疾病により身体機能の危機的状態にある（幼少期の身体機能の未熟さによる症状や進行性疾患による症状や病態）、および成長発達・加齢に伴い身体機能の変化によって表出する症状の悪化（側弯などによる呼吸障害、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎の繰り返し）などの重症心身障害児者の病態について ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いについて ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の看護（痛みのケア・呼吸を安楽にするケア・家族と共に過ごすためのケア・家族への予後の説明など事例を交えた解説）
	③ケア・援助論	4時間	家族の思いに寄り添う看護	疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる ・悲嘆の過程について理解する ・家族の障害受容に対する支援方法について理解する	講義・演習（ディスカッション）	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる（主たる介護者となる家族の思いの背景が理解できるように、事例を交えて説明） ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できるようにするために、ロールプレイを実施し、その後、ディスカッションをする ・悲嘆の過程について ・家族の障害受容に対する支援方法について、事例を交えて説明
2日目	②医療・看護の知識各論	3時間	小児がんについて	子どもに特徴的ながんの症状、治療に沿った援助方法を理解する	・子どもに特徴的ながんについて理解する ・がんの治療方法について理解する ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する	講義	・子どもに特徴的ながんについて ・がんの治療方法について ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について
	③ケア・援助論	3時間	急変時の対応	小児のBLS技術を学び、在宅における緊急時の対応方法を、具体的にイメージ化できる。	・小児のBLS技術が実践できる ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる	講義・演習（2時間）	・小児のBLS技術が実践できるように演習を実施する ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできるように事例を交え、ポイントを説明
3日目	④地域で活動する他職種について	2時間	他職種の理解とチーム医療について	他職種の役割と機能を理解し、チームで支援をするために必要な方策について学ぶ	・他職種の役割と機能について理解する ・他職種との連携について理解する ・チームで支援する際の看護師の役割について検討できる	講義・演習（ディスカッション・ロールプレイなど）	・他職種の役割と機能について ・他職種との連携について ・チームで支援する際の看護師の役割について検討する（他の医療者から、訪問看護師がどのような役割や機能を持っていると考えられているのか）
	①重症心身障害・小児医療概論	3時間	子どもの権利と倫理的かかわり	子どもの権利を理解し、倫理的な関わりについて学ぶ。	・子どもの権利を理解する ・倫理的な関わりについて考えることができる	講義・演習（ディスカッション）	・日本国憲法における子どもの権利について ・子どもの権利条約について ・倫理の概念 ・看護協会における倫理指針について ・日常のケア場面における倫理的配慮・ケアを事例を示す
	⑤施設等でのケアの実際	1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ		診療所において見学実習	・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける）
		1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ		NICUにおいて見学実習	
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ		入所施設において見学実習	
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ		訪問看護ステーションにおいて見学実習	
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ		特別支援学校において見学実習	
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ		通所施設において見学実習	

図表2-6　小児訪問看護研修プログラム（テーマ別）：活動すること（スキルアップ編）

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
1日目	①重症心身障害・小児医療概論	3時間	最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向	小児医療・重症心身障害児医療・看護の動向と訪問看護の必要性を理解し、子どもと家族をとりまく現状の課題について検討する。	・子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる ・重症心身障害児の医療について理解できる ・小児訪問看護における看護の課題を検討できる	講義・演習（ディスカッション）	・小児医療の現状・課題とは ・医療的ケアとは(概念・状態像など) ・小児医療における重症心身障害児の医療の現状と課題 ・重症心身障害児の高齢化と移行期ケアについて ・小児医療で活用できる医療費制度について（政策や取り組みなどを含む）
	②医療・看護の知識各論	1時間	耳、鼻の機能・耳鼻科疾患について学ぶ	耳、鼻の機能、耳鼻科疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・耳、鼻の機能を理解する ・耳鼻科疾患について理解する ・耳鼻科疾患の治療方法について理解する	講義	・耳、鼻の機能について ・耳鼻科疾患について ・耳鼻科疾患の治療方法について
		1時間	眼の機能・眼科疾患について学ぶ	眼の機能、眼科疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・眼の機能を理解する ・眼科疾患について理解する ・眼科疾患の治療方法について理解する	講義	・眼の機能について ・眼科疾患について ・眼科疾患の治療方法について
		1時間	睡眠障害について	睡眠のメカニズムを理解し、睡眠障害の原因、援助方法について学ぶ	・睡眠のメカニズムについて理解する ・睡眠障害のメカニズムについて理解する ・睡眠障害の治療について理解する ・睡眠障害への援助方法について理解する	講義	・睡眠のメカニズムについて ・睡眠障害のメカニズムについて ・睡眠障害の治療について ・睡眠障害への援助方法について
2日目	③ケア・援助論	4時間	小児リハビリテーション	子どもの身体の特徴をふまえたリハビリテーション内容について理解し、看護師が実施できる内容について学ぶ	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる ・ROMエクササイズの内容が理解できる	講義・演習	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）について ・ROMエクササイズの内容について
	④地域で活動する他職種について	2時間	福祉用具	小児に特徴的な福祉用具の機能について理解し、正しく使用ができるよう注意点を学ぶ	・福祉用具の特徴について理解する ・用具を装着する際の注意点について理解できる	講義	・福祉用具の特徴について（おとなが使用する用具とは違いがわかる座位保持やバギーなど） ・用具を装着する際の注意点について
3日目	②医療・看護の知識各論	2時間	てんかん発作について	てんかん発作の病態と治療について学ぶ	・てんかんの原因、診断、治療について理解する ・てんかん発作の観察ポイントについて理解する ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する	講義	・てんかんの原因、診断、治療について ・てんかん発作の観察ポイントについて ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について
		2時間	発達障害の理解と対応	小児の発達・生理学的変化を理解し、発達障害とその対応を学ぶ。	・発達障害の原因、分類が理解できる ・発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる	講義	・発達障害とは、原因とメカニズムについて ・発達障害がある子どもとその家族への対応について
	④地域で活動する他職種について	1時間	児童相談所の機能と役割について	児童相談所の機能・役割を学び、小児、障害児者の虐待がおこる背景や関わりの実際を学ぶ。	・児童相談所の機能・役割がわかる ・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる	講義	・児童相談所の機能・役割について ・小児虐待に対する児童相談所の関わりについて ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて
		1時間	特別支援学校における看護の役割について	特別支援学校の機能・役割、学びの場で実践される医療的ケアの実際を学ぶ。	・特別支援学校の機能・役割について理解できる ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる	講義	・特別支援学校の機能・役割について ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について
	⑤施設等でのケアの実際	1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ		診療所において見学実習	・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける）
		1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ		NICUにおいて見学実習	
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ		入所施設において見学実習	
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ		訪問看護ステーションにおいて見学実習	
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ		特別支援学校において見学実習	
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ		通所施設において見学実習	

図表2-7　小児訪問看護研修プログラム（テーマ別）：呼吸すること（スキルアップ編）

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
1日目	②医療・看護の知識各論	3時間	呼吸障害について	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害に対する治療とその看護について理解する	・呼吸のメカニズムを理解する ・呼吸障害のメカニズムを理解する ・呼吸障害に対する治療について理解する	講義	・呼吸のメカニズムについて ・呼吸障害のメカニズムについて ・呼吸障害に対する治療について（看護における注意点なども含める）
		3時間	心疾患（心奇形）について	生まれつき心臓の形と機能に異常のある「先天性心疾患」について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・先天性心疾患について理解する ・先天性心疾患の治療方法について理解する ・先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する	講義	・先天性心疾患について ・先天性心疾患の治療方法について（手術の方法なども含む） ・先天性心疾患の日常生活の注意点について
2日目	②医療・看護の知識各論	2時間	循環器について	循環器の機能、疾患について理解し、治療に沿った援助方法を理解する	・循環機能を理解する ・循環器疾患について理解する ・循環器疾患の治療方法について理解する	講義	・循環機能について ・循環器疾患について ・循環器疾患の治療方法について ・心臓の冠動脈に病変を残す「川崎病」、学校検診でみつかる「不整脈」や「心筋症」について
	③ケア・援助論	4時間	呼吸障害の理解と肺理学療法	呼吸障害のある障害児者の観察アセスメントを学び、安楽な呼吸のための効果的なポジショニング、リラクゼーションの技術を習得する。	・呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価ができる ・効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる	講義・演習	・呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントについて ・効果的なポジショニング、リラクゼーションについて
3日目	③ケア・援助論	3時間	呼吸障害の看護について	呼吸障害に対する観察ポイント・看護について理解する	・呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる ・ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる ・安楽に呼吸するための援助方法が理解できる	講義・演習	・人工呼吸器のアラームへの対処方法などについて ・気管切開部への対応について ・ネブライザーや在宅酸素吸入時の注意点について ・吸引の際の注意点について
		1時間	人工呼吸器の基礎	人工呼吸器についての基本的知識と、安全な人工呼吸器管理に必要な知識を学ぶ。	・人工呼吸器の原理が理解できる ・人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる	講義・演習	・人工呼吸器の原理について ・人工呼吸器管理中の注意点、看護について
	④地域で活動する他職種について	1時間	在宅生活を支える制度や社会資源について	在宅生活を支える制度やサービスを理解し、ケアに活用する方法を学ぶ。	・療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる ・訪問看護師の役割について理解できる ・障害者総合支援法とサービスについて理解できる ・小児の在宅療養を支援する制度について理解できる ・地域社会の資源の活用について検討できる	講義	・療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能について ・訪問看護師の役割について（家族とのかかわりについて重点を置く） ・利用者と家族を支えている関係機関の概要はあったほうが良い。学校や教育にも関連する。 ・小児の在宅療養を支援する制度について（職種や制度の内容）
		1時間	児童相談所の機能と役割について	児童相談所の機能・役割を学び、小児、障害児者の虐待がおこる背景や関わりの実際を学ぶ。	・児童相談所の機能・役割がわかる ・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる	講義	・児童相談所の機能・役割について ・小児虐待に対する児童相談所の関わりについて ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて
	⑤施設等でのケアの実際	1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ		診療所において見学実習	・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける）
		1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ		NICUにおいて見学実習	
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ		入所施設において見学実習	
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ		訪問看護ステーションにおいて見学実習	
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ		特別支援学校において見学実習	
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ		通所施設において見学実習	

図表2-8　小児訪問看護研修プログラム（テーマ別）：食べること（スキルアップ編）

	カテゴリー	時間	講義名	目的	到達目標	学習方法	具体的な講義内容
1日目	①重症心身障害・小児医療概論	2時間	重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	重症心身障害児医療の歴史、概念、定義を学ぶ	・重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる ・重症心身障害児の概念が理解できる ・重症心身障害児の診断（大島分類など）が理解できる	講義	・重症心身障害児の医療の歴史的変遷について ・重症心身障害児の概念 ・重症心身障害児の診断（大島分類について）
	②医療・看護の知識各論	2時間	消化器疾患と栄養障害について	栄養障害が発生する消化器官の病態について理解し、それらに対する援助方法がわかる	・消化のメカニズムを理解する ・消化器疾患の病態を理解する ・消化器疾患への治療方法について理解する ・栄養のメカニズムを理解する	講義	・消化のメカニズムについて ・消化器疾患の病態について ・消化器疾患への治療方法について ・栄養のメカニズムについて
		2時間	摂食嚥下障害について学ぶ	摂食嚥下障害の病態生理について学ぶ	・摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる ・摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる ・摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる	講義	・摂食嚥下のメカニズム、解剖生理について ・摂食嚥下障害の原因、病態について ・摂食嚥下障害の治療・対応方法について
2日目	②医療・看護の知識各論	2時間	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像を理解し、その対応、かかわりについて学びを深める。	・重症心身障害児者の原因となる疾患、状態像と合併症について理解できる ・重症心身障害児の状態像に対応した治療方法やかかわりについて理解できる	講義	・重症心身障害の原因となる疾患の合併症や治療について（出生前・出生時から新生時期・新生児期から18歳までの時期に分けた原因） ・重症心身障害となる疾患をもつ子どもの成長発達の実際と対応について（事例をまじえて）
		1時間	排便障害について学ぶ	排便のメカニズムを理解し、排便障害の治療に沿った援助方法を理解する	・排便のメカニズムが理解できる ・排便障害の病態が理解できる ・排便障害への治療方法が理解できる	講義	・排便のメカニズムについて ・排便障害の病態について ・排便障害への治療方法について
		1時間	排尿障害について学ぶ	排尿のメカニズムを理解し、排尿障害の治療に沿った援助方法を理解する	・排尿のメカニズムが理解できる ・排尿障害の病態が理解できる ・排尿障害への治療方法が理解できる ・排尿障害の援助方法について理解する	講義	・排尿のメカニズムについて ・排尿障害の病態について ・排尿障害への治療方法について ・排尿障害の援助方法について
	④地域で活動する他職種について	2時間	相談支援と連携	相談支援の役割・機能について理解し、適切に制度を活用できるように学ぶ	・相談支援の役割・機能について理解する ・相談支援員の役割・機能について理解する ・相談支援員と連携するための方策を理解する	講義	・障害福祉サービス等を申請した障害者（児）について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）、計画相談支援給付費又は障害児相談支援給付費の支給について ・子どもや家族がどのように病気や障害などを乗り越える力を持っているのか、事例を交えて説明
3日目	③ケア・援助論	3時間	摂食嚥下障害のある患者への援助方法	摂食嚥下障害がある利用者への援助方法を学ぶ	・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる ・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる	講義・演習	・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点について
		3時間	口腔衛生について	良好な口腔衛生を維持するための援助方法を理解する	・口腔の解剖生理と機能について理解できる ・清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる	講義・演習	・口腔の解剖生理と機能について ・清潔を保つ口腔ケアの方法と注意点について
	⑤施設等でのケアの実際	1日	診療所におけるケアの実際を学ぶ	小児在宅医療を支える地域医療の実際を学ぶ		診療所において見学実習	・同行訪問、同行見学を実施する ・訪問研修、見学時間などは、各施設で調整する ・各施設でオリエンテーションを受ける（各施設の役割、機能、従事する職員数、地域の特性、契約利用者の状況などの講義を受ける）
		1日	NICUにおける実際のケアを学ぶ	NICUの機能・役割を理解し、NICUにおける看護の実際を学ぶ		NICUにおいて見学実習	
		1日	医療型入所施設・療養介護における実際のケアを学ぶ	入所施設の機能・役割を理解し、施設における看護の実際を学ぶ		入所施設において見学実習	
		2日	訪問看護の実際を学ぶ	小児訪問看護の機能・役割を理解し、家庭におけるケアの実際を学ぶ		訪問看護ステーションにおいて見学実習	
		1日	特別支援学校における実際のケアを学ぶ	特別支援学校の機能・役割を理解し、学びの場における看護の実際を学ぶ		特別支援学校において見学実習	
		1日	通所施設における実際のケアを学ぶ	通所施設の機能・役割を理解し、日中活動の場における看護の実際を学ぶ		通所施設において見学実習	

２）小児訪問看護研修会の実施

「小児訪問看護研修プログラム」を作成、実際に全てのプログラムを協会で開催し、プログラムの実効性と有効性を確認した。

（１）はじめよう小児訪問看護（基礎編）

小児訪問看護研修会「はじめよう小児訪問看護（基礎編）～小児訪問看護の魅力を知ろう～」は以下の要領で開催した。

- **日　　時**：　令和元年 12 月 19 日～21 日
- **対　　象**：　訪問看護に従事する看護師等
- **会　　場**：　アクセス渋谷フォーラム（東京都渋谷区渋谷 2-15-1 渋谷クロスタワー24F）
- **参 加 者**：　50 人
- **受 講 料**：　会員 40,000 円　非会員 80,000 円
- **プログラム**：　下表参照

図表2-9　はじめよう小児訪問看護（基礎編）プログラム

	時間	形態	内容	講師
1日目	10:00～12:00	講義	小児訪問看護の実際	訪問看護ステーションさんさん　田中　歩氏
	13:00～15:00	講義 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ	家族に寄り添う看護ﾊﾟｰﾄ1	訪問看護ステーションさんさん 森下　由佳氏
	15:15～17:15	講義	診療所が実施する小児在宅医療の実際	浜松市発達医療総合福祉センター 友愛のさと診療所　副センター長 遠藤　雄策氏
	17:30～18:30	講義	小児看護の現状と課題	東邦大学看護学部在宅看護学研究室 小児看護専門看護師　助教　倉田　慶子氏
2日目	9:00～11:00	講義	重症心身障害児者の原因となる疾患の理解	心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長　中谷　勝利氏
	11:15～14:15 (昼食休憩 60 分)	講義	脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患	
	14:30～16:30	講義	骨折予防に重点をおいた移乗介助・更衣・ポジショニング	訪問看護ステーションさんさん 理学療法士　佐藤　麻沙美氏

	時間	形態	内容	講師
3日目	9:00～16:15 (昼食休憩 60 分)	講義 演習	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント	川崎大師訪問看護ステーション・療養通所介護まこと　管理者　島田　珠美氏 ファシリテーター 聖隷浜松病院小児看護専門看護師　高　真喜氏 聖隷浜松病院 NICU 係長　松下　明世氏 聖隷浜松病院 GCU 係長　阿部　久美子氏 かわさき障害者福祉施設たじま　訪問看護認定看護師　三橋　由佳氏 訪問看護ステーションベビーノ　平原　真紀氏 むらさき愛育園西２階病棟看護係長 加藤　久美子氏 整肢療護園II病棟看護主任　藤井　恵未氏 心身障害児総合医療療育センター　仁宮　真紀氏 東京都立小児総合医療センター小児 CINS 北村　由起子氏 聖マリアンナ医科大学病院小児 CNS 高橋　花子氏

（2）いのちを支える

小児訪問看護研修会「いのちを支える」は日本財団の助成を受けて以下の要領で開催した。

- **募集期間**：　令和 3 年 6 月 1 日～8 月 29 日（配信期間：8 月 1 日～10 月 30 日）
- **対　　象**：　訪問看護に従事する看護師等
- **参 加 者**：　15 人
- **受 講 料**：　会員 43,000 円 → 18,000 円　非会員 83,000 円 → 36,000 円
- **受講可能期間**：　3 ヵ月間（オンデマンド配信のみ）
- **ライブ配信**：　9 月 10 日（金）10 時 00 分～17 時 10 分
  10 月 22 日（金）9 時 30 分～16 時 30 分
- **プログラム**：　次頁参照

図表2-10 小児訪問看護研修会「いのちを支える」プログラム

研修方法			講義名	講師	講義時間	講義内容	到達目標（SBO）	一般目標（GIO）
オンデマンド配信			小児がんについて	医療法人財団はるたか会 理事長　前田　浩利　氏	3時間	・子どもに特徴的ながんについて ・がんの治療方法について ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について	・子どもに特徴的ながんについて理解する ・がんの治療方法について理解する ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する	終末期や急変時など「命を支える」小児訪問看護を実践するための知識・技術・態度を習得する。
ライブ配信	9月10日（金）	10時00分～12時00分	よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護	都立府中療育センター緩和ケア認定看護師　荒谷　智子　氏	2時間	・疾病により身体機能の危機的状態にある（幼少期の身体機能の未熟さによる症状や進行性疾患による症状や病態）、および成長発達・加齢に伴い身体機能の変化によって表出する症状の悪化（側弯などによる呼吸障害、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎の繰り返し）などの重症心身障害児者の病態について ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いについて ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の看護（痛みのケア・呼吸を安楽にするケア・家族と共に過ごすためのケア・家族への予後の説明など事例を交えた解説）	・疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる	
		13時00分～14時30分	他職種の理解とチーム医療について	浜松市発達医療総合福祉センター相談支援事業所シグナル 尾関　ゆかり　氏	1時間30分	・他職種の役割と機能について ・他職種との連携について ・チームで支援する際の看護師の役割について検討する（他の医療者から、訪問看護師がどのような役割や機能を持っていると考えられているのか）	・疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。	
		14時40分～17時10分	子どもの権利と倫理的かかわり	心身障害児総合医療療育センター 仁宮　真紀　氏	2時間30分	・日本国憲法における子どもの権利について ・子どもの権利条約について ・倫理の概念 ・看護協会における倫理指針について ・日常のケア場面における倫理的配慮・ケアを事例を示す	・子どもの権利を理解する ・倫理的な関わりについて考えることができる	
	10月22日（金）	9時30分～12時30分	家族の思いに寄り添う看護	訪問看護ステーションさんさん 森下　由佳　氏	3時間	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる（主たる介護者となる家族の思いの背景が理解できるように、事例を交えて説明） ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できるようにするために、ロールプレイを実施し、その後、ディスカッションをする ・悲嘆の過程について ・家族の障害受容に対する支援方法について、事例を交えて説明	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる ・悲嘆の過程について理解する ・家族の障害受容に対する支援方法について理解する	
		13時30分～16時30分	急変時の対応	心身障害児総合医療療育センター 川崎　まこと　氏	3時間	・小児のBLS技術が実践できるように演習を実施する ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできるように事例を交え、ポイントを説明	・小児のBLS技術が実践できる ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる	

（3）活動すること

小児訪問看護研修会「活動すること」は日本財団の助成を受けて以下の要領で開催した。

- **募集期間**：　令和 3 年 7 月 1 日～8 月 29 日（配信期間：9 月 1 日～10 月 31 日）
- **対　　象**：　訪問看護に従事する看護師等
- **参 加 者**：　19 人
- **受 講 料**：　会員 43,000 円 → 18,000 円　非会員 83,000 円 → 36,000 円
- **受講可能期間**：　2 ヵ月間（オンデマンド配信のみ）
- **ライブ配信**：　10 月 23 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
- **対面研修**：　12 月 11 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
  於　AP 日本橋（東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 6F）
- **プログラム**：　次頁参照

図表2-11　小児訪問看護研修会「活動すること」プログラム

研修方法		講義名	講師	講義時間	講義内容	到達目標（SBO）	一般目標（GIO）
オンデマンド配信		耳鼻科疾患について学ぶ	浜松医科大学　耳鼻咽喉科頭頸部外科 喜多淳哉　氏	53分	・耳鼻科疾患について ・耳鼻科疾患の治療方法について	・耳鼻科疾患について理解する ・耳鼻科疾患の治療方法について理解する	小児訪問看護の実践に役立つ「呼吸すること・食べること・活動すること」に関連する知識・技術・態度を習得する。
		眼の機能・眼科疾患について学ぶ	杏林大学医学部附属病院 眼科　講師　鈴木由美 氏	47分	・眼の機能について ・眼科疾患について ・眼科疾患の治療方法について	・眼の機能を理解する ・眼科疾患について理解する ・眼科疾患の治療方法について理解する	
		睡眠障害について	心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長　中谷　勝利 氏	1時間11分	・睡眠のメカニズムについて ・睡眠障害のメカニズムについて ・睡眠障害の治療について ・睡眠障害への援助方法について	・睡眠のメカニズムについて理解する ・睡眠障害のメカニズムについて理解する ・睡眠障害の治療について理解する ・睡眠障害への援助方法について理解する	
		てんかん発作について	心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長　中谷　勝利 氏	2時間42分	・てんかんの原因、診断、治療について ・てんかん発作の観察ポイントについて ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について	・てんかんの原因、診断、治療について理解する ・てんかん発作の観察ポイントについて理解する ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する	
		発達障害の理解と対応	心身障害児総合医療療育センター 小児科　米山　明　氏	2時間48分	・発達障害とは、原因とメカニズムについて ・発達障害がある子どもとその家族への対応について	・発達障害の原因、分類が理解できる ・発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる	
		児童相談所の機能と役割について	千葉県柏児童相談所 所長　渡邊　直　氏	1時間2分	・児童相談所の機能・役割について ・小児虐待に対する児童相談所の関わりについて ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて	・児童相談所の機能・役割がわかる ・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる	
		特別支援学校における看護の役割について	はみんぐ訪問看護ステーション 塙　真美子　氏	48分	・特別支援学校の機能・役割について ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について	・特別支援学校の機能・役割について理解できる ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる	
		福祉用具・装具について	東京小児療育病院 リハビリテーション科長 丸森睦美　氏	2時間22分	・福祉用具の特徴について（おとなが使用する用具とは違いがわかる座位保持やバギーなど） ・用具を装着する際の注意点について	・福祉用具の特徴について理解する ・用具を装着する際の注意点について理解できる	
ライブ配信	10/23（土） 13時30分～16時30分	最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向	順天堂大学大学院医療看護学研究科 倉田　慶子　氏	3時間	・小児医療の現状・課題とは ・医療的ケアとは（概念・状態像など） ・小児医療における重症心身障害児の医療の現状と課題 ・重症心身障害児の高齢化と移行期ケアについて ・小児医療で活用できる医療費制度について（政策や取り組みなどを含む	・子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる ・重症心身障害児の医療について理解できる ・小児訪問看護における看護の課題を検討できる	
対面研修	12月11日（土） 13時30分～16時30分	小児リハビリテーション	東京小児療育病院 リハビリテーション科長 丸森睦美　氏	3時間	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）について ・ROMエクササイズの内容について	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる ・ROMエクササイズの内容が理解できる	

（4）呼吸すること

小児訪問看護研修会「呼吸すること」は以下の要領で開催した。

- **募集期間**：　令和 4 年 7 月 1 日～9 月 15 日（配信期間：9 月 22 日～11 月 30 日）
- **対　　象**：　訪問看護に従事する看護師等
- **参 加 者**：　38 人
- **受 講 料**：　会員 26,000 円　非会員 39,000 円
- **ライブ配信**：　10 月 21 日（金）13 時 30 分～16 時 30 分
- **対面研修**：　10 月 29 日（土）13 時 00 分～17 時 00 分
  於　グランパークカンファレンス
  （東京都港区芝浦 3 丁目 4－1　田町グランパークプラザ棟 3 階）
- **プログラム**：　次頁参照

図表2-12　小児訪問看護研修会「呼吸すること」プログラム

一般目標（GIO）小児訪問看護の実践に役立つ「呼吸すること」に関連する知識・技術・態度を習得する。

講義名	到達目標（SBO）	講義内容	講師	講義時間	形式	
呼吸障害について	呼吸のメカニズムを理解する。呼吸障害のメカニズムを理解する。呼吸障害に対する治療について理解する	呼吸のメカニズムについて／呼吸障害のメカニズムについて／呼吸障害に対する治療について（看護における注意点なども含める）	川崎市北部地域療育センター 医師　山口　直人　氏	3時間	オンデマンド形式	
心疾患（心奇形）について	先天性心疾患について理解する。先天性心疾患の治療方法について理解する。先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する。	先天性心疾患について／先天性心疾患の治療方法について（手術の方法なども含む）／先天性心疾患の日常生活の注意点について	神奈川県立こども医療センター 循環器内科医長　柳　貞光　氏	3時間		
循環器について	循環機能を理解する。循環器疾患について理解する。循環器疾患の治療方法について理解する。	循環機能について／循環器疾患について／循環器疾患の治療方法について／心臓の冠動脈に病変を残す「川崎病」、学校検診でみつかる「不整脈」や「心筋症」について	神奈川県立こども医療センター 循環器内科医長　柳　貞光　氏	2時間		
呼吸障害の理解と肺理学療法	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントができる。効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる。	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントについて／効果的なポジショニング、リラクゼーションについて	東京小児養育病院リハビリテーション科長　丸森　睦美　氏	4時間	集合形式 （演習）	10月29日（土） 13時00分～17時00分
呼吸障害の看護について	呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる。ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる。安楽に呼吸するための援助方法が理解できる。	人工呼吸器のアラームへの対処方法などについて／気管切開部への対応について／ネブライザーや在宅酸素吸入時の注意点について／吸引の際の注意点について	中野区子ども発達センターたんぽぽ小児看護専門看護師　仁宮　真紀　氏 訪問看護ステーションさんさん 森下　由佳　氏	3時間	ライブ形式 （講義・グループワーク）	10月21日（金） 13時30分～16時30分
人工呼吸器の基礎	人工呼吸器の原理が理解できる。人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる。	人工呼吸器の原理について／人工呼吸器管理中の注意点、看護について	KIDS CE Advisory 代表 臨床工学アドバイザー臨床工学技士 松井　晃　氏	2時間	オンデマンド形式	
在宅生活を支える制度や社会資源について	療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる。訪問看護師の役割について理解できる。障害者総合支援法とサービスについて理解できる。小児の在宅療養を支援する制度について理解できる。地域社会の資源の活用について検討できる。	療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能について／訪問看護師の役割について（家族とのかかわりについて重点を置く）／利用者と家族を支えている関係機関の概要はあったほうが良い。学校や教育にも関連する。／小児の在宅療養を支援する制度について（職種や制度の内容）	千葉県千葉リハビリテーションセンター 千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりす 医療的ケア児等コーディネーター 景山　朋子　氏	2時間		

（5）食べること

小児訪問看護研修会「食べること」は以下の要領で開催した。

- **募集期間**：　令和 4 年 7 月 1 日～10 月 15 日（配信期間：10 月 20 日～12 月 31 日）
- **対　　象**：　訪問看護に従事する看護師等
- **参 加 者**：　25 人
- **受 講 料**：　会員 26,000 円　非会員 39,000 円
- **ライブ配信**：　11 月 5 日（土）10 時 00 分～17 時 00 分
- **プログラム**：　次頁参照

図表2-13　小児訪問看護研修会「食べること」プログラム

<table>
<tr><th>講義名</th><th>到達目標（SBO）</th><th>講義内容</th><th>講師</th><th>講義時間</th><th colspan="2">形式</th></tr>
<tr><td>重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断</td><td>重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる。重症心身障害児の概念が理解できる。重症心身障害児の診断（大島分類など）が理解できる。</td><td>重症心身障害児の医療の歴史的変遷について／重症心身障害児の概念／重症心身障害児の診断（大島分類について）</td><td>全国療育相談センター副センター長／（前）心身障害児総合医療療育センター
米山　明　氏</td><td>2時間</td><td colspan="2" rowspan="7">オンデマンド形式</td></tr>
<tr><td>消化器疾患と栄養障害について</td><td>消化のメカニズムを理解する。消化器疾患の病態を理解する。消化器疾患への治療方法について理解する。栄養のメカニズムを理解する。</td><td>消化のメカニズムについて／消化器疾患の病態について／消化器疾患への治療方法について／栄養のメカニズムについて</td><td>茨城福祉医療センター
外科・小児外科部長　平井　みさ子　氏</td><td>2時間</td></tr>
<tr><td>摂食嚥下障害について学ぶ</td><td>摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる。摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる。摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる。</td><td>摂食嚥下のメカニズム、解剖生理について／摂食嚥下障害の原因、病態について／摂食嚥下障害の治療・対応方法について</td><td>日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック
教授　　田村　文誉　氏</td><td>2時間</td></tr>
<tr><td>排便障害について学ぶ</td><td>排便のメカニズムが理解できる。排便障害の病態が理解できる。排便障害への治療方法が理解できる。</td><td>排便のメカニズムについて／排便障害の病態について／排便障害への治療方法について</td><td>静岡県立大学看護学部看護学科
助教　　池田　麻左子　氏</td><td>1時間</td></tr>
<tr><td>排尿障害について学ぶ</td><td>排尿のメカニズムが理解できる。排尿障害の病態が理解できる。排尿障害への治療方法が理解できる。排尿障害の援助方法について理解する。</td><td>排尿のメカニズムについて／排尿障害の病態について／排尿障害への治療方法について／排尿障害の援助方法について</td><td>中野区子ども発達センターたんぽぽ
小児看護専門看護師
仁宮　真紀　氏</td><td>1時間</td></tr>
<tr><td>相談支援と連携</td><td>相談支援の役割・機能について理解する。相談支援員の役割・機能について理解する。相談支援員と連携するための方策を理解する。</td><td>障害福祉サービス等を申請した障害者（児）について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）、計画相談支援給付費又は障害児相談支援給付費の支給について／子どもや家族がどのように病気や障害などを乗り越える力を持っているのか、事例を交えて説明</td><td>浜松市発達医療総合福祉センター
相談支援事業所シグナル
尾関　ゆかり　氏</td><td>2時間</td></tr>
<tr><td>摂食嚥下障害のある患者への援助方法</td><td>摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる。摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる。</td><td>摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点について</td><td>株式会社東京リハビリテーション
摂食嚥下障害看護認定看護師
金　志純　氏</td><td>3時間</td><td rowspan="2">ライブ形式
（演習）</td><td>10時00分～13時00分</td></tr>
<tr><td>口腔衛生について</td><td>口腔の解剖生理と機能について理解できる。清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる</td><td>口腔の解剖生理と機能について／清潔を保つ口腔ケアの方法と注意点について</td><td>株式会社東京リハビリテーション
摂食嚥下障害看護認定看護師
金　志純　氏</td><td>3時間</td><td>14時00分～17時00分</td></tr>
</table>

（６）小児訪問看護研修会の様子

図表2-14　令和元年度　はじめよう小児の訪問看護Ｐａｒｔ１（基礎編）
～小児訪問看護の魅力を知ろう～

家族に寄り添う看護ﾊﾟｰﾄ１

講義

講師は、疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかるように事例を交えて講義した。

講義

新型コロナウイルス感染症が流行前だったため、集合研修でおこなった。３日間の研修の中で、受講生は講師から顔を合わせて講義と演習を学んだ。

演習

受講者は、重症心身障害児者の家族の理解を深め支援について検討するため、６人ごとに分かれてロールプレイを実施した。

演習

ロールプレイの後は、ファシリテーターも交えてディスカッションをおこなった。

「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント」

講義

講師は、子どもの身体の生理的な特徴、子どもの成長発達などについて講義した。

演習

受講者は、５～６人のグループに分かれ、シミュレーターを使ってフィジカルアセスメント技術を学んだ。各グループには、ファシリテーターが入った。

演習

シミュレーターを使って､気管切開のガーゼ交換をおこなった。

演習

シミュレーターを使って、経鼻経管栄養チューブの固定をおこなった。

図表2-15　令和３年度　小児訪問看護研修会 Part2～いのちを支える～

「子どもの権利と倫理的かかわり」

ライブ配信による講義

講師は、倫理的な関わりについて考えることができるよう、日常の場面における倫理的配慮やケアの事例をあげて講義した。

会場の様子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、予定していた集合研修からインターネットによるライブ配信とオンデマンド配信の研修へ変更した。ライブ配信では、講師とファシリテーターは会場に集合し、講義をおこなう講師以外はマスクを装着し、換気や距離をとって感染対策をおこなった。

「家族の思いに寄り添う看護」

ライブ配信による講義

講師は、疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状、支援のありかたについてなどを講義した。

ライブ配信によるグループワーク

受講者はオンラインでグループワークに参加した。グループワークでは、事例について家族はどのような状態にあるのかをグループで考察し、どのような支援が望ましいのかを検討した。

「急変時の対応」

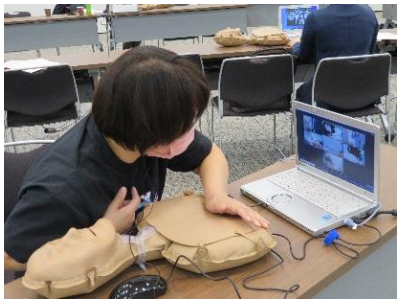
ライブ配信による演習

講師は小児の緊急時の対応について受講者が具体的にイメージできるよう、事例を交えポイントを説明しながら演習をした。受講者が見やすいように、カメラは手元と全体がわかるよう２台で撮影した。講師のタイミングに合わせて、手元を撮影したり、全体的に撮影したりと切り替えながらデモンストレーションをおこなった。

演習

ライブ配信の講師の手元を映している画面。受講者からはどのように見えているのかも確認した。

グループワーク



演習に備えて、受講者へ１人につき１体のＢＬＳシミュレーターを配送した。受講者はライブ配信を見ながら実際にＢＬＳシミュレーターを使って演習を行った。
受講者は４～５人のグループにわかれ小児のＢＬＳ技術の実践をおこなった。ファシリテーターは各グループに入り、同じ教材で手技を確認した。

図表2-16　令和３年度　小児訪問看護研修会 Part3～活動すること～

「最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向」

ライブ配信による講義

講師は、小児医療・重症心身障害児医療・看護の動向と訪問看護の必要性、子どもと家族をとりまく現状の課題についてなどの講義をした。

演習

講師とファシリテーターは会場に集合し､ライブ配信をおこなった。
講義を受けた受講者はグループに分かれ､オンラインで意見交換をした。各グループにはファシリテーターが入った。

「小児リハビリテーション」

講義

講師は、子どもの身体の特徴をふまえたリハビリテーションや、看護師が実施できる内容などについての講義をした。

会場の様子

新型コロナウイルス感染症流行下ではあったが、小児リハビリテーションの講義は対面で演習をおこなった。感染予防のため、会場は十分な広さを確保し、マスクとアルコール消毒と手洗いをおこなった。

演習

受講者は２人１組でお互い体にシールを貼り合い、姿勢を見るポイントなどについて学んだ。

演習

受講者は、講師とファシリテーターから筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等)、ＲＯＭエクササイズについてを実践しながら学んた。

図表2-17　令和４年度　小児訪問看護研修会 part４　～呼吸すること～

「呼吸障害の看護」

ライブ配信による演習

呼吸障害の看護について、病院の視点を病院看護師から、在宅の視点を訪問看護師から、2 名の講師が講義をした。
講師は、呼吸しやすいポジショニングについてのデモンストレーションなどをおこなった。ライブ配信だったため、受講者にわかりやすいよう、ポイントになる部分はカメラを近づけて撮影した。

ライブ配信による演習

講師は、気管切開部への対応について、シミュレーターを使ってデモンストレーションをおこなった。受講者にわかりやすいよう、気管切開部の手元が見えるようカメラを近づけて撮影をおこなった。

ライブ配信によるグループワーク

受講者は、オンラインによるグループワークで、講義を受けて質問や不安に思う事などを話し合った。グループごとにファシリテーターが入った。

会場の様子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からライブ形式とオンデマンド形式を組み合わせて研修を行った。ライブ配信では、講師とファシリテーターは会場に集合し、講師以外はマスクを装着し、換気や距離をとって感染対策をしながらおこなった。

「呼吸障害の理解と肺理学療法」

講義

講師は、呼吸のメカニズムと、呼吸障害の評価のポイント、効果的なポジショニング、リラクゼーションなどについて講義をした。新型コロナウイルス感染症流行下ではあったが、３密にならないよう気を付けて集合研修をおこなった。

演習

受講者は、ヨガマット（事業協会が準備）とバスタオル（受講者が持参）を使用して、交代しながら効果的なポジショニング、リラクゼーションについて演習をおこなった。交代のタイミングを計るため、タイムキーパーを設けた。

演習

性別によるグループ分けをおこなった。

演習

シミュレーターを使って演習をおこない、講師とファシリテーターが各グループを回り、指導した。

図表2-18　令和４年度　小児訪問看護研修会 part５　～食べること～

「摂食嚥下障害のある患者への援助方法」

講義・演習

講師は、摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点などについて講義した。受講者にゼリー、立て鏡、好きな飲み物などを準備してもらい、ライブ配信中に実際に体験しながら援助方法を学んだ。演習で使用したとろみ材は、一人につき１本を事前に配送した。

「口腔衛生について」

講義・演習

講師は、口腔の解剖生理と機能などについて講義した。演習では模型を使い、講師の手元をカメラで写し受講者に見てもらった。受講者はディスポグローブ、歯ブラシ、コップなどを準備してもらい、紙製の教材を用いて演習をおこなった。

３）小児訪問看護研修会アンケート調査の実施

小児訪問看護研修プログラムの評価・見直しを行うため、小児訪問看護研修受講者を対象としたアンケート調査を実施した。調査は web による匿名自記式調査とした。回収結果は以下のとおり。

図表2-19　小児訪問看護研修会アンケートの対象者・回収数

小児訪問看護研修プログラム	対象者数	回収数（回収率）
はじめよう小児訪問看護	50 人	49 人（98%）
いのちを支える	15 人	15 人（100%）
活動すること	19 人	19 人（100%）
呼吸すること	38 人	33 人（87%）
食べること	25 人	20 人（80%）

〇アンケート用紙は、p.263～の参考資料に掲載。
〇アンケート結果は、p.79～209 に掲載。

３．小児訪問看護情報交換会

３．小児訪問看護情報交換会

１）小児訪問看護情報交換会

（１）小児訪問看護情報交換会の実施

小児訪問看護を行う訪問看護師を増やすこと、小児訪問看護を提供する訪問看護ステーションを増やすことを目的に、小児訪問看護の経験のない看護師等や小児訪問看護を始めて困っている看護師等を対象として、小児訪問看護情報交換会を開催した。小児訪問看護情報交換会のチラシは p.54～57 のとおり。

図表3-1　小児訪問看護情報交換会　開催チラシ

第１回（平成 30 年度）

第1回
小児訪問看護情報交換会

主催：全国訪問看護事業協会

開催日：平成 30 年 10 月 27 日（土）10：00～16：00

会　場：CIVI 研修センター（秋葉原）　定　員：100 名　　参加費：7,000 円

対象者：小児訪問看護をやっている訪問看護ステーション、小児を受入れしていない訪問看護ステーションの看護師、管理者、従事者　小児科に従事している医療機関の看護師等

－　取り組んでみよう！！　　小児の訪問看護　－

近年の新生児医療の発達により、超未熟児や先天的な疾病を持つ子どもなど、以前なら出産直後に亡くなっていたケースであっても助かることが多くなり、在宅で療養しながら生活している小児が増えてきています。しかし、小児訪問看護を行っている訪問看護ステーションの数は、横ばいであまり増えてはいません。小児訪問看護を行っていない理由として「依頼がない」「小児をみられるスタッフがいない」が挙げられています。そこで、全国訪問看護事業協会では、「これって、どうしたらいいの?」が気軽にきけ、小児訪問看護に前向きな気持ちが持てるような情報交換会を開催します。

題して、『取り組んでみよう！！小児の訪問看護』。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開会　挨拶：全国訪問看護事業協会副会長　上野　桂子氏			
１部　実践報告　10：10～12：30			
小児のサポートってどうすれば良いの？	10:10～10:30	在宅医療の医師に聞く 「訪問看護との連携について」	まこと小児神経クリニック 院長　舟塚 真 氏
	10:30～10:50	小児訪問看護の実際・醍醐味	あすか山訪問看護ステーション 管理者　田中 道子氏
	10:50～11:10	相談支援事業所に聞く 「訪問看護ステーションとの連携～相談支援事業所として～」	全国重症心身障害児（者）を守る会 重症心身障害児療育相談センター 相談支援係長　　等々力 寿純 氏
	11:25～11:55	訪問看護ステーションに来てもらって 「訪看さんが来てくれた」	利用者様ご家族 平澤　由香氏
	11:55～12:15	「こどもは可愛い」	特定非営利活動法人えがおさんさん 代表理事　松尾 陽子氏
	12:15～12:30	質疑応答：東邦大学助教　倉田 慶子氏：舟塚氏、田中氏、等々力氏、松尾氏	
２部　グループワーク・質疑応答			
講義	13:30～14:00	小児訪問看護の算定の実際～平成 30 年度診療報酬改定から～	訪問看護ステーション住吉第二 所長　濱田 史子氏
GW	14:10～15:40	情報交換・質問タイム	ファシリテーター：訪問看護ステーション細江所長　尾田 優美子氏
閉会　挨拶：訪問看護ステーションほほえみ所長　上村 貴代美氏			

「小児訪問看護情報交換会」参加申込書　送付先ＦＡＸ　０３－３３５１－５９３８			
参加者名	ふりがな		
所有資格	看護師（訪問看護ステーション）・看護師（病院等）・准看護師・保健師・理学療法士等 その他（　　）		
所属	設立主体： ステーション・施設等：		
所在地	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	

注意事項　・申込後に申込確認のＦＡＸが１週間経っても届かない場合はお電話ください。
・キャンセルは１週間前までに連絡がない場合は費用をいただきます。※当日キャンセルは全額。
・プログラム等は変更となる場合があります。プログラム、地図、振込用紙等は当協会より郵送いたします。

一般社団法人全国訪問看護事業協会　〒160 - 0022 東京都新宿区新宿１－３－１２ 壱丁目参番館４０１
TEL　03 - 3351 - 5898　FAX　03 - 3351 - 5938

第２回（令和元年度）

第2回 小児訪問看護情報交換会

Let's try！小児の訪問看護

～小児看護の楽しさを知ろう～

主催：全国訪問看護事業協会

開催日：令和元年 10 月５日（土）10：00～16：00

会　場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 田町（田町駅）　定　員：100 名　　参加費：7,000 円

対象者：小児訪問看護未経験の看護師等、小児訪問看護を始めて日の浅い（概ね２年未満）看護師等
小児を受入れしていない訪問看護ステーションの管理者、従事者等

― Let's try！ 小児の訪問看護 ―

近年の新生児医療の進歩により、超低出生体重児や先天的な疾病を持つ子どもなど、これまで救うことが難しかった命を救うことができるようになり、在宅で療養しながら生活している小児が増えてきています。しかし、小児訪問看護を行っている訪問看護ステーションの数は微増の状況で、ニーズを満たしているとはいえません。そこで、全国訪問看護事業協会では、今年も小児の訪問看護に関わっている方々に小児訪問看護の魅力を語ってもらい、小児訪問看護に前向きな気持ちが持てるような情報交換会を開催します。

利用者家族もお招きし、訪問看護に何を期待しているのか、お話しいただきます。小児訪問看護に踏み出せないでいる皆さま、小児看護の楽しさを知りましょう！「Let's try！小児の訪問看護」

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開会　挨拶：全国訪問看護事業協会常務理事　高砂　裕子氏		
１部　10：10～12：10		司会：全国訪問看護事業協会　井上　多鶴子氏
10:10～10:40	小児訪問看護の実際	はみんぐ訪問看護ステーション 統括管理者　塙　真美子氏
10:40～11:35	障がいのある小児を取り巻くサービスについて	社会福祉法人聖隷福祉事業団 ぴゅあセンター磐田　センター長 井上 佳子氏
11:40～12:10	「寝たきり天使、真優との 17 年」	鈴木　真美氏
２部　13：10～15：50		司会：訪問看護ステーション細江所長　尾田 優美子氏
13:10～13:40	「目と手、耳を使ってこどもをよく看よう」	特定非営利活動法人　えがおさんさん 代表理事　松尾 陽子氏
13:40～14:10	在宅医療の医師に聞く 「小児在宅医療における訪問看護との連携」	まこと小児神経クリニック 院長　舟塚 真氏
14:10～14:25	質疑応答	舟塚氏、塙氏、鈴木氏、松尾氏
14:40～15:50	グループワーク 「小児訪問看護に取り組むためにやろうと思ったこと～本日の話からの気づき・これからできそうなこと～」	ファシリテーター： 訪問看護ステーション細江 所長　尾田 優美子氏
閉会　挨拶：訪問看護ステーションほほえみ所長　上村　貴代美氏		

注意事項　・申込後に申込確認のＦＡＸが１週間経っても届かない場合はお電話ください。
・キャンセルは１週間前までに連絡がない場合は費用をいただきます。※当日キャンセルは全額。
・プログラム等は変更となる場合があります。プログラム、地図、振込用紙等は当協会より郵送いたします。

一般社団法人全国訪問看護事業協会　〒160 - 0022 東京都新宿区新宿１－３－１２ 壱丁目参番館４０１
TEL　03 - 3351 - 5898　FAX　03 - 3351 - 5938

第３回（令和３年度）

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

第3回 小児訪問看護情報交換会

Let's try！小児の訪問看護

～小児訪問看護の現状を知ろう～

主催：全国訪問看護事業協会

開催日：令和３年７月10日（土）13：00～16：00

会　場：ZOOM による Web 配信　　定　員：50 名　　参加費：5000 円

対象者：小児訪問看護の経験のない看護師等　小児訪問看護を始めて困っている看護師等

ー　小児訪問看護の現状を知ろう　ー

少子化の中、高齢出産や周産期医療の進歩により、医療的デバイスを付けながらも在宅で療養生活を送る子どもたちが増えています。在宅療養する子どもと家族を支える医療・福祉のサービスは高齢者に比べて少なく、母親を主とした保護者の努力によって行われています。小児訪問看護の需要は非常に高く、子どもだけでなく家族も支えることのできる訪問看護の質と量の拡大は急務です。

そのような中、小児訪問看護を始めてみたけれど、中々、上手くいかず心が折れそうになってしまっている方はいらっしゃいませんか。そこで、今年は、「小児訪問看護の現状を知ろう」と題して、情報交換会を開催します。小児訪問看護の現状を具体的に知ることで、小児訪問看護に踏み出せないでいる方も現場で困っている方にも、有意義な時間が過ごせると考えています。もちろん、毎年好評な利用者家族もお招きし、訪問看護との関わりについてお話しいただきます。ご参加いただき、明日から新たな一歩を踏み出しましょう。

今年度は、新型コロナウィルス感染拡大の影響が続くため、ZOOM による配信を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開会　挨拶：　13：00～		全国訪問看護事業協会　副会長　高砂裕子
13：05～16：10		司会：全国訪問看護事業協会　井上多鶴子
13:05～13:45（40 分）	良くある小児訪問看護の特徴・つまずきポイント	訪問看護ステーションさんさん 代表理事　田中　歩　氏
13:45～13:55（10 分）	質疑応答	
13:55～14:25（30 分）	「医療的ケアのある児」のお母さんの生の声（仮）	訪問看護の利用者
14:25～14:55（30 分）	「医療的ケアのある児」のお父さんの生の声（仮）	訪問看護の利用者
14:55～15:15（20 分）	話題提供「小児の訪問事例　こんなことがありました」	訪問看護ステーションひとみ 管理者　小宮山　日登美　氏
15:15～15:55（40 分）	GW「本日の話からの気づき・これからできそうなこと」	訪問看護ステーション細江 管理者　尾田　優美子　氏
閉会　挨拶：15：55～		訪問看護ステーション細江管理者　尾田優美子　氏

注意事項
- 当協会のホームページからお申込みください。【 https://www.zenhokan.or.jp 】
- お申込み後、受講料の振込みについてメールでご連絡します。
- 受講料の振込期限は、７月２日 14 時の着金までとなります。振込期限までに着金が確認できない場合は受講できません。
- ライブ配信１週間前（７月２日）に、Zoom のミーティングルーム ID とパスワードをメールでご連絡します。

一般社団法人全国訪問看護事業協会　〒160 - 0022 東京都新宿区新宿１－３－１２ 壱丁目参番館４０１
TEL　03 - 3351 - 5898　FAX　03 - 3351 - 5938

第４回（令和４年度）

第４回 小児訪問看護情報交換会

Let's try！小児の訪問看護

～医療的ケア児支援法を理解しよう～

主催：全国訪問看護事業協会

開催日：令和４年　７月16日（土）13：00～16：00

会　場：ZOOMによるWeb配信　　定　員：150名　　参加費：5000円

対象者：小児訪問看護の経験のない看護師等　小児訪問看護を始めて困っている看護師等

― 医療的ケア児支援法で訪問看護に期待すること ―

昨年（2021）６月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が公布されました。この法律は、情報交換会の基本的なテーマになっている「医療技術の進歩に伴い医療的ケア児の増加とともに多様化した医療的ケア児やその家族への心身の状況等に応じた適切な支援」を目的に制定されました。

医療的ケア児への支援を各自治体が責務として取り組む中で、行政や学校の看護師との連携等、ますます訪問看護ステーションの役割は期待されてきます。

今年度は、「医療的ケア児支援法を理解しよう」と題し、医療的ケア児支援法について学び、地域で生活する医療的ケア児とその家族の支援について考え、情報共有したいと思います。新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、今年度もWeb開催といたします。どうぞ、奮ってご参加ください。

開会　挨拶：　13：00～13：05		全国訪問看護事業協会　副会長　　高砂　裕子　氏
13：05～15：55		司会：全国訪問看護事業協会　事務局
13:05～13:55 （50分）	医療的ケア児支援法と今後の展望	埼玉医科大学総合医療センター小児科　講師 奈倉　道明　氏
13:55～14:25 （30分）	私や家族が求める訪問看護師について	ご利用者本人　川田　晃夫　氏
14:25～14:55 （30分）	学校に通う医ケア児の現状や両親の希望すること	ご利用者家族　鵜飼　将人・朋子　氏
14:55～15:55 （60分）	パネルディスカッション テーマ 「医療的ケア児支援法で訪問看護に期待すること」	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：順天堂大学医療看護学部　准教授 倉田　慶子　氏 パネリスト：★東京都立青鳥特別支援学校　統括校長 諏訪　肇　氏 ★重症心身障害児療育相談センター 管理者　等々力 寿純　氏 ・奈倉　道明　氏 ・川田　晃夫　氏（Zoom参加） ・鵜飼　将人・朋子　氏（Zoom参加） ★は、パネル講演15分ずつ
閉会　挨拶：15：55～16：00		訪問看護ステーション細江　管理者　　尾田　優美子　氏

注意事項
- ７月４日までに、当協会のホームページからお申込みください。【 https://www.zenhokan.or.jp 】
- お申込み後、受講料の振込みについてメールでご連絡します。
- 受講料の振込期限は、７月６日14時の着金までとなります。
  振込期限までに着金が確認できない場合は受講できません。
- 資料は郵送致します。
- ７月13日に、ZoomのミーティングルームIDとパスワードをメールでご連絡します。

お申し込みページ
ＱＲコードはこちら⇒

一般社団法人全国訪問看護事業協会　〒160－0022 東京都新宿区新宿１－３－１２ 壱丁目参番館４０１
TEL　03－3351－5898　FAX　03－3351－5938

２）小児訪問看護情報交換会の様子

図表3-2　小児訪問看護情報交換会の様子

第１回（平成３０年度）

実践報告

テーマを「取り組んでみよう！！小児の訪問看護」とし、小児訪問看護の実践報告等を４名の講師が講演した。また、利用者家族も講師として講義をおこなった。会場には小児訪問看護をおこなっている訪問看護ステーションや、まだ小児の受け入れをおこなっていない訪問看護ステーションの看護師などが約 100 名参加した。

グループワーク

グループワークでは情報交換と質問タイムを設け、参加者は意見交換をおこなった。

第２回（令和元年度）

講演

テーマを、「小児看護の楽しさを知ろう」とし、４名の講師が、小児訪問看護の実際などについて講演した。また、利用者家族も講師として講演をおこなった。

グループワーク

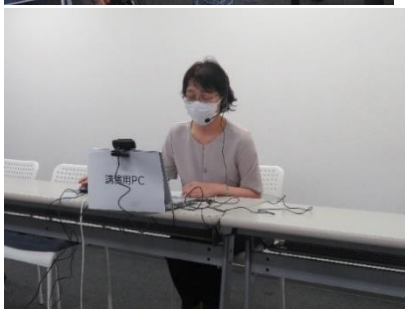
参加者は、グループワークにて「小児訪問看護に取り組むためにやろうと思ったこと～本日の話からの気づき・これからできそうなこと～」について意見交換し、グループごとに発表した。

第３回（令和３年度）

講演

新型コロナウイルス感染症のため、開催方法を集合形式からライブ配信形式に変更し、「小児訪問看護の現状を知ろう」をテーマに小児訪問看護情報交換会をおこなった。講師として講演をおこなってもらう利用者家族には、感染防止のため予め講演を収録し、当日に動画を流した。

グループワーク



参加者は、オンラインでグループワーク「本日の話からの気づき・これからできそうなこと」を話し合った。各グループにはファシリテーターが入った。

第４回（令和４年度）

講演

テーマは「医療的ケア児支援法で訪問看護に期待すること」とし、講師はライブ配信で講演した。利用者家族の講演は、感染防止のため予め収録し、当日に動画を流した。

質疑応答

パネルディスカッションの後の質疑応答では、参加者からの質問にパネリストがそれぞれの立場から回答し、情報交換をおこなった。

３）小児訪問看護情報交換会アンケート

小児訪問看護研修プログラムの検討の参考とするため、小児訪問看護情報交換会参加者を対象としたアンケート調査を実施した。調査は web による匿名自記式調査とした。回収結果は以下のとおり。

図表3-3　　小児訪問看護情報交換会アンケートの対象者数・回収数

小児訪問看護情報交換会	対象者数	回収数（回収率）
第１回事前アンケート	106 人	106 人（100%）
第１回事後アンケート	101 人	98 人（97%）
第２回事前アンケート	84 人	84 人（100%）
第２回事後アンケート	81 人	80 人（99%）
第３回アンケート	126 人	61 人（48%）
第４回アンケート	165 人	134 人（81%）

〇アンケート用紙は、p.263～の参考資料に掲載。
〇アンケート結果は、p.210～258 に掲載。

４．小児訪問看護研修プログラムの普及

４．小児訪問看護研修プログラムの普及

１）地域における小児訪問看護研修会開催支援

※ここでは、それぞれの地域で小児訪問看護研修会を開催するための視点で述べる。

（１）小児訪問看護研修会プログラムの紹介

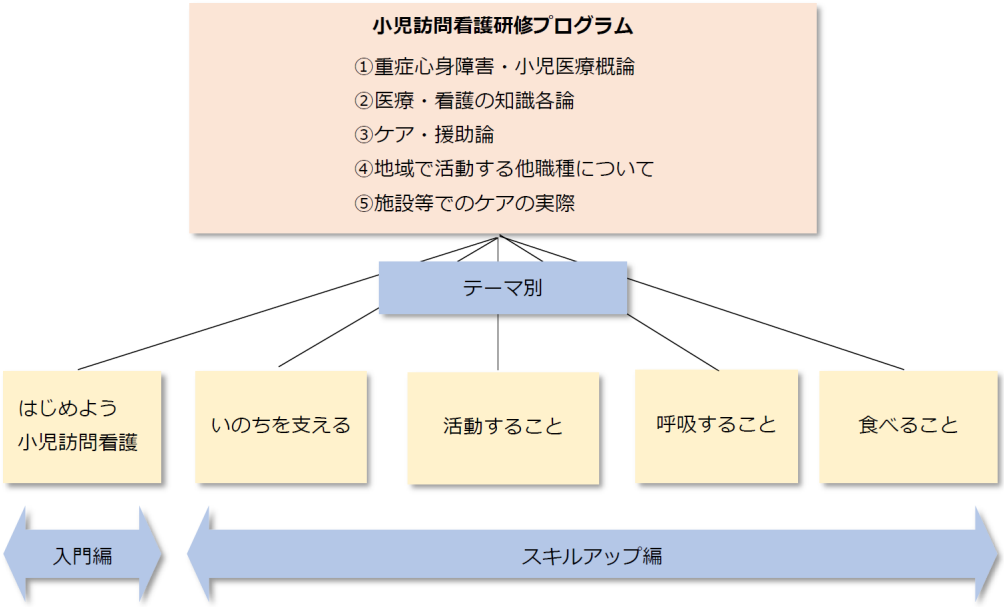
当協会の開発した「小児訪問看護研修プログラム」（p.21～24 参照）は、小児訪問看護を行うにあたって必要となる講義を網羅した内容となっており、以下の５つの分類に分かれている。

①	重症心身障害・小児医療概論	12 時間（p. 21）
②	医療・看護の知識各論	36 時間（p. 22）
③	ケア・援助論	29 時間（p. 23）
④	地域で活動する他職種について	9 時間（p. 24）
⑤	施設等でのケアの実際	7 日間（p. 24）

上記①～⑤を、受講しやすいようにテーマ毎に講義内容を集め、下記の様に５つの編に分割した。（p. 25～29 参照）

- はじめよう小児訪問看護（入門編）（p. 25）
- いのちを支える（スキルアップ編）（p. 26）
- 活動すること（スキルアップ編）（p. 27）
- 呼吸すること（スキルアップ編）（p. 28）
- 食べること（スキルアップ編）（p. 29）

図表4-1　小児訪問看護プログラムイメージ



（２）小児訪問看護研修会の開催方法と工夫

①研修会全体

項目	開催方法・工夫
プログラムの立案（小児訪問看護研修プログラムの活用）、開催主体	a. 小児訪問看護研修プログラムを全て行う場合は、講義数が多く研修期間が長期になるため「テーマ別」の内容を参考にし、継続的に研修会を開催するとよい。例えば、数年間の計画で１年に１回～数回のテーマ別研修会を行う。初回は「はじめよう小児訪問看護（入門編）」を行い、他の４つの編を順次行うと全ての研修が開催できる。 b. 小児訪問看護研修プログラムの全てを行う必要はなく、受講者のニーズが高い講義や今まで開催していなかった講義内容などを小児訪問看護研修プログラムから抽出し、カスタマイズして開催する。「テーマ別」の研修は、関連した講義が見つけやすいので抽出する際の参照にしていただきたい。 c. 医療的ケア児支援センターと協働して開催する、もしくは、協力する際に、小児訪問看護研修プログラムの活用を提案する。
講師の選定	a. 貴地域で活動している医師や看護師、理学療法士、医療的ケア児コーディネーター等に講義を依頼すると、地域の特性や特徴、どのような病院を受診しどのような連携をしているかなど具体的な講義内容となり、その地域で実際に活用できる。また、研修会後の実践においても相談役となってもらうことが期待できる。 b. 看護に関する講義については、地域の小児専門の看護師に行ってもらうと、地域の特性（障害福祉の充実の実態・親の意識の違いなど）がわかるので、悩みや困りごとを共有できる。 c. 講師の検索サイトより、地域に合った専門医、看護師、理学療法士等に依頼する。 ・ 専門看護師・認定看護師の講師は、日本看護協会ホームページの認定資格者より検索できる。 【分野別都道府県別登録者検索】http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx ・ 「小児訪問看護研修プログラム」の分類①重症心身障害・小児医療概論②医療の知識各論の講師は、日本小児神経学会ホームページの専門医検索より検索できる。 【日本小児神経学会ホームページの専門医検索】 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/ ・ 「摂食嚥下障害について学ぶ」、「口腔衛生について」、「摂食嚥下障害のある患者への援助方法」の講師は、NPO法人口から食べる幸せを守る会ホームページ講演依頼フォームより検索できる。 【NPO法人口から食べる幸せを守る会 講演依頼フォーム】 https://business.form-mailer.jp/lp/2b15c5f825948 d. 病院、施設の一覧より、地域に合った専門医、看護師、理学療法士等に依頼する。 ・ 「小児がんについて」の講師は、小児がん拠点病院の医師や連携施設の医師を、全国の小児がん診療施設の情報より問い合わせができる。 【全国の小児がん診療施設の情報】 https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer_center/cancer_hospitallist/index.html

項目	開催方法・工夫
	・　「小児訪問看護研修プログラム」の分類①重症心身障害・小児医療概論②医療の知識各論の講師は、重症心身障害児施設一覧より問い合わせができる。 【重症心身障害児施設一覧】　https://www.mamorukai.jp/related_info/ ・　「呼吸障害の理解と肺理学療法」、「骨折・移乗介助・更衣」、「小児リハビリテーション」の講師は、施設に所属する理学療法士や看護師を全国重症心身障害日中活動支援事業所一覧より問い合わせができる。 【全国重症心身障害日中活動支援事業所一覧】 https://www.mamorukai.jp/wp-content/uploads/2023/01/tsusyoR2.pdf
研修形式	a.　集合形式 おなじ場所に講師や受講者を研修開催日に集めて対面で実施する研修で、受講者同士の交流も行え、質疑応答ができる。決められた日時に決められた場所に行かなければならないため、時間の融通がきかない。 b.　オンデマンド形式 あらかじめ制作した研修会の動画をインターネットで配信する。受講者の学習したいタイミングで見られ、また、配信期間中は分割受講や繰り返し受講が可能。タイムリーに質疑応答ができない。 c.　ライブ形式 講義や演習（グループワーク）を、研修開催日にインターネットで配信する研修。講師や受講者同士の双方向の会話が可能で、臨場感のある研修が行える。学習環境に、カメラ付きパソコン、マイクが必要になる場合が多い。 d.　アーカイブ配信 ライブ形式の研修会や実際に行われた研修を録画しておき、研修会後にも受講できるように配信すること。アーカイブで配信することの承諾をあらかじめ講師に取っておき、期間を決めて配信する。 e.　研修形式の選択時の留意点 ・　演習やグループワークは、ライブ形式よりも集合形式で研修を行った方が学習効果を期待できる。 ・　オンデマンド形式は、ほとんどの講義で行うことができるが参加者の人数によって質疑応答が難しい。 ・　演習は、実際に自分の身体を使って学べるような形式でできると良い。 ・　ZOOM によるオンライン配信は、利便性が良いがグループワークや演習では効果が期待できない場合がある。
資金調達	a.　人材育成のための地域医療介護総合確保基金の活用 b.　都道府県や市町村で助成金を出しているところがあるので、行政のホームページや担当に確認する。 c.　日本財団や勇美財団などの団体や企業が小児研修会の開催に助成を行っている場合がある。
演習物品	シミュレーターを使用して各講義に沿った演習を行うとよい。 当協会より、５体のシミュレーター（CLA 23 小児看護実習モデル）の貸し出しを行っている。 ３歳児を想定した全身型のトレーニングモデルが行える。https://www.kyotokagaku.com/jp/products_data/cla23 問い合わせは当協会まで。

②テーマ別

●令和元年度　はじめよう小児の訪問看護Part1（基礎編）　～小児訪問看護の魅力を知ろう～

開催方法　集合形式 日　時　令和元年12月19日～21日（木～土） 会　場　アクセス渋谷フォーラム（東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー27F）	対　象　訪問看護に従事する看護師等 定　員　約50名 参 加 費　当協会会員　40,000円　　当協会会員以外　80,000円

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「小児訪問看護の実際」 訪問看護ステーションさんさん 田中　歩氏	2時間 集合形式	・小児訪問看護の実際が理解できる。	・訪問看護ステーションが行う退院支援の実際（地域の医師や病院との連携） ・小児訪問看護の実際	・小児訪問看護をおこなっている看護師
「家族に寄り添う看護ﾊﾟｰﾄ1」 訪問看護ステーションさんさん 森下　由佳氏	2時間 集合形式, ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ	・家族のライフスタイルを理解する ・家族の環境を理解する ・母親の思いを理解する	・健康障がいが子どもとその家族に及ぼす影響について ・小児医療を受ける家族の現状と課題 ・主介護者（主に母親）となる家族の・思いや背景がわかるような事例のロールプレイ。	・在宅の経験のある小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・集合形式による講義と演習、事例を元にロールプレイ ・ライブ形式による講義と演習、グループワーク（事例を元にディスカッション）うまくいった、いかなかった等 ・ファシリテーターは5～8人につき1人
「診療所が実施する小児在宅医療の実際」 浜松市発達医療総合福祉センター 友愛のさと診療所　副センター長 遠藤　雄策氏	2時間 集合形式	・小児在宅医療に関する開業医の取り組みが理解できる ・地域医療における開業医の役割・機能について理解できる	・医師との連携 ・小児科医の在宅医療の実際と課題について ・地域での訪問看護の連携の実際について ・子どもに特長的な感染症と予防接種について	・小児科診療所の医師
「小児看護の現状と課題」 東邦大学看護学部在宅看護学研究室 小児看護専門看護師　助教 倉田　慶子氏	1時間 集合形式	・新生児医療の実際と動向が理解できる ・NICUでケアを受ける子どもとその家族の状況が理解できる。	・小児医療をとりまく現状と動向 ・新生児看護の実際と動向 ・NICUでケアを受ける子どもとその家族の状況、NICU満床問題の背景など	・小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx）

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「重症心身障害児者の原因となる疾患の理解」 心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長 中谷　勝利氏	2時間 集合形式	・重症心身障害児者の原因となる疾患、状態像と合併症について理解できる ・重症心身障害児の状態像に対応した治療方法やかかわりについて理解できる	・重症心身障害の原因となる疾患の合併症や治療について（出生前・出生時から新生時期・新生児期から18歳までの時期に分けた原因） ・重症心身障害となる疾患をもつ子どもの成長発達の実際と対応（事例）	・重症心身障害児に関わっている医師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する）
「脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患」 心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長 中谷　勝利氏	2時間 集合形式	・脳性まひについて理解する ・代表的な筋疾患・染色体異常・の病態や治療について理解する ・筋緊張の病態について理解できる	・脳性まひについて ・代表的な筋疾患の病態について ・代表的な染色体異常の病態について ・各疾患の治療について ・筋緊張の病態について	・重症心身障害児に関わっている医師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する
「骨折予防に重点をおいた移乗介助・更衣・ポジショニング」 訪問看護ステーションさんさん　理学療法士 佐藤　麻沙美氏	2時間 集合形式 演習	・骨の解剖生理を理解できる ・骨折予防の注意点を理解できる ・移乗の際の注意点を理解できる ・更衣の際の注意点を理解できる ・姿勢保持の注意点を理解できる	・骨の解剖生理について ・筋緊張のコントロール ・骨折予防の注意点について ・移乗の際の注意点について ・更衣の際の注意点について ・姿勢保持の注意点について	・小児看護をおこなっている看護師、理学療法士 ・在宅をおこなっている理学療法士 ・施設に所属する理学療法士や看護師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/wp-content/uploads/2023/01/tsusyoR2.pdf　） ・講義、演習は映像を用いて説明
「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント」 川崎大師訪問看護ステーション 療養通所介護まこと　管理者 島田　珠美氏	6時間 集合形式 演習	・子どもの成長発達について理解できる ・子どもの全身アセスメントの方法が理解できる ・フィジカルアセスメントの方法を演習できる ・成長発達する子どもの日常生活援助・医療的ケアの実践時に安全・安楽への配慮や工夫が理解できる	【講義】 ・子どもの身体の生理的な特徴とフィジカルアセスメント（おとなと子どものフィジカルアセスメントの違いや詳しい生理学的変化の違い） ・子どもの成長発達について 【演習】 ・フィジカルアセススメントの実際 ・子どものシミュレーターを用いて演習	・小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・ライブ形式または集合形式による講義と演習、グループワーク ・ファシリテーターは5～6人につき1人

●令和3年度　小児訪問看護研修会 Part2～いのちを支える～

開催方法　・オンデマンド形式（配信期間：8月1日～10月30日） ・ライブ配信（Zoom）　9月10日（金）10時00分～17時10分 10月22日（金）9時30分～16時32分	募集時期　6月1日～8月29日 定員　約50名 対象　訪問看護に従事する看護師等 受講料　会員43,000円 → 18,000円　非会員83,000円 → 36,000円

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「小児がんについて」 医療法人財団はるたか会　理事長 前田　浩利　氏	3時間 オンデマンド形式	・子どもに特徴的ながんについて理解する ・がんの治療方法について理解する ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する	・子どもに特徴的ながんについて ・がんの治療方法について ・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について	・小児がんに携わっている医師（できれば在宅） ・小児がん拠点病院の医師や連携施設の医師 https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer_center/cancer_hospitallist/index.html ・オンデマンド形式による講義
「よりよく生き抜くための 重症心身障害児者の看護」 都立府中療育センター緩和ケア 認定看護師 荒谷　智子　氏	2時間 ライブ形式	・疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる	・疾病により身体機能の危機的状態にある（幼少期の身体機能の未熟さによる症状や進行性疾患による症状や病態）、および成長発達・加齢に伴い身体機能の変化によって表出する症状の悪化（側弯などによる呼吸障害、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎の繰り返し）などの重症心身障害児者の病態について ・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いについて ・終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の看護（痛みのケア・呼吸を安楽にするケア・家族と共に過ごすためのケア・家族への予後の説明など事例を交えた解説）	・小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師、緩和ケア認定看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・ライブ形式または集合形式による講義と演習、グループワーク ・ファシリテーターは5～8人につき1人

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「他職種の理解とチーム医療について」 浜松市発達医療総合福祉センター 相談支援事業所シグナル 尾関　ゆかり　氏	1時間30分 ライブ形式	・疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。	・他職種の役割と機能について ・他職種との連携について ・チームで支援する際の看護師の役割について検討する（他の医療者から、訪問看護師がどのような役割や機能を持っていると考えられているのか）	・医療的ケア児の支援相談員 ・地域の医療的ケア児支援センターに依頼
「子どもの権利と倫理的かかわり」 心身障害児総合医療療育センター 仁宮　真紀　氏	2時間30分 ライブ形式	・子どもの権利を理解する ・倫理的な関わりについて考えることができる	・日本国憲法における子どもの権利について ・子どもの権利条約について ・倫理の概念 ・看護協会における倫理指針について ・日常のケア場面における倫理的配慮・ケアを事例を示す	・小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護護認定看護師、小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・ライブ形式または集合形式による講義と演習、グループワーク ・ファシリテーターは5～8人につき1人
「家族の思いに寄り添う看護」 訪問看護ステーションさんさん 森下　由佳　氏	3時間 ライブ形式	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる ・悲嘆の過程について理解する ・家族の障害受容に対する支援方法について理解する	・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる（主たる介護者となる家族の思いの背景が理解できるように、事例を交えて説明） ・重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できるようにするために、ロールプレイを実施し、その後、ディスカッションをする ・悲嘆の過程について ・家族の障害受容に対する支援方法について、事例を交えて説明	・在宅の経験のある小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・集合形式による講義と演習、事例を元にロールプレイ ・ライブ形式による講義と演習、グループワーク（事例を元にディスカッション）うまくいった、いかなかった等 ・ファシリテーターは5～8人につき1人
「急変時の対応」 心身障害児総合医療療育センター 川崎　まこと　氏	3時間 ライブ形式	・小児のBLS技術が実践できる ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる	・小児のBLS技術が実践できるように演習を実施する ・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできるように事例を交え、ポイントを説明	・小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、心肺蘇生がおこなえる人（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・ライブ形式または集合形式による講義と演習、グループワーク ・BLSモデルを1人1体（5000円）があると良い ・講師、ファシリテーターはBLSモデルを使える人

令和3年度　小児訪問看護研修会 Part3～活動すること～

開催方法　・オンデマンド形式（配信期間：9月1日～10月31日） ・ライブ配信（Zoom）　10月23日（土）13時30分～16時30分 ・対面研修　12月11日（土）13時30分～16時30分 場所：AP日本橋（東京都中央区日本橋3-6-2日本橋フロント7F）	募集時期　7月1日～8月29日 対象　訪問看護に従事する看護師等 定員　約50名 受講料　会員43,000円 → 18,000円　非会員83,000円 → 36,000円

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「耳の機能・耳鼻科疾患について学ぶ」 浜松医科大学　耳鼻咽喉科頭頸部外科 喜多淳哉　氏	53分 オンデマンド形式	・耳鼻科疾患について理解する ・耳鼻科疾患の治療方法について理解する	・耳鼻科疾患について ・耳鼻科疾患の治療方法について	・障害児に関わっている医師 ・重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する ・病院の耳鼻科医師 ・オンデマンド形式による講義
「眼の機能・眼科疾患について学ぶ」 杏林大学医学部附属病院　眼科　講師 鈴木由美 氏	47分 オンデマンド形式	・眼の機能を理解する ・眼科疾患について理解する ・眼科疾患の治療方法について理解する	・眼の機能について ・眼科疾患について ・眼科疾患の治療方法について	・障害児に関わっている医師 ・重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する ・病院の眼科医師 ・オンデマンド形式による講義
「睡眠障害について」 心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長 中谷　勝利 氏	1時間11分 オンデマンド形式	・睡眠のメカニズムについて理解する ・睡眠障害のメカニズムについて理解する ・睡眠障害の治療について理解する ・睡眠障害への援助方法について理解する	・睡眠のメカニズムについて ・睡眠障害のメカニズムについて ・睡眠障害の治療について ・睡眠障害への援助方法について	・障害児に関わっている医師、小児神経科をやったことがある小児科医師 ・重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する ・オンデマンド形式による講義
「てんかん発作について」 心身障害児総合医療療育センター 研修・研究部長 中谷　勝利 氏	2時間42分 オンデマンド形式	・てんかんの原因、診断、治療について理解する ・てんかん発作の観察ポイントについて理解する ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する	・てんかんの原因、診断、治療について ・てんかん発作の観察ポイントについて ・てんかん発作を予防するための日常生活管理について	・障害児に関わっている医師、小児神経科をやったことがある小児科医師 ・重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する ・オンデマンド形式による講義

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「発達障害の理解と対応」 心身障害児総合医療療育センター 小児科　米山　明　氏	2時間48分 オンデマンド形式	・発達障害の原因、分類が理解できる ・発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる	・発達障害とは、原因とメカニズムについて ・発達障害がある子どもとその家族への対応について	・障害児に関わっている医師、小児神経科をやったことがある小児科医師 ・重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する ・オンデマンド形式による講義
「児童相談所の機能と役割について」 千葉県柏児童相談所 所長　　渡邉　直　氏	1時間2分 オンデマンド形式	・児童相談所の機能・役割がわかる ・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる	・児童相談所の機能・役割について ・小児虐待に対する児童相談所の関わりについて ・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて	・児童相談所の職員 ・重症心身障害児にかかわっている医師が知っている場合がある ・オンデマンド形式による講義
「特別支援学校における 看護の役割について」 はみんぐ訪問看護ステーション 塙　真美子　氏	48分 オンデマンド形式	・特別支援学校の機能・役割について理解できる ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる	・特別支援学校の機能・役割について ・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について	・特別支援学校の看護師 ・特別支援学校と連携している訪問看護師、特別支援学校の校長、特別支援学校の担当課 ・オンデマンド形式による講義
「福祉用具・装具について」 東京小児療育病院 リハビリテーション科長　丸森睦美　氏	2時間22分 オンデマンド形式	・福祉用具の特徴について理解する ・用具を装着する際の注意点について理解できる	・福祉用具の特徴について（おとなが使用する用具とは違いがわかる座位保持やバギーなど） ・用具を装着する際の注意点について	・義肢装具士 ・小児装具を作成している小児整形外科医師 ・オンデマンド形式による講義
「最近の小児医療・ 重症心身障害児の医療・看護の動向」 順天堂大学大学院医療看護学研究科 倉田　慶子　氏	3時間 ライブ形式	・子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる ・重症心身障害児の医療について理解できる ・小児訪問看護における看護の課題を検討できる	・小児医療の現状・課題とは ・医療的ケアとは（概念・状態像など） ・小児医療における重症心身障害児の医療の現状と課題 ・重症心身障害児の高齢化と移行期ケアについて ・小児医療で活用できる医療費制度について（政策や取り組みなどを含む	・小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・小児看護をおこなっている看護師 ・ライブ形式または集合形式による講義と演習 ・グループワークの経験がある人

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「小児リハビリテーション」 東京小児療育病院 リハビリテーション科長 丸森睦美　氏	3時間 集合形式	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる ・ROMエクササイズの内容が理解できる	・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）について ・ROMエクササイズの内容について	・肺理学療法をおこなっている理学療法士 ・施設に所属する理学療法士や看護師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/wp-content/uploads/2023/01/tsusyoR2.pdf） ・集合形式による講義と演習 ・受講者が体験できるようにする ・ファシリテーターは5～6人につき1人、講師と同様の技術がある ・タイムキーパーは演習中に交代のタイミングの声かけをする ・演習使用物品はヨガマット（大判バスタオルやブルーシートでも代用可）枕（バスタオル代用可）等、受講者に持参してもらうとよい

令和4年度　小児訪問看護研修会part4　～呼吸すること～

開催方法　・オンデマンド形式　9月22日～11月30日 ・ライブ配信　10月21日(金)13時30分～16時30分 ・対面研修　10月29日(土)13時00分～17時00分 会場：グランパークカンファレンス （東京都港区芝浦3丁目4－1田町グランパークプラザ棟3階）	募集期間　7月1日～9月15日 対象　訪問看護に従事する看護師等 定員　約50名 受講料　会員26,000円　非会員39,000円

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「呼吸障害について」 川崎市北部地域療育センター 医師　山口　直人　氏	3時間 オンデマンド形式	呼吸のメカニズムを理解する。呼吸障害のメカニズムを理解する。呼吸障害に対する治療について理解する	呼吸のメカニズムについて／呼吸障害のメカニズムについて／呼吸障害に対する治療について（看護における注意点なども含める）	・地域の障害児専門医師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する） ・オンデマンド形式による講義
「心疾患（心奇形）について」 神奈川県立こども医療センター 循環器内科医長　柳　貞光　氏	3時間 オンデマンド形式	先天性心疾患について理解する。先天性心疾患の治療方法について理解する。先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する。	先天性心疾患について／先天性心疾患の治療方法について（手術の方法なども含む）／先天性心疾患の日常生活の注意点について	・地域の障害児専門医師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する） ・オンデマンド形式による講義
「循環器について」 神奈川県立こども医療センター 循環器内科医長　柳　貞光　氏	2時間 オンデマンド形式	循環機能を理解する。循環器疾患について理解する。循環器疾患の治療方法について理解する。	循環機能について／循環器疾患について／循環器疾患の治療方法について／心臓の冠動脈に病変を残す「川崎病」、学校検診でみつかる「不整脈」や「心筋症」について	・地域の障害児専門医師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する） ・オンデマンド形式による講義
「呼吸障害の理解と肺理学療法」 東京小児養育病院リハビリテーション科長　丸森　睦美　氏	4時間 集合形式 （演習）	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントができる。効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる。	呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントについて／効果的なポジショニング、リラクゼーションについて	・肺理学療法をおこなっている理学療法士 ・施設に所属する理学療法士や看護師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/wp-content/uploads/2023/01/tsusyoR2.pdf ） ・集合形式による講義と演習 ・受講者が体験できるようにする ・ファシリテーターは5～6人につき1人、講師と同様の技術がある ・タイムキーパーは演習中に交代のタイミングの声かけをする ・演習使用物品はヨガマット（大判バスタオルやブルーシートでも代用可）枕（バスタオル代用可）等、受講者に持参してもらうとよい

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「呼吸障害の看護について」 中野区子ども発達センターたんぽぽ 小児看護専門看護師　仁宮　真紀　氏 訪問看護ステーションさんさん 森下　由佳　氏	3時間 ライブ形式 （講義・グループワーク）	呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる。ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる。安楽に呼吸するための援助方法が理解できる。	人工呼吸器のアラームへの対処方法などについて／気管切開部への対応について／ネブライザーや在宅酸素吸入時の注意点について／吸引の際の注意点について	・在宅で小児看護をおこなっている看護師で、小児プライマリケア認定看護師、（旧）小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・ライブ形式または集合形式による講義と演習
「人工呼吸器の基礎」 KIDS CE Advisory 代表 臨床工学アドバイザー臨床工学技士 松井　晃　氏	2時間 オンデマンド形式	人工呼吸器の原理が理解できる。人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる。	人工呼吸器の原理について／人工呼吸器管理中の注意点、看護について	・人工呼吸器を実際に在宅で扱っている業者が良い ・オンデマンド形式による講義
「在宅生活を支える制度や社会資源について」 千葉県千葉リハビリテーションセンター 千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりす 医療的ケア児等コーディネーター 景山　朋子　氏	2時間 オンデマンド形式	療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる。訪問看護師の役割について理解できる。障害者総合支援法とサービスについて理解できる。小児の在宅療養を支援する制度について理解できる。地域社会の資源の活用について検討できる。	療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能について／訪問看護師の役割について（家族とのかかわりについて重点を置く）／利用者と家族を支えている関係機関の概要はあったほうが良い。学校や教育にも関連する。／小児の在宅療養を支援する制度について（職種や制度の内容）	・医療的ケア児を担当しているコーディネーターや相談員 ・地域の医療的ケア児支援センターに依頼 ・オンデマンド形式による講義

●令和4年度　小児訪問看護研修会part5　～食べること～

開催方法　・オンデマンド形式　10月20日～12月31日 　　・ライブ配信　　11月5日(土)10時00分～17時00分	募集期間　8月1日～10月15日 対象　訪問看護に従事する看護師等 定員　約50名 受講料　会員26,000円　非会員39,000円

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「重症心身障害児医療の歴史・ 重症心身障害の概念・診断」 全国療育相談センター副センター長／ （前）心身障害児総合医療療育センター 米山　明　氏	2時間 オンデマンド形式	重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる。 重症心身障害児の概念が理解できる。重症心身障害児の診断（大島分類など）が理解できる。	重症心身障害児の医療の歴史的変遷について／重症心身障害児の概念／重症心身障害児の診断（大島分類について）	・近隣の小児病院の病院長（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する） ・障害児支援団体 ・オンデマンド形式による講義
「消化器疾患と栄養障害について」 茨城福祉医療センター 外科・小児外科部長 平井　みさ子　氏	2時間 オンデマンド形式	消化のメカニズムを理解する。消化器疾患の病態を理解する。消化器疾患への治療方法について理解する。栄養のメカニズムを理解する。	消化のメカニズムについて／消化器疾患の病態について／消化器疾患への治療方法について／栄養のメカニズムについて	・地域の障害児専門医師（重症心身障害児施設一覧 https://www.mamorukai.jp/related_info/における医師、あるいは小児神経学会専門医のHP上 https://www.childneuro.jp/modules/senmoni/で都道府県から、専門医を検索できるので、地域に合った専門医に依頼する） ・オンデマンド形式による講義
「摂食嚥下障害について学ぶ」 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 教授　田村　文誉　氏	2時間 オンデマンド形式	摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる。摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる。 摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる。	摂食嚥下のメカニズム、解剖生理について／摂食嚥下障害の原因、病態について／摂食嚥下障害の治療・対応方法について	・小児の摂食嚥下障害にかかわっている医師、または歯科医師、看護師 ・在宅をおこなっている歯科医師 ・嚥下訓練、リハビリテーションをおこなっている歯科医師、または言語療法士、看護師 ・摂食嚥下障害看護認定看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・NPO法人口から食べる幸せを守る会HP（講演依頼フォーム https://business.form-mailer.jp/lp/2b15c5f825948） ・オンデマンド形式による講義

講義・講師	時間・形式	到達目標	講義内容	講師の選び方、研修会開催方法、工夫
「排便障害について学ぶ」 静岡県立大学看護学部看護学科 助教　池田　麻左子　氏	1時間	排便のメカニズムが理解できる。排便障害の病態が理解できる。排便障害への治療方法が理解できる。	排便のメカニズムについて／排便障害の病態について／排便障害への治療方法について	・小児看護専門看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・オンデマンド形式による講義
「排尿障害について学ぶ」 中野区子ども発達センターたんぽぽ 小児看護専門看護師 仁宮　真紀　氏	1時間 オンデマンド形式	排尿のメカニズムが理解できる。排尿障害の病態が理解できる。排尿障害への治療方法が理解できる。排尿障害の援助方法について理解する。	排尿のメカニズムについて／排尿障害の病態について／排尿障害への治療方法について／排尿障害の援助方法について	・小児看護専門看師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・オンデマンド形式による講義
「相談支援と連携」 浜松市発達医療総合福祉センター 相談支援事業所シグナル 尾関　ゆかり　氏	2時間 オンデマンド形式	相談支援の役割・機能について理解する。相談支援員の役割・機能について理解する。相談支援員と連携するための方策を理解する。	障害福祉サービス等を申請した障害者（児）について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）、計画相談支援給付費又は障害児相談支援給付費の支給について／子どもや家族がどのように病気や障害などを乗り越える力を持っているのか、事例を交えて説明	・医療的ケア児を担当しているコーディネーターや相談員 ・地域の医療的ケア児支援センターに依頼 ・オンデマンド形式による講義
「摂食嚥下障害のある患者への援助方法」 株式会社東京リハビリテーション　摂食嚥下障害看護認定看護師 金　志純　氏	3時間 ライブ形式 （演習）	摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる。摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる。	摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点について	・摂食嚥下障害看護認定看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・NPO法人口から食べる幸せを守る会HP（講演依頼フォーム https://business.form-mailer.jp/lp/2b15c5f825948） ・ライブ形式による講義と演習
「口腔衛生について」 株式会社東京リハビリテーション　摂食嚥下障害看護認定看護師 金　志純　氏	3時間 ライブ形式 （演習）	口腔の解剖生理と機能について理解できる。清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる	口腔の解剖生理と機能について／清潔を保つ口腔ケアの方法と注意点について	・摂食嚥下障害看護認定看護師（都道府県別の登録者一覧 http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx） ・NPO法人口から食べる幸せを守る会HP（講演依頼フォーム https://business.form-mailer.jp/lp/2b15c5f825948） ・ライブ形式による講義と演習

（３）都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等での開催支援

都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等においては、自地域の実情に応じ、（２）の内容を参考に、（１）で紹介したプログラムを適宜、アレンジして開催していただきたい。

プログラム（p. 21～29 参照）の講義より必要な部分のみを抽出して開催したり、入門編やスキルアップ編をそのまま利用して開催したりするなど、研修会の規模、予算等に合わせて組み立てて実施していただくことも可能。また、講義の順番もプログラム通りに行う必要はなく、地域のニーズや興味に沿って実施できる。

５．アンケート結果報告

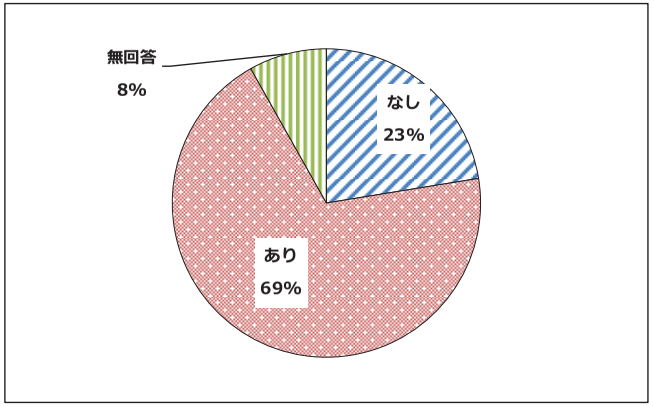
５．アンケート結果報告

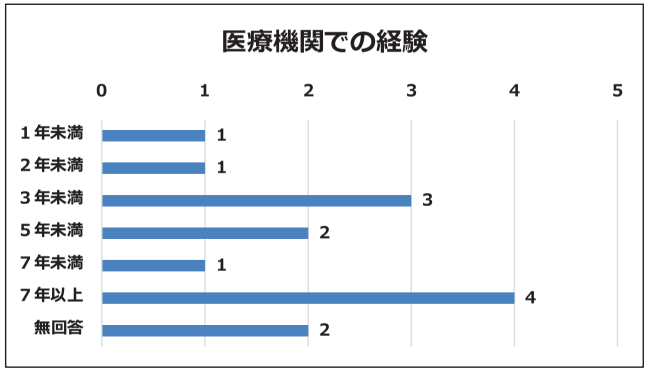
１）はじめよう小児訪問看護（基礎編）

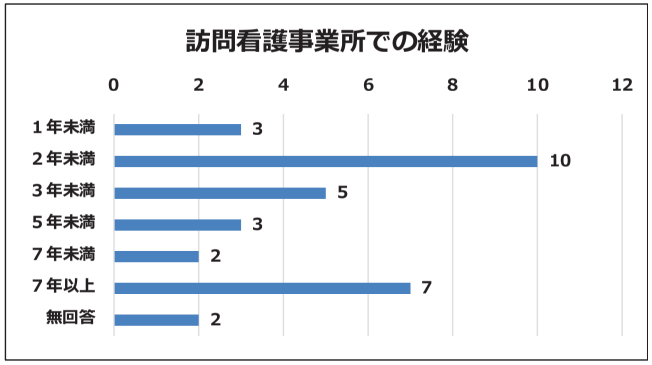
（１）回答者属性について

回答者 49 人のうち、医療機関における小児看護、および小児訪問看護の経験は、「なし」が 23%（11 人）、「あり」が 69%（34 人）であった。医療機関での経験年数は「7 年以上」が 4 人、「3 人未満」が 3 人などであった。訪問看護事業所での経験は「2 年未満」が 10 人、「7 年以上」が 7 人などであった。

図表5-1　医療機関における小児看護、および小児訪問看護の経験







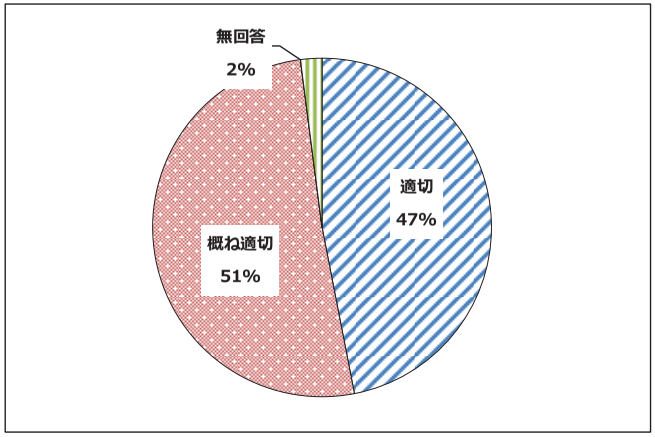
（2）各講義について

① 小児訪問看護の実際

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 47%（23 人）、「概ね適切」が 51%（25 人）、「あまり適切でない」「適切でない」の回答はなかった。

図表5-2　「小児訪問看護の実際」の講義内容は適切であったか



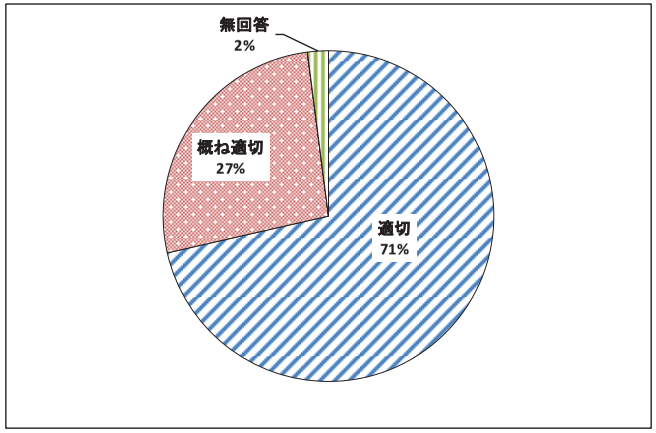
適切・概ね適切と回答した理由
実際の事例を用いて説明してくれたのでわかりやすく、日々の観察ポイントが事例と共に学べた。（4）
訪問看護の実際を知って、どういう風に看護をしていけばいいかが分かった。（2）
具体的な事例（どんなケアをしているか等）をもう少し聞きたかった。（2）
病気やそれに伴う症状に合わせてケアしていくとともに、発達に合わせたケアも大切だと思った。
小児訪問看護を専門に関わっている現場の現状について理解できた。
実際の活動と看護理論がつながりとてもよかった。
沢山の学びがあり楽しかった。
楽しくても機嫌が悪くても過ぎれば不調の要因となることが分かった。
いつもと違うを大切にし、家族と同士になれるような関係作りを深めたい。
当事者の気持ちについて多く知ることができた。
わかりにくい表現もあり理解するのにエネルギーを要した。
法の中での動きも知りたかった。

② 家族に寄りそう看護パートⅠ

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 71%（35 人）、「概ね適切」が 27%（13 人）、「あまり適切でない」「適切でない」の回答はなかった。

図表5-3　「家族に寄りそう看護パートⅠ」の講義内容は適切であったか



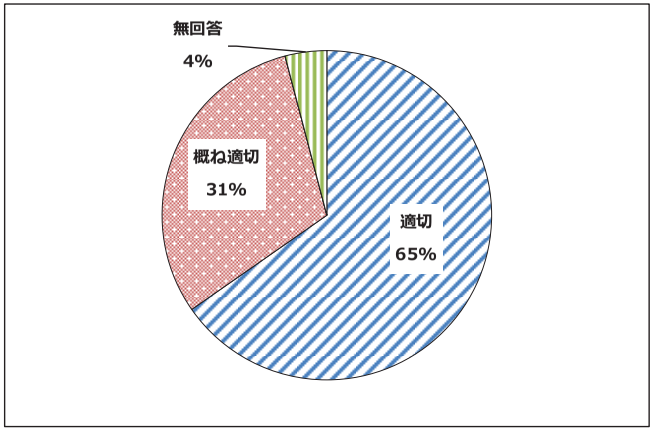
適切・概ね適切と回答した理由
事例をあげての講義、ロールプレイもあり理解しやすく楽しかった。（4）
家族の声を教えていただき、家族とどのよう関わるべきかが理解できた。（3）
ロールプレイをすることにより、看護の振り返りをすることができた。（2）
寄り添う家族看護は老年も小児も同じで難しいと思った。（2）
小児の訪問時にはやはり両親との関わり方が難しいと思っていたが、グループワークやロールプレイをやってみて接し方が学べた。
訪問看護活動において、訪問看護の役割について初心に戻ることができた。
土足で踏み込まない、生活を乱さないを大事にしたいと思った。
母親との関係の取り方に不安があったので勉強になった。
等身大のナースの姿を先に見せて、わからないところもわかろうとする姿勢が必要。
理論と実際を結びつけながら説明してくれてイメージしやすかった。
具体的な話しが多く、実際に訪問するときに生かせる内容だった。
援助者が陥りやすいパターンは訪問看護ではあるある事例なので考えさせられた。
家族への支援、エンパワーメント、黒子になる、がよかった。
先生の小児看護への思いが伝わってきたところがよかった。

③ 診療所が実施する小児在宅医療の実際

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 65%(32 人)、「概ね適切」が 31%(15 人)、「あまり適切でない」「適切でない」の回答はなかった。

図表5-4 「診療所が実施する小児在宅医療の実際」の講義内容は適切であったか



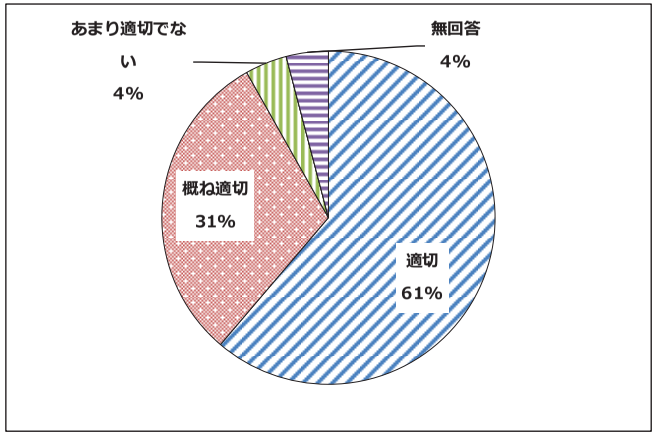
適切・概ね適切と回答した理由
災害時の話しをもう少し聞きたかった。勉強したいと思う（6）
小児連携している診療所が少ないためどう連携していくか考えさせられた。（2）
経管栄養、気管切開管理時の具体的対応はすぐ使えるしわかりやすかった。（2）
解剖学的な話しも多く理解が深まった。
気管腕頭動脈瘻の出血の話しはとても生々しくて普段のケアの大切さがわかった。
呼吸器管理のあるあるも初めて知れて今後気にしていきたいと思った。
テーマに沿った内容が網羅されていた。
先生が取り組まれている医療の実際を学べた。地域差があるのも理解できた。
普段行う医療ケアの留意点、また病態生理などわかりやすかった。
災害時どうするか、前から不安になっていたが、普段のケアの大切さがわかった。
在宅で起こりやすい症状について対応策も勉強できた。
在宅小児医療についての現状を理解できた。
小児に対しての苦手意識が大きかったが少し身近に感じる事ができた。

④ 小児看護の現状と課題

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 61%(30 人)、「概ね適切」が 31%(15 人)、「あまり適切でない」が 4%(2 人)、「適切でない」の回答はなかった。

図表5-5 「小児看護の現状と課題」の講義内容は適切であったか



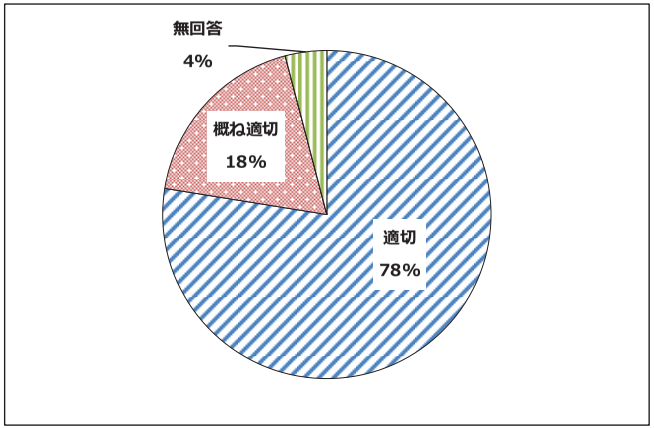
適切・概ね適切と回答した理由
小児医療の現状や訪問看護の現状、問題点を知ることができた。（4）
概論的な内容を学ぶ機会がなかったが、現状の背景となる事項が学べてよかった。（2）
課題が多くありすぎる。
小児の現状を聞き地域の課題もみえてきた。地域の中での訪看の役割についても学んでいきたい。
ＮＩＣＵの満床や、医療の発達のために訪看が求められていることが良くわかった。
小児訪問看護の需要の高さを感じた。
訪問看護に期待することを知れた。
あまり適切ではないと回答した理由
他の講義内容と重複している内容が多かった。制度のことが聞きたかった。（2）

⑤ 重症心身障害児者の原因となる疾患の理解

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 78%（38 人）、「概ね適切」が 18%（9 人）、「あまり適切でない」「適切でない」の回答はなかった。

図表5-6　「重症心身障害児者の原因となる疾患の理解」の講義内容は適切であったか



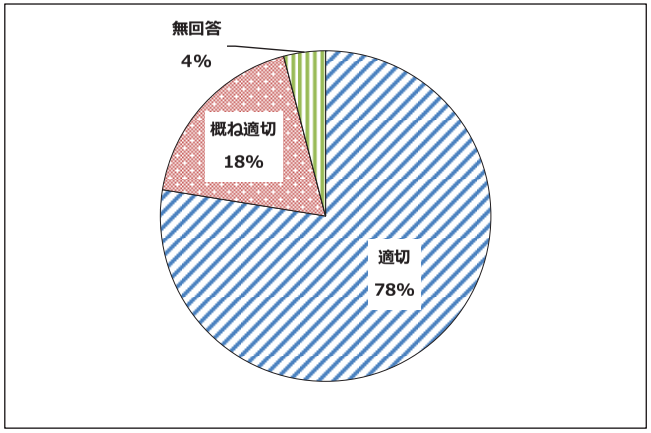
適切・概ね適切と回答した理由
難しい内容だが、なぜそうなるのか等わかりやすい表現で講義してくれたので理解しやすかった。（4）
疾患や症状に関してなぜそうなっているのかを理解しやすく説明してくれ、対応方法等も学べた。（2）
脳の構造など詳しく説明してくれてわかりやすかった。
内容は難しいが、麻痺がある事でどういう障害が起きてくるかなど学ぶ事ができた。
原因を知ってこれから起こりうることを予測する。
自分の基本的な知識が不足していることを実感した。もっと基本的な部分も知りたかった。
まだまだ勉強しないとと思った。
疾患が幅広く病態を理解することを今後学習していきたい。
本や学生時代の知識等では理解できていなかった所を理解することができた。
難しかったが振り返りながら行いたい。

⑥ 脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 78%（38 人）、「概ね適切」が 18%（9 人）、「あまり適切でない」「適切でない」の回答はなかった。

図表5-7　「脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患」の講義内容は適切であったか



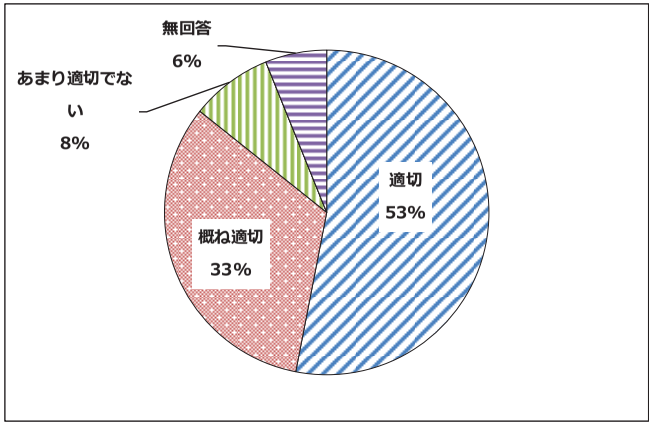
適切・概ね適切と回答した理由
難しい内容だが説明がわかりやすい表現で理解しやすかった。（4）
疾患や症状に関してなぜそうなっているのかを理解しやすく説明してくれた。
側湾の児のＣＴ、レントゲンは衝撃だった。
担当児いるがわからない事もまだまだある。
染色体異常児の訪問をしているが、同じ疾患でも変形や拘縮が違い、それによってどんな合併症が起こりうるか等を学ぶ事ができ、日々の訪問の中で生かせていけると思った。
具体的な特徴や対処について聞くことができた。
実際になぜそのような症状が出ているのか構造から理解でき、予防していかないといけないことがわかった。
変形など二次的合併について考えながらケアをしていく重要性を学べた。
疾患が幅広く病態を理解することを今後学習していきたい。

⑦ 骨折予防に重点をおいた移乗介助・更衣・ポジショニング

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 53%(26 人)、「概ね適切」が 33%(16 人)、「あまり適切でない」が 8%(4 人)、「適切でない」の回答はなかった。

図表5-8 「骨折予防に重点をおいた移乗介助・更衣・ポジショニング」の講義内容は適切であったか



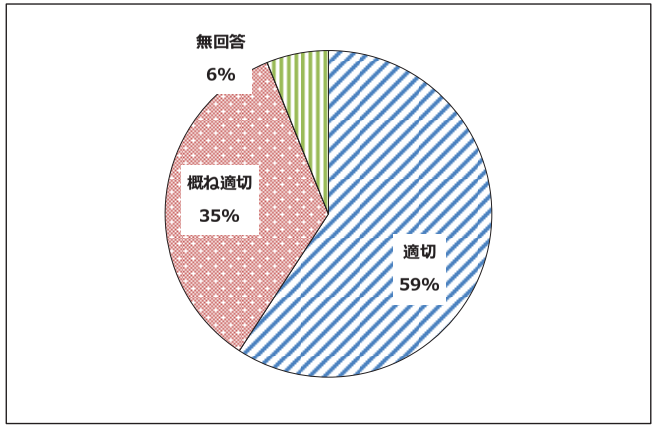
適切・概ね適切と回答した理由
ポジショニングの実践の時間が欲しかった。（４）
四肢の保持の方法やポジショニングなどケアのポイントを知ることができた。（2）
骨折しやすい原因が良くわかった。（2）
デモンストレーションがありわかりやすかった。ポジショニングの意味が良くわかった。
今まで行ってきた技術の振り返りができた。具体的な事例を聞くことができよかった。
具体的でわかりやすかった。気をつけないとと思う事が多々あった。
児のポジショニングは初めてだったのでとても勉強になった。
自分の援助で骨折するリスクがあると感じ少々怖くなった。
１人１人に応じたポジショニングにおいては、セラピストに協力してもらいながら学習していきたいと思う。
ポジショニングや入浴時の移動方法など理解できてよかった。
ＰＴ、ＯＴスタッフが欲しい情報を教えて欲しかった。
時間が足りないと感じた
あまり適切ではないと回答した理由
更衣よりもポジショニングについて実際的なところが知りたかった。（２）
スライドの進め方が速すぎた。実演の時間も短かった。
実演時指導の方が各グループに１人入りアドバイスを頂けるとよかった。
移乗時の写真入りのプリントも頂けると後日確認ができてよかった。

⑧ 子どもの成長発達とフィジカルアセスメント

● 講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか。

「適切」が 59%(29 人)、「概ね適切」が 35%(17 人)、「あまり適切でない」「適切でない」の回答はなかった。

図表5-9 「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント」の講義内容は適切であったか



適切・概ね適切と回答した理由
・呼吸数など大切さや、細かい情報をきちんと整理して利用者と関わって理解していくことの大切さを学べた。
・演習をしその中でファシリテーターの方から具体的な方法を教えてもらえて良かった。
・詳しく学べた。
・奥が深く、流れなど気をつける事も多くあると思った。
・難しいと感じたが繰り返し学んで行きたいと思う。
・講義上では理解できたが、実践にはまだ難しいと感じる。実践を重ねていくしかない。
・フィジカルアセスメントは苦手だが成人とかわりない。苦手に構えず学んでいきたいと思う。
・実際に使う物品で演習したかった。
・心音とか自信ありません。泣いているのをあやすのも苦手です。

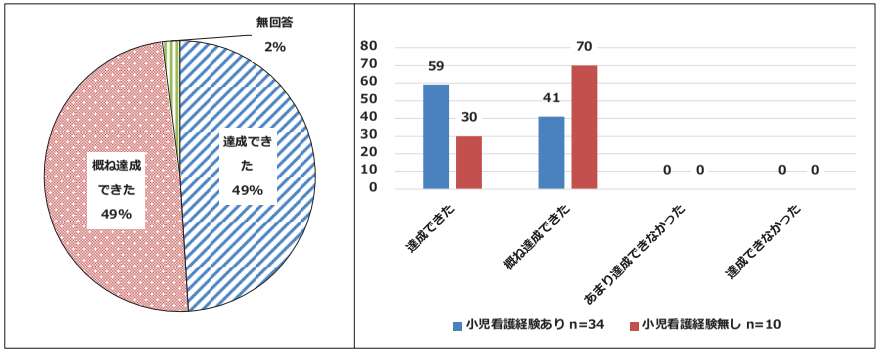
（３）研修全体について

① 研修会の目的①「小児訪問看護の魅力を理解する」の達成状況

● 目的を達成できたか。

「達成できた」が 49%（24 人）、「概ね達成できた」が 49%（24 人）、「あまり達成できなかった」「達成できなかった」の回答はなかった。

図表5-10　研修会の目的①「小児訪問看護の魅力を理解する」の達成状況



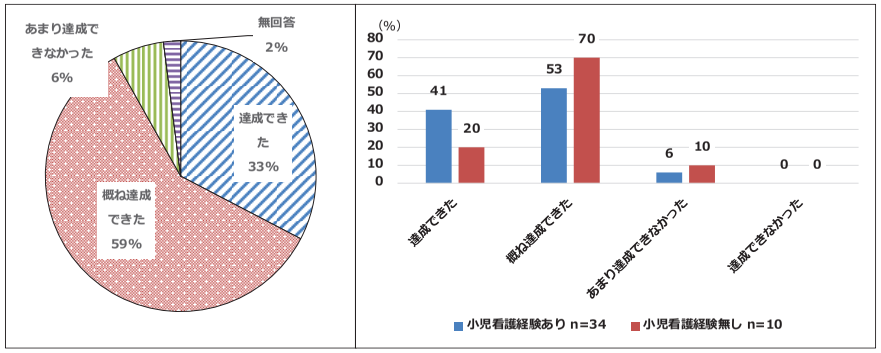
適切・概ね適切と回答した理由
講師の先生方が小児訪問看護の魅力を教えて下さり、生き生きと仕事されている様子がわかり、もっと関わっていきたいなと思った。写真の子供たちの笑顔がかわいかった。（3）
小児の訪問は怖いという苦手意識があったが、学ぶ事ができたので行ってみたいと思えた。（2）
その子なりの成長、発達を感じられる小児訪問看護は魅力的と再認識した。
個別に合わせた対応の難しさと同時にやりがいを感じた。成長も視野に入れたアプローチをしていきたい。
明日からの訪問が楽しみになった。
とても面白く話しを聞けた。
自信がついた。
３日間充実した内容だった。
子どもやその家族のために・・・という部分をどの講義でも感じる事ができた。
難しいなと思う気持ちは変わらないが、まずは家族に寄り添う、児の表情などから読み取る看護は成人・老人看護と変わらないと思ったので、一歩踏み出せるかなと思った。
魅力はあるが難しいことも多い。すぐに理解するのはできないとは思うが続けていきたい。
まだまだ難しいことがたくさんある。

② 研修会の目的②「小児看護の基本的知識を身につける」の達成状況

● 目的を達成できたか。

「達成できた」が 33%（16 人）、「概ね達成できた」が 59%（29 人）、「あまり達成できなかった」が 6%（3 人）、「達成できなかった」の回答はなかった。

図表5-11　研修会の目的②「小児看護の基本的知識を身につける」の達成状況



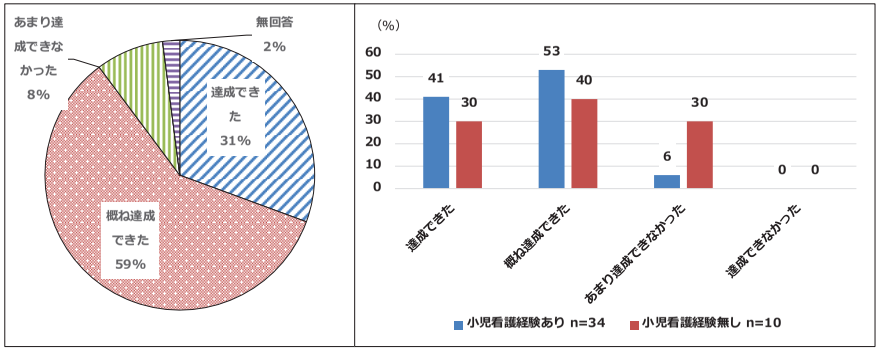
適切・概ね適切と回答した理由
短期間で沢山のことを学ばせていただいた。振り返りながら身につけていきたい。（2）
まだまだ難しいことがたくさんあり足りないと思った。（2）
時間はかるると思うが学んでいきたい。（2）
盛りだくさんの内容だったため、わかったつもりになっている所が多い。実践で結びつけていきたい。
知識を実践に生かせるように学びを深めたい。
実際の実技ができたのでうれしかった。栄養チューブが入らなかったので残念だった。
疾患や看護など基本的なところから学ぶ事ができた。
小児特有の疾患について、構造等でんかんやけいれんのおこす機序等理解でき、更に知識を深める事ができた。
事業所で振り返りたい。
緊急時の対応、バギングなどもやりたかった。次の研修で学びたい。
あまり達成できなかったと回答した理由
成人しか経験がないので、教えて頂いたことの復習と勉強が必要と感じている。
基礎編は病気のことが中心かと思ったため目的とは少し外れていたが、スキルアップ編の研修会で学べたらと思う。

③ 研修会の目的③「小児訪問看護に対する苦手意識を軽減させる」の達成状況

● 目的を達成できたか。

「達成できた」が 31%(15 人)、「概ね達成できた」が 59%(29 人)、「あまり達成できなかった」が 8%(4 人)、「達成できなかった」の回答はなかった。

図表5-12　研修会の目的③「小児訪問看護に対する苦手意識を軽減させる」の達成状況



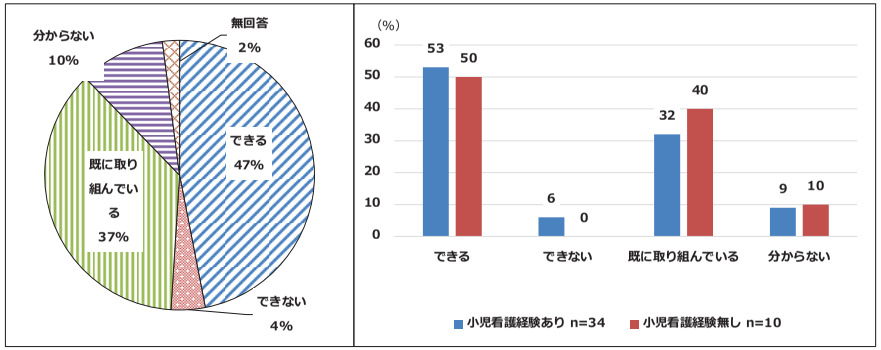
適切・概ね適切と回答した理由
他事業所の方の話し、体験談を共有でき楽しかったし参考になった。（2）
すでに苦手ではないのではと思えた。
小児を受けていきたいと思う。
今後現場で回数を重ねて更に小児看護の技術を向上させたい。
実践してみて評価してみたい。
できることから行いたいと思った。
多職種との連携もしていきながら児と家族を支えていきたい。
研修前よりは○○ちゃんのところへ行き、こんなケアをしてみたいと思えるようになった。
苦手はなくさない方がよいが、気負わずに訪問ができそう。
わからない事が苦手と感じる要因があるため、今までよりは苦手意識が軽減したように思う。
またまた小児訪問に対し、特に多くの機械を使っている児の訪問に苦手意識があり、演習を通して少しずつ上手く関われる様にしていきたいと思った。
母親との接し方や初回訪問時の対応など、デモンストレーションやグループワークを通して学ぶ事ができ苦手意識が少し軽減できた。
苦手や怖いという気持ちはあるが、小児の訪問ができるようになりたい。
病気のことを理解できれば看護の不安ももっと軽減できるのではないかと感じている。
まだ無理です。
あまり達成できなかったと回答した理由
学べば学ぶ程、怖い、大変、という気持ちが出てきた。 今後も時間をかけて取り組みたいと思っている（特に母親との関係づくりの面で）
実際に訪問してみないとわからない事も多いと思う。
初めてになるのでやはり不安はある。児に対しても両親に対しても。

④ 小児訪問看護に取り組むことができそうですか

● 目的を達成できたか。

「できる」が 47%(23 人)、「できない」が 4%(2 人)、「すでに取り組んでいる」が 37%(18 人)、「分からない」が 10%(5 人)であった。

図表5-13　小児訪問看護に取り組むことができそうか



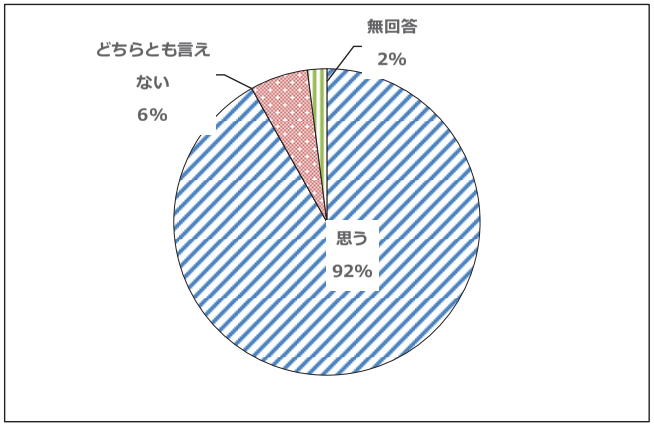
できると回答した理由
新たな知識も得ることができて明日からの実践に生かしたい。（2）
後輩や小児の経験がない方にも伝達していきたい。
視点を変えて取り組みたいと思った。
頑張ります。
できないと回答した理由
記載なし
既に取り組んでいると回答した理由
研修会に参加する事で今後の訪問につなげていきたい。
取り組まざるを得ない状況である。学んだ事が生かせるよう意識して取り組みたい。
既に訪問中の方のケアの根拠や現状の問題が研修を受けてみえてきたかなと思う。
学習不足であることを自覚したので今後も学習しながら関わっていきたい。
現在関わっている児の今後起こりうる二次障害の予測を立てながら、今後関われる様になったり、これからは児に対しては家族に寄り添う看護を行えたらと思う。
分からないと回答した理由
怖い。１人では無理でも２人なら。または実習後なら。

⑤ スキルアップ編の研修も受講したいと思うか

● 目的を達成できたか。

「思う」が 92%(45 人)、「どちらともいえない」が 6%(3 人)、「思わない」の回答はなかった。

図表5-14　スキルアップ編の研修も受講したいと思うか



2）いのちを支える

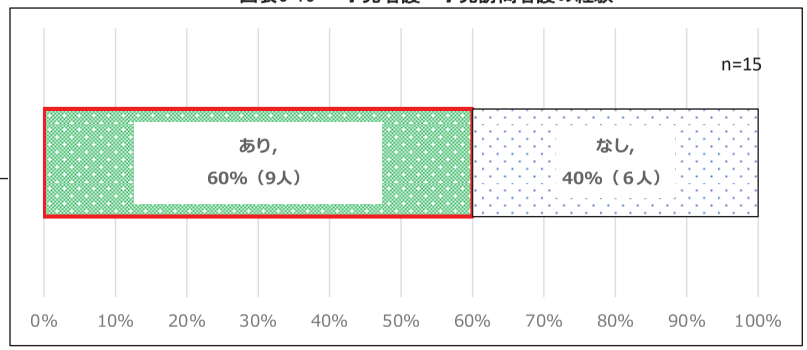
（1）回答者属性について

① 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験

● 小児看護、小児訪問看護の経験について

回答者 15 人のうち、「あり」が 60%(9 人)、「なし」40%(6 人)だった。

図表5-15　小児看護・小児訪問看護の経験

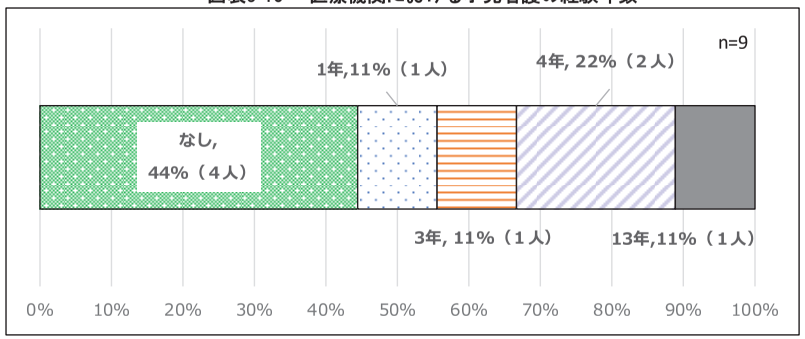


● 「あり」と回答した方 9 人

医療機関における小児看護の経験年数について教えください。

「経験なし」が 44%(4 人)、「4年」が 22%(2 人)「1年」「3 年」「13 年」がそれぞれ 1%(3人)だった。

図表5-16　医療機関における小児看護の経験年数

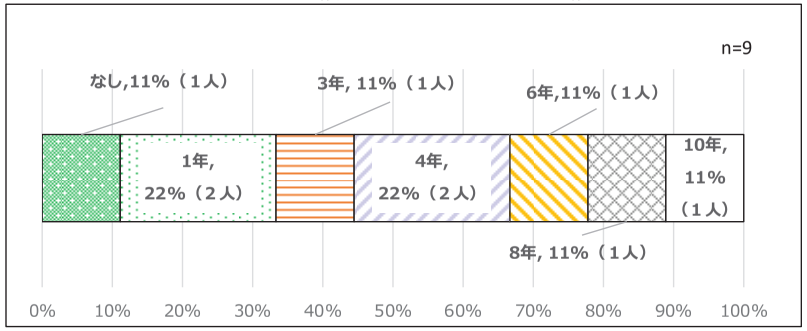


● 「あり」と回答した方９人

訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数について教えください。

「1年」「4 年」がそれぞれ 22%(2 人)、「なし」「3 年」「6年」「8 年」「10 年」はそれぞれ 11%(1人)だった。

図表5-17　訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数

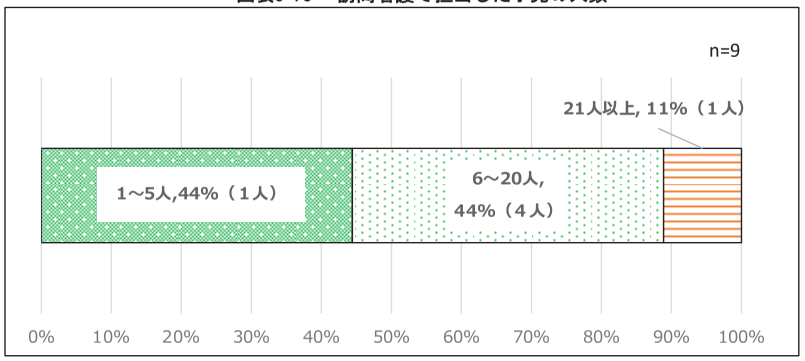


● 「あり」と回答した方９人

訪問看護で担当した小児は何人ですか。過去に担当した場合も含めてご回答ください。

「1～5 人」「6～20 人」がそれぞれ 44%(4 人)、「21 人以上」が 11%(1 人)だった。

図表5-18　訪問看護で担当した小児の人数



（2）各講義について

① 小児がんについて

【到達目標】

・子どもに特徴的ながんについて理解する

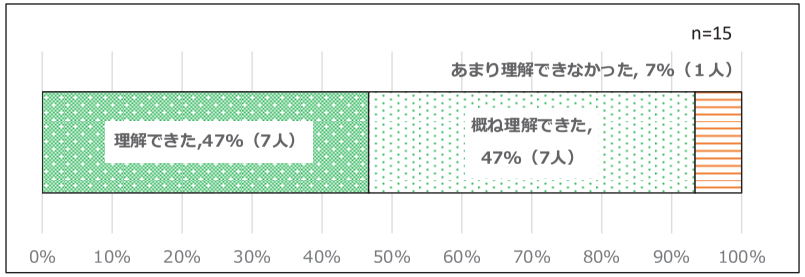
・がんの治療方法について理解する

・がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 15 人のうち「理解できた」「概ね理解できた」がそれぞれ 47%(7 人)、「あまり理解できなかった」が 7%(1 人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-19　講義内容の理解度



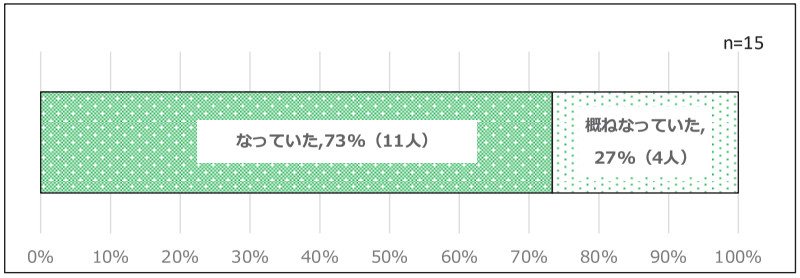
「あまり理解できなかった」と回答した方の理由

・訪問の調整が出来ず参加できなかった。資料だけではあまり理解を深める事が出来なかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 73%(11 人)、「概ねなっていた」が 27%(4 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-20　講義内容に対する評価



② よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護

【到達目標】

・疾病により身体機能の危機的状況にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる

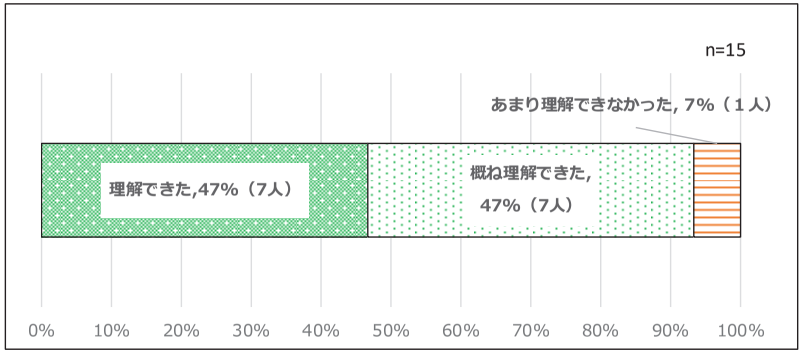
・重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる

・終末期に向うあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 15 人のうち「理解できた」「概ね理解できた」がそれぞれ 47%(7 人)、「あまり理解できなかった」7%(1 人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-21　講義内容の理解度



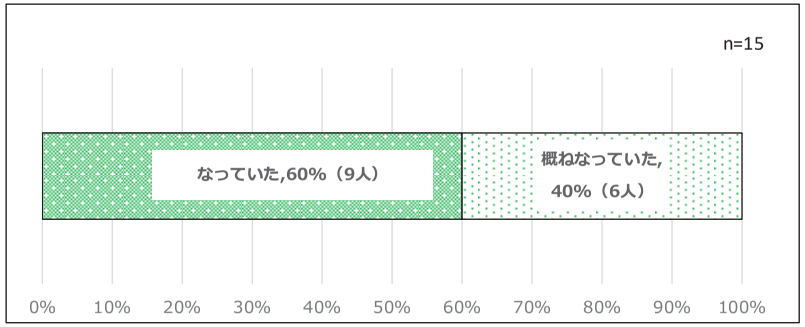
「あまり理解できなかった」と回答した方の理由

・訪問の調整が出来ず参加できなかった。資料だけではあまり理解を深める事が出来なかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 60%(9 人)、「概ねなっていた」が 40%(6 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

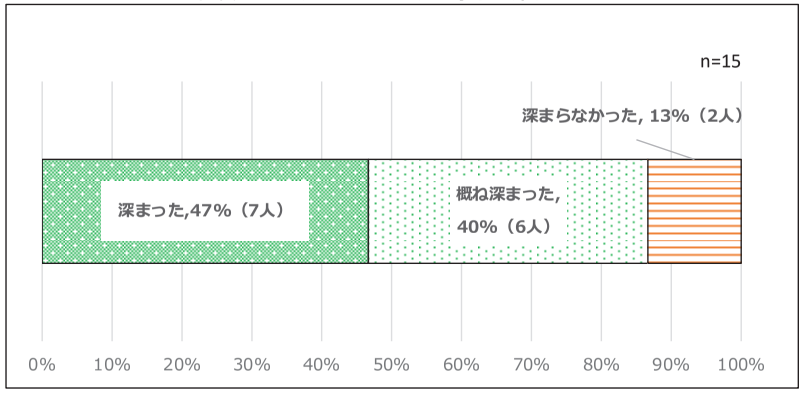
図表5-22　講義内容に対する評価



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」が 47%(7人)で、「概ね深まった」が 40%(6人)、「深まらなかった」が 13%(2人)だった。

図表5-23　グループワークで学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
事例検討ができたから。
小児訪問看護経験のある方々の話を傾聴し、現場の実際を学ぶことができた。
自分のケアを振り返ることができた。
他のステーションでの対応の仕方が参考になった。
自分の意見との違いや、他の参加者の経験談などを共有できたから。
概ね深まった
経験がないためついて行くのに必死だった。とても良い経験になった。これからも沢山教えて欲しい。
経験のある方の実践が聞け、具体案も話してもらえて、わかりやすかった。
意思決定することは難しいことがたくさんあり、答えが出ないことやどうすることが良いのかなど迷うことがある。皆さんの話を聞かせてもらい、側に寄り添い少しでも何かの役に立てるような関わりができたらと思った。
リモート会議になれていないせいか 活発な意見交換になりにくいのが難点。
意思決定支援の難しさを感じているという事案があり、母親が抱えてしまうケースが多く、母親の期待と不安の狭間にいるということを理解し、とにかく話を聴き、説得はせず聞き出すことを心がけているというケースを伺い、病院ではない自宅での生活に直面する訪問看護のあり方を学ぶことができた。
小児看護経験に差があったため、グループメンバーの共感や理解が得られたか少し不安が残った。
深まらなかった
参加できていない。
グループワークに参加できなかった。 断片的に聴取することができた。

③ 他職種の理解とチーム医療について

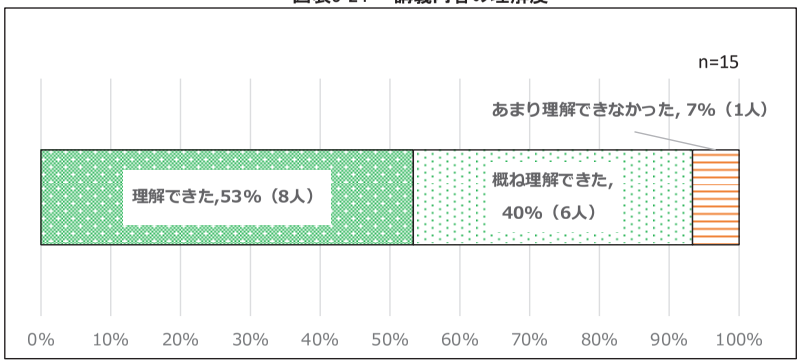
【到達目標】

・疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のあり方を学ぶ

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 15 人のうち「理解できた」が 53%(8 人)、「概ね理解できた」が 40%(6 人)、「あまり理解できなかった」が 7%(1 人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-24 講義内容の理解度



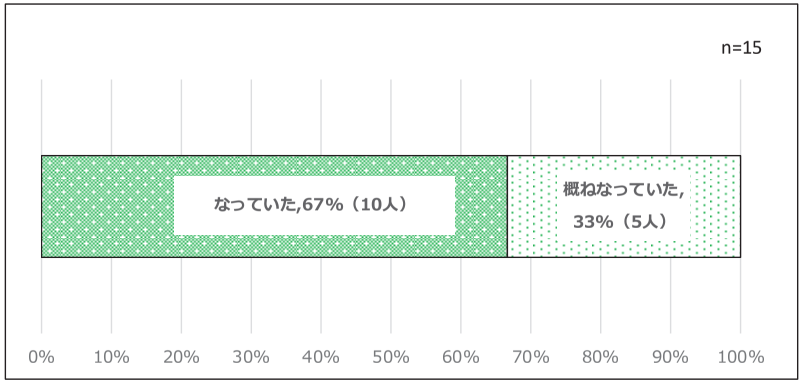
「あまり理解できなかった」と回答した方の理由

・訪問の調整が出来ず参加できなかった。資料だけではあまり理解を深める事が出来なかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 67%(10 人)、「概ねなっていた」が 33%(5 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

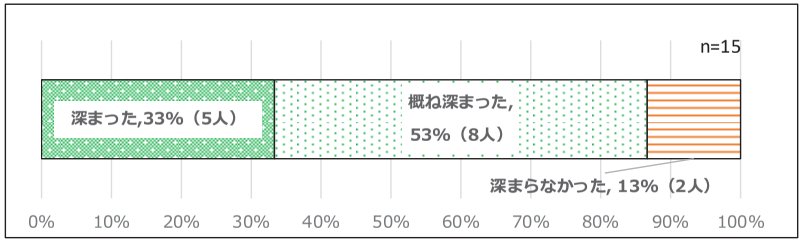
図表5-25　講義内容に対する評価



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」が 33%(5 人)で、「概ね深まった」が 53%(8 人)、「深まらなかった」が 13%(2人)だった。

図表5-26　グループワークで学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
対象の子どもだけでなく、周囲の家族も看護の対象であり、関わり方についても学ぶことができた。
いろいろな人の意見が聞けた。
他のグループの発表が参考になった
地域による差や事業所による方針の違いが理解できた。
概ね深まった
家族とのかかわり方
意見がまとまらない事もあった。経験が無い人が多いためと思う。
未経験分野だったので、質問をさせてもらってイメージできた。
支援相談や医療的ケア児のコーディネーターについて理解できた。
他の職種の方がどんなことが得意でどんなことで困ることがあるのかなど、知ることができた。訪問看護の得意なところ、弱いところなども他の方と相談し、協力しお互いが働きやすくなれば、それが子供や家族を支える力にもなると感じた。現実は難しいことだらけのように感じてしまうが、少しでも何か前に進めるようにやってみようと思う。
多職種との連携は思うほどうまくいっていないことが分かった。報告書だけでの連携ではなく、顔の見える連携づくりをしていきたいという意見があった。1 家族にいくつもの事業所が関わると意見も多少違ってきてしまうのは仕方ないが、方向性を統一していくには、連携をし患者にとって又、家族にとってもいい方法で関わりあっていきたいと思った。
深まらなかった
参加できていない。
グループワークに参加できなかった。 断片的に聴取することができた。

④ 子どもの権利と倫理的かかわり

【到達目標】

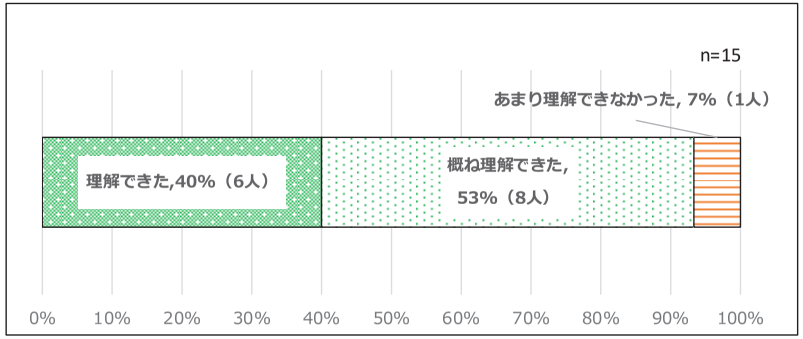
・子どもの権利を理解する

・倫理的な関わりについて考えることができる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 15 人のうち、「理解できた」が 40%(6 人)、「概ね理解できた」が 53%(8 人)、「あまり理解できなかった」が 7%(1人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-27　講義内容の理解度



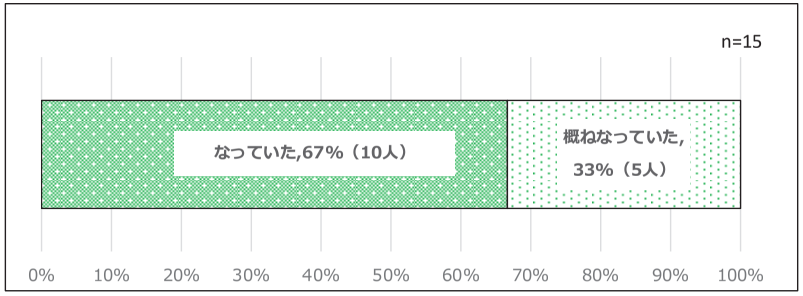
「あまり理解できなかった」と回答した方の理由

・訪問の調整が出来ず参加できなかった。資料だけではあまり理解を深める事が出来なかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 67%(10 人)、「概ねなっていた」が 33%(5 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

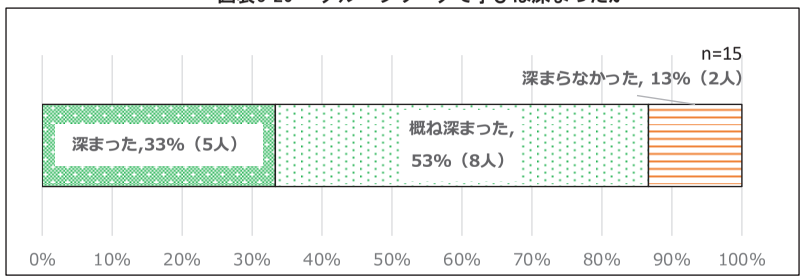
図表5-28　講義内容に対する評価



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」が 33%(5 人)で、「概ね深まった」が 53%(8 人)、「深まらなかった」が 13%(2 人)だった。

図表5-29　グループワークで学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利がある。 自分に関わりがあることへの意見の照明や表現の自由についての権利がある。重症児は表現から聞くことが難しい。
色々な人の意見が聞けた。
子どもの権利や倫理について考えが深まった。
意見交換により、自身の考え方以外の捉え方について考える事が出来た。
概ね深まった
児が自己表現をする困難さと家族の想い。
グループでの意見なので、何を言ってもいいとは思う。時間が限られている為言えない事もあった。
悩ましい課題をみんなで共有できた。
改めて倫理的に考えるきっかけになった。 家族がどんな選択をしても心からそれを支援していくことの難しさ、看護師としての倫理観があり寄り添うことの難しさを感じたことを思い出した。
難しいと思ったが、みんなと話したことを基にもっと深めていきたいと思う。
倫理を考える時、そこには必ず「価値の対立」が存在するということを忘れないで関わりたいと思った。そして、共感ではなく共有するようにすると、看護者の心にもゆとりがもてるという言葉を聴き、～をしなければならいという思いから解放することができた。全ての人はそれぞれの価値観があるので、私個人の価値観で関わることは避けようと思い、また、他者の価値観はどういうことなのかも関わりを通して知り得ていき看護に生かしていきたいと思った。
深まらなかった
参加できていない。
グループワークに参加できなかった。 断片的に聴取することができた。

⑤ 家族の思いに寄り添う看護

【到達目標】

・疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる

・重症心身障害者の家族の理解を深め、支援について検討できる

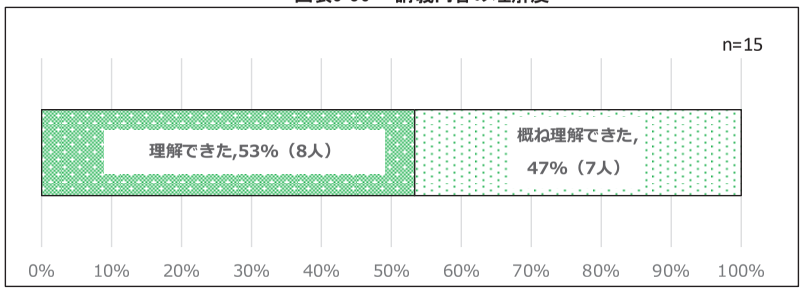
・悲嘆の過程について理解する

・家族の障害受容に対する支援方法について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 15 人のうち、「理解できた」が 53%(8 人)、「概ね理解できた」が 47%(7 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

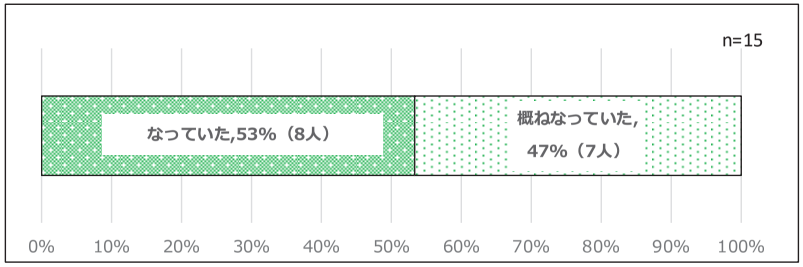
図表5-30　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 53%(8 人)、「概ねなっていた」が 47%(7 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

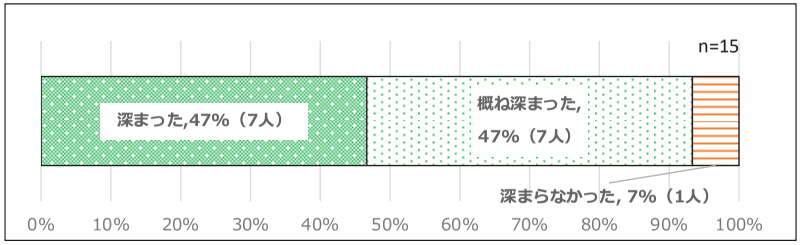
図表5-31　講義内容に対する評価



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」「概ね深まった」がそれぞれ 47%(7 人)、「深まらなかった」が 7%(1 人)だった。

図表5-32　グループワークで学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
小児や家族に寄り添う、気持ちや想いを尊重する看護は大切である。
いろいろな人の意見が聞けた。
今まで持ってきたターミナルケースや治療の選択に対する援助について改めて考えることができた。
みなさんが訪問で試行錯誤したり悩んだりしながら取り組まれていることがわかり、自分だけじゃないんだと安心したり、ここは修正が必要かなここはこれでいいのかなと自分の行っている訪問を評価出来たり、励まされて明日からも頑張ろうという気持ちになった。
重心の子ども、家族の事例を通して、関わりの難しいケースでは、こちらサイドのケアにも重点を置く事の必要性が分かった。
経験や体験談を踏まえた考察や、議論が出来た。
概ね深まった
家族的な援助が必要であり、本来ならば本人の意見が聞けたらいいが、聞けないとなると、援助の仕方がわからなくなった。第一に介護者の方を優先的にしたら本人のことを考えていないようで。納得した答えはまだわからない。
成人の悲嘆との違いを学べた。
子供の思い、家族の思い、関わる人の思いを大切にして関わっていけるようにしたいと思った。
家族には、対象の患者と保護者、兄弟がいる、ということを目の当たりにするということを改めて学んだ。病院での関わり以上に関わっていくのだなと思う事ができた。例えば気切にしても、その意思決定をするその多くは保護者となる。その決定するまでの過程で生じる葛藤を理解し、母親だけでなく、父親・兄弟の思いを聴き話し合いながら関わり続けていきたいと感じた。
深まらなかった
経験年数の違いで、自身の振り返りになったが、深まりにはならなかった。

⑥ 急変時の対応

【到達目標】

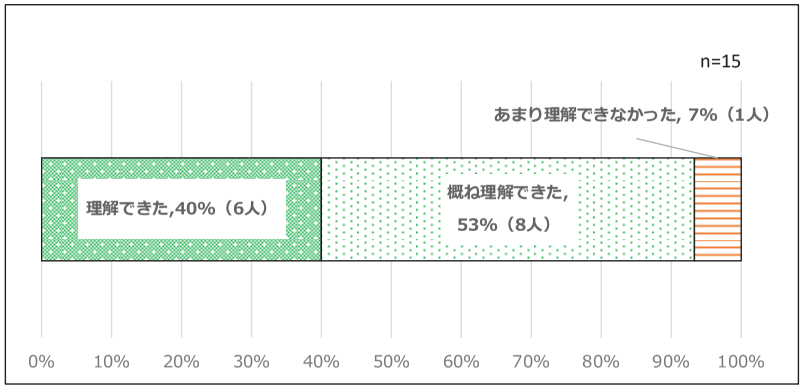
・小児の BLS 技術が実践できる

・小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 15 人のうち「理解できた」が 40%(6 人)、「概ね理解できた」が 53%(8 人)、「あまり理解できなかった」が 7%(1人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-33　講義内容の理解度



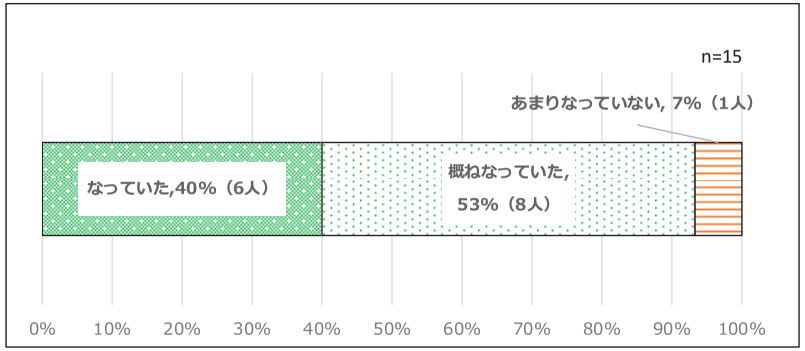
【「あまり理解できなかった」と回答した方の理由】

・在宅での BLS を学びたかったが、事例が病院を想定されていたのでなぜなのか疑問が残った。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 40%(6 人)、「概ねなっていた」が 53%(8 人)、「あまりなっていない」が 7%(1人)、「なっていない」の回答はいなかった。

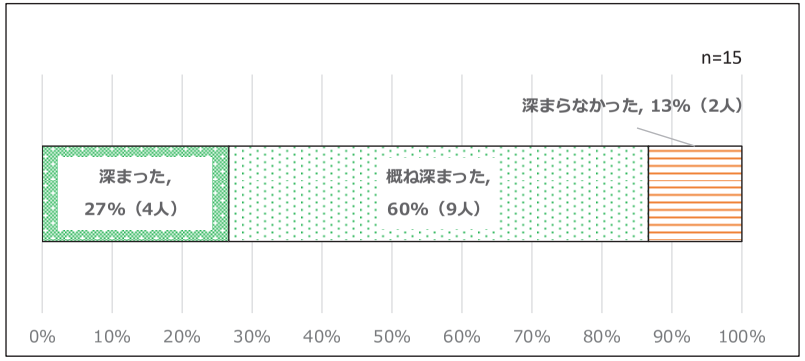
図表5-34　講義内容に対する評価



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」が 27%(4人)、「概ね深まった」が 60%(9 人)、「深まらなかった」が 13%(2 人)だった。

図表5-35　グループワークで学びは深まったか



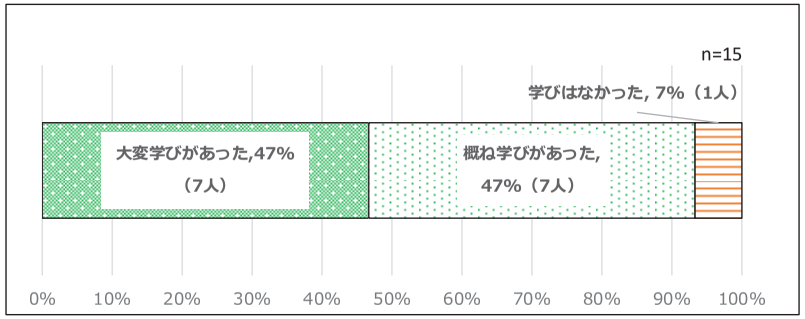
● 上記を選んだ理由

深まった
講師の先生の話しを通して、具体的にイメージする事ができた。
実技でリモートとなると不安であったが、同じ教材で、手元で触りながら行えて大変良かった。
実際にモデルを使うことによって、力加減やテンポについて学べた。
概ね深まった
現場で本当にどこまで出来るか。
想像できる課題を経験ある方から具体的な意見がもらえてよかった。
デモ機が少し大きく、実感がわきにくかった。
ファシリテーターの先生にわかりやすく説明、確認して頂き理解できた。
緊張しながらもシュミレーションが出来て実践につなげられると思う。
グループワークの意図がわかりずらかった。
対面で演習できたら、もっと具体的なことを体験しコツなども掴めたのかなと思った。ステーションでみんなで練習してみます。
グループの方の話が聞けてとても参考になりよかった。
実技を画面を通して講師に確認してもらうことが慣れず、黙々と一人で練習するという感じだった。
深まらなかった
やはり見ているだけでは難しい。病院は AED があるが訪問看護している所では無い。小児の自宅にある設定ならばこのような援助ができるだろうとは思った。すこしでも役に立つように頑張ります。
グループに分かれてモデルを使って実際に事例にそって実施するのかと思っていたが、それさえもなかった。

● 演習を通して、技術の学びがありましたか。

「大変学びがあった」47%(7 人)、「概ね学びがあった」42%(7 人)、「学びはなかった」7%(1人)だった。

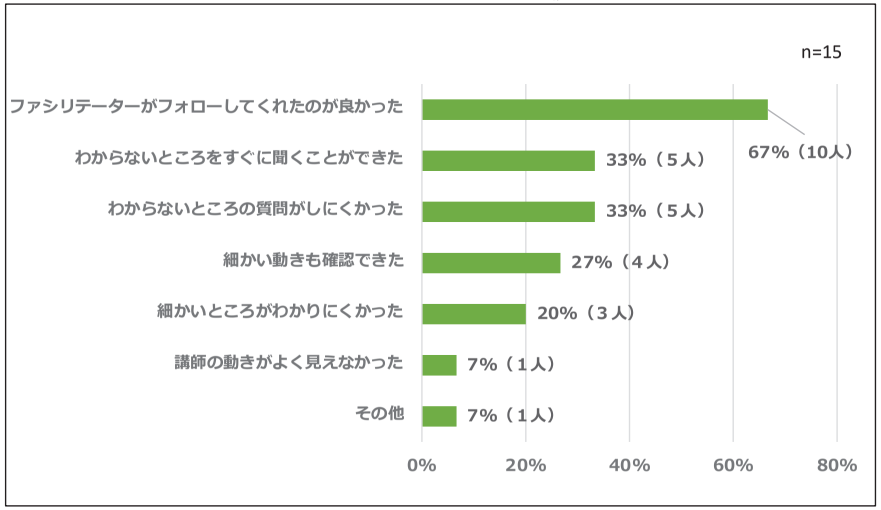
図表5-36　演習を通して、技術の学びはあったか



● 演習についての意見（複数回答）

「ファシリテーターがフォローしてくれたのが良かった」が最も多く 67%(10 人)、次いで「わからないところをすぐに聞くことができた」「わからないところの質問がしにくかった」がそれぞれ 33%(5 人)「細かい動きも確認できた」が 27%(4 人)、「細かいところがわかりにくかった」20%(3 人)、「講師の動きがよく見えなかった」「その他」がそれぞれ 7%(1 人)だった。

図表5-37　演習に対する意見（複数回答）



【その他の内容】

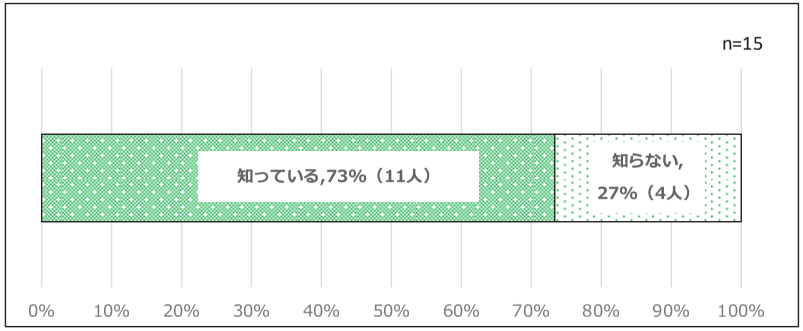
・ファシリテーターが理解していなかった

（３）小児訪問看護研修会のプログラムについて

①小児訪問看護研修会のプログラムは、5 つの編により構成されていることを知っているか

回答者 15 人のうち、「知っている」が 73%(11 人)、「知らない」が 27%(4 人)であった。

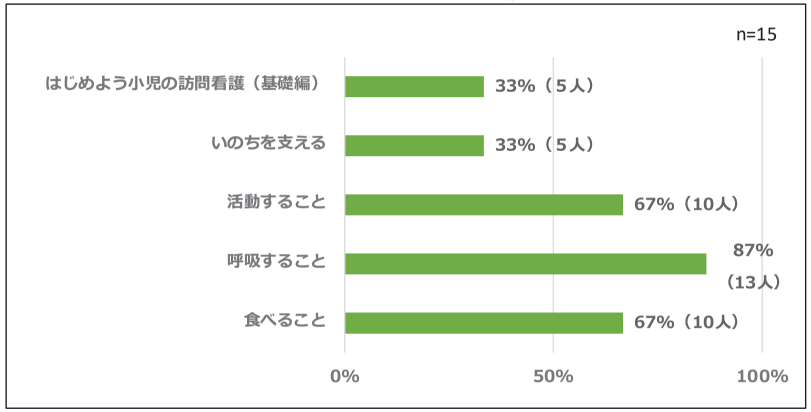
図表5-38　小児訪問看護研修会プログラムの認知度



② 5 つの編で興味のある研修はどれか

最も多かったのが「呼吸すること」が 87%(13 人)、次いで「活動すること」「食べること」がそれぞれ 67%(10 人)、「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」「いのちを支える」がそれぞれ 33%(5 人)だった。

図表5-39　興味のある研修（複数回答）



● 興味のある５つの編のうち、具体的内容について上位３つまで尋ねた。

１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」の中で興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「小児訪問看護の実際」が 9 点と最も多く、次いで「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)」が 8 点、「重症心身障害児者の原因となる疾患･状態像の理解と対応」が 6 点だった。

図表5-40　「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容　(n=5)

興味のある研修内容	得点
小児訪問看護の実際	9
子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	8
重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	6
小児看護の現状と課題	4
脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	2
骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	1
診療所が実施する小児在宅医療の実際	1

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-41　「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（内訳）(n=5)

	興味のある研修内容	人数
１位	・小児訪問看護の実際	3
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	1
	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	1
２位	・小児看護の現状と課題	2
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	1
	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	1
	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	1
３位	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	3
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	1
	・骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	1

「いのちを支える」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「家族の思いに寄り添う看護(グループワーク･ロールプレイあり)」が 10 点と最も多く、次いで「終末期にある重症心身障害児 者の医療と看護(グループワークあり)」が 7 点、「他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)」が 6 点だった。

図表5-42　「いのちを支える」における興味のある研修内容（n=5）

興味のある研修内容	得点
家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	10
終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	7
他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	6
急変時の対応（演習あり）	4
子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	2
小児がんについて	1

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-43　「いのちを支える」における興味のある研修内容（内訳）（n=5）

	興味のある研修内容	人数
１位	・終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	2
	・他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	2
	・急変時の対応（演習あり）	1
２位	・家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	5
３位	・子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	2
	・終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	1
	・小児がんについて	1
	・急変時の対応（演習あり）	1

「活動すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「発達障害の理解と対応」が 33 点と最も多く、次いで「てんかん発作について」が 29 点、「小児リハビリテーション(演習あり)」が 22 点だった。

図表5-44　「活動すること」における興味のある研修内容（n=10）

興味のある研修内容	得点
発達障害の理解と対応	16
最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	12
特別支援学校における看護の役割について	9
小児リハビリテーション（演習あり）	8
てんかん発作について	7
児童相談所の機能と役割について	6
耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	1
福祉用具	1

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-45　「活動すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=10）

	興味のある研修内容	人数
１位	・発達障害の理解と対応	4
	・最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	3
	・小児リハビリテーション（演習あり）	2
	・てんかん発作について	1
２位	・特別支援学校における看護の役割について	4
	・発達障害の理解と対応	2
	・児童相談所の機能と役割について	2
	・最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	1
	・てんかん発作について	1
３位	・てんかん発作について	2
	・小児リハビリテーション（演習あり）	2
	・児童相談所の機能と役割について	2
	・最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	1
	・耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	1
	・福祉用具	1
	・特別支援学校における看護の役割について	1

「呼吸すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)」が 23 点と最も多く、次いで「人工呼吸器の基礎(演習あり)」が 18点、「在宅生活を支える制度や社会資源について」が 11 点だった。

図表5-46　「呼吸すること」における興味のある研修内容（n=13）

興味のある研修内容	得点
呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	23
人工呼吸器の基礎（演習あり）	18
在宅生活を支える制度や社会資源について	11
呼吸障害の看護について（演習あり）	10
呼吸障害について	9
心疾患（心奇形）について	3
循環器について	2
児童相談所の役割について	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-47　「呼吸すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=13）

	興味のある研修内容	人数
1 位	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	6
	・呼吸障害について	2
	・呼吸障害の看護について（演習あり）	2
	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	2
	・心疾患（心奇形）について	1
2 位	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	4
	・在宅生活を支える制度や社会資源について	4
	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	2
	・呼吸障害の看護について（演習あり）	2
	・呼吸障害について	1
3 位	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	4
	・在宅生活を支える制度や社会資源について	3
	・循環器について	2
	・児童相談所の役割について	2
	・呼吸障害について	1
	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	1

「食べること」における興味のある研修内容の上位３つを挙げると、「摂食嚥下障害について」が 16　点と最も多く、次いで「相談支援と連携」が 13 点、「摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)」が 9 点であった。

図表5-48　「食べること」における興味のある研修内容（n=10）

興味のある研修内容	得点
摂食嚥下障害について	16
相談支援と連携	13
摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	9
口腔衛生について（演習あり）	8
重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	5
消化器疾患と栄養障害について	4
排尿障害について	3
排便障害について	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-49　「食べること」における興味のある研修内容（内訳）（n=10）

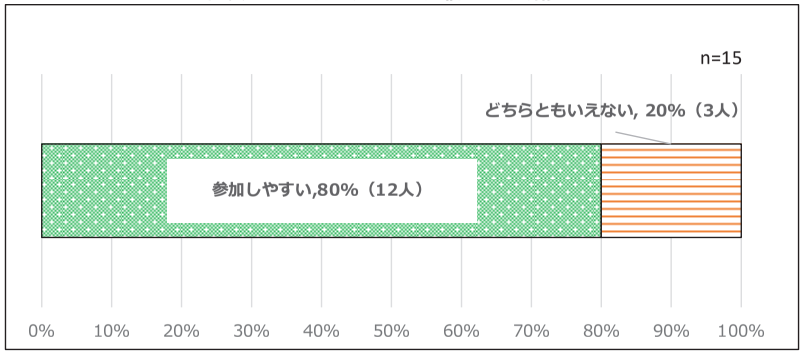
	興味のある研修内容	人数
1 位	・摂食嚥下障害について	3
	・相談支援と連携	3
	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	2
	・重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1
	・消化器疾患と栄養障害について	1
2 位	・摂食嚥下障害について	3
	・口腔衛生について（演習あり）	2
	・相談支援と連携	2
	・重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1
	・排尿障害について	1
	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	1
3 位	・口腔衛生について（演習あり）	4
	・排便障害について	2
	・消化器疾患と栄養障害について	1
	・排尿障害について	1
	・摂食嚥下障害について	1
	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	1

（4）研修会の開催方法について

① オンデマンド配信による研修について

「参加しやすい」が 80%(12 人)、「どちらともいえない」が 20%(3 人)、「参加しにくい」はいなかった。

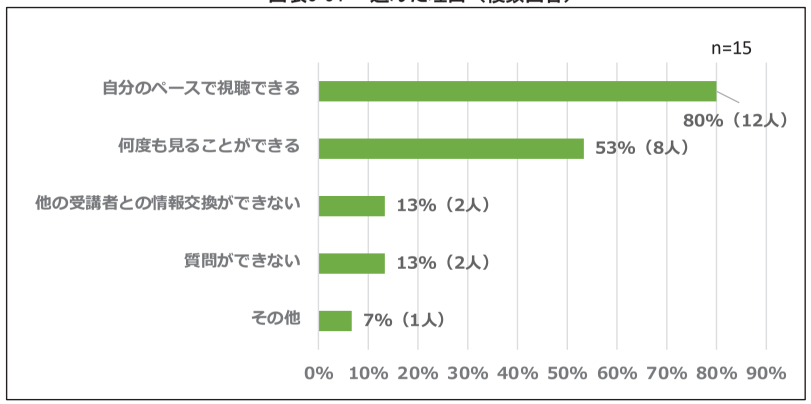
図表5-50　オンデマンド配信による研修について



● 上記を選んだ理由（複数回答）

最も多かったのは「自分のペースで視聴できる」97%(32 人)、次いで「何度も見ることができる」が 67%(22 人)、「他の受講者との情報交換ができない」21%(7 人)、「質問ができない」9%(3 人)、「その他」6%(2 人)だった。

図表5-51　選んだ理由（複数回答）



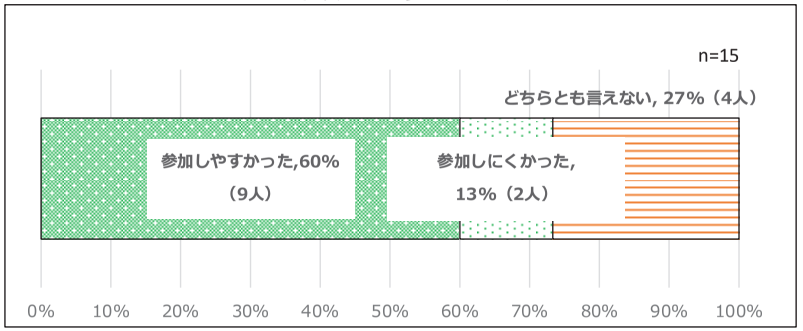
【その他内容】

・開催場所への距離を気にせず参加できる

② ライブ配信による研修について

「参加しやすかった」が 60%(9 人)、「どちらともいえない」が 27%(4 人)、「参加しにくかった」が 13%(2 人)だった。

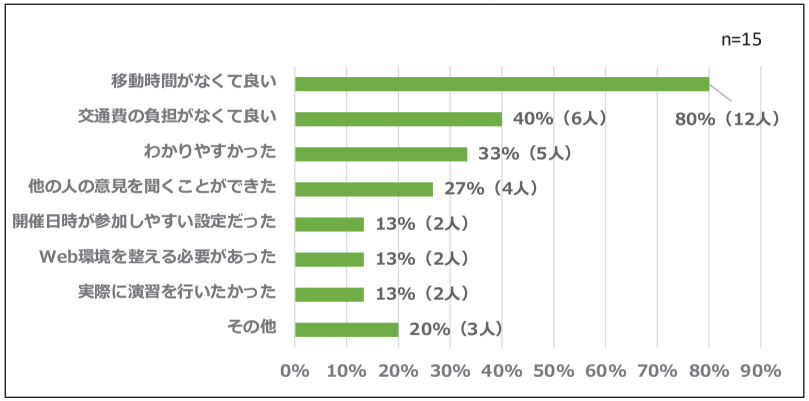
図表5-52　参加のしやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「移動時間がなくて良い」が 70%(23 人)、「交通費の負担がなくて良い」が 48%(16 人)、「他の人の意見を聞くことができた」39%(13 人)、「わかりやすかった」33%(11 人)、「実際に演習を行いたかった」30%(10 人)、「Web環境を整える必要があった」27%(9 人)、「開催日時が参加しやすい設定だった」15%(5 人)、「その他」6%(2 人)だった。

図表5-53　選んだ理由（複数回答）



【その他内容】

・初めてのライブ配信によるグループワークや演習で緊張した。

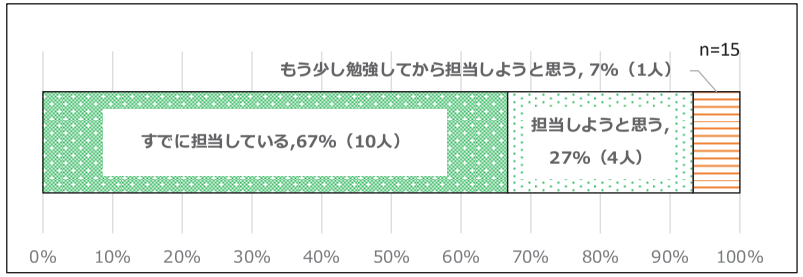
・急な仕事などで結局参加できず残念な思いをした。

・質問しにくい。チャットが上手く使えない。

（5）今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか

「すでに担当している」が 67%(10 人)、「担当しようと思う」が 27%(4 人)、「もう少し勉強してから担当しようと思う」が 7%(1人)、「担当しようと思わない」の回答はいなかった。

図表5-54　今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか



「もう少し勉強してから担当しようと思う」と回答した方の理由

・全く経験がない中で、いろんな成長段階にある小児看護を 1 人で実践するのは不安。

● その他のご意見（自由記載）

今まで避けてきた小児科を頑張っていきたいと思う。
緊急時の対応は配信で完璧な動画を何度も見たほうが、個人的には勉強になる。
小児訪問看護と看多機や小児訪問と通園または医療ケアの放課後デイ併設など立ち上げの話が聞きたい。自分の地域にはあまりなくあったらいいなと思うので。
１回目のライブ配信に参加できてなかったので、２回目参加が心配だったが参加してグループワーク、演習を行ないとても良かった。周囲に小児の経験者がいなかったので自分自身手探り状態だったが、講義やグループワーク等で日頃の自分の訪問看護を振り返り、修正が必要と感じたり、これでいいと安心したり評価の指標になったように思う。 何より他県でも頑張られている方がたくさんいることが励みになった。１回目を受けられなかったことが残念。
社会的背景でどんどん需要のある分野であると思って頑張っているが、地方ほど行政との軋轢や偏見が多く、連携もしづらい状況なので、いろいろな方向から広めて仲間を作りたい。
この研修の Part1 に参加させて頂いた時は、小児の訪問看護のイメージや実感が湧かず、グループワーク中も自分の理想や思いで話してたところがあったように思う。重症の子の訪問に入ることになり、グループワークの事例で考える時などいろんな思い心配が重なってしまい、発言できなくなったりしたところもあった。不安などあるが、やっぱり小児の訪問看護をやって行きたいという気持ちは変わらず一歩ずつ前に進んでいこうと思う。
小児訪問看護を多角的に行っているステーションに見学に行きたい。
とても丁寧で分かりやすい研修だった。実際の経験がないが、前もって学ぶことができて良かった。

3）活動すること

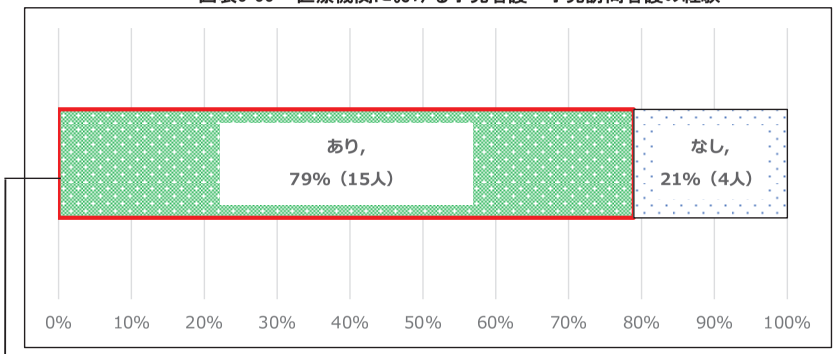
（1）回答者属性について

① 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験

● 小児看護、小児訪問看護の経験について

回答者 19 人のうち、「あり」が 79%(15 人)、「なし」21%(4 人)だった。

図表5-55　医療機関における小児看護・小児訪問看護の経験

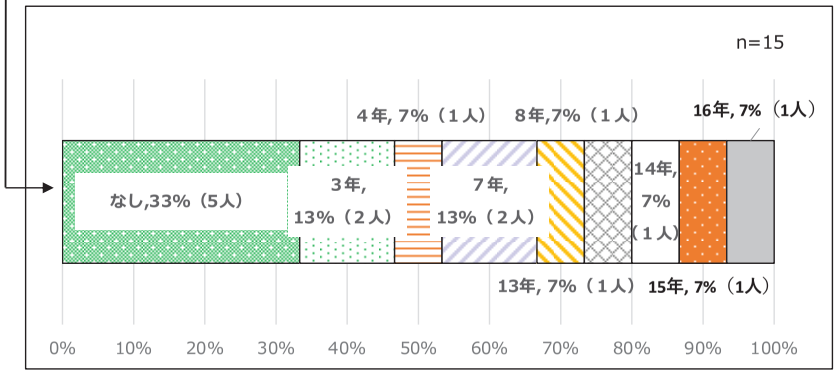


● 「あり」と回答した方 15 人

医療機関における小児看護の経験年数について教えください。

「経験なし」が 33%(5 人)、「3 年」「7 年」がそれぞれ 13%(2 人)、「4年」「8 年」「13 年」「14 年」「15 年」「16 年」がそれぞれ 7%(1 人)だった。

図表5-56　医療機関での小児看護の経験年数

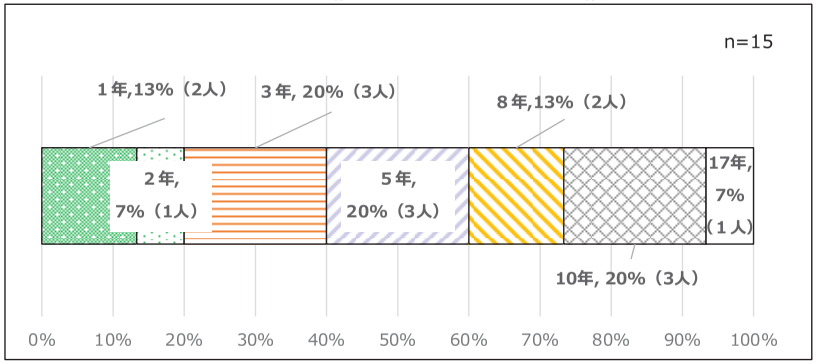


● 「あり」と回答した方 15 人

訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数について教えください。

「3 年」「5 年」「10 年」がそれぞれ 20%(3 人)、「1 年」「8 年」がそれぞれ 13%(2 人)、「2 年」「17 年」がそれぞれ 7%(1 人)だった。

図表5-57　訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数

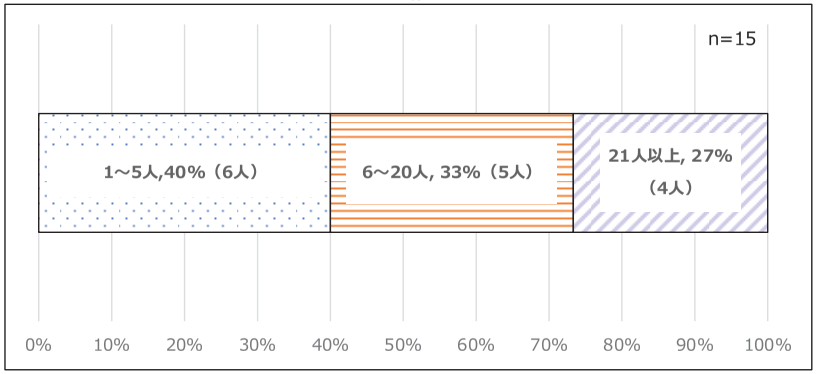


● 「あり」と回答した方 15 人

訪問看護で担当した小児は何人ですか。過去に担当した場合も含めてご回答ください。

「1～5 人」が 40%(6 人)、「6～20 人」が 33%(5 人)、「21 人以上」が 27%(4 人)だった。

図表5-58　訪問看護で担当した小児の人数



（2）各講義について

① てんかん発作について

【到達目標】

・てんかんの原因、診断、治療について理解する

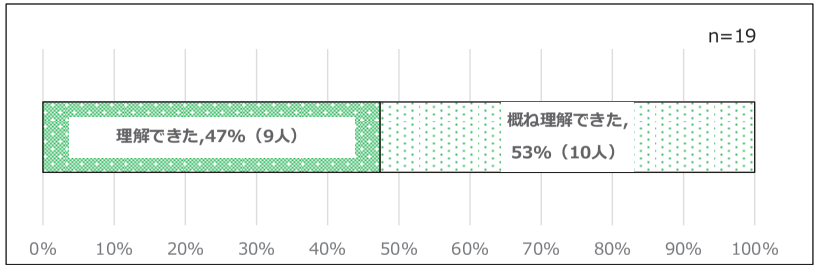
・てんかん発作の観察ポイントについて理解する

・てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 47%(9 人)、「概ね理解できた」が 53%(10 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

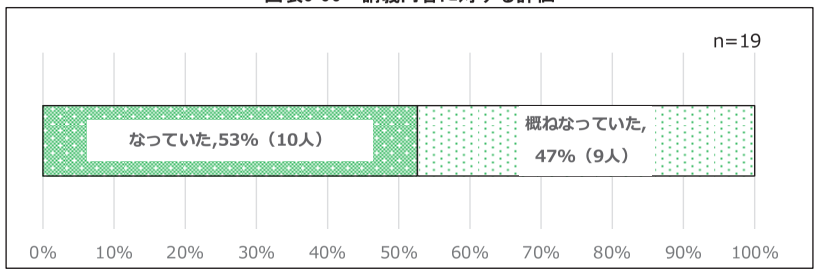
図表5-59講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 53%(10 人)、「概ねなっていた」が 47%(9 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-60　講義内容に対する評価



② 睡眠障害について

【到達目標】

・睡眠のメカニズムについて理解する

・睡眠障害のメカニズムについて理解する

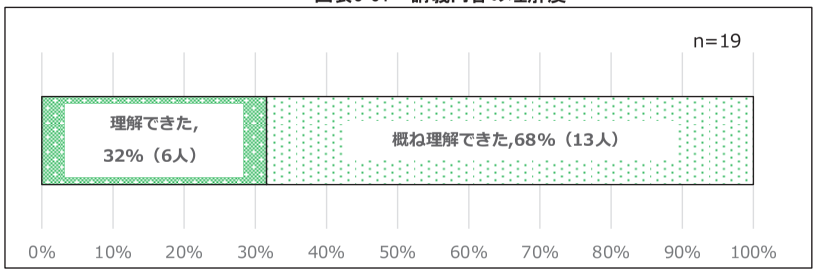
・睡眠障害の治療について理解する

・睡眠障害への援助方法について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 32%(6 人)、「概ね理解できた」が 68%(13 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

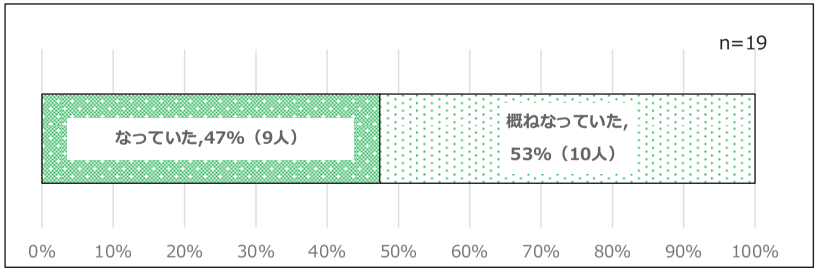
図表5-61　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 47%(9 人)、「概ねなっていた」が 53%(10 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-62　講義内容に対する評価



③ 耳鼻科疾患について学ぶ

【到達目標】

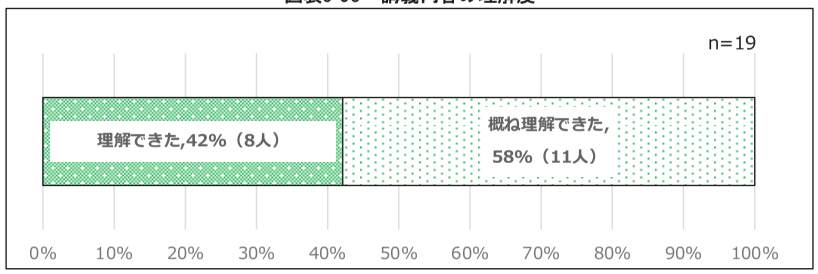
・耳鼻科疾患について理解する

・耳鼻科疾患の治療について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 42%(8 人)、「概ね理解できた」が 58%(11 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

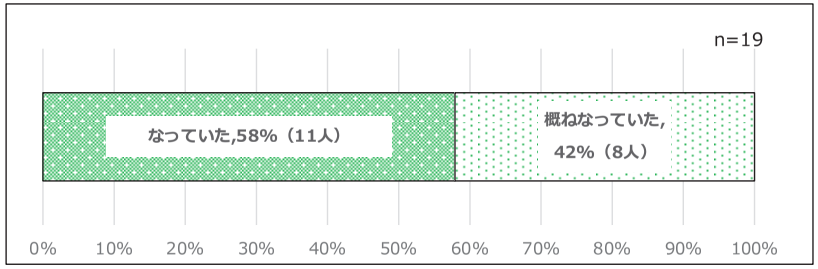
図表5-63　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 58%(11 人)、「概ねなっていた」が 42%(8 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-64　講義内容に対する評価



④ 眼の機能・眼科疾患について学ぶ

【到達目標】

・眼の機能を理解する

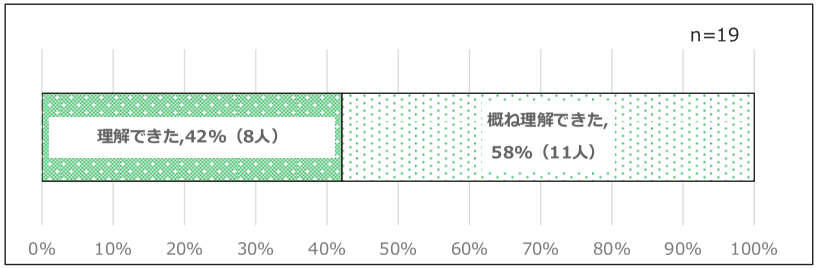
・眼科疾患について理解する

・眼科疾患の治療について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち、「理解できた」が 42%(8 人)、「概ね理解できた」が 58%(11 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

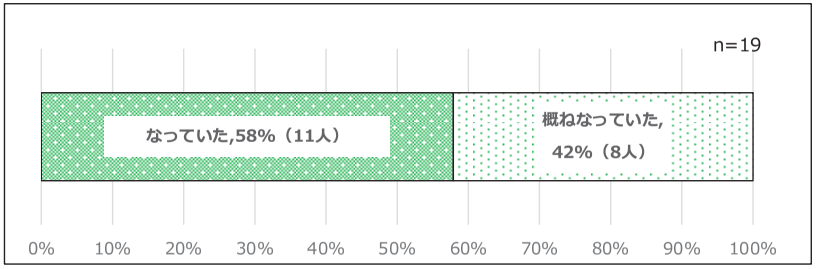
図表5-65　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 58%(11 人)、「概ねなっていた」が 42%(8 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-66　講義内容に対する評価



⑤ 発達障害の理解と対応

【到達目標】

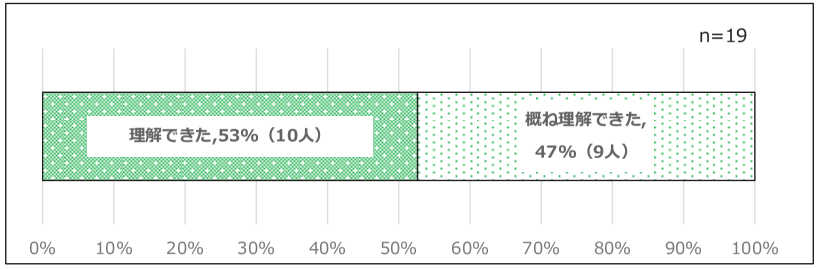
・発達障害の原因、分類が理解できる

・発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち、「理解できた」が 53%(10 人)、「概ね理解できた」が 47%(9 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

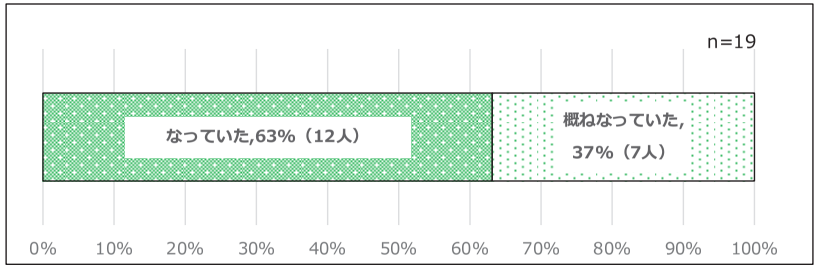
図表5-67　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 63%(12 人)、「概ねなっていた」が 37%(7 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-68　講義内容に対する評価



⑥ 児童相談所の機能と役割について

【到達目標】

・児童相談所の機能・役割がわかる

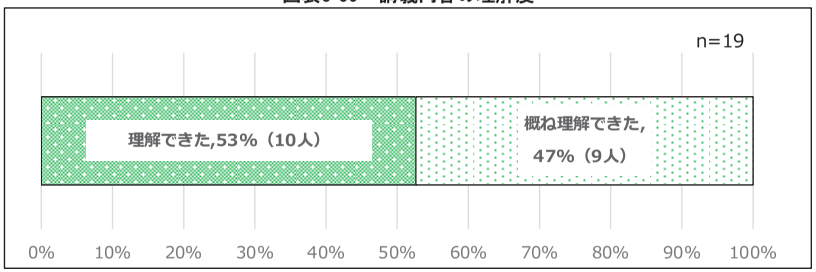
・小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる

・小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 53%(10 人)、「概ね理解できた」が 47%(9 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

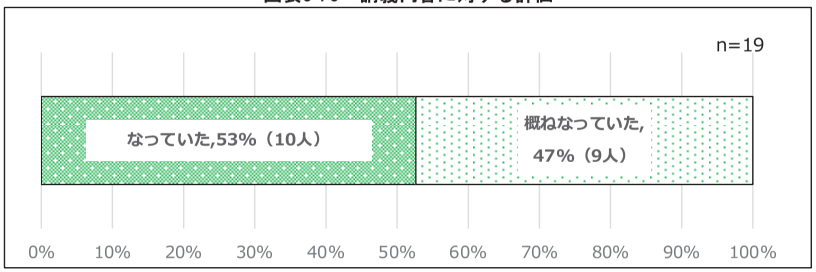
図表5-69　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 53%(10 人)、「概ねなっていた」が 47%(9 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-70　講義内容に対する評価



⑦ 特別支援学校における看護の役割について

【到達目標】

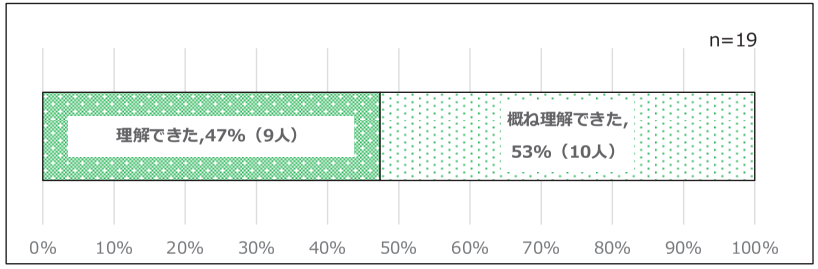
・特別支援学校の機能・役割について理解できる

・学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 47%(9 人)、「概ね理解できた」が 53%(10 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

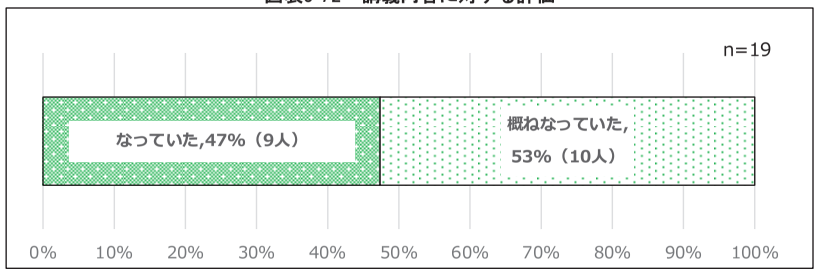
図表5-71　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 47%(9 人)、「概ねなっていた」が 53%(10 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-72　講義内容に対する評価



⑧ 福祉用具・装具について

【到達目標】

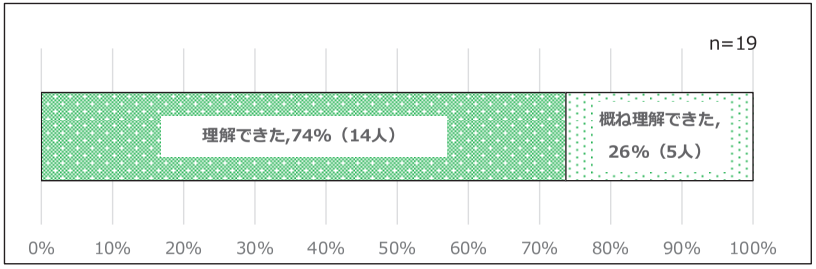
・福祉用具の特徴について理解する

・用具を装着する際の注意点について理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 74%(14 人)、「概ね理解できた」が 26%(5 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

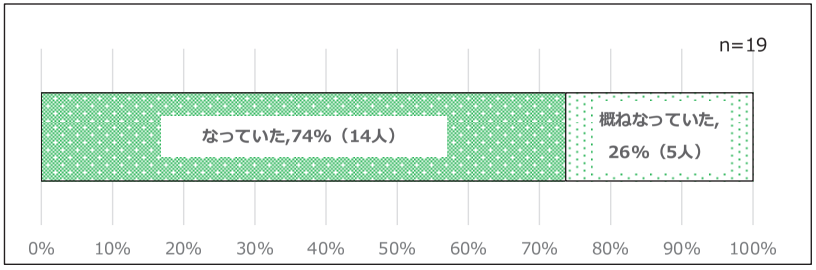
図表5-73　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 74%(14 人)、「概ねなっていた」が 26%(5 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-74　講義内容に対する評価



⑨ 最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向

【到達目標】

・子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる

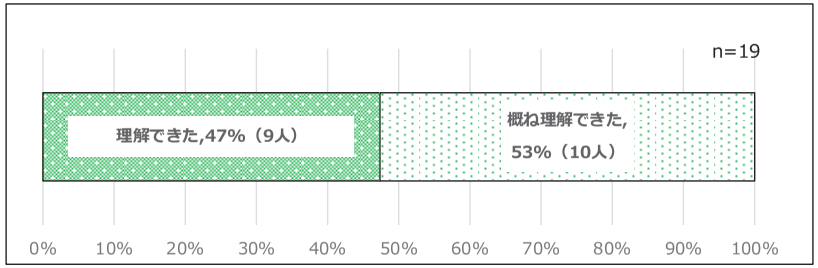
・重症心身障害児の医療について理解できる

・小児訪問看護における看護の課題を検討できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 47%(9 人)、「概ね理解できた」が 53%(10 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

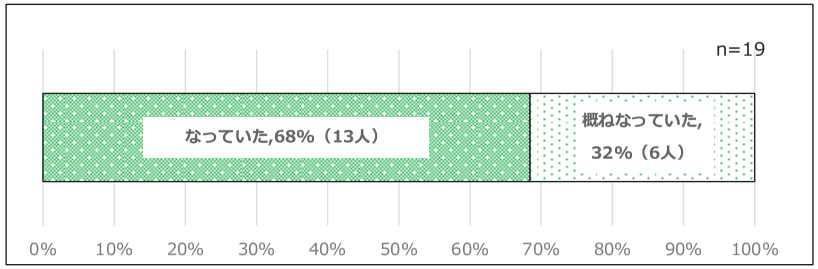
図表5-75　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 68%(13 人)、「概ねなっていた」が 32%(6 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

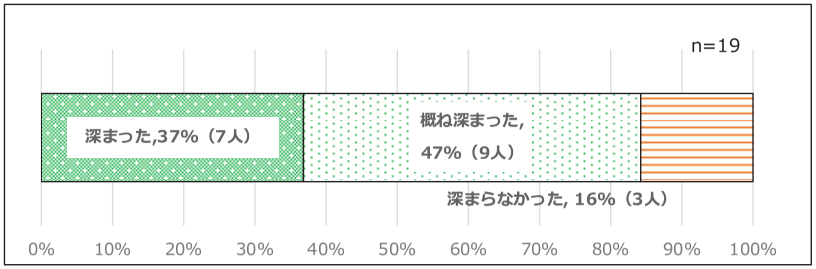
図表5-76　講義内容に対する評価



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」が 37%(7 人)で、「概ね深まった」が 47%(9 人)、「深まらなかった」が 16%(3 人)だった。

図表5-77　グループワークで学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
小児経験豊富な看護師さんの実践的なところでの意見をきけたので良かった。
他のステーションの現状や課題などを知り、問題を共有することで勉強になった。支援相談員さんともっとコミュニケーションをとり、医療の理解度など把握し協力して生かしていく大切さも学べた。
それぞれの利用者さんとの関わりがわかり、参考になった。
在宅小児看護での疑問や不安が共有できて良かった。みんな悩んで看護している事も分かり安心した。
県外の訪問看護ステーションの動向を知り、自分のステーションでもマニュアルを作ってみようと思った。
各事業所の状況や情報を共有し、自身のケアを振り返ることができた。
他のステーションや地域での小児訪問看護の現状や課題について共有することができた。
概ね深まった
他のステーションの現状を知ることができた。
グループワークを通して他ステーションと困り事を共有したり情報を得ることで、今後の訪問のヒントとなることが多く学び得られた。 今後、グループワークに看護師だけでなく他職種（相談支援員の方など）にも参加していただき、その実際・現状も知りたいと思った。
オンラインでの実施だった為、１人１人の発言にやや時間がかかってしまい少し時間が足りないと感じたが、それぞれの地域の違いなども聞く事ができた。講義の内容はとてもわかりやすかった。
グループワークで様々な活動内の困りごとを聞き、なかなか解決できない現状があることが分かった。研修ですべて解決の糸口が見つけられたわけではなかったので、概ねとした。

児童相談所や相談員の方と連携を取る事で、患児やご家族の理解を得られ、ケアにいかせていける事を学んだ。
オンラインでのグループワークに慣れていないので話しにくかった。
それぞれの経験談や現在抱えている悩みを聞くことができ、課題に役立つものだった。
他の訪問看護ステーションでの小児の関わりなど知る事ができ有益だった。
自分の悩みや解決方法などほかの事業所の方に聞く事が出来た。また現在の状況を共有することができたことで学びを深めることができた。
深まらなかった
グループワークの時にどうしても対応しなければいけない訪問が入り、ちょうどグループワークの時に抜けてしまった。
グループワークの時間が少なくて、意見が少なかったように思った。

⑩ 小児リハビリテーション

【到達目標】

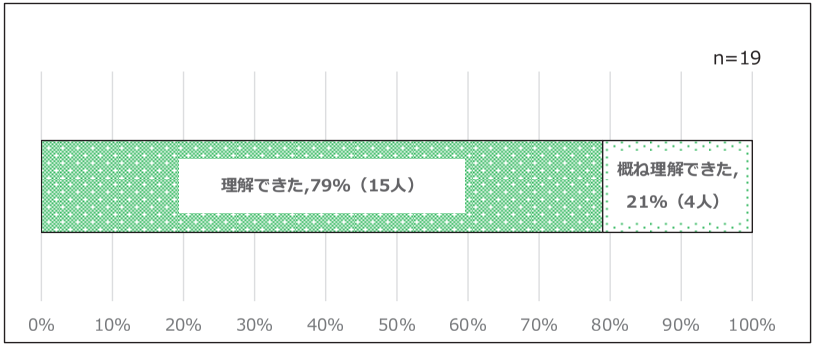
・筋緊張のケア（リラクゼーション、ポジショニング等）を理解できる

・ROM エクササイズの内容が理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 19 人のうち「理解できた」が 79%(15 人)、「概ね理解できた」が 21%(4 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

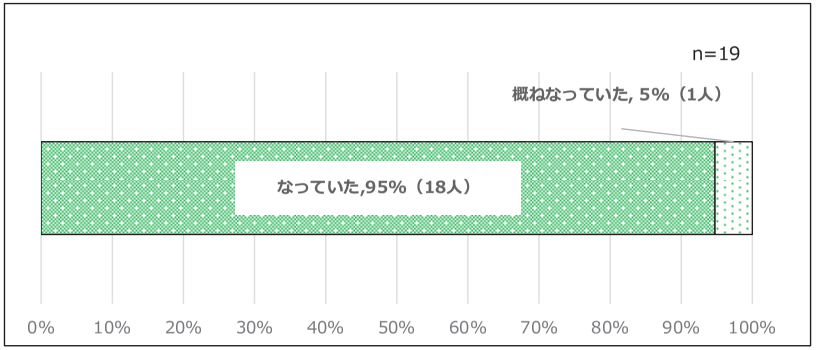
図表5-78　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 95%(18 人)、「概ねなっていた」が 5%(1 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

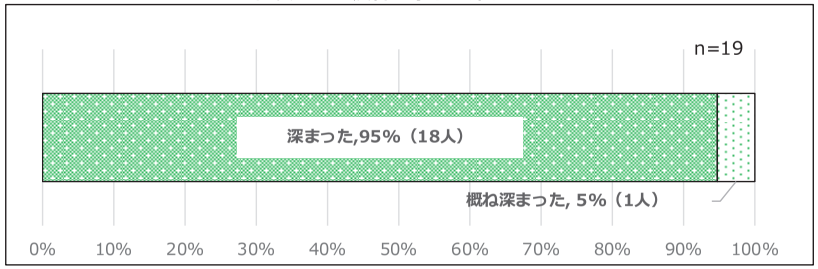
図表5-79　講義内容に対する評価



● 演習で学びが深まりましたか。

「深まった」が 95%(18 人)で、「概ね深まった」が 5%(1 人)、「深まらなかった」の回答はいなかった。

図表5-80　演習で学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
セラピストが常勤しているステーションで、小児もセラピストの訪問に任せることが多く、今回の講義で看護師が関わることの重要性がわかり、今後関わることができる自信になった。
知識不足でったことが補われた。根拠をもって訪問看護にあたれると感じた。
時間があっという間に過ぎてしまうくらいの面白くわかりやすい講義だった。オンラインでなく対面でありがたかった。 サポートしてくれる先生方が手厚くいたため実技においても満足。
短い時間で先生がなるべく多くの事を学べるように講義をしてくださりとても勉強になった。実技で学ぶ事ができ、具体的な体験ができたのでわかりやすかった。
実際に体験してみて今まで行っていたポジショニングの方法が間違いだったと痛感した。できていると思っていても、余計筋緊張を与えていたり、意味がないポジショニングだったのだとわかった。今回は時間が短かったが、低緊張の子のポジショニングなどもっとたくさん教えていただきたかった。
今まで体験した事が無い項目だったので、これからの看護に多いに活かせると思った。
小児リハビリの看護を集中して講義、演習して頂き、納得する事も多く、今後に活かしていきたいと思った。
ランドマークを理解することで、個々の良肢位を考える事の大切さがわかった。運動で情緒面の刺激をすることなど、成長に大きく関わる事も学べた。ポジショニングでの体験は、安心感も体感でき現場で導入したいと思った。
小児の ROM を実践することが今までなかったので、体験する事ができてよかった。
実際に実技で学ぶことができ、すぐに取り入れられる内容だった。

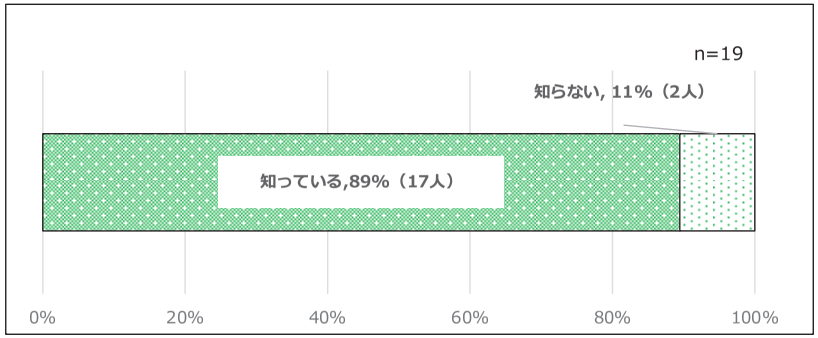
短い時間ではあったが、自分自身で緊張状態とはどんな状態で、どんな苦痛があるのかが体験できたことで、児の姿勢やポジショニングのアセスメントが大切であると感じた。
実際に自分が体感することで学びが深まった。
実際に身体を動かし実演して解る事が多くあった。
リハビリについて体験でき、とても参考になった。
演習で、実際に ROMex の方法を学び、体験することができた。正しい方法で行うと心地よく感じることが分かり、ぜひ今回学んだ方法を実践していきたいと思った。
重心児や呼吸器を使用して在宅で過ごす小児を受け持っているために、今後の心身の発達に関して有用と感じた。実際自ら経験することで効果を実感することができた。
とても楽しく演習に参加できた。もっと時間があればよかった。
概ね深まった
時間が少なかった リハビリの先生の人数がもう少し多いと良いと思った

（3）小児訪問看護研修会のプログラムについて

①小児訪問看護研修会のプログラムは、5 つの編により構成されていることを知っているか

回答者 19 人のうち、「知っている」が 89%（17 人）、「知らない」が 11%（2 人）であった。

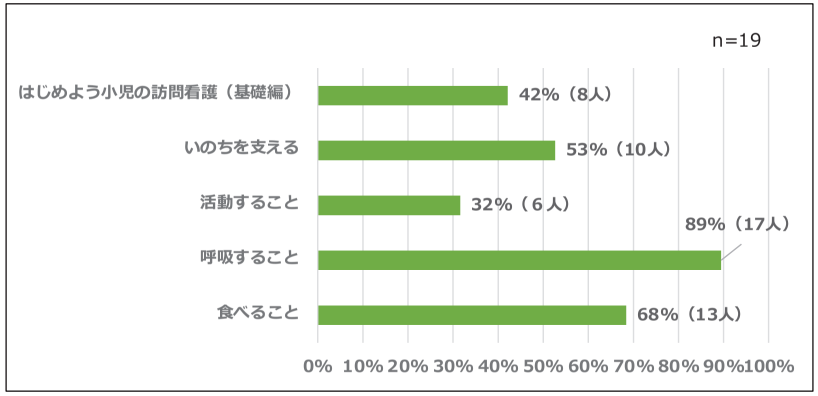
図表5-81　講義内容の理解度



② 5 つの編で興味のある研修はどれか

最も多かったのが「呼吸すること」で 89%(17 人)、次いで「食べること」が 68%(13 人)、「いのちを支える」が 53%(10 人)、「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」が 42%(8 人)、「活動すること」が 32%(6 人)だった。

図表5-82　興味のある研修（複数回答）



● 興味のある５つの編のうち、具体的内容について上位３つまで尋ねた。

１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」の中で興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)」が 17 点と最も多く、次いで「小児訪問看護の実際」「重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応」がそれぞれ 8 点だった。

図表5-83　「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容(n=8)

興味のある研修内容	得点
子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	17
小児訪問看護の実際	8
重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	8
骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	7
診療所が実施する小児在宅医療の実際	3
小児看護の現状と課題	3
脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-84　「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（内訳）(n=8)

	興味のある研修内容	人数
１位	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	4
	骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	2
	小児訪問看護の実際	1
	診療所が実施する小児在宅医療の実際	1
２位	小児訪問看護の実際	2
	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	2
	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	2
	小児看護の現状と課題	1
	脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	1
３位	重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	4
	小児訪問看護の実際	1
	小児看護の現状と課題	1
	骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	1
	子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	1

「いのちを支える」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「家族の思いに寄り添う看護(グループワーク･ロールプレイあり)」が 22 点と最も多く、次いで「終末期にある重症心身障害児 者の医療と看護(グループワークあり)」が 15 点、「他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)」が 8 点だった。

図表5-85　「いのちを支える」における興味のある研修内容(n=10)

興味のある研修内容	得点
家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	22
終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	15
他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	8
子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク）	7
急変時の対応（演習あり）	6
小児がんについて	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-86　「いのちを支える」における興味のある研修内容（内訳）(n=10)

	興味のある研修内容	人数
１位	家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	5
	終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	2
	急変時の対応（演習あり）	2
	他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	1
２位	終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	3
	家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	3
	子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	2
	小児がんについて	1
	他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	1
３位	終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	3
	他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	3
	子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	3
	家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	1

「活動すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「てんかん発作について」が 11 点と最も多く、次いで「小児リハビリテーション（演習あり）」が 8 点、「発達障害の理解と対応」が 7 点だった。

図表5-87　「活動すること」における興味のある研修内容（n=6）

興味のある研修内容	得点
てんかん発作について	11
小児リハビリテーション（演習あり）	8
発達障害の理解と対応	7
最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	4
福祉用具	2
特別支援学校における看護の役割について	2
目の機能・眼科疾患について	1
児童相談所の機能と役割について	1
睡眠障害について	0
耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	0

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-88　「活動すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=6）

	興味のある研修内容	人数
１位	てんかん発作について	3
	最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	1
	発達障害の理解と対応	1
	小児リハビリテーション（演習あり）	1
２位	小児リハビリテーション（演習あり）	2
	てんかん発作について	1
	発達障害の理解と対応	1
	福祉用具	1
	特別支援学校における看護の役割について	1
３位	発達障害の理解と対応	2
	最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	1
	目の機能・眼科疾患について	1
	小児リハビリテーション（演習あり）	1
	児童相談所の機能と役割について	1

「呼吸すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）」が 34 点と最も多く、次いで「呼吸障害の看護について（演習あり）」が 25 点、「人工呼吸器の基礎（演習あり）」が 16 点だった。

図表5-89　「呼吸すること」における興味のある研修内容（n=17）

興味のある研修内容	得点
呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	34
呼吸障害の看護について（演習あり）	25
人工呼吸器の基礎（演習あり）	16
呼吸障害について	9
在宅生活を支える制度や社会資源について	9
循環器について	5
心疾患（心奇形）について	4
児童相談所の役割について	0

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-90　「呼吸すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=17）

	興味のある研修内容	人数
１位	呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	10
	呼吸障害の看護について（演習あり）	4
	呼吸障害について	1
	人工呼吸器の基礎（演習あり）	1
	在宅生活を支える制度や社会資源について	1
２位	呼吸障害の看護について（演習あり）	5
	人工呼吸器の基礎（演習あり）	5
	呼吸障害について	2
	循環器について	2
	心疾患（心奇形）について	1
	呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	1
	在宅生活を支える制度や社会資源について	1
３位	在宅生活を支える制度や社会資源について	4
	呼吸障害の看護について（演習あり）	3
	人工呼吸器の基礎（演習あり）	3
	呼吸障害について	2
	心疾患（心奇形）について	2
	呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	2
	循環器について	1

「食べること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「摂食嚥下障害について」が 32　点と最も多く、次いで「口腔衛生について（演習あり）」が 11 点、「消化器疾患と栄養障害について」が 10 点であった。

図表5-91　「食べること」における興味のある研修内容（n=13）

興味のある研修内容	得点
摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	32
口腔衛生について（演習あり）	11
消化器疾患と栄養障害について	10
摂食嚥下障害について	8
相談支援と連携	6
排便障害について	4
排尿障害について	4
重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	3

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-92　「食べること」における興味のある研修内容（内訳）（n=13）

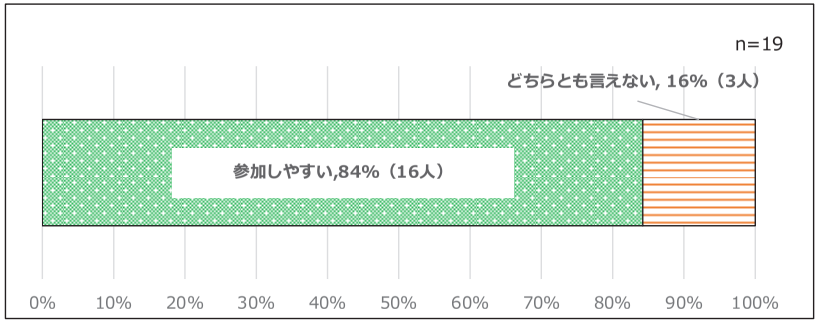
	興味のある研修内容	人数
１位	摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	9
	摂食嚥下障害について	2
	排尿障害について	1
	相談支援と連携	1
２位	口腔衛生について（演習あり）	5
	消化器疾患と栄養障害について	4
	摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	2
	重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1
	排便障害について	1
３位	相談支援と連携	3
	消化器疾患と栄養障害について	2
	排便障害について	2
	摂食嚥下障害について	2
	重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1
	排尿障害について	1
	摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	1
	口腔衛生について（演習あり）	1

（４）研修会の開催方法について

① オンデマンド配信による研修について

「参加しやすい」が 84%(16 人)、「どちらともいえない」が 16%(3 人)、「参加しにくい」はいなかった。

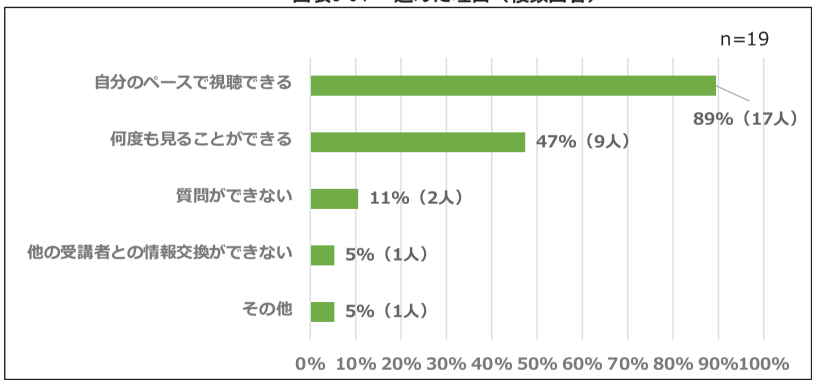
図表5-93　オンデマンド配信による研修の参加しやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

最も多かったのは「自分のペースで視聴できる」89%(17 人)、次いで「何度も見ることができる」が 47%(9 人)、「質問ができない」が 11%(2 人)、「他の受講者との情報交換ができない」「その他」がそれぞれ 5%(1 人)だった。

図表5-94　選んだ理由（複数回答）



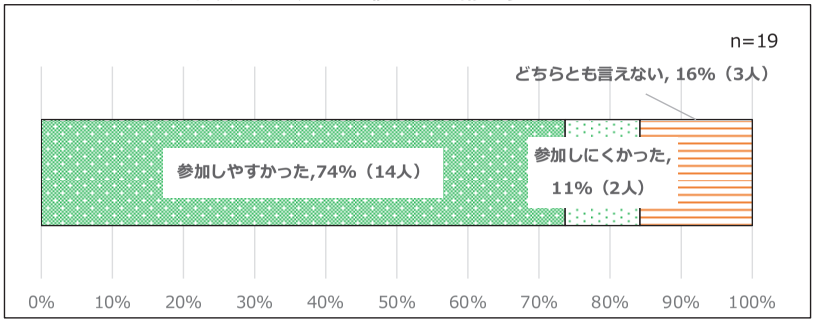
【その他内容】

・仕事しながら試聴しなければならなくて時間に余裕がなく、まとめて見れなかったことが多かった。

② ライブ配信による研修について

「参加しやすかった」が 74%(14 人)、「どちらともいえない」が 16%(3 人)、「参加しにくかった」が 11%(2 人)だった。

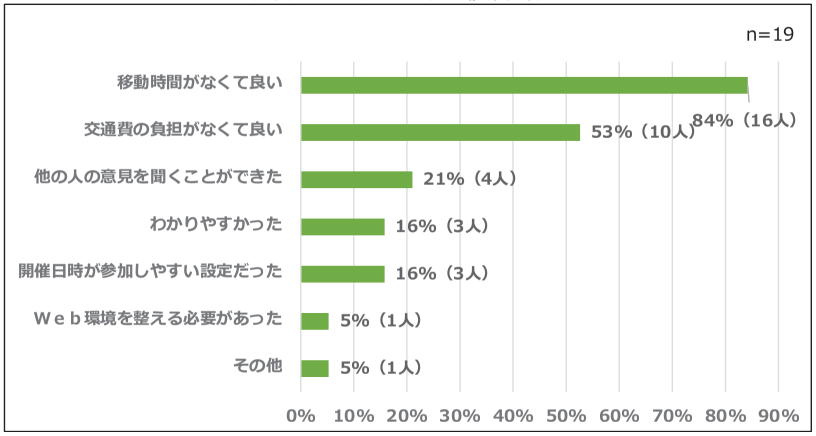
図表5-95　ライブ配信による研修の参加しやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「移動時間がなくて良い」が 84%(16 人)、「交通費の負担がなくて良い」が 53%(10 人)、「他の人の意見を聞くことができた」21%(4 人)、「わかりやすかった」「開催日時が参加しやすい設定だった」がそれぞれ 16%(3 人)、「Web環境を整える必要があった」「その他」がそれぞれ 5%(1 人)だった。

図表5-96　選んだ理由（複数回答）



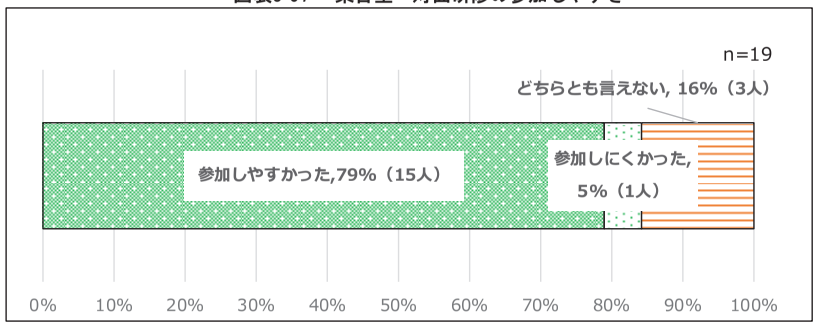
【その他内容】

・休みを取っても、遠方にいるわけではないので、何かあると訪問にかりだされてしまうから集中できない上、途中から退席する結果になりやすい。

③ 集合型・対面研修について

「参加しやすかった」が 79%(15 人)、「どちらともいえない」が 16%(3 人)、「参加しにくかった」が 5%(1 人)だった。

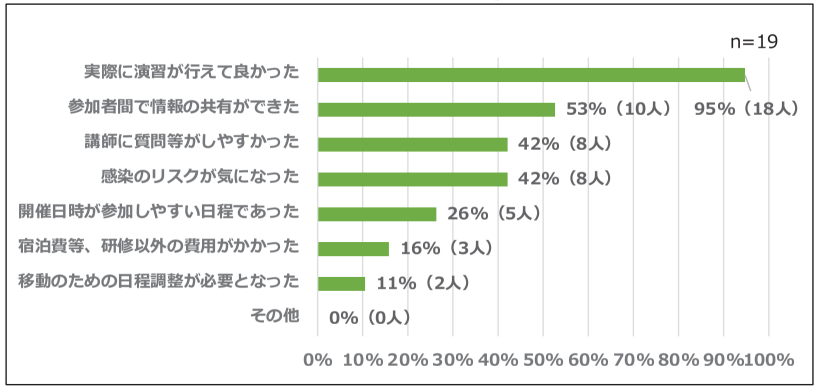
図表5-97　集合型・対面研修の参加しやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「移動時間がなくて良い」が 95%(18 人)、「参加者間で情報の共有ができた」が 53%(10 人)、「講師に質問等がしやすかった」「感染のリスクが気になった」がそれぞれ 42%(8 人)、「開催日時が参加しやすい設定だった」が 26%(5 人)、「宿泊費等、研修以外の費用がかかった」が 16%(3人)、「移動のための日程調整が必要となった」が 11%(2人)だった。

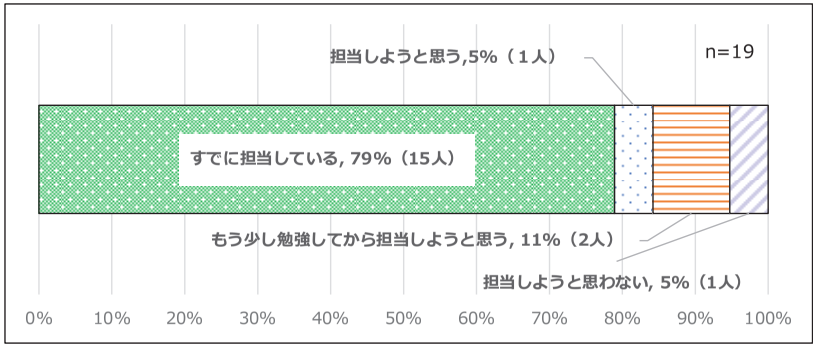
図表5-98　選んだ理由（複数回答）



（5）今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか

「すでに担当している」が 67%(10 人)、「担当しようと思う」が 27%(4 人)、「もう少し勉強してから担当しようと思う」が 7%(1人)、「担当しようと思わない」の回答はいなかった。

図表5-99　今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか



【「もう少し勉強してから担当しようと思う」「担当しようと思わない」と回答した方の理由】

・訪問している地域では、小児訪問を昔から行っているステーションがあり、症例の依頼が来ない状態。いつでも対応できるように勉強を継続していきたい。

● その他のご意見（自由記載）

オンデマンドの研修が期間内に何度も見直すことができてよかった。理学療法士による演習は実践的でよい学びになった。
今回の研修は各論で学習できて、今後の訪問看護のために大変よかった。PartⅣ.Ⅴもぜひ参加したいと思う。
はじめてのオンデマンドやオンラインを使った研修会だったので、わからないことも多かったがやりやすかった。演習はやっぱり実際に行ってもらえてわかりやすかった。今後もリハビリについての講義をもっと聞いてみたいと思った。
同レベルの演習が東京ではなくて各地域でも開催できるようにして欲しい。
現場での相談機関や情報交換の場がタイムリーで欲しい。
わかりやすく、丁寧な講義、講習会を開催していただき、ありがとうございます。
メールトラブルがあり通知が来なかったりトラブルがあった。今後の研修ではメール環境の指定など行っていただければありがたいと思う。

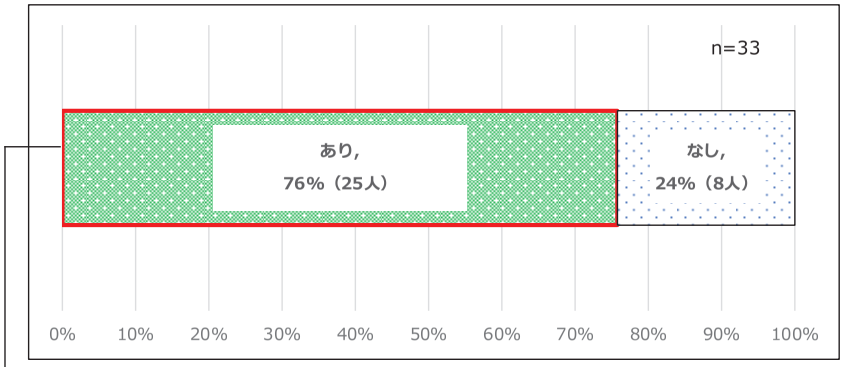
4）呼吸すること

（1）回答者属性について

① 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験

回答者 33 人のうち、「あり」が 76%(25 人)、「なし」24%(8 人)だった。

図表5-100　今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか

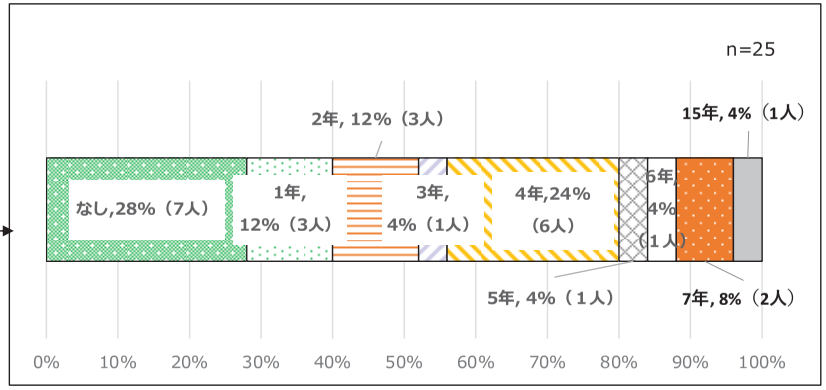


● 「あり」と回答した方 25 人

医療機関における小児看護の経験年数について教えください。

「経験なし」が 28%(7 人)、「1年」「2年」がそれぞれ 12%(3 人)、「4 年」が 24%(6 人)、「7 年」が 8%(2 人)、「3 年」「5 年」「6 年」「15 年」はそれぞれ 4%(1 人)だった。

図表5-101　医療機関における小児看護の経験年数

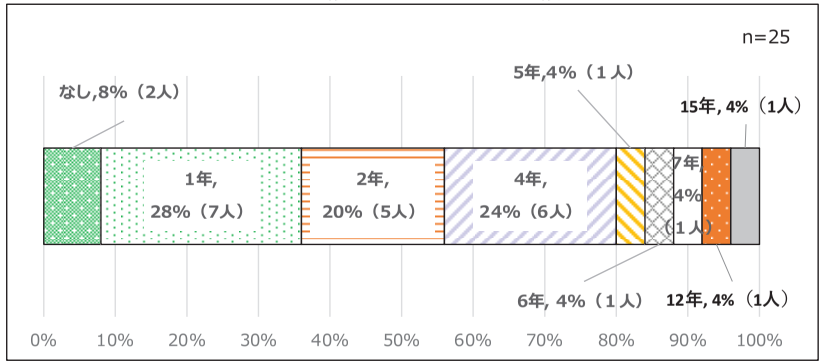


● 「あり」と回答した方 25 人

訪問看護事業所における小児看護の経験年数について教えください。

「経験なし」が 8%(2 人)、「1年」が 28%(7 人)、「2年」が 20%(5 人)、「4年」が 24%(6 人)、「5 年」「6 年」「7 年」「12 年」「15 年」はそれぞれ 4%(1人)だった。

図表5-102 訪問看護事業所における小児看護の経験年数

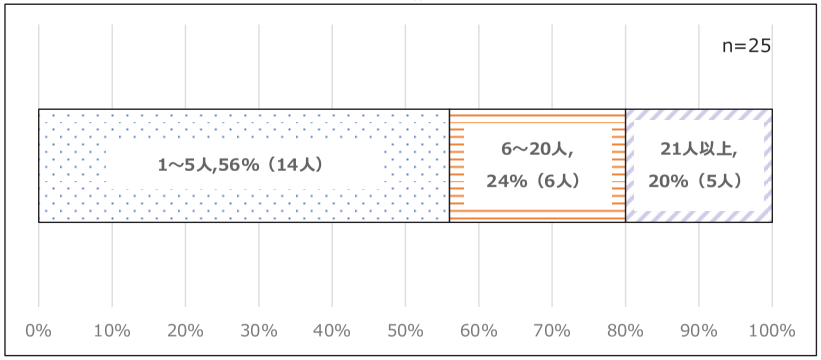


● 「あり」と回答した方 25 人

訪問看護で担当した小児は何人ですか。過去に担当した場合も含めてご回答ください。

「1～5 人」が最も多く 56%(14 人)、「6～20 人」が 24%(6 人)、「21 人以上」が 20%(5 人)だった。

図表5-103 訪問看護で担当した小児の人数



（2）各講義について

① 呼吸障害について

【到達目標】

・呼吸のメカニズムを理解する

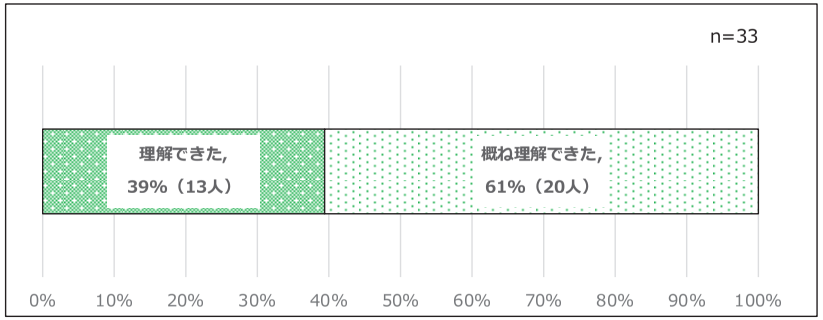
・呼吸障害のメカニズムを理解する

・呼吸障害に対する治療について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち「理解できた」が 39%(13 人)、「概ね理解できた」が 61%(20 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

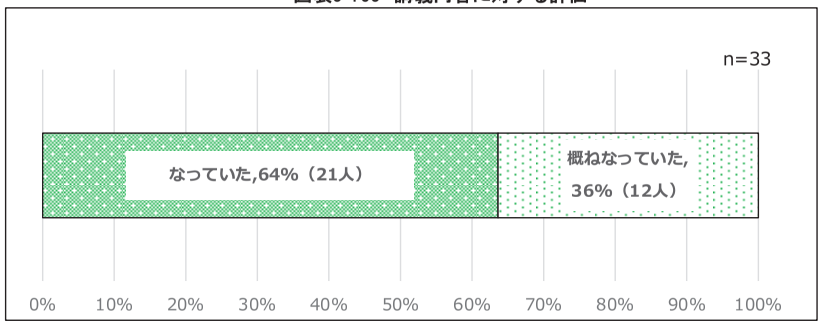
図表5-104 講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 64%(21 人)、「概ねなっていた」が 36%(12 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-105 講義内容に対する評価



② 心疾患（心奇形）について

【到達目標】

・先天性心疾患について理解する

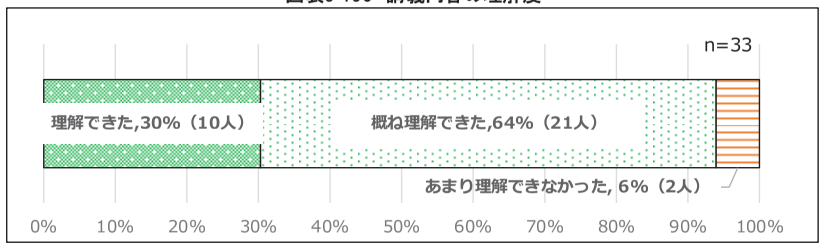
・先天性心疾患の治療方法について理解する

・先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち「理解できた」が 30%(10 人)、「概ね理解できた」が 64%(21 人)、「あまり理解できなかった」6%(2 人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-106 講義内容の理解度



【「あまり理解できなかった」と回答した方の理由】

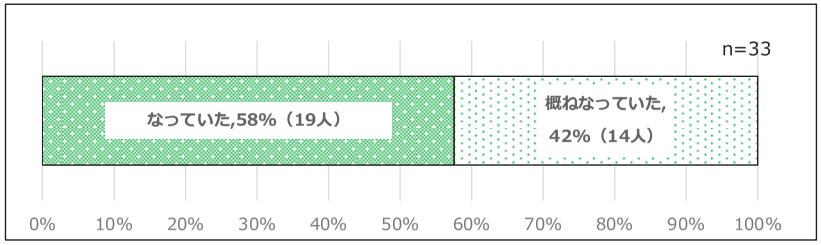
・1 回の視聴で理解することが難しかった。

・循環器が苦手のため難しく感じた。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 58%(19 人)、「概ねなっていた」が 42%(14 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-107 講義内容に対する評価



③ 循環器について

【到達目標】

・循環器を理解する

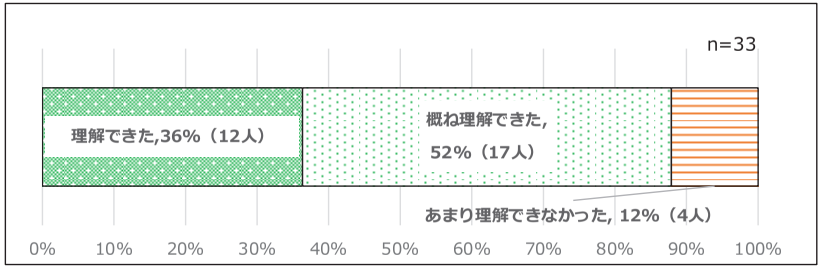
・循環器疾患について理解する

・循環器疾患の治療方法について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち「理解できた」が 36%(12 人)、「概ね理解できた」が 52%(17 人)、「あまり理解できなかった」が 12%(4 人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-108 講義内容の理解度



【「あまり理解できなかった」と回答した方の理由】

・1 回の視聴で理解することが難しかった。

・循環器が苦手のため難しく感じた。

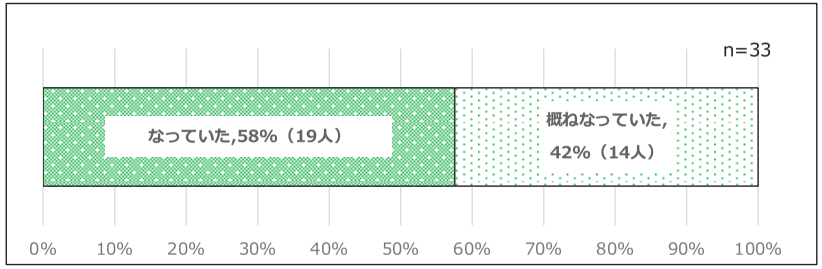
・心電図が難しかった。

・小児循環器の経験がないため難しかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 58%(19 人)、「概ねなっていた」が 42%(14 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-109 講義内容に対する評価



④ 呼吸障害の理解と肺理学療法

【到達目標】

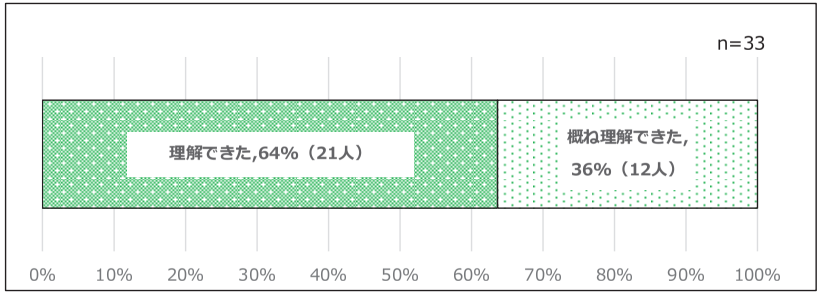
・呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントができる

・効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち、「理解できた」が 64%(21 人)、「概ね理解できた」が 36%(12 人)、「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」の回答はいなかった。

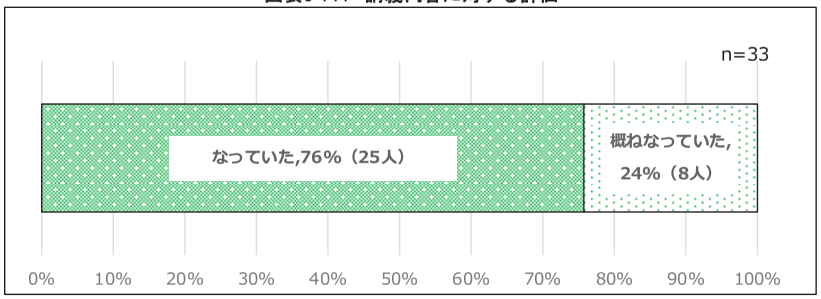
図表5-110 講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 76%(25 人)、「概ねなっていた」が 24%(8 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

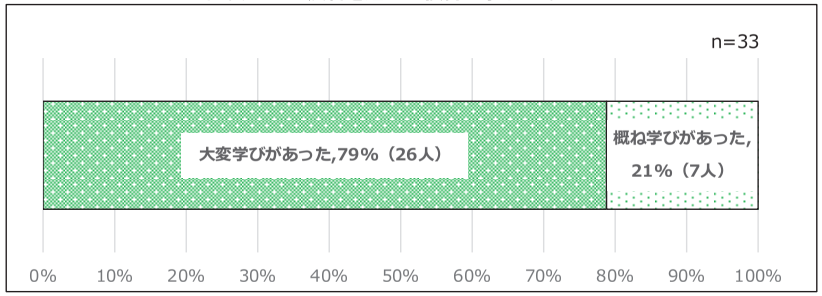
図表5-111 講義内容に対する評価



● 演習を通して、技術の学びがありましたか。

回答者 33 人のうち、「大変学びがあった」が 79%(26 人)、「概ね学びがあった」が 21%(7 人)、「学びはなかった」の回答はいなかった。

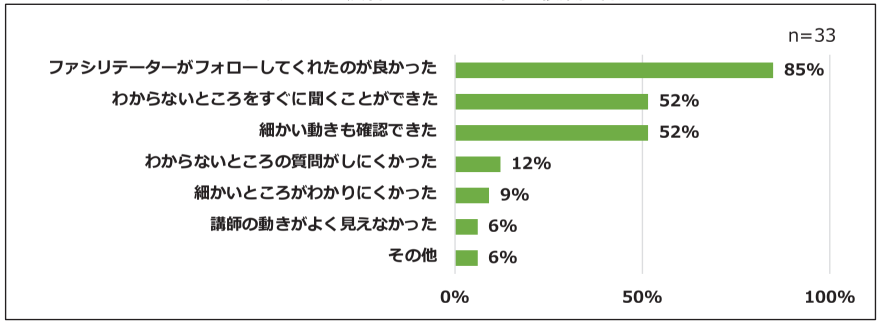
図表5-112 演習を通して技術の学びがあったか



● 演習についての意見（複数回答）

「ファシリテーターがフォローしてくれたのが良かった」が 85%(28 人)、「わからないところをすぐに聞くことができた」「細かい動きも確認できた」がそれぞれ 52%(17 人)、「わからないところの質問がしにくかった」12%(4人)、「細かいところがわかりにくかった」9%(3 人)、「講師の動きがよく見えなかった」「その他」がそれぞれ 6%(2人)だった。

図表5-113 演習についての意見（複数回答）



【その他の内容】

・もう少し質問の時間がほしかった。

・実技の習得には時間が足りなかった。

⑤ 呼吸障害の看護について

【到達目標】

・呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる

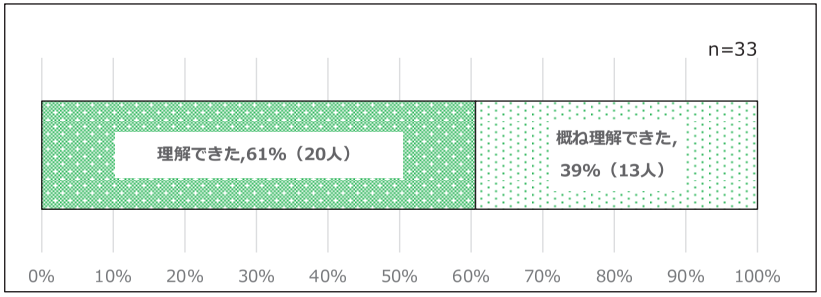
・ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる

・安楽に呼吸するための援助方法が理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち、「理解できた」が 61%(20 人)、「概ね理解できた」が 39%(13 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

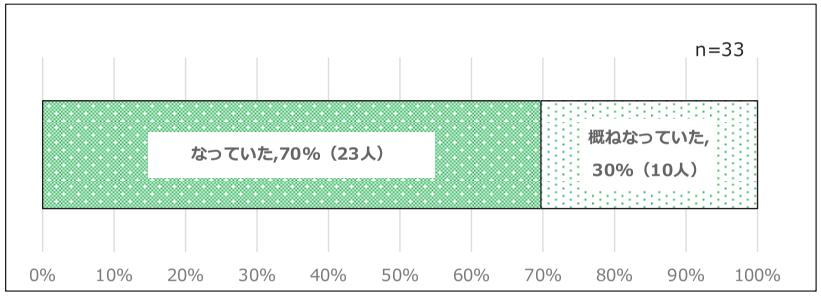
図表5-114 講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 70%(23 人)、「概ねなっていた」が 30%(10 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

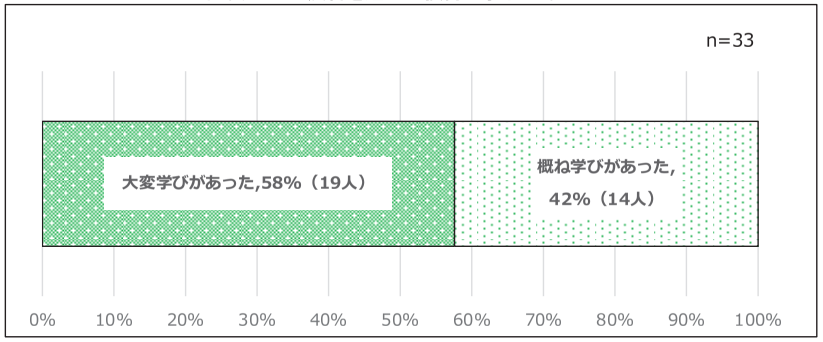
図表5-115 講義内容に対する評価



● 演習を通して、技術の学びがありましたか。

「大変学びがあった」58%(19 人)、「概ね学びがあった」42%(14 人)、「学びはなかった」の回答はいなかった。

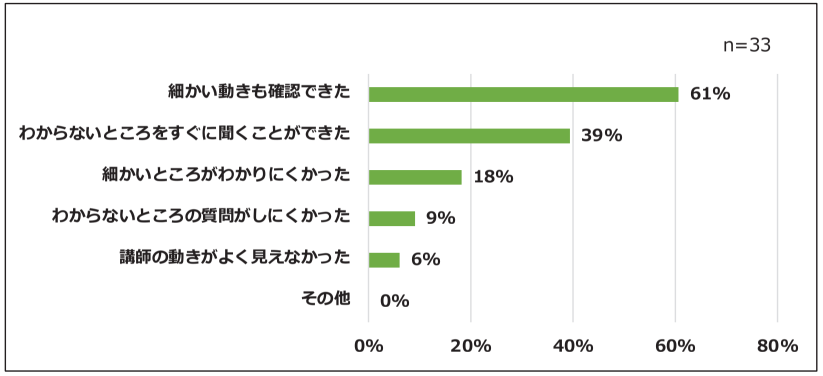
図表5-116 演習を通して技術の学びがあったか



● 演習についての意見（複数回答）

「細かい動きも確認できた」が 61%(20 人)、「わからないところをすぐに聞くことができた」が 39%(13 人)、「細かいところがわかりにくかった」18%(6 人)、「わからないところの質問がしにくかった」9%(3 人)、「講師の動きがよく見えなかった」6%(2 人)だった。

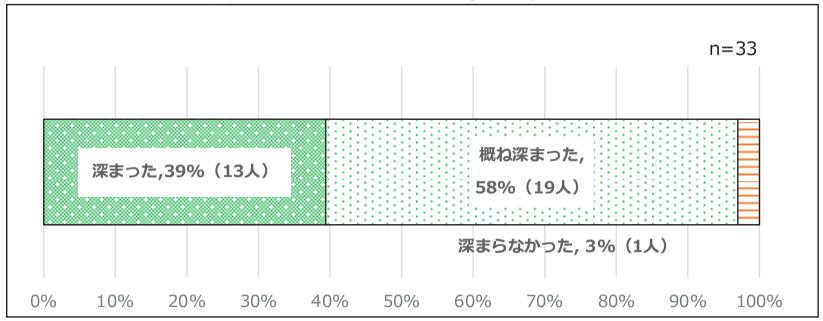
図表5-117 演習についての意見（複数回答）



● グループワークで、学びは深まりましたか。

「深まった」が 39%(13 人)、「概ね深まった」が 58%(19 人)、「深まらなかった」が 3%(1 人)だった。

図表5-118　グループワークで学びは深まったか



● 上記を選んだ理由

深まった
・普段抱える不安や悩みが共有でき今後について考えることができた。(6)
・様々な視点からの意見が出て、一人では思いつかなかった視点があったり、共感できる視点があったりと学びが多かった。
・演習で実践することで、どう援助したら良いか理解を深めることができた。
・グループワークで実際の看護など聞くことができた。
・他の人の経験を聞くことができた。
概ね深まった
・グループワークの時間が短かった。(8)
・他の意見を聞くことができ学びが多かった。(5)
・自分よりも経験のある看護師も同じ様な悩みを抱えながらケアしていることがわかった。
・直接講師と質問をやりとりできたのが良かった。
・日頃から緊急時の対応を練習しておく必要があると思えた。
深まらなかった
・時間がなかった。

⑥ 人工呼吸器の基礎

【到達目標】

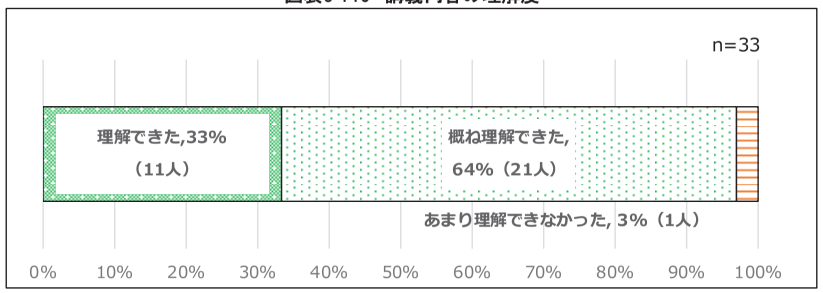
・人工呼吸器の原理が理解できる

・人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち「理解できた」が 33%(11 人)、「概ね理解できた」が 64%(21 人)、「あまり理解できなかった」が 3%(1人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-119　講義内容の理解度



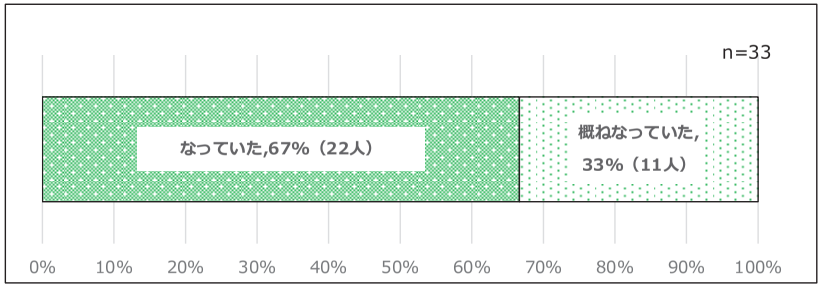
「あまり理解できなかった」と回答した方の理由

・1 回の視聴で理解することが難しかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 67%(22 人)、「概ねなっていた」が 33%(11 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-120　講義内容に対する評価



⑦ 在宅生活を支える制度や社会資源について

【到達目標】

・療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる

・訪問看護師の役割について理解できる

・障害者総合支援法とサービスについて理解できる

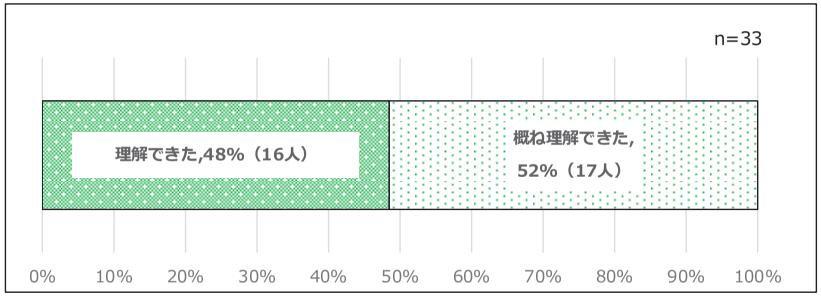
・小児の在宅療養を支援する制度について理解できる

・地域社会の資源の活用について検討できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 33 人のうち「理解できた」が 48%(16 人)、「概ね理解できた」が 52%(17 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

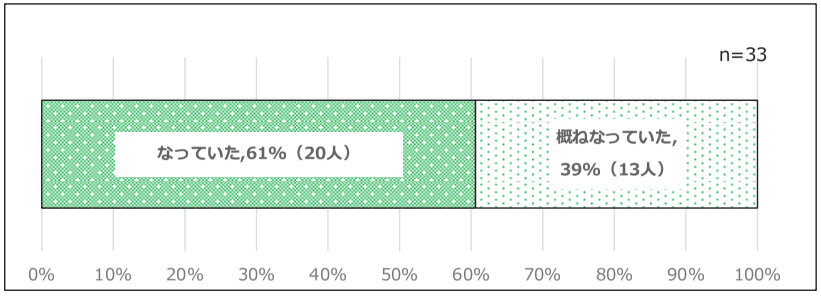
図表5-121　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 61%(20 人)、「概ねなっていた」が 39%(13 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-122　講義内容に対する評価

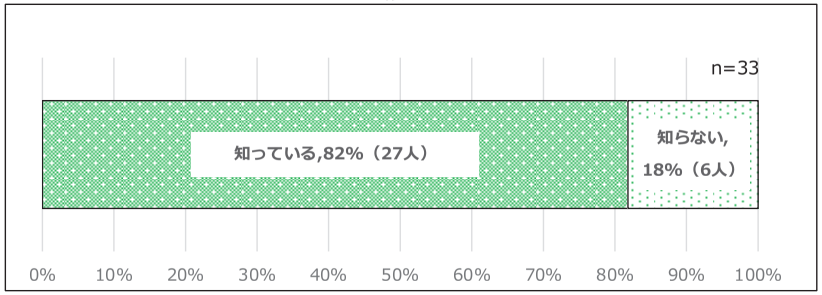


（3）小児訪問看護研修会のプログラムについて

①小児訪問看護研修会のプログラムは、5 つの編により構成されていることを知っているか

回答者 33 人のうち、「知っている」が 82%(27 人)、「知らない」が 18%(6 人)であった。

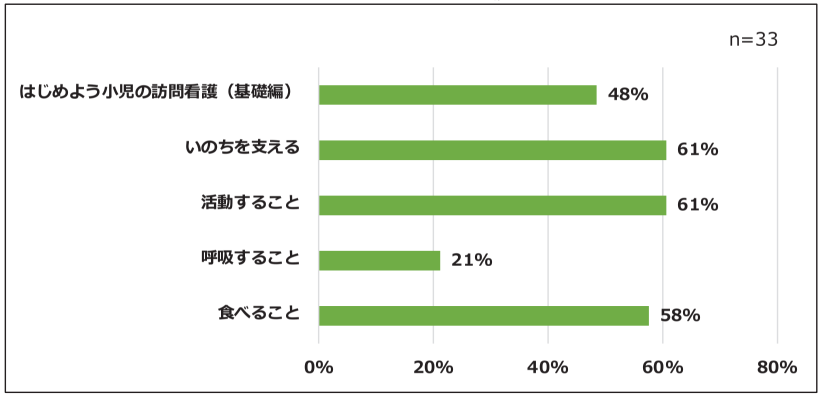
図表5-123　小児訪問看護研修会プログラムの認知度



② 5 つの編で興味のある研修はどれか

最も多かったのが「いのちを支える」「活動すること」でそれぞれ 61%(20 人)、次いで「食べること」 58%(19 人)、「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」が 48%(16 人)、「呼吸すること」が 21%(7 人)だった。

図表5-124　興味のある研修（複数回答）



● 興味のある５つの編のうち、具体的内容について上位３つまで尋ねた。

１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」の中で興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)」が 36 点と最も多く、次いで「重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応」21 点、「脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について」が 17 点だった。

図表5-125　「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容(n=16)

興味のある研修内容	得点
子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	36
重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	21
脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	17
小児訪問看護の実際	9
骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	8
診療所が実施する小児在宅医療の実際	3
小児看護の現状と課題	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（内訳）（n=16）

	興味のある研修内容	人数
１位	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	9
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	3
	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	3
	・骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	1
２位	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	5
	・小児訪問看護の実際	4
	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	3
	・骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	2
	・小児看護の現状と課題	1
	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	1
３位	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	6
	・診療所が実施する小児在宅医療の実際	3
	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	3
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	2
	・小児訪問看護の実際	1
	・骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	1

「いのちを支える」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)」、「家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)」がそれぞれ 37 点、次いで「急変時の対応(演習あり)」が 33 点だった。

図表5-126　「いのちを支える」における興味のある研修内容(n=20)

興味のある研修内容	得点
終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	37
家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	37
急変時の対応（演習あり）	33
他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	7
小児がんについて	4
子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク）	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-127　「いのちを支える」における興味のある研修内容（内訳）(n=20)

	興味のある研修内容	人数
１位	・急変時の対応（演習あり）	8
	・終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	7
	・家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	5
２位	・家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	10
	・終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	5
	・他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	3
	・急変時の対応（演習あり）	2
３位	・終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	6
	・急変時の対応（演習あり）	5
	・小児がんについて	4
	・家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	2
	・子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	2
	・他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	1

「活動すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「発達障害の理解と対応」が 33 点と最も多く、次いで「てんかん発作について」が 29 点、「小児リハビリテーション（演習あり）」が 22 点だった。

図表5-128　「活動すること」における興味のある研修内容（n=20）

興味のある研修内容	得点
発達障害の理解と対応	33
てんかん発作について	29
小児リハビリテーション（演習あり）	22
最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	20
福祉用具	5
特別支援学校における看護の役割について	5
睡眠障害について	3
児童相談所の機能と役割について	3
耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	0
目の機能・眼科疾患について	0

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-129　「活動すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=20）

	興味のある研修内容	人数
１位	・てんかん発作について	6
	・最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	5
	・発達障害の理解と対応	5
	・小児リハビリテーション（演習あり）	3
	・特別支援学校における看護の役割について	1
２位	・発達障害の理解と対応	7
	・てんかん発作について	4
	・小児リハビリテーション（演習あり）	4
	・最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	2
	・睡眠障害について	1
	・福祉用具	1
	・児童相談所の機能と役割について	1
３位	・小児リハビリテーション（演習あり）	5
	・発達障害の理解と対応	4
	・てんかん発作について	3
	・福祉用具	3
	・特別支援学校における看護の役割について	2
	・最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	1
	・睡眠障害について	1
	・児童相談所の機能と役割について	1

「呼吸すること」における興味のある研修内容の上位３つを挙げると、「呼吸障害について」が 10 点と最も多く、次いで「呼吸障害の看護について（演習あり）」「人工呼吸器の基礎（演習あり）」がそれぞれ8点、「循環器について」「在宅生活を支える制度や社会資源について」がそれぞれ 5 点だった。

図表5-130　「呼吸すること」における興味のある研修内容（n=7）

興味のある研修内容	得点
呼吸障害について	10
呼吸障害の看護について（演習あり）	8
人工呼吸器の基礎（演習あり）	8
循環器について	5
在宅生活を支える制度や社会資源について	5
心疾患（心奇形）について	1
児童相談所の役割について	1

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-131　「呼吸すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=7）

	興味のある研修内容	人数
１位	・呼吸障害について	3
	・循環器について	1
	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	1
	・呼吸障害の看護について（演習あり）	1
	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	1
２位	・呼吸障害の看護について（演習あり）	2
	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	2
	・在宅生活を支える制度や社会資源について	2
	・循環器について	1
３位	・呼吸障害について	1
	・心疾患（心奇形）について	1
	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	1
	・呼吸障害の看護について（演習あり）	1
	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	1
	・在宅生活を支える制度や社会資源について	1
	・児童相談所の役割について	1

「食べること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)」が 33 点と最も多く、次いで「消化器疾患と栄養障害について」で 26 点、「排便障害について」が 13 点であった。

図表5-132　「食べること」における興味のある研修内容（n=19）

興味のある研修内容	得点
摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	33
消化器疾患と栄養障害について	26
排便障害について	13
口腔衛生について（演習あり）	12
重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	4
排尿障害について	4
相談支援と連携	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-133　「食べること」における興味のある研修内容（内訳）（n=19）

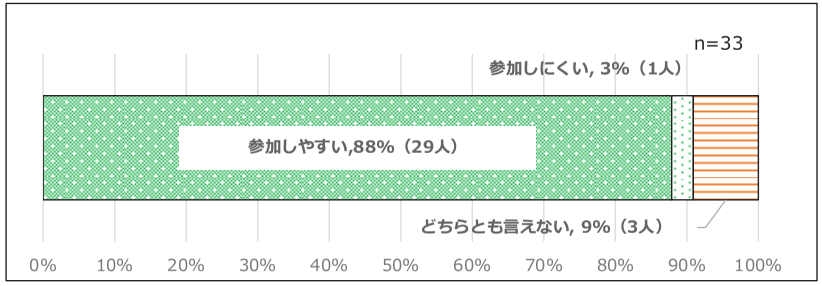
	興味のある研修内容	人数
１位	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	7
	・消化器疾患と栄養障害について	6
	・摂食嚥下障害について	4
	・重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1
	・排便障害について	1
２位	・排便障害について	5
	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	5
	・摂食嚥下障害について	3
	・口腔衛生について（演習あり）	3
	・消化器疾患と栄養障害について	2
	・排尿障害について	1
３位	・口腔衛生について（演習あり）	6
	・消化器疾患と栄養障害について	4
	・排尿障害について	2
	・摂食嚥下障害について	2
	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	2
	・相談支援と連携	2
	・重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1

（４）研修会の開催方法について

① オンデマンド配信による研修について

「参加しやすい」が 88%(29 人)、「どちらともいえない」が 9%(3 人)、「参加しにくい」が 3%(1 人)だった。

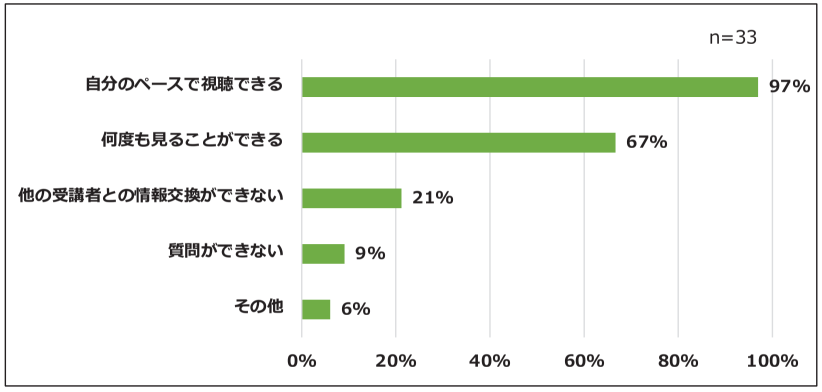
図表5-134　オンデマンド配信による研修の参加しやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

最も多かったのは「自分のペースで視聴できる」97%(32 人)、次いで「何度も見ることができる」が 67%(22 人)、「他の受講者との情報交換ができない」21%(7 人)、「質問ができない」9%(3 人)、「その他」6%(2 人)だった。

図表5-135　選んだ理由（複数回答）



【その他内容】

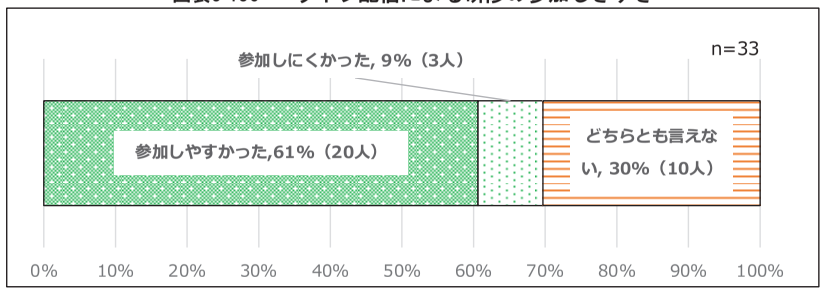
・何度も見たかったが盛り沢山で時間が足りなかった。

・交通費や宿泊費がかからず、移動の時間がいらないので休みをもらわなくてよい。

② ライブ配信による研修について

「参加しやすかった」が 61%(20 人)、「どちらともいえない」が 30%(10 人)、「参加しにくかった」が 9%(3 人)だった。

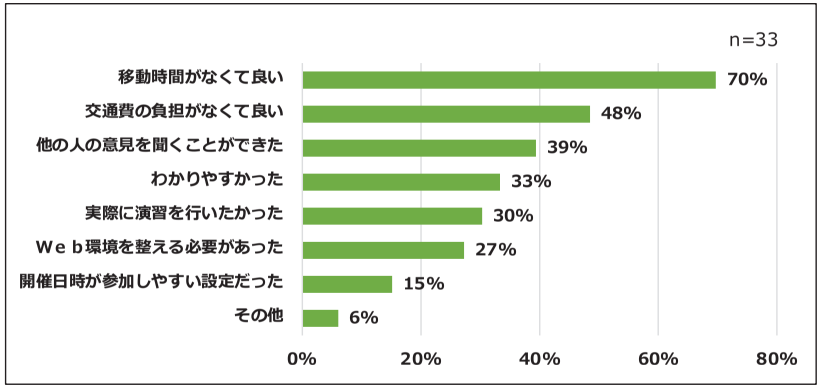
図表5-136　ライブ配信による研修の参加しさすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「移動時間がなくて良い」が 70%(23 人)、「交通費の負担がなくて良い」が 48%(16 人)、「他の人の意見を聞くことができた」39%(13 人)、「わかりやすかった」33%(11 人)、「実際に演習を行いたかった」30%(10 人)、「Web環境を整える必要があった」27%(9 人)、「開催日時が参加しやすい設定だった」15%(5 人)、「その他」6%(2 人)だった。

図表5-137　選んだ理由（複数回答）



【その他内容】

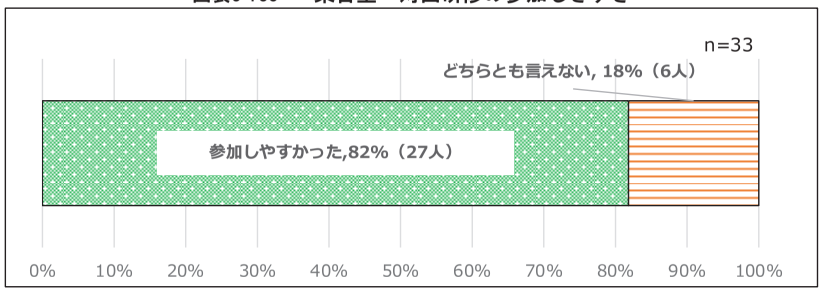
・平日の昼間は勤務調整に困る。

・仕事があったため調整を要した。

③ 集合型・対面研修について

「参加しやすかった」が 82%(27 人)、「どちらともいえない」が 18%(6 人)、「参加しにくかった」の回答はいなかった。

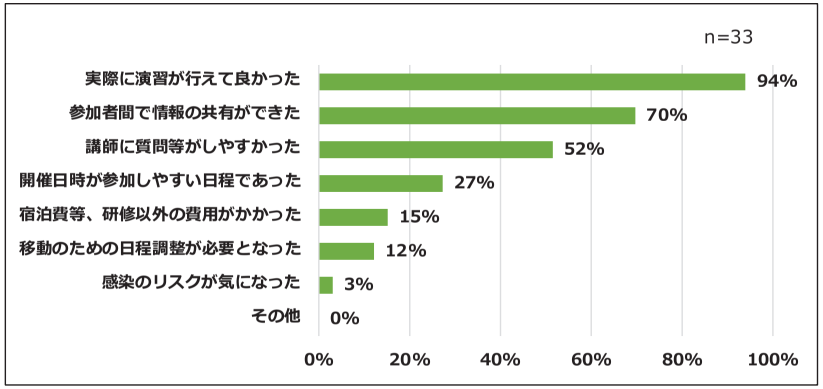
図表5-138　集合型・対面研修の参加しさすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「実際に演習が行えて良かった」が最も多く 94%(31 人)、次いで「参加者間で情報の共有ができた」70%(23 人)、「講師に質問等がしやすかった」52%(17 人)、「開催日時が参加しやすい日程であった」27%(9 人)、「宿泊費等、研修以外の費用がかかった」15%(5 人)、「移動のための日程調整が必要となった」12%(4 人)、「感染のリスクが気になった」3%(1 人)だった。

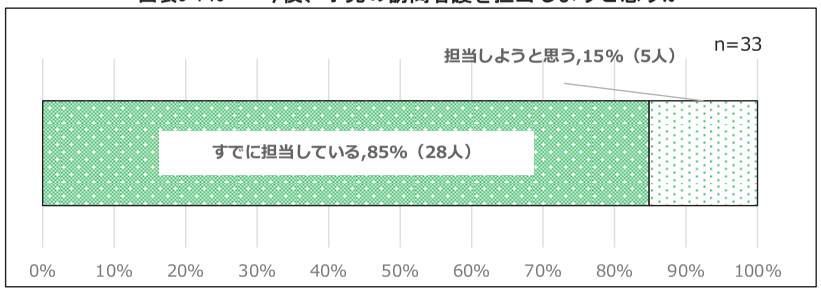
図表5-139　選んだ理由（複数回答）



（5）今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか

「すでに担当している」が 85%(28 人)、「担当しようと思う」が 15%(5 人)、「もう少し勉強してから担当しようと思う」「担当しようと思わない」の回答はいなかった。

図表5-140　今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか



● その他のご意見（自由記載）

業務が多忙でなかなか集中して学ぶ機会がないが、このような機会があり感謝している。今後も色々な研修を計画していただきたい。
大変有意義な研修となった。 全国の訪問看護師さんと同じ時間を共有できて、みんな頑張っているんだと思うことが出来た。また明日から頑張りたいと活力も湧いてきた気がする。日々の仕事でなかなか学ぶ機会がない現状だが、学んだことを事業所でも活かしていきたい。
とても勉強になることばかりだった。訪問看護を行うまでは小児看護の経験がなかったため不安だったが、研修に参加し、より頑張ろうという気持ちになった。何より子供たちへの看護が楽しいと思った。 ぜひ他のテーマの勉強会にも参加してみたい。
盛りだくさんでとてもためになる研修だったが、オンデマンド研修は自分の時間を使わなければならず、なかなか時間が作れずにゆっくり見たいのにそれはかなわず、消化不良な感じ。
オンデマンドの配信期間について、Part5 の配信期間と重複していたため、再講習を受ける時間を作るのが難しかった。
参加しやすい日程で調整してほしい。
対面、実技講習がもっとあると充実した研修になると思う。
パートⅠからの研修もしてほしい。

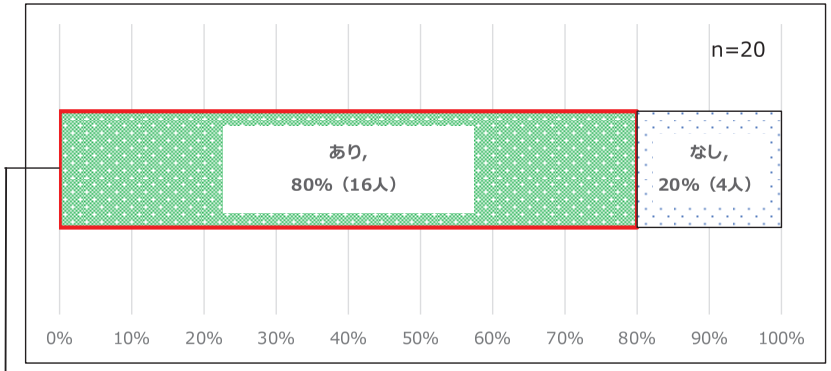
5）食べること

（1）回答者属性について

① 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験

回答者 20 人のうち、「あり」が 80%(16 人)、「なし」20%(4 人)だった。

図表5-141　小児訪問看護の経験について

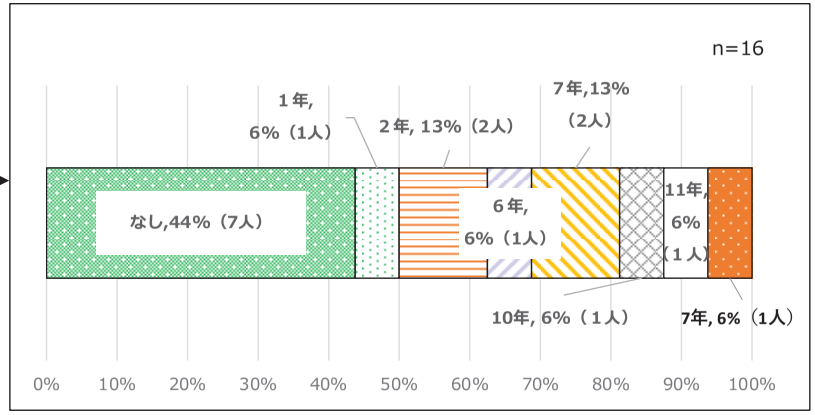


● 「あり」と回答した方 16 人

医療機関における小児看護の経験年数について教えください。

「経験なし」が 44%(7人)と最も多く、次いで「2年」「7年」がそれぞれ 13%(2 人)、「1 年」「6年」「10 年」「11 年」「12 年」がそれぞれ 6%(1人)だった。

図表5-142　医療機関における小児看護の経験年数

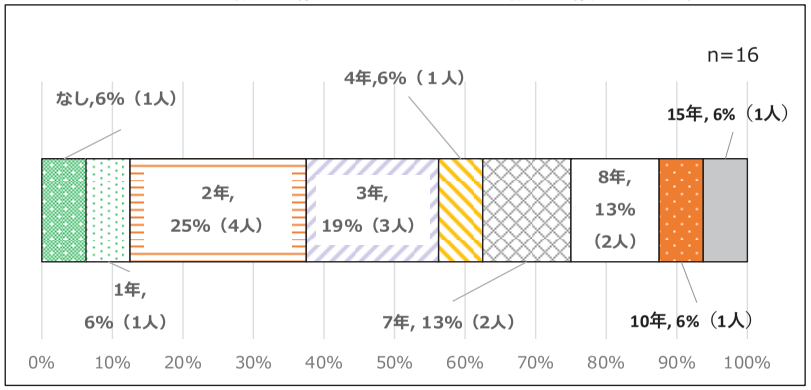


● 「あり」と回答した方 16 人

訪問看護事業所における小児看護の経験年数について教えください。

「2年」が 25%(4 人)と最も多く、次いで「3 年」19%(3 人)、「7年」「8 年」がそれぞれ 13%(2 人)、「経験なし」「1 年」「4 年」「10 年」「15 年」はそれぞれ 6%(1人)だった。

図表5-143　訪問看護事業所における小児訪問看護の経験年数

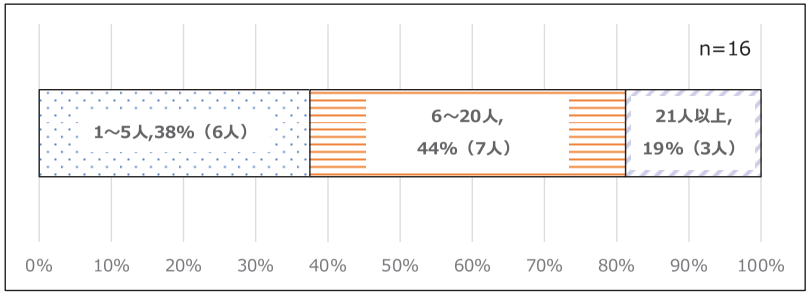


● 「あり」と回答した方 16 人

訪問看護で担当した小児は何人ですか。過去に担当した場合も含めてご回答ください。

「6～20 人」が最も多く 44%(7 人)、次いで「1～5 人」37%(6人)、「21 人以上」が 19%(3 人)だった。

図表5-144　訪問看護で担当した小児の人数



（2）各講義について

① 重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断

【到達目標】

・重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる

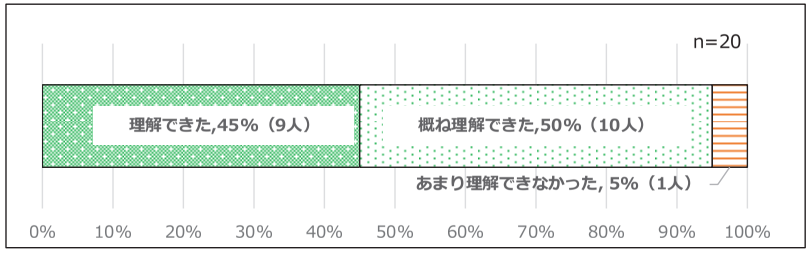
・重症心身障害児の概念が理解できる

・重症心身障害児の診断（大島分類など）が理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち「理解できた」が 45%(9 人)、「概ね理解できた」が 50%(10 人)、「あまり理解できなかった」が 5%(1 人)、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-145　講義内容の理解度



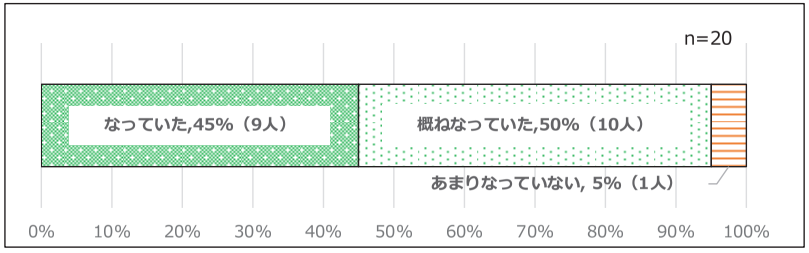
【「あまり理解できなかった」と回答した方の理由】

・自分が勉強不足で小児についてあまり理解していなかった。

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 45%(9 人)、「概ねなっていた」が 50%(10 人)、「あまりなっていない」が 5%(1 人)、「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-146　講義内容に対する評価



【「あまりなっていない」と回答した方の理由】

・自分が知らないことが多かったため再度勉強していかなければいけないと思った。

② 消化器疾患と栄養障害について

【到達目標】

・消化のメカニズムを理解する

・消化器疾患の病態を理解する

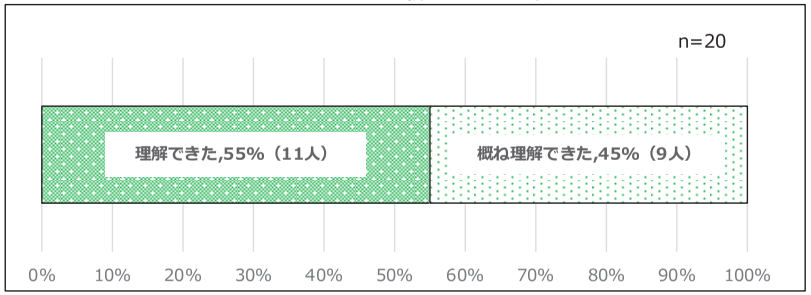
・消化器疾患への治療方法について理解する

・栄養のメカニズムを理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち「理解できた」が 55%(11 人)、「概ね理解できた」が 45%(9 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

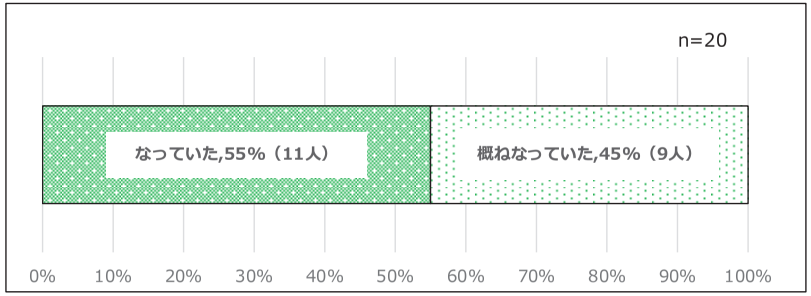
図表5-147　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 55%(11 人)、「概ねなっていた」が 45%(9 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-148　講義内容に対する評価



③ 摂食嚥下障害について学ぶ

【到達目標】

・摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる

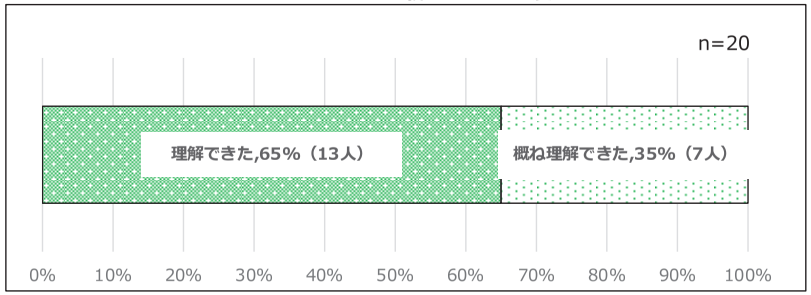
・摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる

・摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち「理解できた」が 65%(13 人)、「概ね理解できた」が 35%(7 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

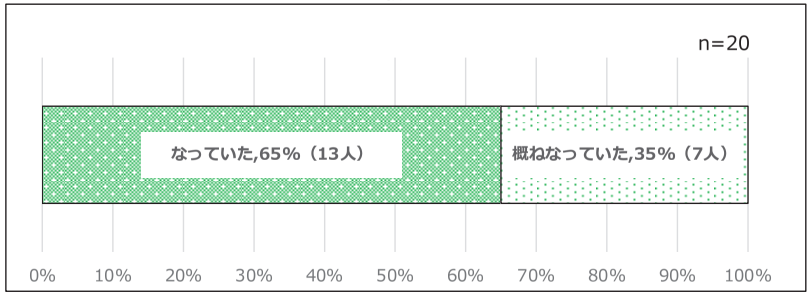
図表5-149　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 65%(13 人)、「概ねなっていた」が 35%(7 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-150　講義内容に対する評価



④ 排便障害について学ぶ

【到達目標】

・排便のメカニズムが理解できる

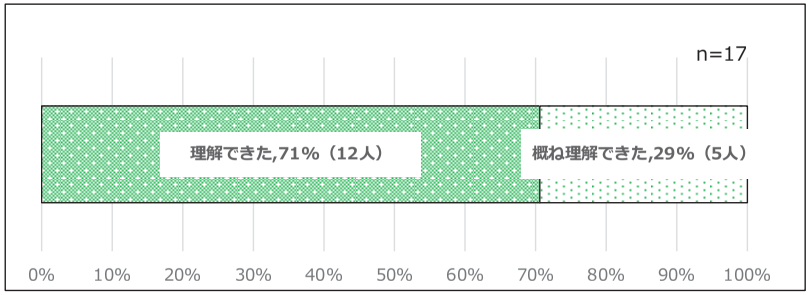
・排便障害の病態が理解できる

・排便障害への治療方法が理解できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 17 人のうち、「理解できた」が 75%(12 人)、「概ね理解できた」が 29%(5 人)、「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」の回答はいなかった。

図表5-151　講義内容の理解度

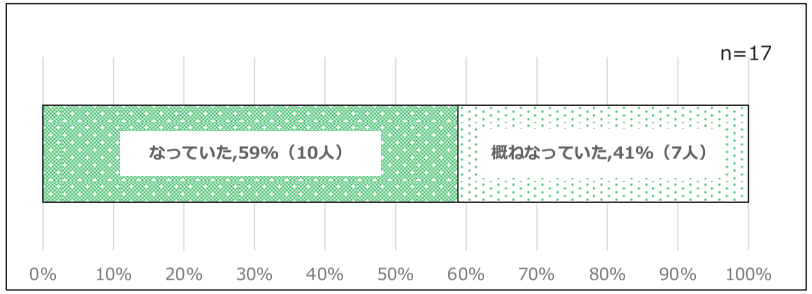


※当項目が本アンケートから抜けており、別アンケートにて集めたため回答者数が 17 名になった

● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 59%(10 人)、「概ねなっていた」が 41%(7 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-152　講義内容に対する評価



⑤ 排尿障害について学ぶ

【到達目標】

・排尿のメカニズムが理解できる

・排尿障害の病態が理解できる

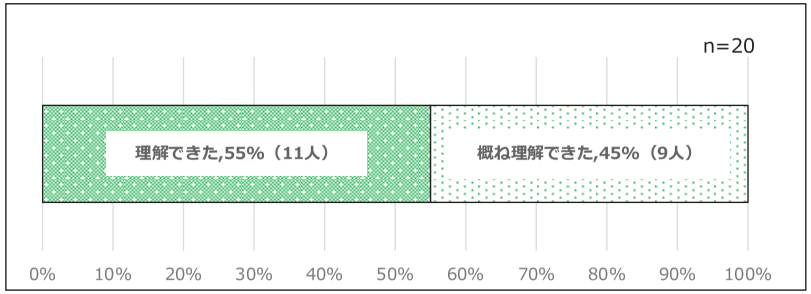
・排尿障害への治療方法が理解できる

・排尿障害の援助方法について理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち、「理解できた」が 55%(11 人)、「概ね理解できた」が 45%(9 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

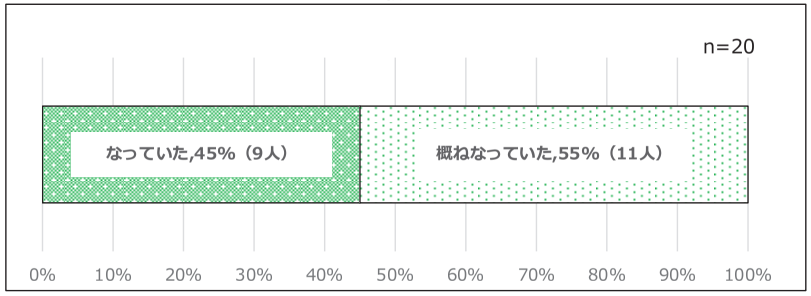
図表5-153　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 45%(9 人)、「概ねなっていた」が 55%(11 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-154　講義内容に対する評価



⑥ 相談支援と連携

【到達目標】

・相談支援の役割・機能について理解する

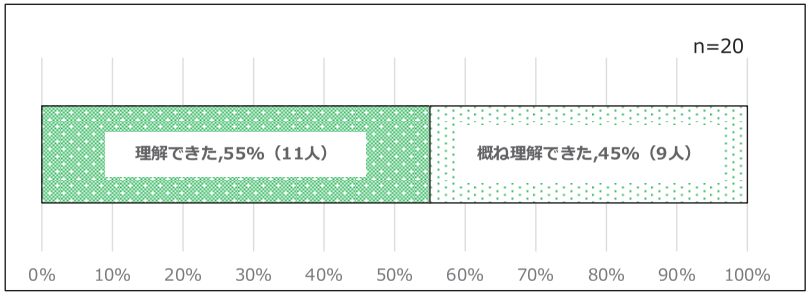
・相談支援員の役割・機能について理解する

・相談支援員と連携するための方策を理解する

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち「理解できた」が 55%(11 人)、「概ね理解できた」が 45%(9 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

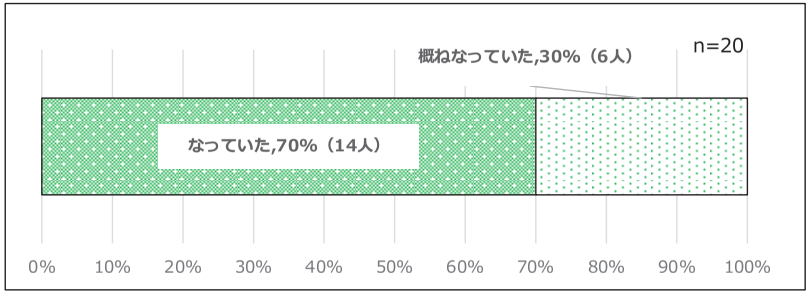
図表5-155　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 70%(14 人)、「概ねなっていた」が 30%(6 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

図表5-156　講義内容に対する評価



⑦ 摂食嚥下障害のある患者への援助方法

【到達目標】

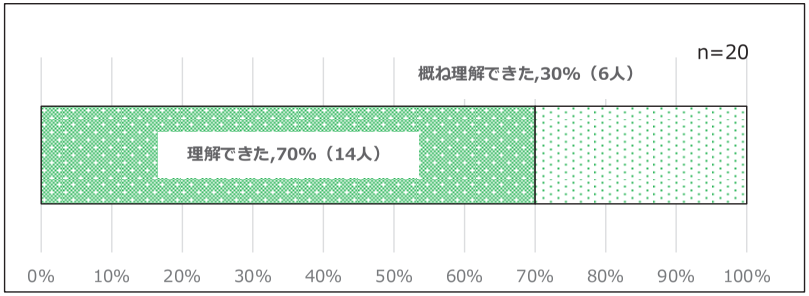
・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる

・摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち「理解できた」が 70%(14 人)、「概ね理解できた」が 30%(6 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

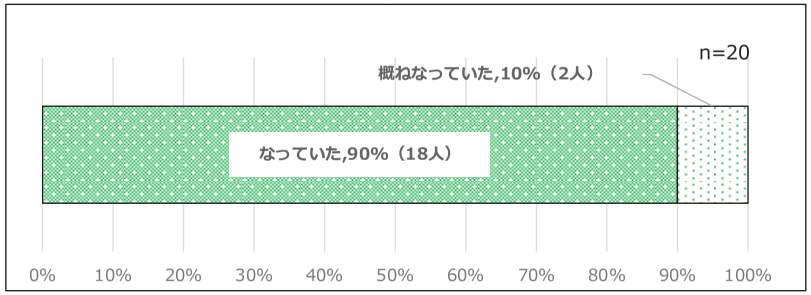
図表5-157　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 90%(18 人)、「概ねなっていた」が 10%(2 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

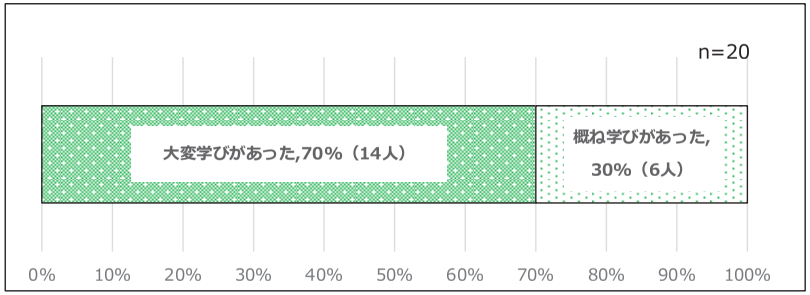
図表5-158　講義内容に対する評価



● 演習を通して、技術の学びがありましたか。

「大変学びがあった」が 70%(14 人)、「概ね学びがあった」が 30%(6 人)、「学びはなかった」の回答はいなかった。

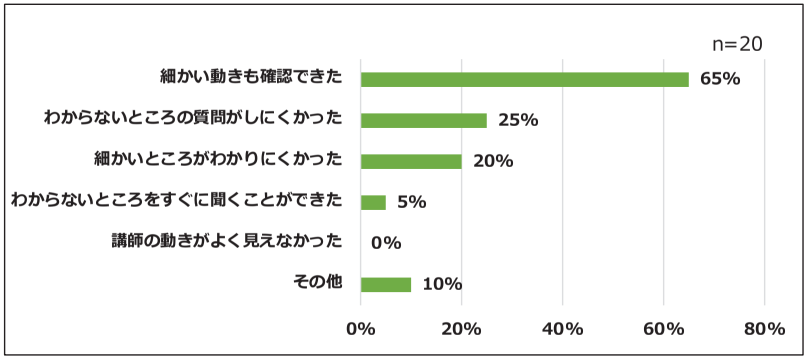
図表5-159　演習を通して技術の学びがあったか



● 演習についての意見（複数回答）

「細かい動きも確認できた」が最も多く 65%(13 人)、次いで「わからないところの質問がしにくかった」25%(5 人)、「細かいところがわかりにくかった」20%(4 人)、「わからないところをすぐに聞くことができた」5%(1 人)、「その他」が 10%(2人)だった。

図表5-160　演習についての意見（複数回答）



【その他の内容】

・質問の時間が短かったので質問できなかった。

・実際食べてみて口の動きがわかりやすかった。

⑧ 口腔衛生について

【到達目標】

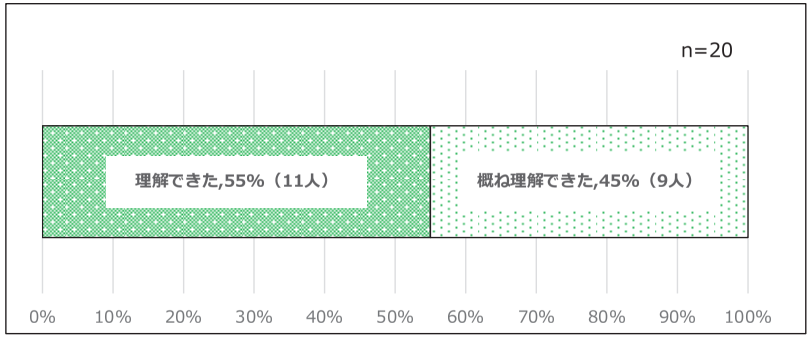
・口腔の解剖生理と機能について理解できる

・清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる

● 講義内容は理解できましたか。

回答者 20 人のうち「理解できた」が 55%(11 人)、「概ね理解できた」が 45%(9 人)、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の回答はいなかった。

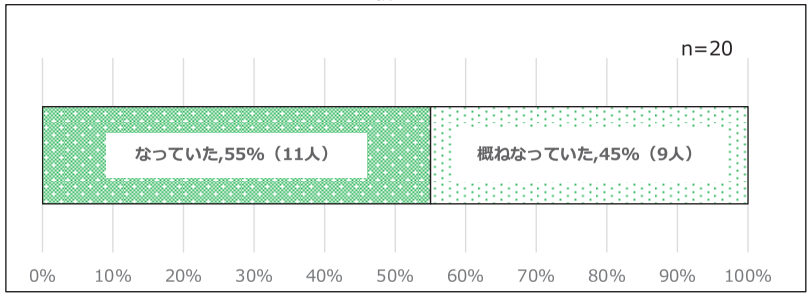
図表5-161　講義内容の理解度



● 講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか。

「なっていた」が 55%(11 人)、「概ねなっていた」が 45%(9 人)、「あまりなっていない」「なっていない」の回答はいなかった。

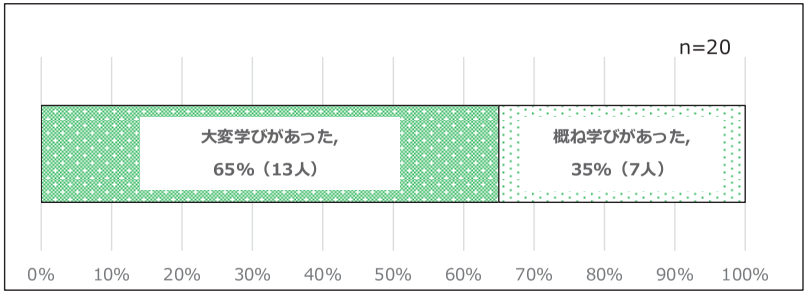
図表5-162　講義内容に対する評価



● 演習を通して、技術の学びがありましたか。

「大変学びがあった」が 65%(13 人)、「概ね学びがあった」が 35%(7 人)、「学びはなかった」の回答はいなかった。

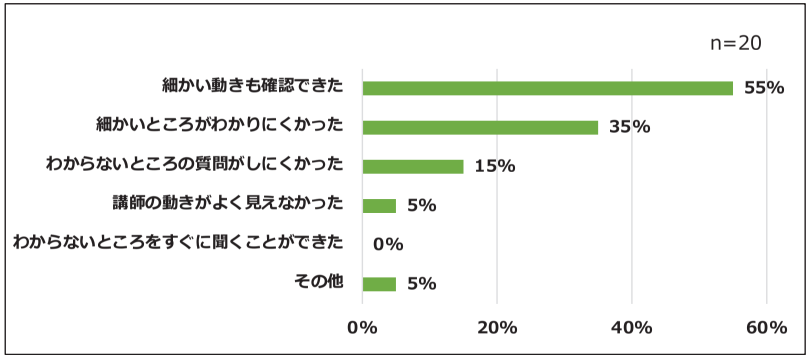
図表5-163 演習を通して技術の学びがあったか



● 演習についての意見（複数回答）

「細かい動きも確認できた」が最も多く 55%(11 人)、次いで「細かいところがわかりにくかった」35%(7 人)「わからないところの質問がしにくかった」15%(3 人)、「講師の動きがよく見えなかった」「その他」がそれぞれ 5%(1 人)だった。「わからないところをすぐに聞くことができた」の回答はいなかった。

図表5-164 演習についての意見



【その他の内容】

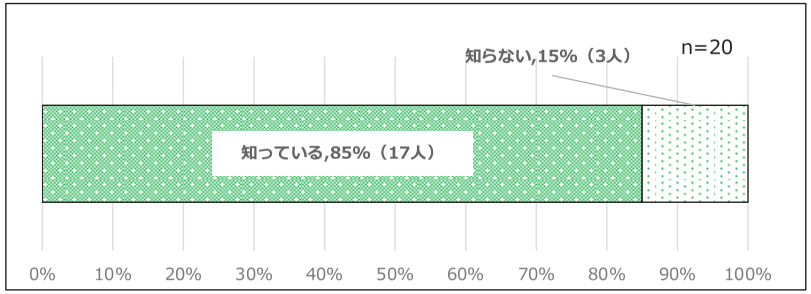
・歯ブラシを使うことでイメージしやすかった。

（3）小児訪問看護研修会のプログラムについて

①小児訪問看護研修会のプログラムは、5 つの編により構成されていることを知っているか

回答者 20 人のうち、「知っている」が 85%(17 人)、「知らない」が 15%(3 人)であった。

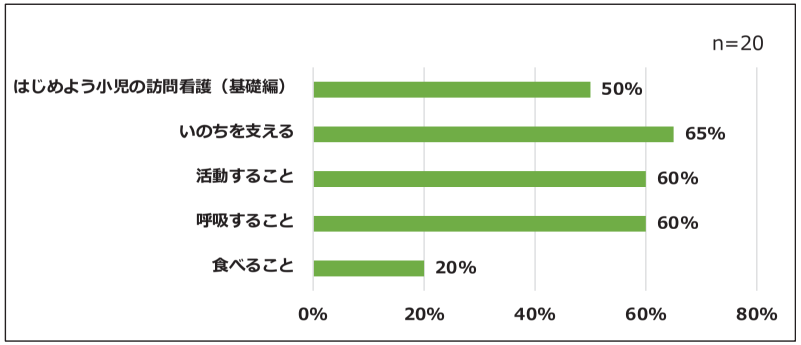
図表5-165 小児訪問看護研修プログラムの認知度



② 5 つの編で興味のある研修はどれか

最も多かったのが「いのちを支える」で 65%(13 人)、次いで「活動すること」「呼吸すること」でそれぞれ 60%(12 人)、「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」50%(10 人)、「食べること」20%(4 人)だった。

図表5-166 興味のある研修（複数回答）



● 興味のある５つの編のうち、具体的内容について上位３つまで尋ねた。

１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

「はじめよう小児の訪問看護(基礎編)」の中で興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)」が 16 点と最も多く、次いで「脳性まひ･筋疾患･染色体異常などの主な疾患について」が 14 点、「小児訪問看護の実際」が 13 点であった。

図表5-167 「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容(n=10)

興味のある研修内容	ポイント
子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	16
脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	14
小児訪問看護の実際	13
重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	7
診療所が実施する小児在宅医療の実際	5
小児看護の現状と課題	3
骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	2

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-168 「はじめよう小児の訪問看護（基礎編）」における興味のある研修内容（内訳）(n=10)

	興味のある研修内容	件数
１位	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	３件
	・小児訪問看護の実際	２件
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	２件
	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	２件
	・診療所が実施する小児在宅医療の実際	１件
２位	・小児訪問看護の実際	３件
	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	３件
	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	２件
	・診療所が実施する小児在宅医療の実際	１件
	・小児看護の現状と課題	１件
３位	・子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）	３件
	・脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について	２件
	・骨折・移乗介助・更衣（演習あり）	２件
	・小児訪問看護の実際	１件
	・重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応	１件
	・小児看護の現状と課題	１件

「いのちを支える」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「急変時の対応(演習あり)」が 23 点と最も多く、次いで「終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)」が 21 点、「家族の思いに寄り添う看護(グループワーク･ロールプレイあり)」が 18 点だった。

図表5-169 「いのちを支える」における興味のある研修内容（n=13）

興味のある研修内容	ポイント
急変時の対応（演習あり）	23
終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	21
家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	18
他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	8
子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク）	5
小児がんについて	3

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-170 「いのちを支える」における興味のある研修内容（内訳）（n=13）

	興味のある研修内容	件数
１位	急変時の対応（演習あり）	６件
	終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	３件
	他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	２件
	家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	１件
	子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	１件
２位	家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	６件
	終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	３件
	急変時の対応（演習あり）	２件
	小児がんについて	１件
	他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）	１件
３位	終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）	６件
	家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）	３件
	子どもの権利と倫理的かかわり（グループワーク	２件
	小児がんについて	１件
	急変時の対応（演習あり）	１件

「活動すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「小児リハビリテーション(演習あり)」が 20 点と最も多く、次いで「最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)」が 15 点、「発達障害の理解と対応」が 14 点だった。

図表5-171　「活動すること」における興味のある研修内容（n=12）

興味のある研修内容	ポイント
小児リハビリテーション（演習あり）	20
最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	15
発達障害の理解と対応	14
てんかん発作について	7
特別支援学校における看護の役割について	7
福祉用具	6
耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	2
児童相談所の機能と役割について	1
睡眠障害について	0
目の機能・眼科疾患について	0

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-172　「活動すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=12）

	興味のある研修内容	件数
１位	小児リハビリテーション（演習あり）	４件
	発達障害の理解と対応	３件
	最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	２件
	てんかん発作について	１件
	福祉用具	１件
	特別支援学校における看護の役割について	１件
２位	最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	４件
	小児リハビリテーション（演習あり）	３件
	てんかん発作について	１件
	耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について	１件
	発達障害の理解と対応	１件
	福祉用具	１件
	特別支援学校における看護の役割について	１件
３位	発達障害の理解と対応	３件
	てんかん発作について	２件
	特別支援学校における看護の役割について	２件
	最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）	１件
	福祉用具	１件
	児童相談所の機能と役割について	１件

「呼吸すること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)」が 16 点と最も多く、次いで「呼吸障害について」が 15 点、「呼吸障害の看護について(演習あり)」が 14 点だった。

図表5-173　「呼吸すること」における興味のある研修内容（n=12）

興味のある研修内容	ポイント
呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	16
呼吸障害について	15
呼吸障害の看護について（演習あり）	14
循環器について	9
在宅生活を支える制度や社会資源について	9
人工呼吸器の基礎（演習あり）	8
心疾患（心奇形）について	1
児童相談所の役割について	0

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-174　「呼吸すること」における興味のある研修内容（内訳）（n=12）

	興味のある研修内容	件数
１位	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	４件
	・呼吸障害について	３件
	・循環器について	２件
	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	２件
	・呼吸障害の看護について（演習あり）	１件
２位	・呼吸障害の看護について（演習あり）	５件
	・在宅生活を支える制度や社会資源について	３件
	・呼吸障害について	２件
	・循環器について	１件
	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	１件
３位	・在宅生活を支える制度や社会資源について	３件
	・呼吸障害について	２件
	・呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）	２件
	・人工呼吸器の基礎（演習あり）	２件
	・心疾患（心奇形）について	１件
	・循環器について	１件
	・呼吸障害の看護について（演習あり）	１件

「食べること」における興味のある研修内容の上位 3 つを挙げると、「摂食嚥下障害について」が 11 点と最も多く、次いで「消化器疾患と栄養障害について」が 5 点、「摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)」が 4 点だった。

図表5-175　「食べること」における興味のある研修内容（n=4）

興味のある研修内容	ポイント
摂食嚥下障害について	11
消化器疾患と栄養障害について	5
摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	4
排便障害について	3
重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	1
排尿障害について	0
口腔衛生について（演習あり）	0
相談支援と連携	0

※１位に挙げられた項目を３点、２位の項目は２点、３位の項目は１点として合計得点を算出した。

図表5-176　「食べること」における興味のある研修内容（内訳）（n=4）

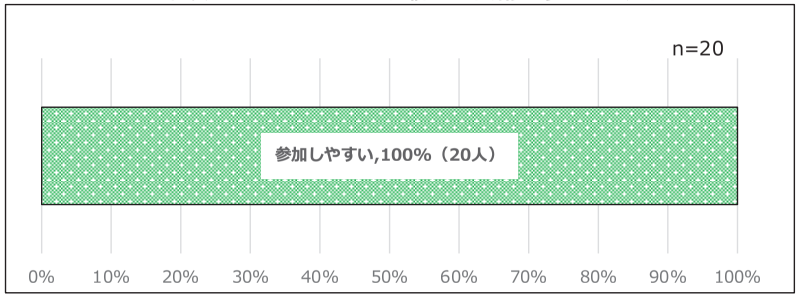
	興味のある研修内容	件数
１位	・摂食嚥下障害について	３件
	・消化器疾患と栄養障害について	１件
２位	・消化器疾患と栄養障害について	１件
	・排便障害について	１件
	・摂食嚥下障害について	１件
	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	１件
３位	・摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）	２件
	・重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断	１件
	・排便障害について	１件

（4）研修会の開催方法について

① オンデマンド配信による研修について

「参加しやすい」が 100%(20 人)だった。

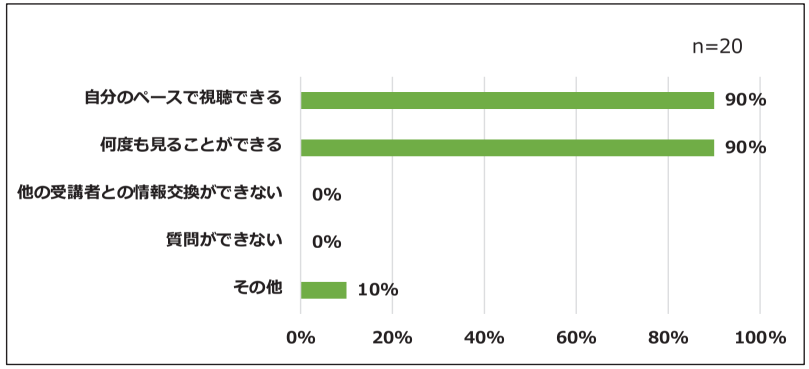
図表5-177　オンデマンド配信による研修の参加しやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「自分のペースで視聴できる」と「何度も見ることができる」が最も多くそれぞれ 90%(18 人)、「その他」10%(2 人)だった。「他の受講者との情報交換ができない」「質問ができない」を選んだ人はいなかった。

図表5-178　選んだ理由（複数回答）



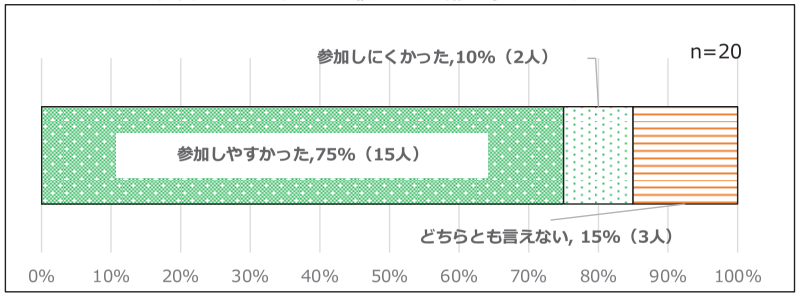
【その他の内容】

- 今年は資料も製本されていてありがたかった。細かい見えにくい部分は手元の資料で確認できた。コロナ感染症対策の観点からオンデマンドはありがたい。
- 育休中なので自宅で参加できてよかった。

② ライブ配信による研修について

「参加しやすかった」が 75%(15 人)、「どちらともいえない」が 15%(3 人)、「参加しにくかった」が 10%(2 人)だった。

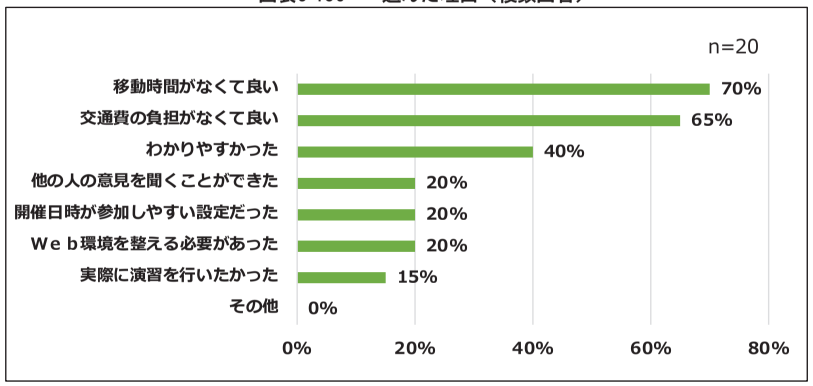
図表5-179　ライブ配信による研修の参加しやすさ



● 上記を選んだ理由（複数回答）

「移動時間がなくて良い」が 70%(14 人)、「交通費の負担がなくて良い」が 65%(13 人)、「わかりやすかった」40%(8 人)「他の人の意見を聞くことができた」「開催日時が参加しやすい設定だった」「Web環境を整える必要があった」がそれぞれ 20%(4 人)、「実際に演習を行いたかった」15%(3 人)だった。

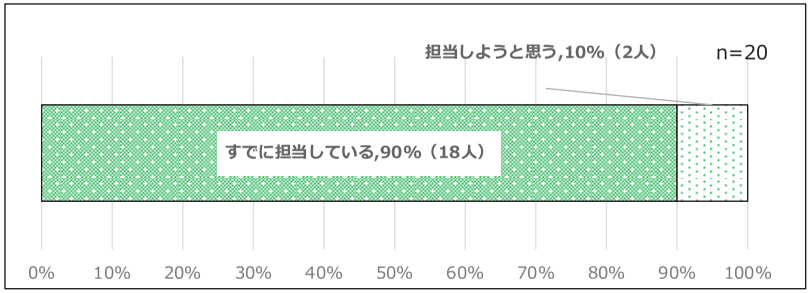
図表5-180　選んだ理由（複数回答）



（5）今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか

「すでに担当している」が 90%(18 人)、「担当しようと思う」が 10%(2 人)、「もう少し勉強してから担当しようと思う」「担当しようと思わない」の回答はいなかった。

図表5-181　今後、小児の訪問看護を担当しようと思うか



● その他のご意見（自由記載）

資料の製本化はとても助かった。今後も自己研鑽していきたいと思う。
消化器疾患について改めて学習し、重症心身障害児者にとって知っておくべきことを理解することができ良かった。これまで、深く学ぶことができなかった機能的口腔ケアを知ることができ、口腔ケアから刺激等が行えると、気づくことができた。
他の小児訪問看護プログラムも受講したい。研修会は継続してほしい。
格段に広がっているにも関わらず、地域差が大きい現実も残念に思う。 今後自事業所へのフィードバックは行うが、得手不得手の問題もあり難しい分野であると感じている。事業協会で行っていただく研修はとても理解が深まり有意義な時間を持てるので、今後も期待している。
とても勉強になった。

6）委員動画視聴後アンケート

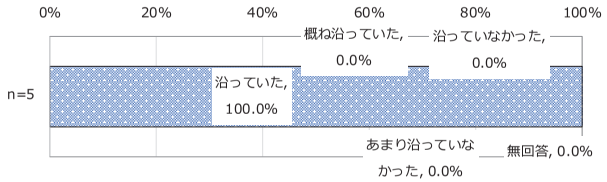
（1）いのちを支える

①　小児がんについて

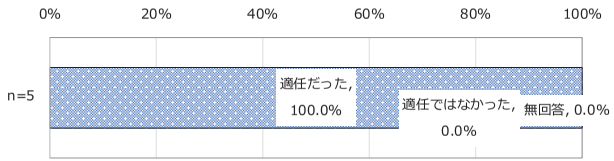
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 100%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

図表5-182　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-183　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 実際の訪問事例をたくさん紹介しながら現状や課題等を説明しており、とてもよく分かった。

○ 事例も入れてあり、詳しくわかりやすかった。資料も見やすく繰り返し見られる。

【講師に関する主なご意見】

○ 経験豊富な講師で興味深く聞けた。

【講義で気になった点】

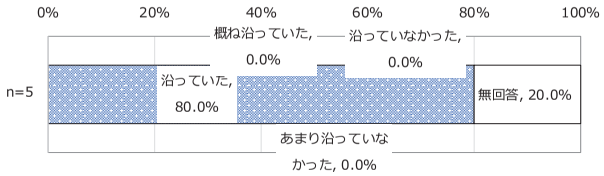
○ 事例が多くわかりやすかった。事例に関しては対面だと泣いてしまいそうなとても熱い事例だったと思う。点滴などの治療についても実施しているステーションがどのくらいあるのか、始めるにはどうしたらいいのか、知りたかった。

②　よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護について

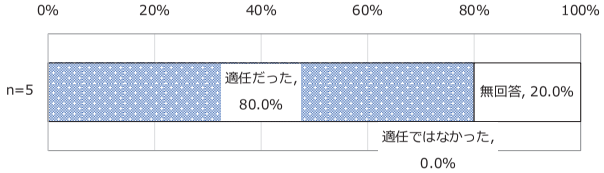
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

図表5-184　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-185　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 事例を通した対応や課題等もあるといい。

○ わかりやすかった。

【講師に関する主なご意見】

○ 講義もわかりやすかったし、療育の場の緩和ケアの重要性を感じた。現場で日々児や家族と向かい合っているからこその説得力ある内容だったと思う。

【講義で気になった点】

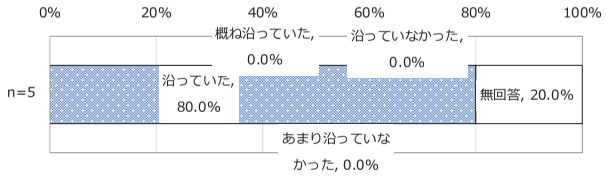
○ 重症心身障害児の終末期について改めて考えさせられた。特に、医療的ケアを増やす治療の選択についても、親が代弁者となるので、正解がないのを再認識した。

③　職種の理解とチーム医療について

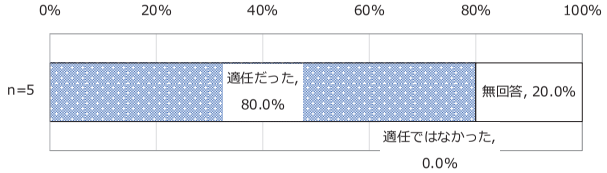
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

図表5-186　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-187　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 連携の実際の流れなどがあると、より連携のイメージがしやすいので事例があるとよいと思った。

○ 相談支援事業所について訪問看護師側の理解がまだまだなので、説明してくれたことはよかったと思う。チームで関わるという部分は、まだまだこれからだなと感じた。

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

【講義で気になった点】

○ 医療と介護、福祉すべてわかる相談員が少ないので、もっとわかりやすい連携ができないのかと思う。

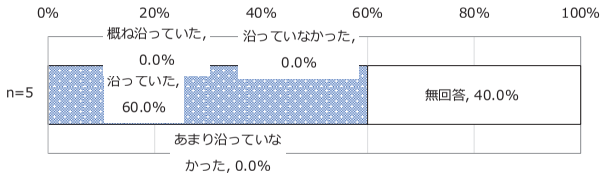
○ 特に問題なく行えた。

④　子どもの権利と倫理的かかわりについて

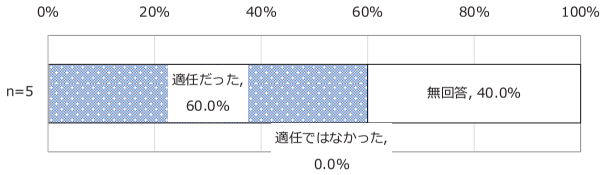
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 60.0%であった。

図表5-188　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-189　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ かみ砕いた表現でわかりやすかった。

【講師に関する主なご意見】

○ 講義がとても分かりやすかった。

【講義で気になった点】

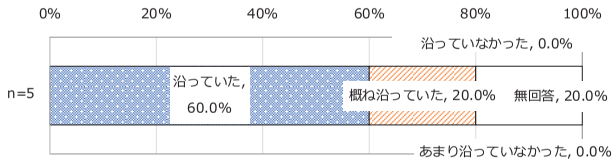
○ 「もやもや」を話し合うが良かった。講師が GW に参加してくれて、「もやもや」が「すっきり」に変わった人もいたと感じている。進め方等は特に問題なし。

⑤　家族の思いに寄りそう看護について

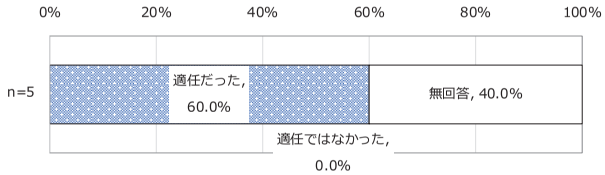
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 60.0%であった。

図表5-190　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-191　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 実際に関わっている訪問看護師だから気づくこと、反対に陥りやすいことがわかり、よかった。

【講師に関する主なご意見】

○ 豊富な経験から説得力のある内容だったと思う。

【講義で気になった点】

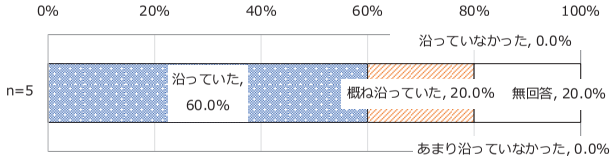
○ 全体的にオンラインの GW でテーマが二段階になるときは、時間でいったん区切る（あらかじめそのようにセッテイングしておき、参加者にもファシリテーターにも時間配分がわかる形にしておく）ほうが迷わないなと感じた。

⑥　急変時の対応について

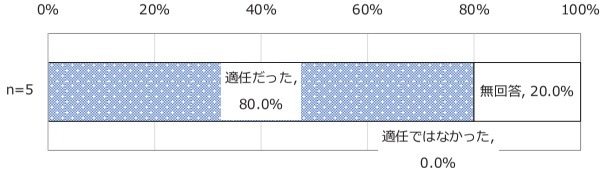
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

図表5-192　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-193　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】　（回答なし）

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

【講義で気になった点】

○ 人形での実践ができてよかった。小児の急変は少ないことやアンビューバックの押しすぎて肺が損傷するケースはなかったということが知れて一安心した。

○ シミュレーターが各自に届いていたのはよかった。ファシリテーターにより進め方が違う感じだったので、講師との打ち合わせが必要だったと感じた。講師が一人で説明・技で大変そうだったので、ファシリテーターを活用できるといいと思った。

⑦　その他のご意見

○ 小児の終末期は涙なしでは聞けない事例だったが、10 代の男子が前向きに戦い、受け止め、それをケアする医師、看護師が伴奏者になって支えていくという成人や高齢者にも通じる事だと感じた。講師の「受容をせかしてはいけない」という言葉がとても心に響いた。

○ どれも講義はわかりやすく良かった。質疑応答ができないのが残念。

○ 小児がんは内容が難しいのでオンデマンドで繰り返し受講できる環境はありがたいと思う。わかりやすい講義だった。

○ いい研修だった！！

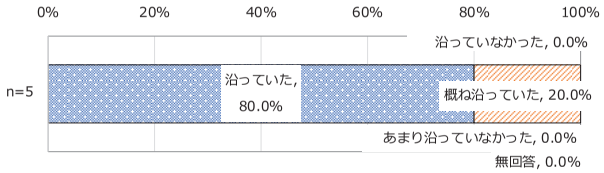
（2）活動すること

①　てんかん発作について

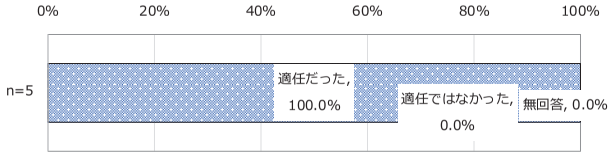
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

図表5-194　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-195　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ てんかんについて、基本的なことやメカニズムなど広く取り上げており、わかりやすかった。痙攣はしばしば話題に出ることだが体系的に学ぶことがなく、このような研修会で基礎から学べるのはとても良いと思う。また、具体例では、訪問看護でよく出会う心身障害児者について取り上げており、実際の訪問に大変役立ちそうと感じた。

○ 詳しく教えてくれた。

【講師に関する主なご意見】

○ 専門性はもちろんだが、語りが柔らかく聴きやすい。

【講義で気になった点】

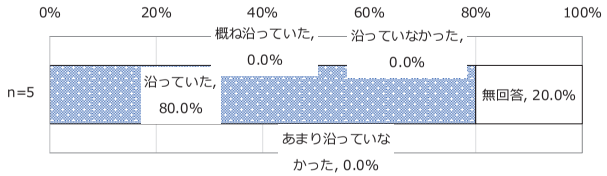
○ 新薬や今はやりの治療などが知りたい。外科の治療も増えている気がしている。

②　睡眠障害について

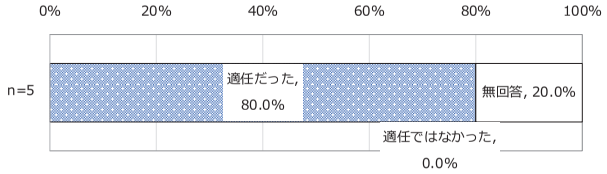
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

図表5-196　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-197　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ メカニズムや対応などとても分かりやすかった。重症心身障害児の睡眠について詳しく説明され、訪問看護のニーズにフィットしている。とても頭に入ってくると感じた。

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

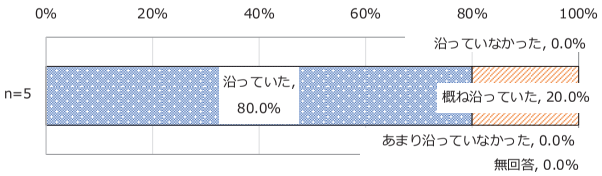
【講義で気になった点】　（回答なし）

③　耳鼻科疾患について

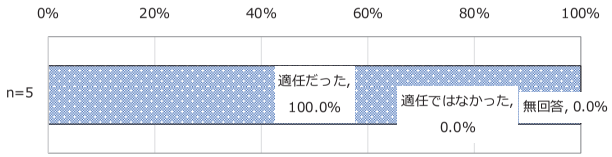
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

図表5-198　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-199　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 心身障害児者に沿った話で、良く理解できた。

○ 中耳炎になっている方が多いので不快感や聞こえ方なども知りたい。

○ 基本の部分をきちんと講義してくれた。

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

【講義で気になった点】

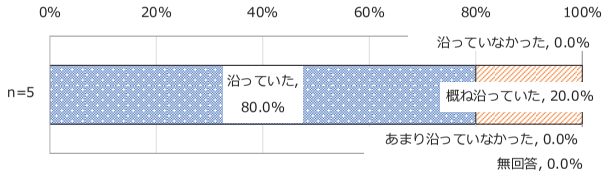
○ ZOOM の収録だったので画像と音声がところどころ難ありだなと感じた。

④　眼の機能・眼科疾患について

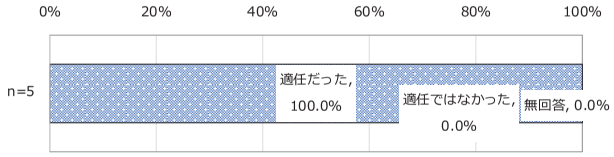
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

図表5-200　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-201　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ シラバスに沿ってはいるが、もう少し訪問看護でいくような心身障害児者に寄った話がほしい。

○ 重心の方の視力や見え方、視野などにも興味がある。

○ 基本をきちんと教えてくれた。

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

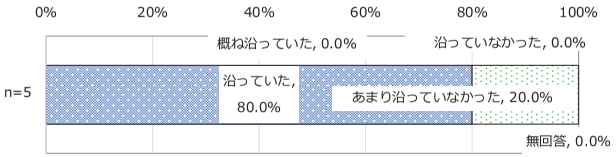
【講義で気になった点】　（回答なし）

⑤　発達障害の理解と対応について

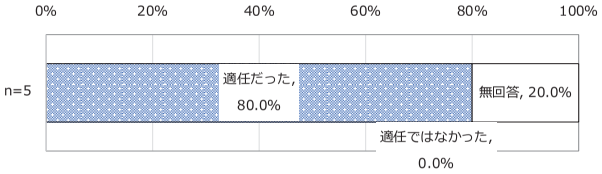
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%、「概ね沿っていた」が 20.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

図表5-202　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-203　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ たくさんの情報をスライドに入れてあり、何回も見て学習したいと思った。対応方法など細かに説明がありよかった。関係者や親への対応も多く取り上げ、参考になる。

○ 介護の人たちにも知ってもらいたい内容でとてもよかった。看護師だけではもったいないと思った。

○ 詳しく講義してくれた。なかなか発達障害についてきちんと学ぶ場がなかったので、今回個人的にもとてもありがたかった。受講者にとってもよかったと思う。

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

【講義で気になった点】

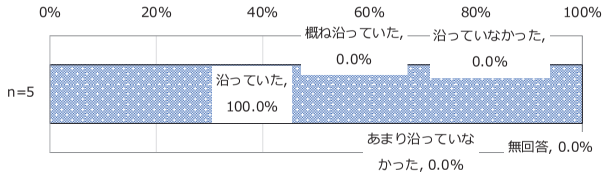
○ シラバスが「理解と対応」となっていたが、「学ぶ」だけにした方が良かったのでは？　対応は医師が講師では無い方が良いのではないかと感じた。

⑥　児童相談所の機能と役割について

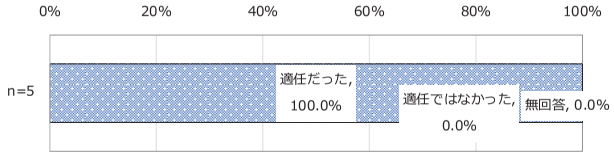
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 100%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

図表5-204　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-205　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】　（回答なし）

【講師に関する主なご意見】

○ なかなか聞くことのない内容だったので、現状を知ることができて良かった。

【講義で気になった点】

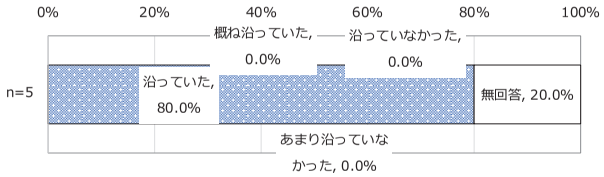
○ 長期入所の申し込みは児相だったり、障がい判定などで関わることも多いので、虐待以外の役割ももっと知りたい。

⑦　特別支援学校における看護の役割について

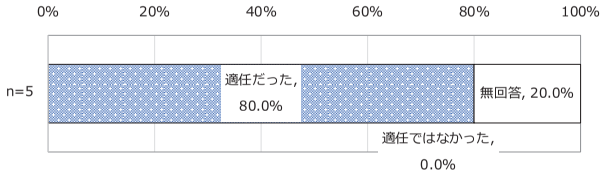
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 80.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 80.0%であった。

図表5-206　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-207　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 特別支援学校等と訪問看護の関わりの事例が特に参考になった。先駆的な事例であり、事例を聞く機会がないのでとても良かった。講義中でも話されているが、特別支援学校とほかの話も幅広く出てくるので、特別支援学校等としたほうが良いかもしれない。

【講師に関する主なご意見】

○ 学校における看護師の役割の難しさが理解できた。

【講義で気になった点】

○ 講義はとてもわかりやすかった。都道府県でかなり対応もちがうので、難しさを感じた。現在未就学児に関しては母子分離が進んでいる中、小学校入学時に再び付き添いになってしまうなど、課題の多さの中での学校ナース（現場）の葛藤をもっと知りたかった

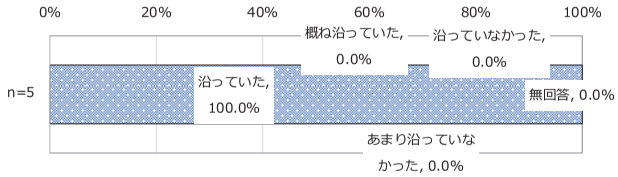
○ 実践されている方の話なので、とてもよかったと思う。今後は、学校看護師が話してくれる機会が持てるといい。

⑧　福祉用具・装具について

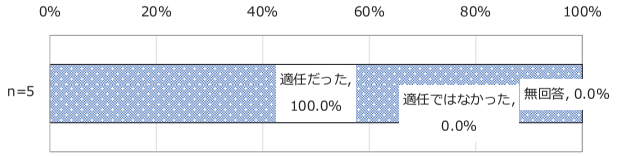
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 100%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 100%であった。

図表5-208　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-209　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】

○ 訪問看護でよくいく障害児者についての福祉用具の話で、大変参考になる。アセスメントなど、福祉用具とその選定に係る話を広く説明してくれよかった。

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

【講義で気になった点】

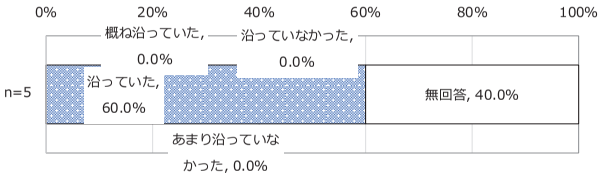
○ 作成するときの制度なども知りたかった。

⑨　最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向について

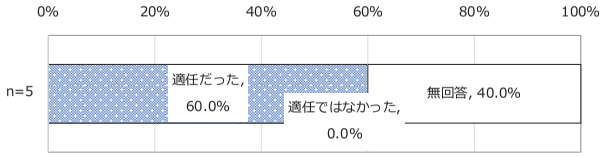
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 60.0%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 60.0%であった。

図表5-210　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-211　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】　（回答なし）

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

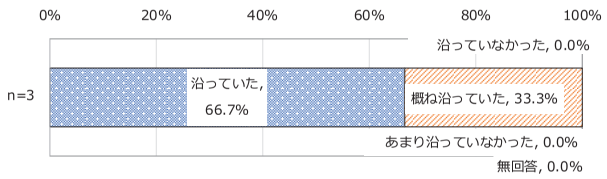
【講義で気になった点】　（回答なし）

⑩　小児リハビリテーションについて

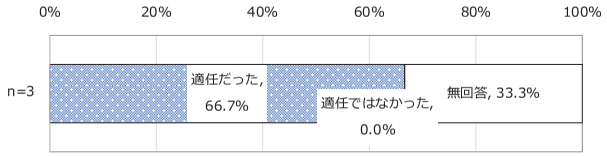
講義内容がシラバスに沿っているか尋ねたところ、「沿っていた」が 66.7%、「概ね沿っていた」が 33.3%であった。

講師が適任であったか尋ねたところ、「適任だった」が 66.7%であった。

図表5-212　講義内容がシラバスに沿っているか



図表5-213　講師は適任であったか



【講義内容に関する主なご意見】　（回答なし）

【講師に関する主なご意見】　（回答なし）

【講義で気になった点】

○ 集合研修もわかりやすかった。実技や対面の大切さを再度確認した。

⑪　その他のご意見

○ 小児訪問看護を以前受けた事があるが里帰りの 1 か月間だったために短い期間で終了した。それ以降は問合せがあっても依頼はなかなか来ない。依頼者は色々なステーションに問い合わせて、実績のあるステーションに依頼がいくのではと推察する。今後、一件ずつからでも良いので受けていきたいと思うが、現在では高齢者、癌末期、精神疾患の依頼が多くそれをこなすのに苦労している。

○ 講義の内容はすべてわかりやすく充実していた。ただ、オンデマンドの場合、質疑応答ができないのはとても残念でした。

7）小児訪問看護情報交換会

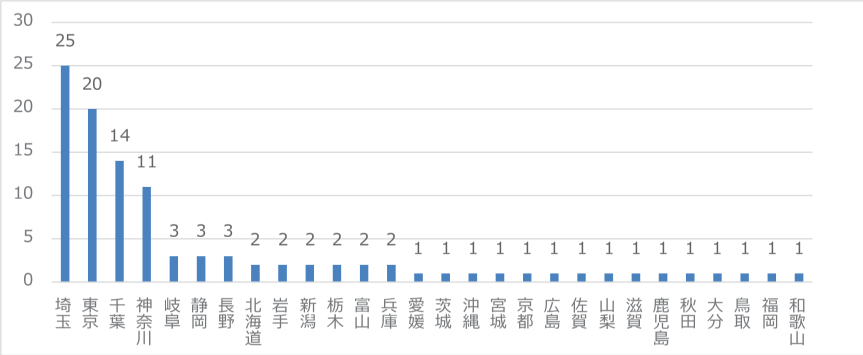
（1）第 1 回参加者アンケート

① 事前アンケート

● 参加者の事業所の所在地

参加者の事業所がある都道府県で最も多かったのは、埼玉県 25 名、東京都 20 名、千葉県 14 名、神奈川県 11 名であった。関東からの参加が多く、他の都道府県は数名であった。47 都道府県の内 28 都道府県からの参加者であった。

図表5-214　参加者の事業所の所在地（n=106）



● 参加者の職位

加者の職位を自由記述で尋ねたところ、管理者が最も多く 14 名（13.2%）、続いて所長、10 名（9.4%）であった。その他、リハビリ主任、会社役員、代表、法人代表、訪問看護総括が各 1 名（0.9%）であった。なお、無回答が 67 名（63.2%）と多かった。

図表5-215　職位（n=106）

職位	人数	割合
管理者	14	13.2%
所長	10	9.4%
スタッフ	4	3.8%
主任	4	3.8%
非常勤	2	1.9%
リハビリ主任	1	0.9%
会社役員	1	0.9%
代表	1	0.9%
法人代表	1	0.9%
訪問看護総括	1	0.9%
無回答	67	63.2%
総計	106	100.0%

● 貴ステーションの特色について教えて下さい。

ステーションの特色について最も多かったのは、「疾患や年齢に関係なく利用者を受け入れている」が 91 人(85.8%)、次に「特に小児の利用者を受け入れている」が 5 人(4.7%)、その他が 9 人(8.5%)であった。その他の内容は下記の通りである。

図表5-216　ステーションの特色

カテゴリー	人数	割合
1.疾患や年齢に関係なく利用者を受け入れている	91	85.8%
2.特に小児の利用者を受け入れている	5	4.7%
3.その他	9	8.5%
無回答	1	0.9%
総計	106	100%

【その他の内容】

・新事業所立ち上げ予定で小児受入予定

・対応できる範囲で受け入れている

・立ち上げ準備中

・小児以外は全て受け入れている

・小児、精神以外の利用者を受け入れている

・小児は殆ど受けていない

・成人が多い

・主として緩和ケア、ターミナルの利用者

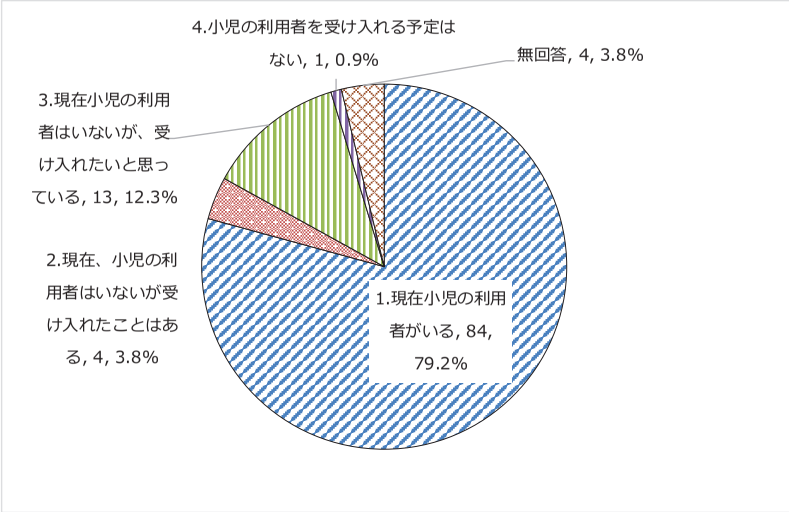
・認知症に特化

● 貴ステーションの小児の利用者の受け入れ状況について教えて下さい

事業所における小児の利用者の受け入れ状況については、「現在、小児の利用者がいる」が 84 人(79.2%)、続いて「現在、小児の利用者はいないが、受け入れたいと思っている」が 13 人(12.3%)、「現在、小児の利用者はいないが、受け入れたことがある」が 4 人(3.8%)であった。

最も多かった小児利用者人数は、「1～10 人」で 54 件、続いて「11～20 人」で 15 件であった。なお、小児利用者の中央値は 6 人、最大値は 43 人、最小値は 1 人であった。

図表5-217　小児の利用者の受け入れ状況（n=106）



図表5-218　小児利用者数（n=84）

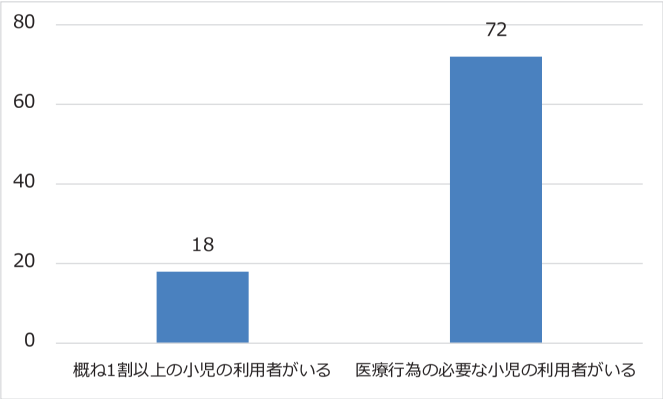
区分(人)	回答数
1～10	54
11～20	15
31～40	1
無回答	10
総計	80

図表5-219　小児利用者数の概要（n=84）

	値
最大値	43
最小値	1
平均値	8.2
中央値	6

現在小児の利用者がいると答えた者 84 人に対し、小児の利用状況を複数回答式で尋ねたところ、「概ね1割以上小児の利用者がいる」という回答が 18 件、「医療行為の必要な小児の利用者がいる」という回答が 72 件みられた。

図表5-220　小児利用者の状況（n=84、複数回答）



● 医療行為の必要な小児利用者の詳細

現在小児の利用者がいると回答した者のうち、小児の利用者数が「1～10 人」と回答した者は 56 件、「11～20 人」は 15 件、「31 人～40 人」は 1 件であった。なお、医療行為が必要な小児利用者の最大値は 34 人、最小値は1人、中央値は 5 人であった。

図表5-221　医療行為が必要な小児利用者数（n=84）

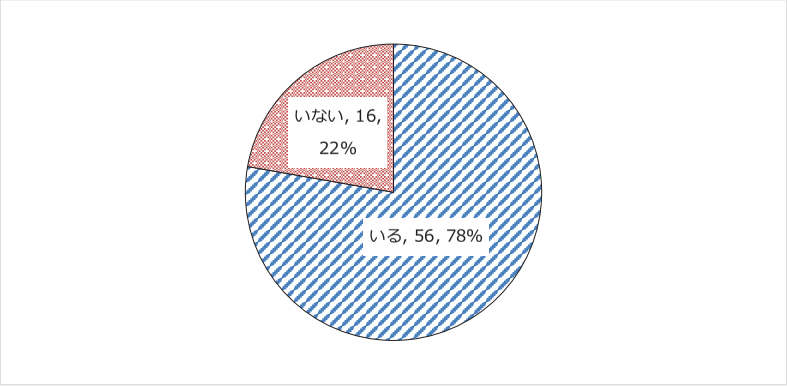
区分（人）	回答数
1～10	56
11～20	15
31～40	1
無回答	12
総計	84

図表5-222　医療行為が必要な小児利用者数の概要（n=84）

	値
平均値	6.4
中央値	5
最大値	34
最小値	1

「医療行為の必要な小児の利用者がいる」と回答した者のうち、人工呼吸器が必要な小児の利用者が「いる」と回答したのは 56 件（78%）、「いない」と回答したのは 16 件（22%）であった。人工呼吸器が必要な小児の利用者が「1～4人」と回答した者は 39 件、続いて「5～9 人」が 16 件であった。なお、人工呼吸器が必要な小児の利用者の最大値は 21 人、最小値は1人、中央値は 2 人であった。

図表5-223　図表 11　人工呼吸器が必要な小児利用者数（n=72）



図表5-224　人工呼吸器が必要な小児利用者数（n=56）

区分（人）	回答数
1～4	39
5～9	16
10～	1
総計	56

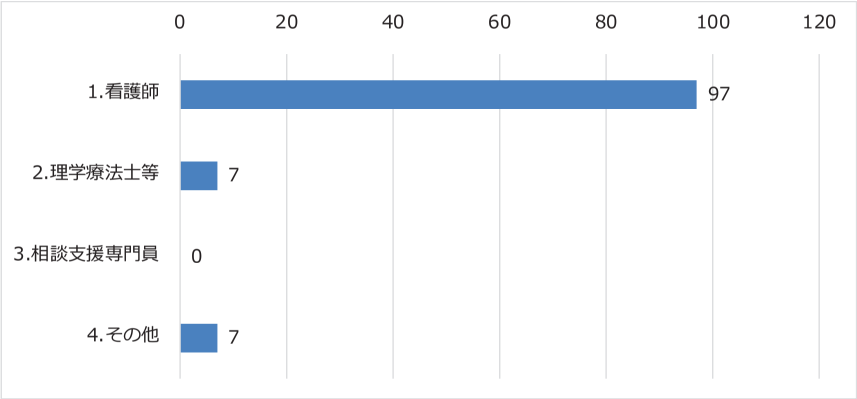
図表5-225　人工呼吸器が必要な小児利用者の概要(n=56)

	値
最大値	21
最小値	1
平均	3.6
中央値	2

● 職種を教えてください（複数回答可）

参加者の職種で最も多かったのは「看護師」97 人、続いて「理学療法士等」が 7 人であった。なお、その他の内訳は下記の通りである。

図表5-226　職種（n=106、複数回答）



※「2.理学療法士等」の内訳：理学療法士 3 人、作業療法士 1 人、未記入 3 人

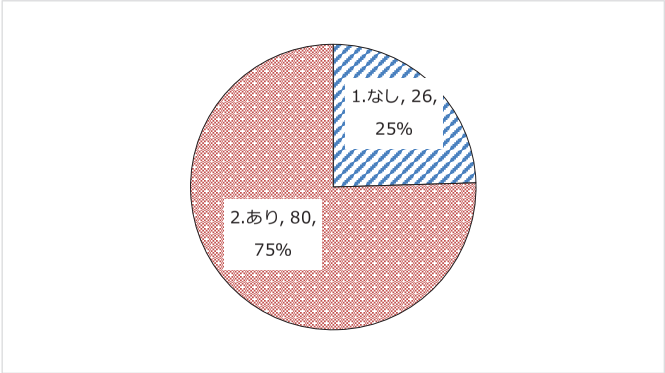
図表5-227　その他の内容

	人数
介護支援専門員	1
保健師	1
助産師	1
ケアマネジャー	4
ソーシャルワーカー	1
会社役員	1

● 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験年数について教えてください。

小児看護の経験の有無については、「経験あり」が 80 人（75%）、「経験なし」が 26 人（25%）であった。

図表5-228　小児看護の経験の有無（n=106）



● 経験年数

医療機関での経験年数で最も多かった年数は、「1 年以上 3 年未満」および「5 年以上 10 年未満」が 12 人、続いて「3 年以上 5 年未満」が 8 人、「10 年以上 15 年未満」が 5 人であった。一方、訪問看護事業所の経験年数で最も多かった年数は、「5 年以上 10 年未満」が 19 人、続いて「1 年以上 3 年未満」が 18 人、「1 年未満」16 人、「10 年以上 15 年未満」が 7 人であった。

図表5-229　療機関での経験年数　(n=80)

医療機関の経験年数	人数
1 年未満	2
1 年以上 3 年未満	12
3 年以上 5 年未満	8
5 年以上 10 年未満	12
10 年以上 15 年未満	5
15 年以上 20 年未満	3
20 年以上 25 年未満	3
25 年以上	1
無回答	34
総計	80

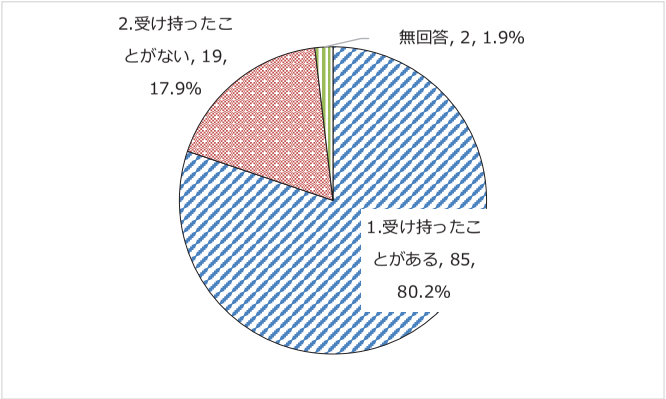
図表5-230　訪問看護事業所での経験年数　(n=80)

訪問看護事業所での経験年数	人数
1 年未満	16
1 年以上 3 年未満	18
3 年以上 5 年未満	5
5 年以上 10 年未満	19
10 年以上 15 年未満	7
15 年以上 20 年未満	4
20 年以上	3
無回答	8
総計	80

● 過去から現在までで、小児の利用者を受け持ったことがありますか

過去から現在までで、小児の利用者を受け持った経験の有無については、「小児の利用者を受け持ったことがある(現在、受け持っている)」は 85 人(80.2%)、「小児の利用者を受け持ったことがない」は 19 人(17.9%)であった。

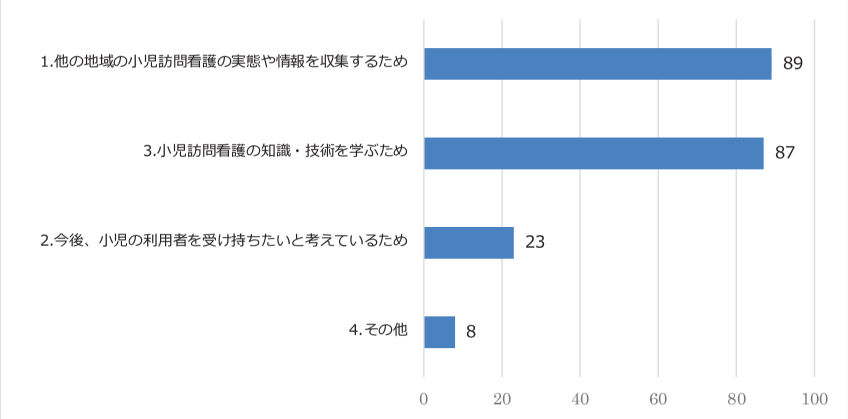
図表5-231　小児の利用者を受け持った経験の有無（n=106）



● 小児情報交換会に参加された動機について教えて下さい（複数回答可）

小児情報交換会への参加動機を尋ねたところ、「他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため」が最も多く 89 件、続いて「小児訪問看護の知識･技術を学ぶため」が 87 件、「今後、小児の利用者を受け持ちたいと考えているため」が 23 件であった。なお、その他の内容については以下のとおりである。

図表5-232　参加動機　（n=106、複数回答）



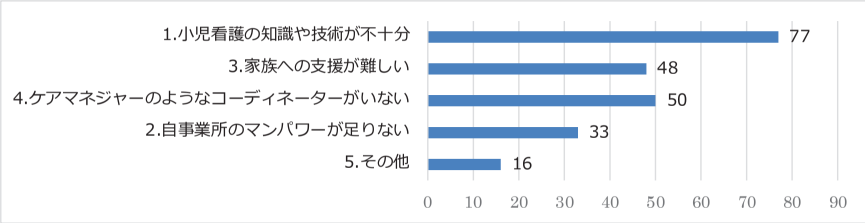
【その他の内容】

・久しぶりに小児に携わっており勉強したい。
・重症心身障害児の医療的ケアの多い児について学びを深めたい。
・今年度地域の実態調査をしている。小児の受入を活発にしていきたい。その方法を知りたい。
・高齢者がん末期、難病を多く受け入れいている事業所で障害児の受け入れアップする為。
・重症児のデイの事業を考えている。
・実際に関わっている方と意見交換したい。
・在宅における重症児の看護師の関りについて知りたい
・上司の指示。

● 小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じることがあれば教えて下さい（複数回答可）。

小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じることについて、最も多かった回答は「小児看護の知識や技術が不十分」が 77 件、続いて「家族への支援が難しい」が 48 件、「ケアマネジャーのようなコーディネーターがいない」が 50 件、「自事業所のマンパワーが足りない」が 33 件であった。なお、その他の内容については、以下のとおりであった。

図表5-233　小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じること（n=106、複数回答）



【その他の内容】

【社会資源、制度】
・社会資源の顕著な不足(2)
・社会資源を有効に使用できない時。受け皿が少ない。地域に少ない。
・制度をうまく活用できない。

【受け入れ機関】
・社会資源の利用が困難で訪問看護に頼らねばならない状況。
・デイや放課後でなく受け入れがない
・重症児を受け入れる施設が少ない。

【連携】
・他職種との連携不足
・臨時の電話などがなければ良いと思っており、技術の伝達に消極的
・医療機関や学校など連携が難しい (2)
・医師、療育センタースタッフが在宅生活を意識していない

【訪問時間について】
・訪問時間が夕方になること、長時間の訪問になること。
・看護師だけで支えようとすると訪問時間、回数等の制限がある。

【経験】
・小児在宅看護の研修が少ないため指導が難しい
・経験が乏しいので訪問することに自信がなく抵抗がある。
・未経験者の苦手意識が強い。

【小児の利用者】
・状態が急に悪化する。

● 小児訪問看護情報交換会で質問したいことや知りたいことがあれば教えて下さい。
小児訪問看護情報交換会で質問したいことや知りたい内容は、以下の通りであった。

図表5-234　質問したいことや知りたいこと　（自由記述）

①教育（スタッフ）
・予防接種の勉強をする場を頂きたい。
・どの様に支援されているのか。成功事例やうまくいかなかった事例などがあれば参考にしたい。
・小児看護のスタッフ教育について知りたい。
・小児の受け入れに不安がある職員に対して、どのようにその不安を解消できるような関わりをしているのか知りたい。
・他の事業所は小児訪問看護に関して何に困っているのか。
・病棟で小児看護を経験していなくても訪問看護師として利用者を受け持ってよいのかと思いながら訪問している。アドバイスが欲しい。

②多職種・他機関との連携
・小児ケースでヘルパーをどの様に利用しているか。地域で総合支援法外のサービスで利用できるものがあれば教えて欲しい。
・困難と感じたケースの実践と結果や方向性。母子分離をスムーズに移行するにはどうしたらよいか。ヘルパーとの連携。退院後スムーズに在宅へ移るための退院調整について知りたい。
・訪問看護に対して拒否的なドクターに対してどの様な説明をされているか。どこからの依頼が一番多いのか。連携する上で注意することは何か。
・小児の訪問に関する多職種連携の方法や資源が知りたい。
・相談支援専門員の方の動き、どのような事までして頂けるか知りたい。
・医療機関、学校などと目標、問題共有をどのように行っているか知りたい。
・小児の方たちの療育センターなど、公共・私設の施設など聞きたい。

③学校
・学校に訪問看護に行かれている方のお話をきいてみたい。
・①受け持ち担当制か、ローテーションか。②学校に入学した時どうしているか（バスの同乗や訪問回数）
・医療ケア児の教育（幼稚園、学校等）が受けられる支援方法について。また行政への働きかけをどのようにしたらよいか知りたい。

④家族支援
・家族、特に母親への対応について知りたい。
・小児訪問看護の実際を知りたい。 ご家族とのコミュニケーションの取り方や具体的例を知りたい。
・レスパイトケア時の課題（不安、困っている事）とその課題にどう対応しているか検討しているかを教えて欲しい。
・長時間訪問、レスパイト訪問のことについて聞きたい。
・小児の訪問看護を受け入れておられるご家族が訪問スタッフに望むこととは？
・病状が良くなり医療的ケアがなくなった児を、その後は育児支援（母親が訪問継続を希望するため）目的で訪問を続けているケースはあるのか知りたい。
・児の兄弟たちとの関わり。病気の受け止め方、学校との連携、父の立場・母の立場で悩んでいることがくい違ってしまう。

⑤事業所の運営について
・小児に特化したステーションを開設したいと考えているがマンパワーが足りない事。スタッフの教育が難しいことが課題。又キャンセルも多いので他ステーションではどのような工夫をしているのかを聞いてみたい。
・訪問看護として請求できない部分でも役割は重要であり、私たちは請求できなくても協力している。他のステーションではどうしているのか知りたい。
・人工呼吸器がついているような児の災害時の対応方法などについて聞きたい。
・他地域での小児訪問看護の実際、実績を知りたい。災害時の対応について知りたい。
・他ステーションでの受け入れ状況・現状など。

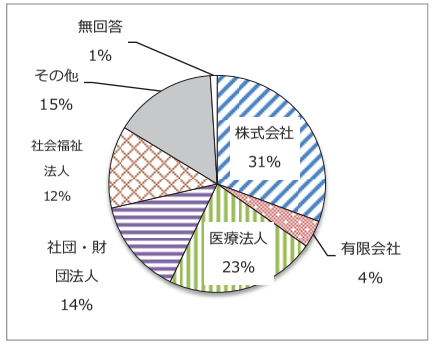
⑥継続支援
・小児⇒成人への移行期で小児科から変更されていない方が多く当ステーションとしても 20 歳以上は成人の方でのステーションに移行を考えているものの現状難しいのでどうしたらよいか。
・何らかの障害を抱えて退院する際の家族の不安をうまく医師と共有できない場合がある。退院支援と病棟看護師が必要と判断した場合でも医師が大丈夫と言って終わらせてしまうことがある。その場合の対処方法。②胃管の誤挿入の予防策について。全国の事業所ではどのように対策、ガイドラインがあるのか。

② 事後アンケート

● 所属法人の種類

所属法人の種類は、「株式会社」が 30 人(31%)で最も多く、次いで「医療法人」が 22 人(23%)などであった。

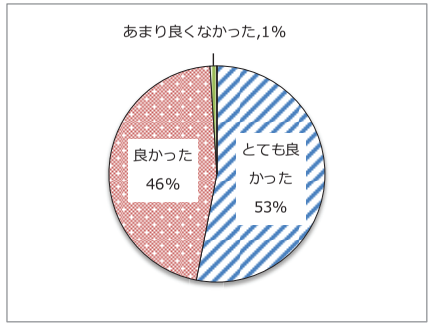
図表5-235 所属法人の種類



● 小児情報交換会に参加した感想

小児情報交換会に参加した感想は「とても良かった」が 52 人(53%)、「良かった」が 45 人(46%)、「あまり良くなかった」が 1 人(1%)であった。「良くなかった」の回答はなかった。

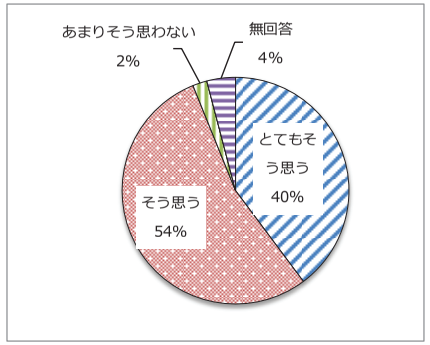
図表5-236 小児情報交換会に参加した感想



● 小児訪問看護を始めてみようと思える内容であったか

小児訪問看護を始めてみようと思える内容かについて、「とてもそう思う」が 39 人(40%)、「そう思う」が 53 人(54%)、「あまりそう思わない」が 2 人(2%)であった。「そう思わない」の回答はなかった。

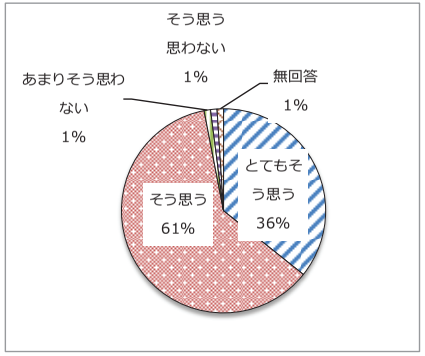
図表5-237 小児訪問看護を始めてみようと思える内容か



● 地域の連携等に役立つ内容であったか

地域の連携等に役立つ内容であったかについて、「とてもそう思う」が 35 人(36%)、「そう思う」が 60 人(61%)、「あまりそう思わない」が 1 人(1%)、「そう思わない」が 1 人(1%)であった。

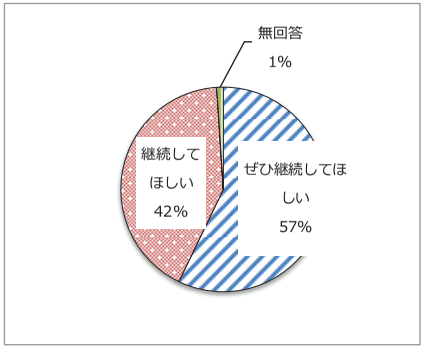
図表5-238 地域の連携等に役立つ内容であったか



● 今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することについて

今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり(情報交換会など)を継続することについて、「ぜひ継続してほしい」が 56 人(57%)、「継続してほしい」が 41 人(42%)であった。「あまり継続してほしいとは思わない」「継続の必要はない」の回答はなかった。

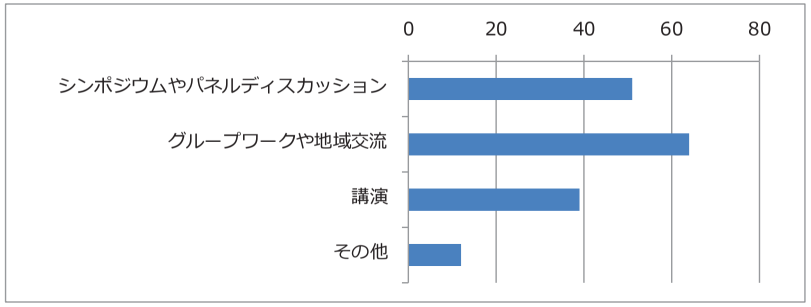
図表5-239　今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することへの意向



● 「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した場合の、希望する内容

「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した 97 人における、希望する内容としては、「グループワークや地域交流」が 64 人、「シンポジウムやパネルディスカッション」が 51 人、「講演」が 39 人であった。

図表5-240　継続してほしい場合の希望する内容（複数回答）



● 「その他」の具体的内容

【シンポジウムやパネルディスカッション】

・超重症児、準超重症児に含まれない訪看について

【グループワークや地域交流】

・多職種でのディスカッション

・各事業所間での課題等の情報交換や意見交換

・事例検討

【講演】

・小児訪問看護の最新知識

・概論と実践

・多職種連携

・様々な相談支援事業・諸機関について

・訪問看護師のマネジメント（小児）資源の活用

・小児訪問看護での実際（小児特有の疾患、急変時の対応、スキンケア等）

・小児訪問看護におけるリハビリテーション

・療育・教育分野について（栄養、発達、遊び等）

・利用者家族の話

・海外での政策や制度

【その他】

・質疑応答

【感想】

・近県の方達とのＧＷは楽しかった。

・先輩ステーションの現状アドバイスがとても参考になった。

・グループワークは意見があまりなかった。

・もう少し時間に余裕を持った研修内容にしてほしい。ひとつひとつの講演が短いと思った。

・小児リハをメインとする研修会を開催してほしい

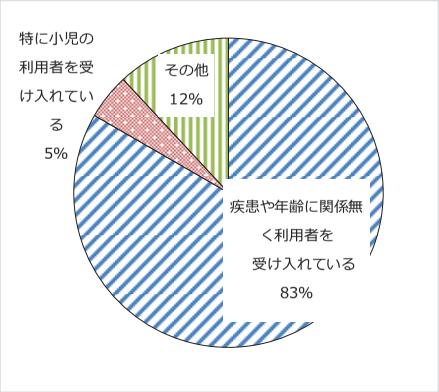
（２）第２回参加者アンケート

① 事前アンケート

● ステーションの特色

ステーションの特色は「疾患や年齢に関係無く利用者を受け入れている」が 70 人（83%）、「特に小児の利用者を受け入れている」が４人（5%）であった。

図表5-241　ステーションの特色



「その他」の具体的内容

・小児以外を受け入れている

・小児の利用はリハビリ、特別指示書で日中の受け入れている

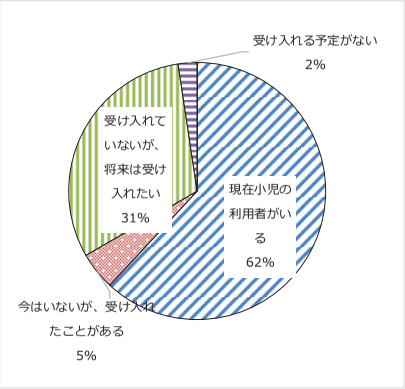
・精神科中心に受け入れている

・精神疾患以外を受け入れている

● 小児の利用者の受け入れ状況

小児の受け入れ状況は「現在小児の利用者がいる」が 52 人（62%）、「現在、小児の利用者はいないが、受け入れたいと思っている」が 26 人（31%）、「現在、小児の利用者はいないが、受け入れたことがある」が４人（5%）、「小児の利用者を受け入れる予定はない」が２人（2%）であった。

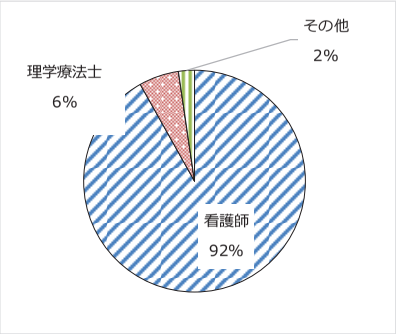
図表5-242　小児の利用者の受け入れ状況



● 職種

職種は「看護師」が 79 人（92%）、「理学療法士」が ５人（6%）、「その他」が ２人（2%）であった。「相談支援専門員」の回答はなかった。

図表5-243　職種



「その他」の具体的内容

・助産師　１人　　・不明　１人

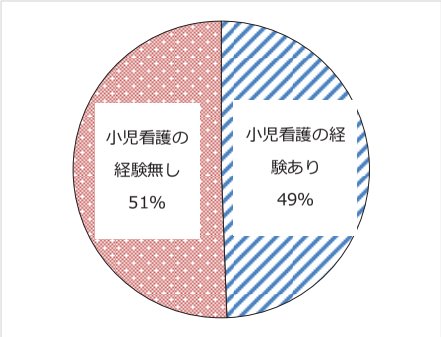
● 管理職

「管理者・所長」は 20 人、「管理職以外」は 64 人であった。

● 医療機関における小児看護、および小児訪問看護の経験年数

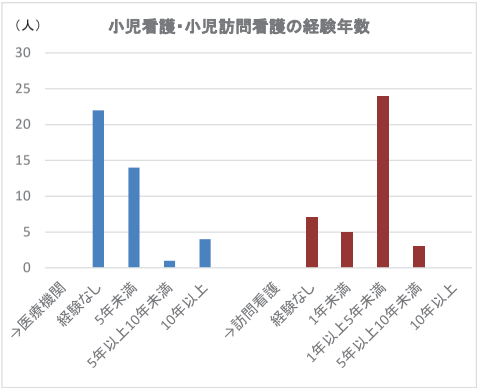
医療機関における小児看護、および小児訪問看護の経験については「経験あり」が 41 人(49%)、「経験なし」が 42 人(51%)であった。

図表5-244　小児看護の経験



医療機関の勤務経験年数は「経験なし」が 22 人、「5 年未満」が 14 人、「5 年以上 10 年未満」が 1 人、「10 年以上」が 4 人であった。小児訪問看護の経験は「経験なし」が 7 人、「1 年未満」が 5 人、「1 年以上 5 年未満」が 24 人、「5 年以上 10 年未満」が 3 人、「10 年以上」が 0 人であった。

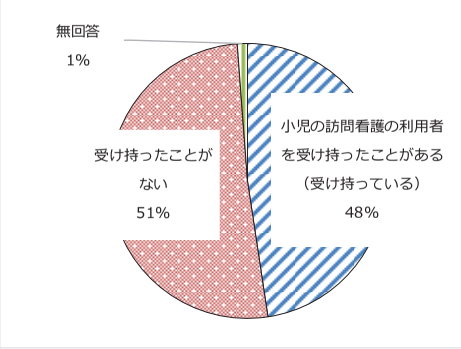
図表5-245　勤務経験年数



● 小児利用者を受け持った経験

「小児の訪問看護の利用者を受け持ったことがある(受け持っている)」が 40 人(48%)、「受け持ったことがない」が 43 人(51%)であった。

図表5-246　小児利用者を受け持った経験の有無



● 情報交換会の参加動機

「他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため」が 57 人、「今後、小児の利用者を受け持ちたいと考えているため」が 43 人、「その他」が 16 人であった。その他の具体的な内容は以下のとおり。

「その他」の具体的内容

・事業所としてどの様に小児を受け入れる体制にするか安心して小児を受け持つための方策を知る

・日々のケアに自信がない、不安や疑問がある、対応に迷うことが多々ある

・小児看護の知識、技術、経験を深めたい

・精神疾患のある親や、その子どもへの支援が必要と考えているため

● 小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じる事

小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じる事は、「小児看護の知識や技術が不十分」が 76 人、「家族への支援が難しい」が 51 人、「ケアマネジャーのようなコーディネーターがいない」が 26 人、「自事業所のマンパワーが足りない」が 19 人、「その他」が 10 人であった。その他の具体的な内容は以下のとおり。

「その他」の具体的内容

・小児看護に不安、恐怖心がある
・成長とともにケアの内容、利用できる制度、できる支援が変わる
・家族（親・兄弟）との関係性
・在宅診療できる医師がいない、退院が難しい
・訪問時間の調整

● 質問したいことや知りたいこと

質問したいことや知りたいことは以下のとおり。

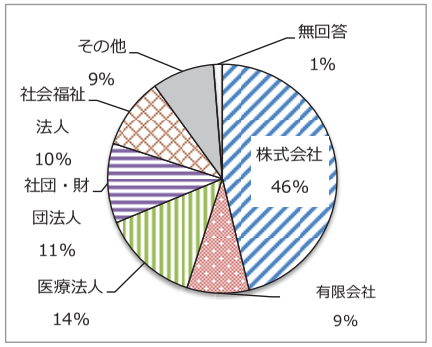
- 障がいを持った小児への社会資源、利用可能なサービスや保険、地域での取組みについて
- 医療的ケア児の成長過程の中で社会との関わりが必要となった時の支援について（保育園、支援学級等）
- 利用者家族（母親、兄弟）への支援方法や関わり方の工夫について
- 初めて訪問看護を利用し始めた利用者宅での物品やその説明方法
- 小児訪問看護を行っている事業所の主治医との連携の取り方
- 小児の往診が可能な在宅医がいない場合の対応方法
- 学校への訪問介護の介入
- 小児訪問看護を受け入れるにあたっての特別な必要物品や、事業所として準備しておくこと
- 訪問等の援助内容、緊急時や電話相談の頻度、やり甲斐（やってよかったと思うこと）
- 事業所内で担当制にしているか、チーム制をとっているか。チーム制の場合どの様に情報を共有しているか
- 小児訪問看護で一番心にとどめておきたいことは何か
- 病棟での小児経験がないと訪問で小児をみるのは難しいのか
- 小児未経験で訪看に入職するＮｓに安心して自信を持って受け持ってもらうために工夫していること
- 小児訪問看護についてスタッフへの教育方法や小児訪問看護の研修について
- ﾚｯｼｭ･ﾅｲﾊﾝ症候群の小児の成長過程と、この疾患に対する情報
- どのような疾患の児が多いか

② 事後アンケート

● 所属法人の種類

所属法人の種類は、「株式会社」が 37 人（46％）で最も多く、次いで「医療法人」が 11 人（14％）などであった。

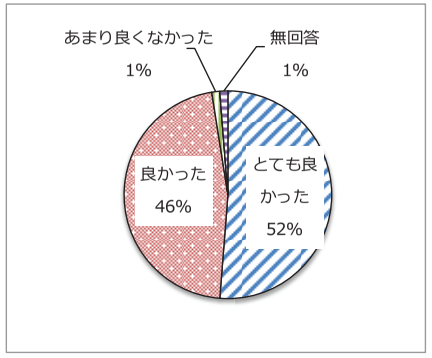
図表5-247　所属法人の種類



● 小児情報交換会に参加した感想

小児情報交換会に参加した感想は「とても良かった」が 41 人（52％）、「良かった」が 37 人（46％）、「あまり良くなかった」が 1 人（1％）であった。「良くなかった」の回答はなかった。

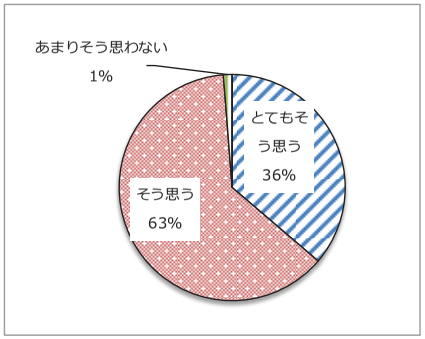
図表5-248　小児情報交換会に参加した感想



● 小児訪問看護を始めてみようと思える内容であったか

小児訪問看護を始めてみようと思える内容かについて、「とてもそう思う」が 29 人(36%)、「そう思う」が 50 人(63%)、「あまりそう思わない」が 1 人(1%)であった。「そう思わない」の回答はなかった。

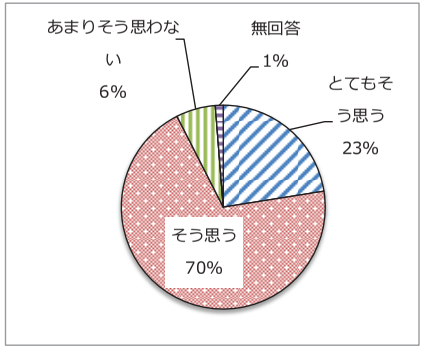
図表5-249　小児訪問看護を始めてみようと思える内容か



● 地域の連携等に役立つ内容であったか

地域の連携等に役立つ内容であったかについて、「とてもそう思う」が 18 人(23%)、「そう思う」が 56 人(70%)、「あまりそう思わない」が 5 人(6%)であった。「そう思わない」の回答はなかった。

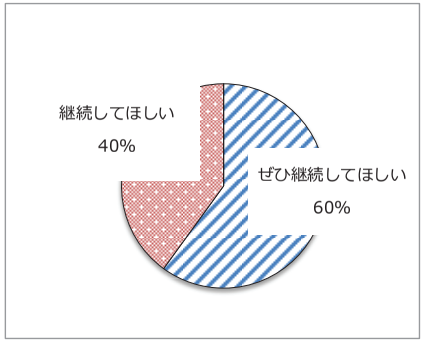
図表5-250　地域の連携等に役立つ内容であったか



● 今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することについて

今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり(情報交換会など)を継続することについて、「ぜひ継続してほしい」が 48 人(60%)、「継続してほしい」が 32 人(40%)であった。「あまり継続してほしいとは思わない」「継続の必要はない」の回答はなかった。

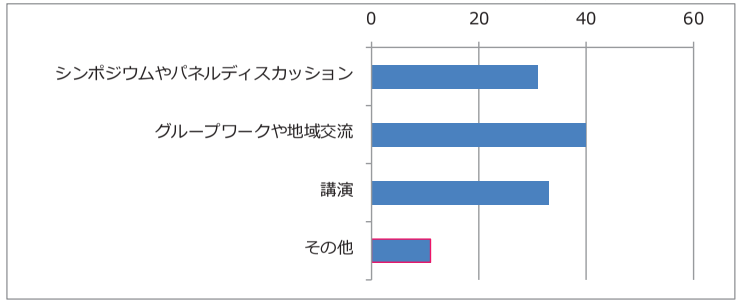
図表5-251　今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することへの意向



● 「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した場合の、希望する内容

「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した 97 人における、希望する内容としては、「グループワークや地域交流」が 40 人、「シンポジウムやパネルディスカッション」が 31 人、「講演」が 33 人であった。

図表5-252　継続してほしい場合の希望する内容（複数回答）



「その他」の具体的内容

【講演】

・患者様家族のお話

・疾患について（障害児のケア、発達段階）

・事例(医師、当事者、チーム員からの話、他のステーション、小児ステーション）

・実技、実習（フィジカルアセスメント：小児・呼吸・循環・神経、リスク管理）

・学校の制度

・社会資源情報

・導入方法、１件目をどうつなげるか

・地方での入門編研修開催を希望

・１日間での研修開催を希望（業務都合がつきにくい）

・全部

【その他】

・医療機器の取り扱い方や小児用の機器の実際の実技練習

・専門的な知識・アセスメント

・脳性マヒや終末期など、外国人の子供の話が聞きたい

・経験を聞きたい（他のステーションの特色など含め）

・さんさん訪看さんの催し物のボランティアに参加したい。実際に障害のある児、やレスピレーターをつけている児と関わりたい

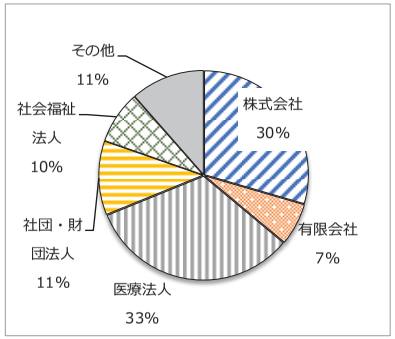
・訪問看護ステーションニュースの要望書に、特指示の月２回の対象者：難治性潰瘍、が入っていた。意見が反映され、又頑張れる気持ちになった

（３）第３回参加者アンケート

● 所属法人の種類

所属法人の種類は、「医療法人」が 20 人（33%）で最も多く、次いで「株式会社」が 18 人（30%）などであった。

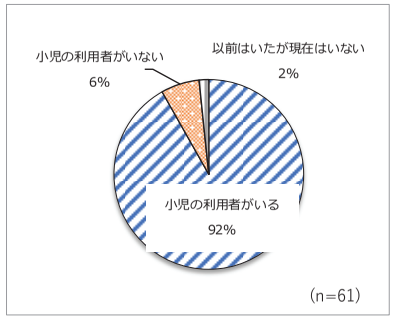
図表5-253　所属法人の種類



● 小児の利用者について

小児の利用者について「いる」が 56 人（92%）、「いない」が 4 人（6%）、「以前はいたが現在はいない」が 1 人（2%）であった。

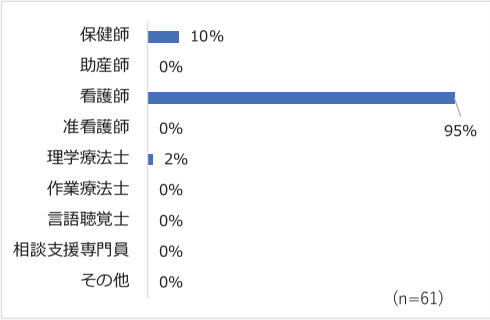
図表5-254　小児利用者の有無



● 職種

職種は「看護師」が 58 人(95%)、「保健師」が 10%、「理学療法士」が 1 人であった。

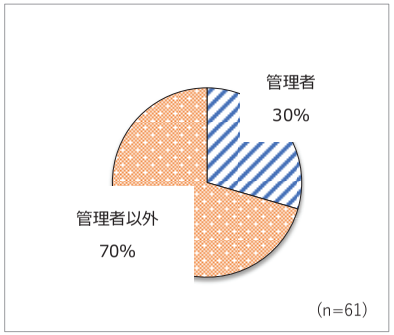
図表5-255　職種（複数回答）



● 役職

役職は「管理者」が 18 人(30%)、「管理者以外」が 43 人(70%)であった。

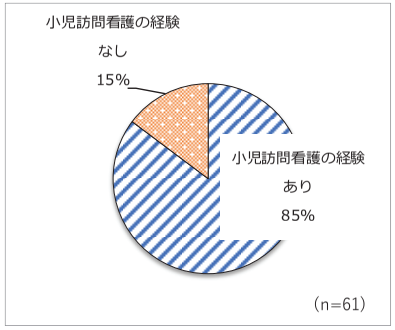
図表5-256　役職



● 小児訪問看護の経験

小児訪問看護の経験は「あり」が 52 人(85%)、「なし」が 9 人(15%)であった。

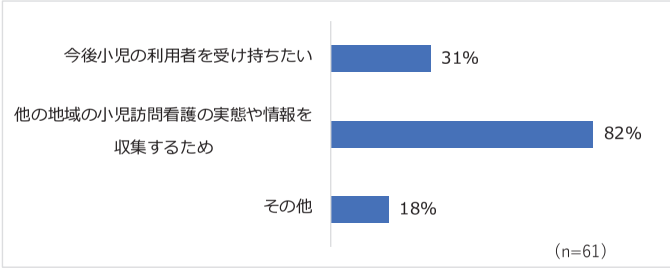
図表5-257　小児訪問看護の経験



● 参加動機

参加動機は「他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため」が 50 人(82%)、「今後小児の利用者を受け持ちたい」が 19 人(31%)、「その他」が 11 人(18%)であった。

図表5-258　参加動機（複数回答）



「その他」の具体的内容

・ミトコンドリア病の生後５ヶ月児の看取り支援を開始したため。

・病棟での小児看護経験がない中で小児の訪問をすることになったので知識を深め、ご両親との接し方を学びたい。

・自分の不足している点を気づき補うため。

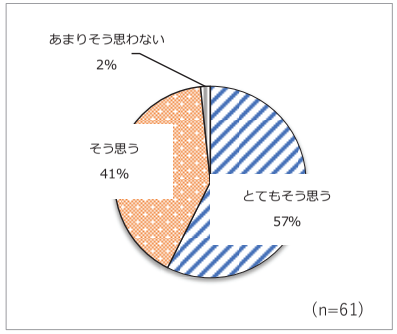
・看護学校で小児訪問看護の講師をすることになり現状把握したい。

・お父さんお母さんの生の声を聴きたい。

● 参加して、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうか

参加して、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうかについて、「とてもそう思う」が 35 人(57%)、「そう思う」が 25 人(41%)、「あまりそう思わない」が 1 人(2%)であった。「そう思わない」の回答はなかった。

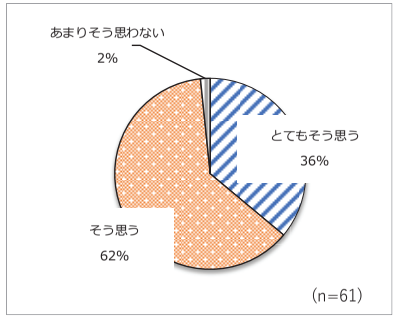
図表5-259　今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうか



● 小児訪問看護を始めてみようと思うか

小児訪問看護を始めてみようと思うかについて、「とてもそう思う」が 22 人(36%)、「そう思う」が 38 人(62%)、「あまりそう思わない」が 1 人(2%)であった。「そう思わない」の回答はなかった。

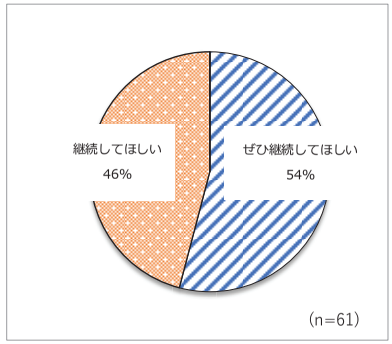
図表5-260　小児訪問看護を始めてみようと思うか



● 今後小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することについて

今後小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することについて、「ぜひ継続してほしい」が 33 人(54%)、「継続してほしい」が 28 人(46%)であった。「あまり継続してほしいとは思わない」「継続の必要はない」の回答はなかった。

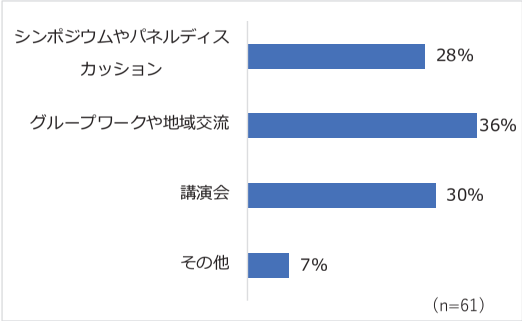
図表5-261　今後小児訪問看護を中心とした情報交換会などを継続することへの意向



● 「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した場合の、希望する内容

「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した 61 人における、希望する内容としては、「グループワークや地域交流」が 22 人、「講演会」が 18 人、「シンポジウムやパネルディスカッション」が 17 人であった。

図表5-262　継続を希望する場合の内容（複数回答）



「その他」の具体的内容

・当事者家族の話を聞きたい。

・小児ケアに関する法令や支援制度の使い方。

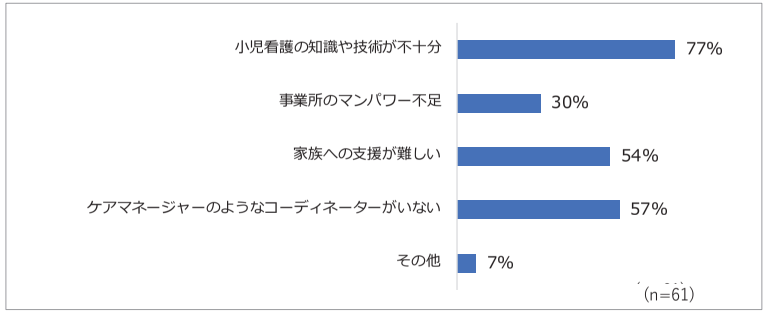
・小児病院、小児在宅医の見学、同行訪問。

・今回のような実際に訪問看護を利用されている家族の意見や利用による反応

● 小児訪問看護に携わるに当たり、困難と感じることは何か

小児訪問看護に携わるに当たり、困難と感じることは「小児看護の知識や技術が不十分」が 47 人(77%)、「ケアマネージャーのようなコーディネーターがいない」が 35 人(57%)、「家族への支援が難しい」が 33 人(54%)、「事業所のマンパワー不足」が 18 人(30%)であった。

図表5-263　小児訪問看護に携わるに当たり困難と感じること（複数回答）



「その他」の具体的内容

・判断が難しい。

・重症度と医療機器への不安。

・小児の看取りや意思決定の支援。

・主治医が拠点病院などの場合、状態変化時に連絡が取りにくい。

● 小児訪問看護に関するご意見

小児訪問看護に関するご意見は以下のとおり。

【経験知識】

- 経験と知識は必要であると実感した。
- 勤務で小児の経験者が少なく、経験者に頼りすぎている。他のスタッフの意欲向上に繋がるような勉強会を期待している。
- 研修会や情報交換でスキルアップを図りたい。

【相談先の必要性】

- 小児に特化したステーションではないため、知識やケアの工夫で悩む時に気軽に相談できるところがあると良い。
- 訪問看護ステーションの相談先がない。

【連携】

- 各地域で小児訪問看護の受け入れが難しい状況の中、不安がありながらも受け入れされている現状が聞けて、更に 研修を重ね、安心して暮らせる地域作りの一つとなるようにしていきたいと感じた。
- 地域や行政単位で訪問看護の位置付けを明確にさせ、訪問看護が置いてきぼり感を感じないように整えてほしい。
- 障がいのショート施設や養護学校等の公的サービスとの連携方法、病院の退院支援看護師や小児専門在宅医とのネットワーク作りが必要だと考える。
- 小児訪問看護において複数のステーションが関わる時、どのように連携しているか、どのような工夫があるのか、他のステーションの方の意見をもう少し聞きたかった。

【利用者家族との関係】

- 核家族化で介護者である母親の負担が大きいと感じる。早期介入し、信頼関係を築き、一緒に成長を看まもることが負担軽減に繋がることを再確認した。
- 小児訪問看護は、両親（特に母親）との人間関係の構築からスタートし、先ずは、両親の思いに寄り添うことから 始まると思う。
- 利用者のご家族の貴重な意見を聞けてとても勉強になった。今後の訪問に役に立てたい。
- 小児訪問看護は恐い、難しい、親との関わりが大変、といった先入観があった。今回、両親の立場からの生の声、職場での現状や問題点を知り、小児の成長を一緒に見守る、まずはお友達になる、 といった気持ちで接していこう、触れる事で安心感を持ってもらおうと思えるようになった。
- 小児訪問看護に対する苦手意識や困難さを正直に表してくださり共有する事ができた。苦手意識を持つのは自然な感情であり、その気持ちとどう向き合うか考えるきっかけになった。

【その他】

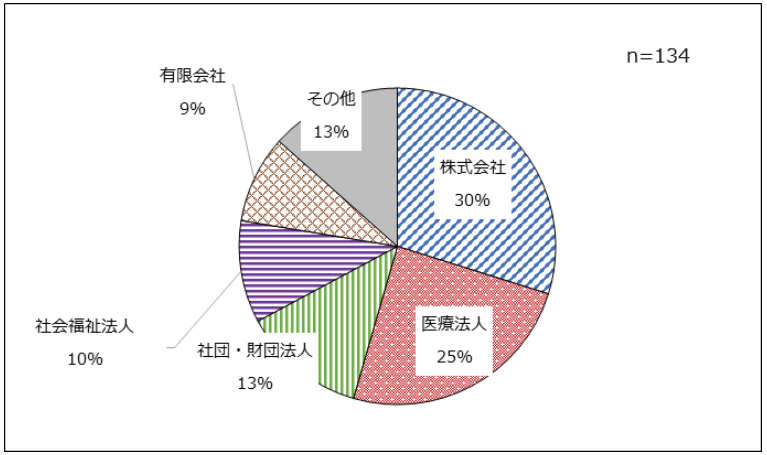
- 意見交換会の時、ファシリテーターが途中参加だったため、司会をしていた方が戸惑って見えた。
- ファシリテーターがいるなら最初から参加してほしかった。

（4）第４回参加者アンケート

● 法人の種類

回答者 134 人のうち、「株式会社」が 30%(40 人)、「医療法人」25%(33 人)、「社団・財団法人」13%(17 人)、「社会福祉法人」10%(14 人)、「有限会社」9%(12 人)、「その他」が 13%(18 人)だった。

図表5-264 法人の種類



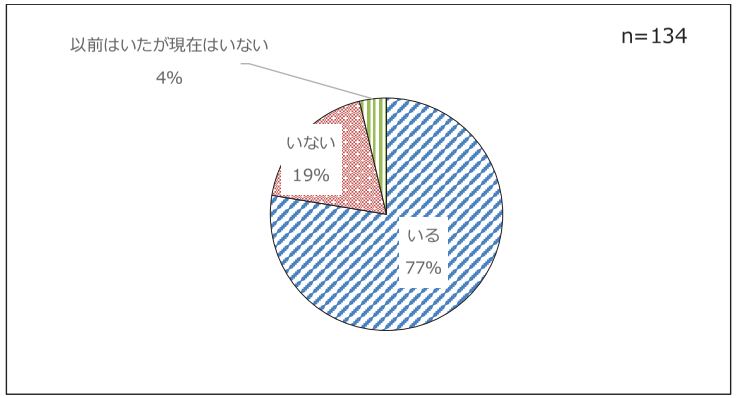
【その他回答】

「合同会社」4 人、「NPO 法人」、「公益社団法人」3 人、「学校法人」「東京保健共同組合」「大学病院附属」「地方公共団体」「医療法人社団」「医療生協」「法人なし」など。

● 18 歳未満の小児利用者について

回答者 134 人のうち、「いる」と回答した方は 77%(104 人)、「いない」が 19%(25 人)、「以前はいたが現在はいない」が 4%(5 人)であった。

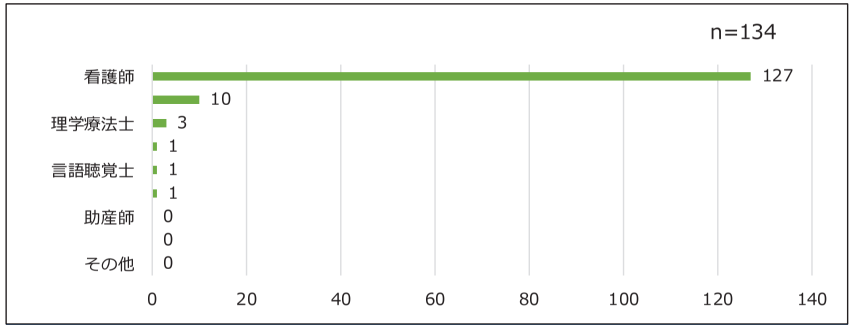
図表5-265 18 歳未満の小児利用者の有無



● 参加者ご自身の職種（複数回答）

「看護師」が 95%(127 人)と最も多く、次いで、「保健師」7%(10 人)、「理学療法士」2%(3 人)、「准看護師」「言語聴覚士」「相談支援専門員」がそれぞれ 1%(1 人)であった。

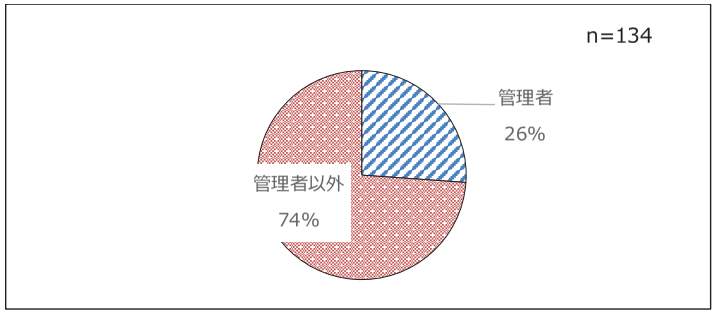
図表5-266 職種（複数回答）



● 役職

「管理者」が 26%(35 人)、「管理者以外」が 74%(99 人)であった。

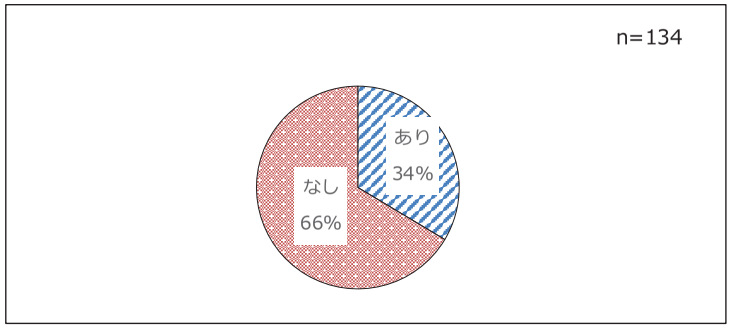
図表5-267 役職



● 医療機関における小児看護の経験

医療機関における小児看護の経験が「ある」と回答した方は 34%(45 人)、「なし」が 66%(89 人)であった。

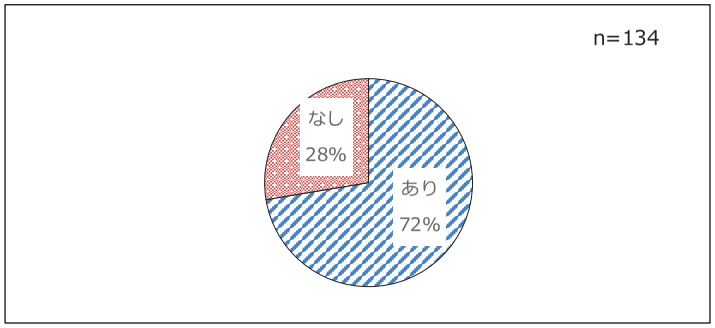
図表5-268 医療機関における小児看護の経験



● 小児訪問看護の経験

小児訪問看護の経験が「ある」と回答された方が 72%(97 人)、「なし」が 28%(37 人)であった。

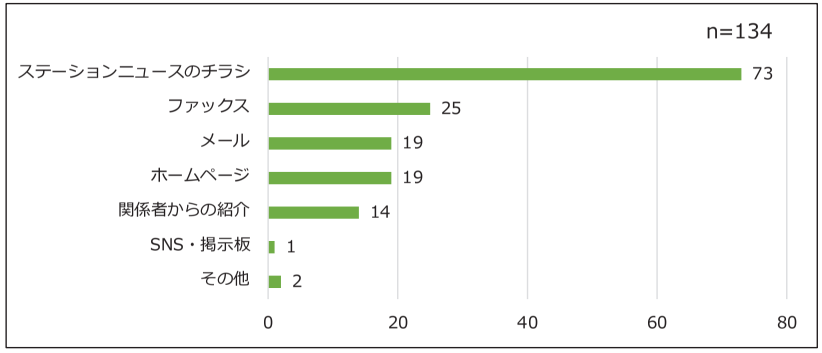
図表5-269　小児訪問看護の経験



● 小児訪問看護情報交換会を知ったきっかけ（複数回答）

最も多かった回答が、「ステーションニュースに同封されたチラシ」で 54%(73 人)、次いで、「ファックス」19%(25 人)、「メール」「ホームページ」がそれぞれ 14%(19 人)、「関係者からの紹介」10%(14 人)、「SNS・掲示板」1%(1 人)、「その他」1%(2 人)であった。

図表5-270　小児訪問看護情報交換会を知ったきっかけ（複数回答）



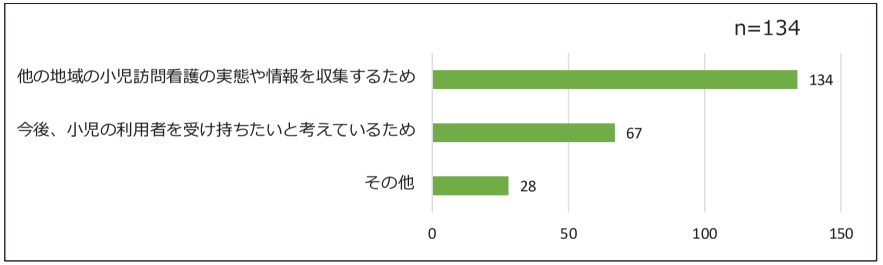
【その他の回答】

・上司からの勧め。

● 参加動機は何ですか（複数回答）

「他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため」が 100%(134 人)、「今後、小児の利用者を受け持ちたいと考えているため」が 50%(67 人)、「その他」が 21%(28 人)であった。

図表5-271　参加動機（複数回答）



【その他の回答】

・小児訪問看護について知識をつけたい、学びたい。

・医療的ケア児支援法を理解したい。

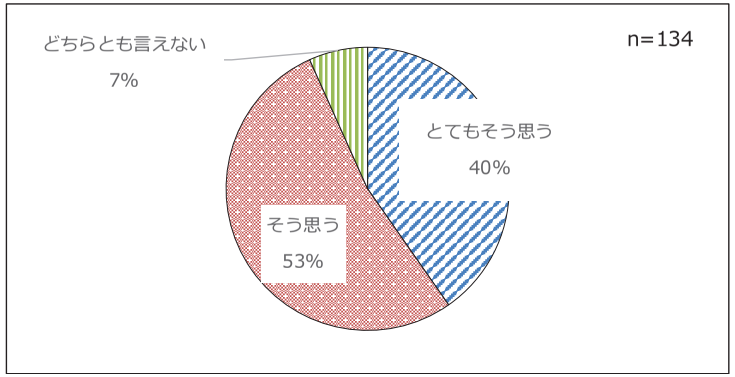
・利用者や、利用者家族の話が聞きたい。

・小児の利用者がいるため。

● 参加したことにより、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうですか

「そう思う」が 53%(71 人)と最も多く、次いで「とてもそう思う」が 40%(54 人)、「どちらとも言えない」が 7%(9 人)、「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答はなかった。

図表5-272　今後の小児訪問看護の活動に役立ちそう



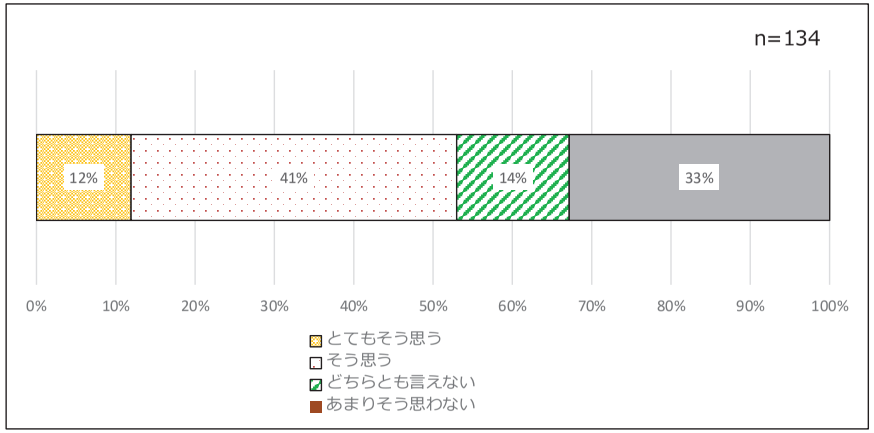
【選んだ理由】

とてもそう思う、そう思う
・医療的ケア児支援法や、制度について知る、学ぶことができた。
・利用者、利用者家族の話が参考になった。
・今後の活動につなげたいと感じた。
・他職種との連携について学べた。
どちらとも言えない
・現実的にやってみないとわからない。
・実践に向けての技術や知識が不十分なため。
・小児訪問看護の利用者がいない。
・マンパワーが不足している。

● 小児訪問看護を始めてみようと思いましたか

「そう思う」が 41%(55 人)と最も多く、次いで「すでに小児訪問看護を行っている」が 33%(44 人)、「どちらとも言えない」が 14%(19 人)、「とてもそう思う」が 12%(16 人)、「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答はなかった。

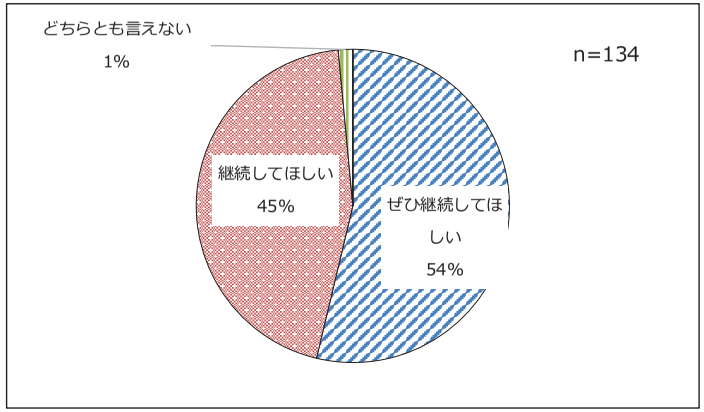
図表5-273 小児訪問看護を始めてみようと思ったか



● 今後、小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することについて

「ぜひ継続してほしい」が 54%(72 人)、「継続してほしい」45%(60 人)、「どちらとも言えない」1%(2 人)であった。「あまり継続してほしいとは思わない」「継続の必要はない」の回答はなかった。

図表5-274 小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することへの意向



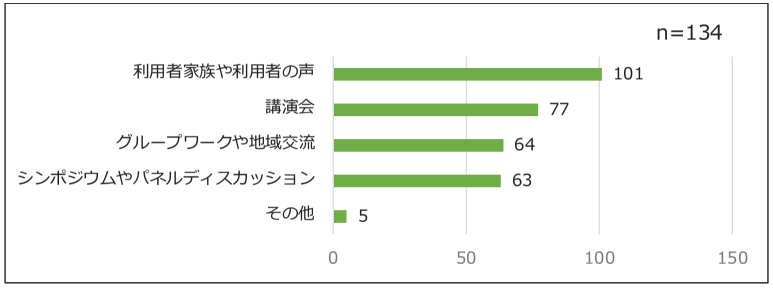
【選んだ理由】

ぜひ継続してほしい、継続してほしい
・小児訪問看護の情報を知りたい。
・利用者の話が聞きたい。
・知識を得たい、学びたい。
・小児の経験のない人が、やってみようと思うきっかけになる。
どちらとも言えない
・興味はあるが、参加費が高い。

● 「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答した場合、どのような内容があったらよいと思いますか（複数回答可）

「利用者家族や利用者の声」が 75%(101 人)、次いで「講演会」57%(77 人)、「グループワークや地域交流」48%(64 人)、「シンポジウムやパネルディスカッション」47%(63 人)、「その他」4%(5人)だった。

図表5-275　継続を希望する場合の内容（複数回答）



【その他の回答】

- 現役訪問看護師の声。
- 事例報告、多職種からの介入事例。
- 実際に訪問している人の体験談。
- 困ったことをどのような方法で克服したか。
- 学校とのやりとりの実際。学校側の意見など。
- 具体的なケア内容や、看護についての勉強会。関連病院での実習や見学。

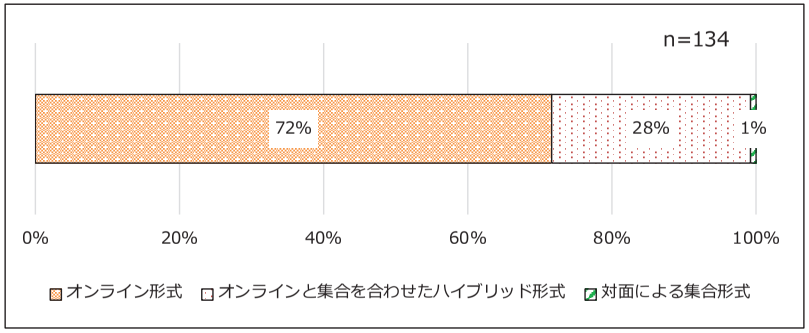
【選んだ理由】

利用者家族や利用者の声
・実際に利用者や家族の声を聞けて、何を求めているのかがわかる。 新しい視点が理解できる。
・家族や本人からの生の声も聞いて、実際の思いを聞いてみたい。
・利用者さんの実際の意見を知って、今後に活かしたい。
講演会
・現状や情報を聞きたい、学びたい。
グループワークや地域交流
・質問の時間が足りないように感じた。もっとフリーにディスカッションできればお互いの悩みや情報共有ができるのではないかと思う。
・意見交換や現場の経験談が聞ける場が欲しい。
・自身の地域での医療的ケア児の児数やサービスの現状、課題を話し合えるといいと思う。
シンポジウムやパネルディスカッション
・本日の情報交換会がとても良かったから。
・実際ケアをうける家族の背景も多様化してるので様々な事例や支援方法を学びたい。
・実際に現場で働く訪問看護師の疑問点等を、ご本人、ご家族に質問できる機会は貴重だと感じた。

● どのような開催方法が良いですか。

回答で最も多かったのは「オンライン形式」で 72%(96 人)、次いで「オンラインと集合を合わせたハイブリッド形式」が 28%(37 人)、「対面による集合形式」は 1%(1人)だった。

図表5-276 開催方法に関する意向



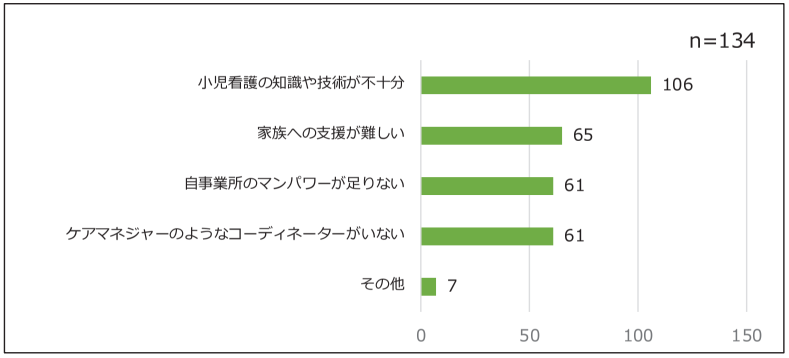
【選んだ理由】

オンライン形式
・コロナの拡大で法人での規制も多く、遠方の対面での研修会へ参加する事が難しい。
・無理なく気軽に参加できる。
・スケジュール調整が楽なため。
オンラインと集合を合わせたハイブリッド形式
・集まれる人は集まり、現場で情報交換しているところを WEB でも配信できたら臨場感があってよい。
・今の時代、色々な参加の形が良い。

● 小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じること（複数回答）

「小児看護の知識や技術が不十分」が最も多く 79%(106 人)、次いで「家族への支援が難しい」49%(65 人)、「自事業所のマンパワーが足りない」「ケアマネジャーのようなコーディネーターがいない」がそれぞれ 46%(61 人)、その他が 5%(7人)だった。

図表5-277 小児訪問看護で困難と感じること（複数回答）



【その他の回答】

- 子供とどう関わって良いのかまだわからない（医療的な事や遊び・学びなど）。
- スタッフが小児訪問看護に積極的でない。
- 子供が嫌いとスタッフに言われてしまう。
- 小児訪問看護に対する認知度が低い。
- ニーズがある分野であるが、教育していくのに時間もかかり、マンパワーも必要である。
- 訪問看護以外の職種、施設との連携が難しい。
- 看護師の質。

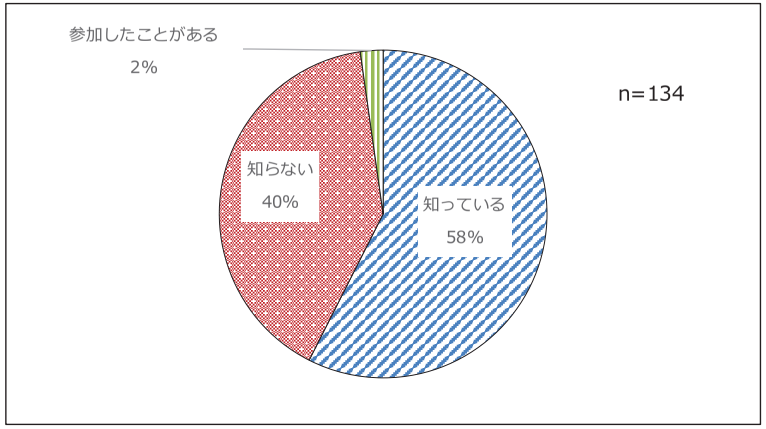
【選んだ理由】

小児看護の知識や技術が不十分
・未経験のため不慣れで、怖さや不安が大きい。
・吸引一つとっても、大人とは違うので知識、技術ともに学ばないといけない。
・訪問している件数が少なく、経験も少ないため。
家族への支援が難しい
・家族は看護師以上に知識があり、自分たちでできてしまうことが多く、また病児とコミュニケーションをとるのも難しい。
・家族との関係性の構築が難しい。
・家族の思いや希望にこたえることが難しい時がある。
・その家庭により環境や経済状況、考え方など多様で複雑であるから。
自事業所のマンパワーが足りない
・看護師を募集しても入らない、小児訪問看護をしているだけで嫌煙される。
・ステーション内に小児経験のある看護師が少なく、積極的に訪問依頼を受けられない。
・重心の小児だけではなく、生後 2.3 ヶ月の小児に訪問に行く事が最近増え、全ての子供たちへ訪問看護を提供するにはマンパワーが足りない。
ケアマネジャーのようなコーディネーターがいない
・誰に相談したらいいのかわからなかったり、忙しいようで連絡をもらえない。 行政もどのような支援があるかわからない方が多くいる。
・児をトータル的に理解しているのが主に母親しかおらず、必要な支援が行き届いていないように感じる。
・就学にあたり支援が少なく、家族の負担も大きい。利用者によってはコーディネーターがいない場合もある。

● 当協会の行っている小児訪問看護研修会を知っているか

「知っている」が 57%(77 人)、「知らない」が 40%(54 人)、「参加したことがある」は 2%(3 人)だった。

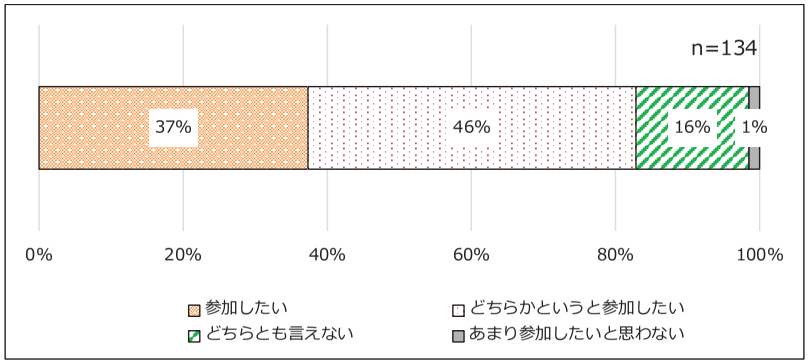
図表5-278 当協会の小児訪問看護研修会を知っているか



● 当協会の行っている小児訪問看護研修会を受講してみようと思いますか

「どちらかというと参加したい」が 46%(61 人)、「参加したい」37%(50 人)、「どちらとも言えない」16%(21 人)、「あまり参加したいと思わない」が 1%(2 人)だった。

図表5-279　小児訪問看護研修会を受講してみようと思うか



【選んだ理由】

参加したい、どちらかというと参加したい
・小児在宅の知識が、まだまだ不足しているから。
・呼吸や摂食等について学習したい　知識を増やしたい。
・本格的に小児の訪問看護を行うことになればぜひ勉強しておきたいと思う。
・参加したいが時間が長い為、難しそう。
・勤務形態や金額的に厳しい。
どちらとも言えない
・参加したいが、遠方でなかなか行き辛い。
・高額なので参加しずらい。
・参加時間の確保が困難。
あまり参加したいと思わない
・費用もかかるし時間もかかる　仕事をしながらだと今現在では無理だと思う。

小児訪問看護に関してのご意見（自由記載、一部抜粋）

制度について
・小児に特化した訪問看護ステーションで、長時間の訪問看護を提供する事が多く、一日の訪問看護が 2～2.5 件程度。運営的に厳しい。就学児童になると夕方以降の訪問看護を希望され、行けるスタッフの調整が難しくなる。希望に応えるため勤務時間の調整をして対応している。自宅以外の訪問看護も今後は期待されていると思うので制度の中で提供できるようになっていってほしい。
・医ケア児が就学を終えた後のフォローが一気に少なくなり、両親は高齢になっていく事でケアを担う事がかなり負担になっている状況がある。在宅で生活が長く出来るためにもショートステイやレスパイトの対応ができる場所が必要と感じている。
小児訪問看護を頑張りたい、小児訪問看護を行うステーションが増えると良い
・小児の訪問看護はその子の成長を肌で感じることができて、本当に楽しく、やりがいがある。そして何よりどの子供たちもとても可愛い。 家族も色々な背景があるが、訪問看護を受けることで私たちが家族の応援団として、関わらせていただいている。 もっとたくさんの方が小児の訪問看護に携わってみたり、興味が持てるように、頑張りたい。
・当ステーションも小児専門としていますが、常に需要がある分野であり、今後このような研修がすすんでたくさんの小児をみれるステーションができればと思う。
参加理由について
・24 歳、訪問看護師 3 年目。 訪問看護という分野で働き始めてから、小児訪問看護に対して、周りの看護師は大きな壁を作っていると感じる。 私の得意分野として身につけられればと思い、今回参加した。 また今後もこのような機会があれば、ぜひ参加したい。
研修会について
・基礎的なところから入り 演習やケアの動画も入れて勉強（研修）できたらと思う。
・災害時の看護についてセミナーがあれば参加したい。
小児訪問看護に対する不安や悩み
・何かあったらどうしようという不安が付きまとっている。経験が少ないのが理由だと思うので経験をしていきたい。
・地域的に訪問看護ステーション数も少なく、小児訪看を受けている事業所も限られている。実際に支援について悩んでも相談する先が無かったり、解決策が見出せない事もあり、歯痒い思いをする事も多い。医ケア児に関わる人を増やし、地域全体でご本人やご家族を支えていくために、自分たちにできることを今一度考えていきたい。

６．まとめと考察

６．まとめと考察

小児を取り巻く医療の問題として、円滑な在宅移行が挙げられるが、現状では十分に移行が進んでいない。在宅療養を支援する立場の訪問看護の現場においても「小児科を経験したことのある看護師がいない」「医療処置などの小児の処置に不安がある」などの声が聞かれ、小児訪問看護の提供に積極的になれないという一面がある。こうした背景から、当協会では、小児訪問看護の量的拡大と質的向上を推進するために、平成 28 年に小児訪問看護推進検討部会を設置し小児訪問看護研修会及び小児訪問看護情報交換会のプログラムの開発を行った。

「小児情報交換会」は参加者に役立つ情報を提供し、参加者同士で意見交換ができる場とした。参加者の多くがこうした取組の継続を希望していたことから、今後も各地域で同様の機会を設けることが期待される。

小児訪問看護研修プログラムの開発では、「はじめよう小児の訪問看護」「いのちを支える」「活動すること」「呼吸すること」「食べること」という 5 つの領域に分け、小児訪問看護を実践する上で身に着けておくべき知識や技術を習得できる構成とした。研修プログラムの開発期間中は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、一部オンデマンド配信やライブ配信を活用した。ライブ配信ではなるべく対面に近い工夫を凝らすことで、参加者から高い評価が得られたが、対面研修での評価の高さを踏まえると、オンデマンド配信・ライブ配信の良さを活用しつつも、講義内容によっては可能な限り対面での研修を行うことが望ましいと考えられた。

今後は、都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等において、自地域の実情に応じ、小児訪問看護研修プログラムを適宜、アレンジして開催することができるよう支援する必要がある。当協会の検討委員会においては、引き続き、都道府県訪問看護ステーション連絡会協議会等への支援を中心に検討する。

参考資料

はじめよう小児訪問看護　終了後アンケート

マークシート：○ で囲まれた部分を黒で塗りつぶしてください

記入例　正しい●　読み取れない ① ② ③

1.医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験年数について教えてください。

○ なし　○あり（医療機関：約　年　訪問看護事業所：約　年）

12 月 19 日

2.小児訪問看護の実際

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

3.家族に寄り添う看護パート1

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

4.診療所が実施する小児在宅医療の実際

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

5.小児看護の現状と課題

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

12 月 20 日

6.重症心身障害児者の原因となる疾患の理解

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

7.脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

8.骨折予防に重点をおいた移乗介助・更衣・ポジショニング

講義内容は到達目標を達成するために適切でしたか　○ 適切　○ 概ね適切　○ あまり適切でない　○ 適切でない

その理由[　　]

12 月 21 日

9.子どもの成長発達とフィジカルアセスメント

演習を通じて小児のフィジカルアセスメントの方法を学べましたか　○ 学べた　○ 概ね学べた　○ あまり学べなかった　○ 学べなかった

その理由[　　]

⇒裏面へ

研修会全体について

10.研修会の目的①「小児訪問看護の魅力を理解する」は達成できましたか

○ 達成できた　○概ね達成できた　○あまり達成できなかった　○達成できなかった

その理由[　　]

11.研修会の目的②「小児看護の基本的知識を身につける」は達成できましたか

○ 達成できた　○概ね達成できた　○あまり達成できなかった　○達成できなかった

その理由[　　]

12.研修会の目的③「小児訪問看護に対する苦手意識を軽減させる」は達成できましたか

○ 達成できた　○概ね達成できた　○あまり達成できなかった　○達成できなかった

その理由[　　]

13.小児訪問看護に取り組むことができそうですか

○ できる　○できない　○既に取り組んでいる　○分からない

その理由[　　]

14.当協会では、本研修会のスキルアップ編として「いのちを支える」「活動すること」「呼吸すること」「食べること」を行う予定にしております（別紙プログラム参照）それらの研修も受講したいと思いますか。

○ 思う　○思わない　○どちらとも言えない

ご協力ありがとうございました

小児訪問看護研修会「いのちを支える」アンケート

1. 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験はありますか。
また、「ある」場合の経験年数および担当した人数についてご記入ください。
1)経験: □なし □あり(医療機関:約 年 訪問看護事業所:約 年)

2)訪問看護で担当した小児は、何人ですか(過去に担当した場合も含めてお書きください)
□1~5 人 □6~20 人 □21 人以上

2. 各講義について
1)小児がんについて

【達成目標】○子どもに特徴的ながんについて理解する。 ○がんの治療方法について理解する。
○がんに罹患している子どもの日常生活の注意点について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

2)よりよく生き抜くための重症心身障害児者の看護

【達成目標】○疾病により身体機能の危機的状態にある、および成長発達・加齢に伴い終末期に向う重症心身障害児者の病態が理解できる。 ○重症心身障害児者の治療の選択、家族の思いを理解することができる。 ○終末期に向かうあるいは終末期にある重症心身障害児者とその家族の支援について考えることができる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・グループワークで、学びは深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

3)他職種の理解とチーム医療について

【達成目標】○疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状を理解し、支援のありかたを学ぶ。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・グループワークで、学びは深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

4)子どもの権利と倫理的かかわり

【達成目標】○子どもの権利を理解する。 ○倫理的な関わりについて考えることができる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・グループワークで、学びは深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

5)家族の思いに寄り添う看護

【達成目標】○疾病や障害をもつ子どもの家族及び介護者の想いがわかる。 ○重症心身障害児者の家族の理解を深め、支援について検討できる。 ○悲嘆の過程について理解する。 ○家族の障害受容に対する支援方法について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・グループワークで、学びは深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

6)急変時の対応

【達成目標】○小児のBLS技術が実践できる。 ○小児の緊急時の対応について具体的にイメージできる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・グループワークで学びが深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

・演習を通して、技術の学びがありましたか
□大変学びがあった □概ね学びがあった □学びはなかった
※演習についての意見
□ファシリテーターがフォローしてくれたのが良かった
□わからないところをすぐに聞くことができた
□細かい動きも確認できた
□細かいところがわかりにくかった
□わからないところの質問がしにくかった
□講師の動きがよく見えなかった
□その他( )

3. 小児訪問看護研修のプログラムについて
1)小児訪問看護研修のプログラムは、5つの編により構成されていますが、そのことをご存じですか
□知っている □知らない

2)以下の 5 つの編で興味のある研修はどれですか(複数回答)

【研修名】
□はじめよう小児の訪問看護(基礎編)
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)
⇒□小児訪問看護の実際
□診療所が実施する小児在宅医療の実際
□重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応
□小児看護の現状と課題
□脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について
□骨折・移乗介助・更衣(演習あり)
□子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)

□「いのちを支える」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)
⇒□終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)
□家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)
□小児がんについて
□急変時の対応(演習あり)
□他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)
□子どもの権利と倫理的かかわり(グループワークあり)

□「活動すること」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)
⇒□最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)
□てんかん発作について
□睡眠障害について
□耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について
□目の機能・眼科疾患について
□発達障害の理解と対応
□小児リハビリテーション(演習あり)
□福祉用具
□児童相談所の機能と役割について
□特別支援学校における看護の役割について

□「食べること」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)
⇒□重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断
□消化器疾患と栄養障害について
□排便障害について
□排尿障害について
□摂食嚥下障害について
□摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)
□口腔衛生について(演習あり)
□相談支援と連携

□「呼吸すること」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)
⇒□呼吸障害について
□心疾患(心奇形)について
□循環器について
□呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)
□呼吸障害の看護について(演習あり)
□人工呼吸器の基礎(演習あり)
□在宅生活を支える制度や社会資源について
□児童相談所の役割について

4. 研修会の開催方法について
1)オンデマンド配信による研修について
□参加しやすい □参加しにくい □どちらとも言えない
その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)
□自分のペースで視聴できる
□何度も見ることができる
□質問ができない
□他の受講者との情報交換ができない
□その他( )

2)ライブ配信による研修について
□参加しやすかった　□参加しにくかった　□どちらとも言えない
※その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)
□わかりやすかった
□他の人の意見を聞くことができた
□移動時間がなくて良い
□交通費の負担がなくて良い
□開催日時が参加しやすい設定だった
□Web環境を整える必要があった
□実際に演習を行いたかった
□その他の意見(　　)

5. 今後、小児の訪問看護を担当しようと思いますか
□すでに担当している
□担当しようと思う。
□もう少し勉強してから担当しようと思う。
□担当しようと思わない。
※「もう少し勉強してから担当しようと思う」・「担当しようと思わない」方は、その理由をお書きください。(フリーアンサー)

6. その他のご意見をお書きください。(フリーアンサー)

小児訪問看護研修会「活動すること」アンケート

1. 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験はありますか。
また、「ある」場合の経験年数および担当した人数についてご記入ください。
1)経験:　□なし　□あり(医療機関:約　年　訪問看護事業所:約　年)

2)訪問看護で担当した小児は、何人ですか(過去に担当した場合も含めてお書きください)
□0 人　□1～5 人　□6～20 人　□21 人以上

2. 各講義について
1)てんかん発作について

【達成目標】〇てんかんの原因、診断、治療について理解する。〇てんかん発作の観察ポイントについて理解する。〇てんかん発作を予防するための日常生活管理について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

2)睡眠障害について

【達成目標】〇睡眠のメカニズムについて理解する。〇睡眠障害のメカニズムについて理解する。〇睡眠障害の治療について理解する。〇睡眠障害への援助方法について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

3)耳鼻科疾患について学ぶ

【達成目標】〇耳鼻科疾患について理解する。〇耳鼻科疾患の治療方法について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

4)眼の機能・眼科疾患について学ぶ

【達成目標】○眼の機能を理解する。 ○眼科疾患について理解する。 ○眼科疾患の治療方法について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

5)発達障害の理解と対応

【達成目標】○発達障害の原因、分類が理解できる。 ○発達障害を持つ子どもとその家族への適切な対応や、援助の方法がわかる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

6)児童相談所の機能と役割について

【達成目標】○児童相談所の機能・役割がわかる。 ○小児虐待に対する児童相談所の関わりが理解できる。 ○小児、障害児者の虐待がおこる背景および家族のアセスメントについて理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

7)特別支援学校における看護の役割について

【達成目標】○特別支援学校の機能・役割について理解できる。 ○学びの場で実践される医療的ケアの実際、看護職の役割について理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

8)福祉用具・装具について

【達成目標】○福祉用具の特徴について理解する。 ○用具を装着する際の注意点について理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

9)最近の小児医療・重症心身障害児の医療・看護の動向

【達成目標】○子どもをとりまく医療と看護の動向、環境について理解できる。
○重症心身障害児の医療について理解できる。 ○小児訪問看護における看護の課題を検討できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・グループワークで学びが深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

10)小児リハビリテーション

【達成目標】○筋緊張のケア(リラクゼーション、ポジショニング等)を理解できる。 ○ROMエクササイズの内容が理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・演習で学びが深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

3. 小児訪問看護研修のプログラムについて
1)小児訪問看護研修のプログラムは、5つの編により構成されていますが、そのことをご存じですか
□知っている　□知らない

2)以下の 5 つの編で興味のある研修はどれですか(複数回答)
【研修名】
□はじめよう小児の訪問看護(基礎編)
※興味のある内容について、上位 3 つを選んでください。(上位 3 つ)
⇒□小児訪問看護の実際
□診療所が実施する小児在宅医療の実際
□重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応
□小児看護の現状と課題
□脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について
□骨折・移乗介助・更衣(演習あり)
□子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)

□「いのちを支える」
※興味のある内容について、上位 3 つを選んでください。(上位 3 つ)
⇒□終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)
□家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)
□小児がんについて
□急変時の対応(演習あり)
□他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)
□子どもの権利と倫理的かかわり(グループワークあり)

□「活動すること」
※興味のある内容について、上位 3 つを選んでください。(上位 3 つ)
⇒□最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)
□てんかん発作について
□睡眠障害について
□耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について
□目の機能・眼科疾患について
□発達障害の理解と対応
□小児リハビリテーション(演習あり)
□福祉用具
□児童相談所の機能と役割について
□特別支援学校における看護の役割について

□「食べること」
※興味のある内容について、上位 3 つを選んでください。(上位 3 つ)
⇒□重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断
□消化器疾患と栄養障害について
□排便障害について
□排尿障害について
□摂食嚥下障害について
□摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)
□口腔衛生について(演習あり)
□相談支援と連携

□「呼吸すること」
※興味のある内容について、上位 3 つを選んでください。(上位 3 つ)
⇒□呼吸障害について
□心疾患(心奇形)について
□循環器について
□呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)
□呼吸障害の看護について(演習あり)
□人工呼吸器の基礎(演習あり)
□在宅生活を支える制度や社会資源について
□児童相談所の役割について

4. 研修会の開催方法について
1)オンデマンド配信による研修について
□参加しやすい　□参加しにくい　□どちらとも言えない
その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)
□自分のペースで視聴できる
□何度も見ることができる
□質問ができない
□他の受講者との情報交換ができない
□その他(　　)

2)ライブ配信による研修について
□参加しやすかった　□参加しにくかった　□どちらとも言えない
※その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)
□わかりやすかった
□他の人の意見を聞くことができた
□移動時間がなくて良い
□交通費の負担がなくて良い
□開催日時が参加しやすい設定だった
□Web環境を整える必要があった
□その他の意見(　　)

3)集合型・対面研修について
□参加しやすかった　□参加しにくかった　□どちらとも言えない
※その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)
□実際に演習が行えて良かった
□講師に質問等がしやすかった
□参加者間で情報の共有ができた
□開催日時が参加しやすい日程であった
□感染のリスクが気になった
□移動のための日程調整が必要となった
□宿泊費等、研修以外の費用がかかった
□その他(　　)

5. 現在、小児訪問看護の担当意向についてお聞きします。
□すでに担当している。
□今後、小児の訪問看護を担当しようと思う。
□もう少し勉強してから担当しようと思う。
□担当しようと思わない。
※「もう少し勉強してから担当しようと思う」・「担当しようと思わない」の方は、その理由をお書きください。(フリーアンサー)

6. その他のご意見をお書きください。(フリーアンサー)

小児訪問看護研修会「呼吸すること」アンケート

1. 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験はありますか。
また、「ある」場合の経験年数および担当した人数についてご記入ください。
1)経験: □なし □あり(医療機関:約 年 訪問看護事業所:約 年)

2)訪問看護で担当した小児は、何人ですか(過去に担当した場合も含めてお書きください)
□0人 □1～5 人 □6～20 人 □21 人以上

2. 各講義について
1)呼吸障害について

【到達目標】○呼吸のメカニズムを理解する ○呼吸障害のメカニズムを理解する
○呼吸障害に対する治療について理解する

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

2)心疾患(心奇形)について

【到達目標】○先天性心疾患について理解する ○先天性心疾患の治療方法について理解する
○先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

3)循環器について

【到達目標】○循環機能を理解する ○循環器疾患について理解する
○循環器疾患の治療方法について理解する

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

4)呼吸障害の理解と肺理学療法

【到達目標】○呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントができる
○効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・演習を通して、技術の学びがありましたか
□大変学びがあった □概ね学びがあった □学びはなかった
※演習についての意見
□ファシリテーターがフォローしてくれたのが良かった
□わからないところをすぐに聞くことができた
□細かい動きも確認できた
□細かいところがわかりにくかった
□わからないところの質問がしにくかった
□講師の動きがよく見えなかった
□その他( )

5)呼吸障害の看護について

【到達目標】○呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる
○ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる
○安楽に呼吸するための援助方法が理解できる

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・演習を通して、技術の学びがありましたか
□大変学びがあった □概ね学びがあった □学びはなかった
※演習についての意見
□わからないところをすぐに聞くことができた
□細かい動きも確認できた
□細かいところがわかりにくかった
□わからないところの質問がしにくかった
□講師の動きがよく見えなかった
□その他( )

・グループワークで、学びは深まりましたか
□深まった □概ね深まった □深まらなかった
※その理由(フリーアンサー)

6）人工呼吸器の基礎

【到達目標】○人工呼吸器の原理が理解できる
○人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由（フリーアンサー）

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由（フリーアンサー）

7）在宅生活を支える制度や社会資源について

【到達目標】
○療育施設（医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター）の役割・機能を理解できる
○訪問看護師の役割について理解できる　・障害者総合支援法とサービスについて理解できる
○小児の在宅療養を支援する制度について理解できる
○地域社会の資源の活用について検討できる

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由（フリーアンサー）

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由（フリーアンサー）

3. 小児訪問看護研修のプログラムについて
1）小児訪問看護研修のプログラムは、5つの編により構成されていますが、そのことをご存じですか
□知っている　□知らない

2）以下の 5 つの編で興味のある研修はどれですか（複数回答）

【研修名】
□「はじめよう小児の訪問看護」（基礎編）
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。（上位 3 つ）
⇒□小児訪問看護の実際
□診療所が実施する小児在宅医療の実際
□重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応
□小児看護の現状と課題
□脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について
□骨折・移乗介助・更衣（演習あり）
□子どもの成長発達とフィジカルアセスメント（演習あり）

□「いのちを支える」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。（上位 3 つ）
⇒□終末期にある重症心身障害児者の医療と看護（グループワークあり）
□家族の思いに寄り添う看護（グループワーク・ロールプレイあり）
□小児がんについて
□急変時の対応（演習あり）
□他職種の理解とチーム医療について（グループワークあり）
□子どもの権利と倫理的かかわり（グループワークあり）

□「活動すること」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。（上位 3 つ）
⇒□最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向（グループワークあり）
□てんかん発作について
□睡眠障害について
□耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について
□目の機能・眼科疾患について
□発達障害の理解と対応
□小児リハビリテーション（演習あり）
□福祉用具
□児童相談所の機能と役割について
□特別支援学校における看護の役割について

□「食べること」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。（上位 3 つ）
⇒□重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断
□消化器疾患と栄養障害について
□排便障害について
□排尿障害について
□摂食嚥下障害について
□摂食嚥下障害のある患者への援助方法（演習あり）
□口腔衛生について（演習あり）
□相談支援と連携

□「呼吸すること」
※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。（上位 3 つ）
⇒□呼吸障害について
□心疾患（心奇形）について
□循環器について
□呼吸障害の理解と肺理学療法（演習あり）
□呼吸障害の看護について（演習あり）
□人工呼吸器の基礎（演習あり）
□在宅生活を支える制度や社会資源について
□児童相談所の役割について

4. 研修会の開催方法について
1）オンデマンド配信による研修について
□参加しやすい　□参加しにくい　□どちらとも言えない
その理由について、以下の内容からお選びください。（複数回答）
□自分のペースで視聴できる
□何度も見ることができる
□質問ができない
□他の受講者との情報交換ができない
□その他（　　）

2）ライブ配信による研修について
□参加しやすかった　□参加しにくかった　□どちらとも言えない
※その理由について、以下の内容からお選びください。（複数回答）
□わかりやすかった
□他の人の意見を聞くことができた
□移動時間がなくて良い
□交通費の負担がなくて良い
□開催日時が参加しやすい設定だった
□Web環境を整える必要があった
□実際に演習を行いたかった
□その他の意見（　　）

3）集合型・対面研修について
□参加しやすかった　□参加しにくかった　□どちらとも言えない
※その理由について、以下の内容からお選びください。（複数回答）
□実際に演習が行えて良かった
□講師に質問等がしやすかった
□参加者間で情報の共有ができた
□開催日時が参加しやすい日程であった
□感染のリスクが気になった
□移動のための日程調整が必要となった
□宿泊費等、研修以外の費用がかかった
□その他（　　）

5. 今後、小児の訪問看護を担当しようと思いますか
□すでに担当している
□担当しようと思う。
□もう少し勉強してから担当しようと思う。
□担当しようと思わない。
※「もう少し勉強してから担当しようと思う」・「担当しようと思わない」方は、その理由をお書きください。（フリーアンサー）

6. その他のご意見をお書きください。（フリーアンサー）

小児訪問看護研修会「食べること」アンケート

1. 医療機関における小児看護、および、小児訪問看護の経験はありますか。
また、「ある」場合の経験年数および担当した人数についてご記入ください。
1）経験：□なし　□あり（医療機関：約　年　訪問看護事業所：約　年）

2）訪問看護で担当した小児は、何人ですか（過去に担当した場合も含めてお書きください）
□0人　□1～5人　□6～20人　□21人以上

2. 各講義について
1）重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断

【到達目標】○重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる。
○重症心身障害児の概念が理解できる。
○重症心身障害児の診断（大島分類など）が理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由（フリーアンサー）

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由（フリーアンサー）

2）消化器疾患と栄養障害について

【到達目標】○消化のメカニズムを理解する。○消化器疾患の病態を理解する。
○消化器疾患への治療方法について理解する。○栄養のメカニズムを理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由（フリーアンサー）

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由（フリーアンサー）

3）摂食嚥下障害について学ぶ

【到達目標】○摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる。
○摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる。
○摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた　□概ね理解できた　□あまり理解できなかった　□理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由（フリーアンサー）

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた　□概ねなっていた　□あまりなっていない　□なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由（フリーアンサー）

4)排便障害について学ぶ

【到達目標】○排便のメカニズムが理解できる。
○排便障害の病態が理解できる。
○排便障害への治療方法が理解できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

5)排尿障害について学ぶ

【到達目標】○排尿のメカニズムが理解できる・排尿障害の病態が理解できる。
○排尿障害への治療方法が理解できる。○排尿障害の援助方法について理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

6)相談支援と連携

【到達目標】○相談支援の役割・機能について理解する。
○相談支援員の役割・機能について理解する。
○相談支援員と連携するための方策を理解する。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

7)摂食嚥下障害のある患者への援助方法

【到達目標】○摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる。
○摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる。

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・演習を通して、技術の学びがありましたか
□大変学びがあった □概ね学びがあった □学びはなかった
※演習についての意見
□わからないところをすぐに聞くことができた
□細かい動きも確認できた
□細かいところがわかりにくかった
□わからないところの質問がしにくかった
□講師の動きがよく見えなかった
□その他( )

8)口腔衛生について

【到達目標】○口腔の解剖生理と機能について理解できる。
○清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる

・講義内容は理解できましたか
□理解できた □概ね理解できた □あまり理解できなかった □理解できなかった
※「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」の理由(フリーアンサー)

・講義内容は、到達目標を達成できる内容になっていましたか
□なっていた □概ねなっていた □あまりなっていない □なっていない
※「あまりなっていない」・「なっていない」の理由(フリーアンサー)

・演習を通して、技術の学びがありましたか
□大変学びがあった □概ね学びがあった □学びはなかった
※演習についての意見
□わからないところをすぐに聞くことができた
□細かい動きも確認できた
□細かいところがわかりにくかった
□わからないところの質問がしにくかった
□講師の動きがよく見えなかった
□その他( )

3. 小児訪問看護研修のプログラムについて

1)小児訪問看護研修のプログラムは、5つの編により構成されていますが、そのことをご存じですか

□知っている　□知らない

2)以下の 5 つの編で興味のある研修はどれですか(複数回答)

【研修名】

□「はじめよう小児の訪問看護」(基礎編)

※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)

⇒□小児訪問看護の実際

□診療所が実施する小児在宅医療の実際

□重症心身障害児者の原因となる疾患・状態像の理解と対応

□小児看護の現状と課題

□脳性まひ・筋疾患・染色体異常などの主な疾患について

□骨折・移乗介助・更衣(演習あり)

□子どもの成長発達とフィジカルアセスメント(演習あり)

□「いのちを支える」

※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)

⇒□終末期にある重症心身障害児者の医療と看護(グループワークあり)

□家族の思いに寄り添う看護(グループワーク・ロールプレイあり)

□小児がんについて

□急変時の対応(演習あり)

□他職種の理解とチーム医療について(グループワークあり)

□子どもの権利と倫理的かかわり(グループワークあり)

□「活動すること」

※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)

⇒□最近の小児医療・重症心身障害児者の医療と看護の動向(グループワークあり)

□てんかん発作について

□睡眠障害について

□耳・鼻の機能・耳鼻科疾患について

□目の機能・眼科疾患について

□発達障害の理解と対応

□小児リハビリテーション(演習あり)

□福祉用具

□児童相談所の機能と役割について

□特別支援学校における看護の役割について

□「食べること」

※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)

⇒□重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断

□消化器疾患と栄養障害について

□排便障害について

□排尿障害について

□摂食嚥下障害について

□摂食嚥下障害のある患者への援助方法(演習あり)

□口腔衛生について(演習あり)

□相談支援と連携

□「呼吸すること」

※興味のある内容につて、上位 3 つ選んでください。(上位 3 つ)

⇒□呼吸障害について

□心疾患(心奇形)について

□循環器について

□呼吸障害の理解と肺理学療法(演習あり)

□呼吸障害の看護について(演習あり)

□人工呼吸器の基礎(演習あり)

□在宅生活を支える制度や社会資源について

□児童相談所の役割について

4. 研修会の開催方法について

1)オンデマンド配信による研修について

□参加しやすい　□参加しにくい　□どちらとも言えない

その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)

□自分のペースで視聴できる

□何度も見ることができる

□質問ができない

□他の受講者との情報交換ができない

□その他(　　)

2)ライブ配信による研修について

□参加しやすかった　□参加しにくかった　□どちらとも言えない

※その理由について、以下の内容からお選びください。(複数回答)

□わかりやすかった

□他の人の意見を聞くことができた

□移動時間がなくて良い

□交通費の負担がなくて良い

□開催日時が参加しやすい設定だった

□Web環境を整える必要があった

□実際に演習を行いたかった

□その他の意見(　　)

5. 今後、小児の訪問看護を担当しようと思いますか

□すでに担当している

□担当しようと思う。

□もう少し勉強してから担当しようと思う。

□担当しようと思わない。

※「もう少し勉強してから担当しようと思う」・「担当しようと思わない」方は、その理由をお書きください。(フリーアンサー)

6. その他のご意見をお書きください。(フリーアンサー)

小児訪問看護研修会「呼吸すること」委員動画視聴後アンケート

Ⅰ. 各講義について

1. 呼吸障害について

【到達目標】○呼吸のメカニズムを理解する　○呼吸障害のメカニズムを理解する
○呼吸障害に対する治療について理解する

1）講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった※選んだ理由のフリーアンサー

2）講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3）本講義（オンデマンド）において、気になった点があれば、ご記入ください。

2. 心疾患（心奇形）について

【到達目標】○先天性心疾患について理解する　○先天性心疾患の治療方法について理解する
○先天性心疾患の日常生活の注意点について理解する

1）講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2）講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3）本講義（オンデマンド）において、気になった点があれば、ご記入ください。

3. 循環器について

【到達目標】○循環機能を理解する　○循環器疾患について理解する
○循環器疾患の治療方法について理解する

1）講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2）講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3）本講義（オンデマンド）において、気になった点があれば、ご記入ください。

4. 呼吸障害の理解と肺理学療法

【到達目標】○呼吸のメカニズムを理解し、呼吸障害の評価のポイントができる
○効果的なポジショニング、リラクゼーションについて理解し、実践することができる

講義を受講した　受講していない

1）講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2）講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3）本講義（対面研修・演習）において、気になった点があれば、ご記入ください。

5. 呼吸障害の看護について

【到達目標】○呼吸障害に対する観察ポイントが理解できる
○ネブライザーや在宅酸素吸入器などの使用方法が理解できる
○安楽に呼吸するための援助方法が理解できる

講義を受講した　受講していない

1）講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2）講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3）本講義（ライブ・デモンストレーション・GW）において、気になった点があれば、ご記入ください。

6. 人工呼吸器の基礎

【到達目標】○人工呼吸器の原理が理解できる
○人工呼吸器管理中の注意点、看護について理解できる

1）講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった※選んだ理由のフリーアンサー

2）講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3）本講義（オンデマンド）において、気になった点があれば、ご記入ください。

7. 在宅生活を支える制度や社会資源について

【到達目標】 ○療育施設(医療型障害児入所施設・外来のみの療育センター)の役割・機能を理解できる
○訪問看護師の役割について理解できる ・障害者総合支援法とサービスについて理解できる
○小児の在宅療養を支援する制度について理解できる ・地域社会の資源の活用について検討できる

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた □概ね沿っていた □あまり沿っていなかった □沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった □適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

Ⅱ. その他のご意見をお書きください。(フリーアンサー)

小児訪問看護研修会「食べること」委員動画視聴後アンケート

Ⅰ. 各講義について

1. 重症心身障害児医療の歴史・重症心身障害の概念・診断について

【到達目標】 ○重症心身障害児医療の歴史的変遷がわかる。
○重症心身障害児の概念が理解できる。
○重症心身障害児の診断(大島分類など)が理解できる。

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた □概ね沿っていた □あまり沿っていなかった □沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった □適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

2. 消化器疾患と栄養障害について

【到達目標】 ○消化のメカニズムを理解する。 ○消化器疾患の病態を理解する。
○消化器疾患への治療方法について理解する。○栄養のメカニズムを理解する。

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた □概ね沿っていた □あまり沿っていなかった □沿っていなかった※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった □適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

3. 摂食嚥下障害について学ぶについて

【到達目標】 ○摂食嚥下のメカニズム、解剖生理が理解できる。
○摂食嚥下障害の原因、病態が理解できる。
○摂食嚥下障害の治療・対応方法が理解できる。

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた □概ね沿っていた □あまり沿っていなかった □沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった □適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

4. 排便障害について学ぶについて

【到達目標】○排便のメカニズムが理解できる。○排便障害の病態が理解できる。
○排便障害への治療方法が理解できる。

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

5. 排尿障害について学ぶについて

【到達目標】○排尿のメカニズムが理解できる。 ○排尿障害の病態が理解できる。
○排尿障害への治療方法が理解できる。○排尿障害の援助方法について理解する。

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

6. 相談支援と連携

【到達目標】○相談支援の役割・機能について理解する。
○相談支援員の役割・機能について理解する。
○相談支援員と連携するための方策を理解する。

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(オンデマンド)において、気になった点があれば、ご記入ください。

7. 摂食嚥下障害のある患者への援助方法について

【到達目標】○摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助時の注意点が理解できる。
○摂食嚥下障害がある利用者の摂食介助を演習できる。

講義を受講した　受講していない

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(ライブ・演習)において、気になった点があれば、ご記入ください。

8. 口腔衛生について

【到達目標】○口腔の解剖生理と機能について理解できる。
○清潔を保つ口腔ケアの方法がわかる。

講義を受講した　受講していない

1)講義内容は、シラバスに沿っていますか
□沿っていた　□概ね沿っていた　□あまり沿っていなかった　□沿っていなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

2)講師は適任でしたか
□適任だった　□適任ではなかった
※選んだ理由のフリーアンサー

3)本講義(ライブ・演習)において、気になった点があれば、ご記入ください。

Ⅱ. その他のご意見をお書きください。(フリーアンサー)

平成 30 年度　第 1 回小児訪問看護情報交換会　アンケート

マークシート：○ で囲まれた部分を黒で塗りつぶしてください

記入例　正しい●　読み取れない ①　②　③　●

1.所属法人の種類

○ 株式会社　○ 有限会社　○ 医療法人　○ 社団・財団法人　○ 社会福祉法人

○ その他(　　)

2.小児訪問看情報交換会に参加していかがでしたか

○ とても良かった　○ 良かった　○ あまり良くなかった　○ 良くなかった

3.小児訪問看護を始めてみようと思える内容でしたか

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ あまりそう思わない　○ そう思わない

4.地域の連携等に役立つ内容でしたか

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ あまりそう思わない　○ そう思わない

5.今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することについて

○ ぜひ継続して欲しい　○ 継続して欲しい　○ あまり継続して欲しいとは思わない　○ 継続の必要はない

6.5で、「ぜひ継続して欲しい」「継続して欲しい」とお答えになった方にお伺いします。

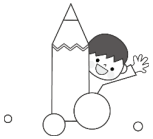
どのような内容が良いと思いますか。（複数回答可）

○ シンポジウムやパネルディスカッション

○ グループワークや地域交流

○ 講演：内容(　　)

○ その他：具体的に記載ください（　　）



ご協力ありがとうございました

令和元年度　第 2 回小児訪問看護情報交換会　アンケート

マークシート：○ で囲まれた部分を黒で塗りつぶしてください

記入例　正しい●　読み取れない ①　②　③　●

1.所属法人の種類

○ 株式会社　○ 有限会社　○ 医療法人　○ 社団・財団法人　○ 社会福祉法人

○ その他(　　)

2.小児訪問看情報交換会に参加していかがでしたか

○ とても良かった　○ 良かった　○ あまり良くなかった　○ 良くなかった

3.小児訪問看護を始めてみようと思える内容でしたか

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ あまりそう思わない　○ そう思わない

4.地域の連携等に役立つ内容でしたか

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ あまりそう思わない　○ そう思わない

5.今後小児訪問看護を中心としたこのような集まり（情報交換会など）を継続することについて

○ ぜひ継続して欲しい　○ 継続して欲しい　○ あまり継続して欲しいとは思わない　○ 継続の必要はない

6.5で、「ぜひ継続して欲しい」「継続して欲しい」とお答えになった方にお伺いします。

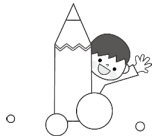
どのような内容が良いと思いますか。（複数回答可）

○ シンポジウムやパネルディスカッション

○ グループワークや地域交流

○ 講演：内容(　　)

○ その他：具体的に記載ください（　　）



ご協力ありがとうございました

令和3年度　第3回小児訪問看護情報交換会　アンケート

1. 貴訪問看護ステーションについて教えてください。
　1)法人の種類 ： □株式会社　□有限会社　□医療法人　□社団･財団法人　□社会福祉法人
　　□その他(　　)
　2)小児利用者 ： □いる　□いない　□以前はいたが現在はいない

2. 参加者自身のことについて教えてください。
　1)職種 ： □保健師　□助産師　□看護師　□准看護師　□理学療法士　□作業療法士
　　□言語聴覚士　□相談支援専門員　□その他(　　)
　2)役職 ： □管理者　□管理者以外
　3)医療機関における小児看護の経験 ： □あり　□なし
　4)小児訪問看護の経験 ： □あり　□なし

3. 小児訪問看護情報交換会について教えてください。
　1)参加動機は何ですか(複数回答可)
　　□今後、小児の利用者を受け持ちたいと考えているため
　　□他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため
　　□その他(　　)
　2)参加して、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうですか
　　□とてもそう思う　□そう思う　□あまりそう思わない　□そう思わない
　3)小児訪問看護を始めてみようと思いましたか
　　□とてもそう思う　□そう思う　□あまりそう思わない　□そう思わない
　4)今後、小児訪問看護を中心としたこのような集まり(情報交換会など)を継続することについてお伺いします。
　　□ぜひ継続してほしい　□継続してほしい　□あまり継続してほしいとは思わない
　　□継続の必要はない
　5)上記設問で「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答の方にお伺いします。どのような内容があったらよいと思いますか。
　　□シンポジウムやパネルディスカッション　□グループワークや地域交流
　　□講演会　□その他(　　)

4. 小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じることがあれば教えて下さい(複数回答可)。
　□ 小児看護の知識や技術が不十分
　□ 自事業所のマンパワーが足りない
　□ 家族への支援が難しい
　□ ケアマネジャーのようなコーディネーターがいない
　□ その他 (　　)

5. 小児訪問看護に関して意見があればお書き下さい。
　〔　　〕

☆ご協力ありがとうございました。

令和4年度　第4回小児訪問看護情報交換会　アンケート

1. 貴訪問看護ステーションについて教えてください。
　1)法人の種類 ： □株式会社　□有限会社　□医療法人　□社団･財団法人　□社会福祉法人
　　□その他(　　)
　2)18 歳未満の小児利用者 ： □いる　□いない　□以前はいたが現在はいない

2. 参加者自身のことについて教えてください。
　1)職種 ： □保健師　□助産師　□看護師　□准看護師　□理学療法士　□作業療法士
　　□言語聴覚士　□相談支援専門員　□その他(　　)
　2)役職 ： □管理者　□管理者以外
　3)医療機関における小児看護の経験 ： □あり　□なし
　4)小児訪問看護の経験 ： □あり　□なし

3. 小児訪問看護情報交換会について教えてください。
　1)何を見て知りましたか(複数回答可)
　　□ステーションニュースのチラシ　□ファックス　□メール　□ホームページ
　　□SNS･掲示板　□関係者からの紹介　□その他
　2)参加動機は何ですか(複数回答可)
　　□今後、小児の利用者を受け持ちたいと考えているため
　　□他の地域の小児訪問看護の実態や情報を収集するため
　　□その他(　　)
　3)参加したことにより、今後の小児訪問看護の活動に役立ちそうですか
　　□とてもそう思う　□そう思う　□どちらとも言えない　□あまりそう思わない　□そう思わない
　　選んだ理由を教えてください(　　)
　4)小児訪問看護を始めてみようと思いましたか
　　□とてもそう思う　□そう思う　□どちらとも言えない　□あまりそう思わない　□そう思わない
　　□すでに小児訪問看護を行っている
　5)今後、小児訪問看護を中心としたこのような集まり(情報交換会など)を継続することについてお伺いします。
　　□ぜひ継続してほしい　□継続してほしい　□どちらとも言えない
　　□あまり継続してほしいとは思わない　□継続の必要はない
　　選んだ理由を教えてください(　　)
　6)上記設問で「ぜひ継続してほしい」「継続してほしい」と回答の方にお伺いします。どのような内容があったらよいと思いますか。(複数選択可)
　　□シンポジウムやパネルディスカッション　□グループワークや地域交流
　　□講演会　□利用者家族や利用者の声　□その他(　　)
　　選んだ理由を教えてください(　　)
　7)開催方法についてお伺いします。どのような開催方法が良いですか。
　　□オンライン形式　□対面による集合形式
　　□オンラインと集合を合わせたハイブリッド形式
　　選んだ理由を教えてください(　　)

4. 小児訪問看護に携わるにあたり、困難と感じることがあれば教えて下さい（複数回答可）。

□ 小児看護の知識や技術が不十分
□ 自事業所のマンパワーが足りない
□ 家族への支援が難しい
□ ケアマネジャーのようなコーディネーターがいない
□ その他（　　）

選んだ理由を教えてください（　　）

5. 当協会の行っている小児訪問看護研修会をごぞんじですか

□知っている　□知らない　□参加したことがある

6. 当協会の行っている小児訪問看護研修会を受講してみようと思いますか

□参加したい　□どちらかというと参加したい　□どちらともいえない
□参加したいと思わない　□参加したいと思わない

選んだ理由を教えてください
（　　）

7. 小児の訪問看護に関して意見があればお書き下さい。

〔　　〕

☆ご協力ありがとうございました。

小児訪問看護推進検討部会活動報告書

発　行　日：令和５年６月
編集・発行：一般社団法人　全国訪問看護事業協会
〒160-0022
東京都新宿区新宿 1-3-12　壱丁目参番館 401
TEL：03-3351-5898　FAX：03-3351-5938